

を以て出で、自ら【三】平陽侯と稱し、旦明に【四】南山の下に入り、鹿豕狐兔を射、禾稼の地を馳騫す。民皆號呼罵詈す。【五】鄠杜の令、之を執へんと欲す。示すに乗輿の物を以てし、乃ち免るるを得たり。又嘗て夜【六】柏谷に至り、逆旅に投じて宿す。逆旅の主人に就きて漿を求む。主人翁曰はく、『漿無し。正に溺有るのみ』と。且つ、上の・姦盜を爲すを疑ひ、少年を聚めて、之を攻めんと欲す。主人嫗、上の状態を睹て之を異とし、其の翁を止めて曰はく、『客は常人に非ざるなり。且つ又備有り。圖る可からざるなり』と。翁聽かず。嫗、翁に飲ますに酒を以てし、酔はせて之を縛す。少年皆散じ走る。嫗乃ち鶏を殺して食と爲し、以て客に謝す。明日、上歸り、嫗を召して金千斤を賜ひ、其の夫を拜して【七】羽林郎と爲す。後乃ち私に【八】更衣を【九】宣曲より以南十二所に置き、夜は長楊・五柞等の諸宮に投宿す。上、以へらく道遠くして勞苦し、又百姓の患ふる所と爲ると。乃ち太中大夫吾丘壽王をして、【一〇】阿城より以南、盤屋より以東、宜春より以西を【一一】舉籍し、頃晦及び其の【一二】賈直を【一三】提封せしめ、除きて以て上林苑と爲し、之を南山に【一四】屬せんと欲す。又、中尉・左右内史に詔して、屬縣の【一五】草田を表し、以て鄠・杜

- 【三】 平陽侯。平陽侯曹壽、帝の姉に尙し、尊寵せらる。故にこれを稱す。
- 【四】 南山。終南山。
- 【五】 鄠と杜とは並に縣の名、陝西省關中道舊正安府内。
- 【六】 柏谷。河南省河洛道陝縣内。
- 【七】 羽林郎。郎中令に屬す、宿衛の官。
- 【八】 更衣。休息更衣の處。
- 【九】 宣曲。宮の名。
- 【一〇】 阿城。秦の阿房宮。
- 【一一】 舉籍。其數を舉げ計りて以て帳簿に載する也。
- 【一二】 賈直。價值と同じ。
- 【一三】 提封。四封の内を提舉して其大數を總計する也。
- 【一四】 屬。連屬する也。
- 【一五】 草田。未だ耕墾せざる荒田。

の民に償はんと欲す。壽王、事を奏す。上大に説び、善しと稱す。時に東方朔、傍に在り、進み諫めて曰はく、『夫れ南山は天下の阻なり。漢興りて、【一】三河の地を去り、【二】霸・滎より以西を止め、【三】涇・渭の南に都す。此れ謂はゆる天下の【四】陸海の地、秦が西戎を虜にし山東を兼ねし所以の者なり。其の山は玉石金銀銅鐵良材を出し、百工の【五】給を取る所、萬民の足るを【六】叩ぐ所なり。又、【七】杭稻粟粟桑麻竹箭の饒なる有り、土は薑芋に宜しく、水には【八】鰕魚多く、貧しき者は、以て人ごとに給り家ごとに足りて、飢寒の憂無きを得。故に【九】豐・鎬の間、號して土膏と爲す。其の賈晦ごとに一金。今、【一〇】規して以て苑と爲さんとす。陂池水澤の利を絶ちて、民の膏腴の地を取り、上は國家の用に乏しく、下は農桑の業を奪はん。是れ其の不可の一なり。荆棘の林を盛にし、狐菟の苑を廣くし、虎狼の【一一】虚を大にし、人の塚墓を壞り、人の室廬を發き、幼弱をして土を懷うて思ひ、耆老をして泣涕して悲ましめん。是れ其の不可の二なり。斥けて之を營み、垣して之を圍にし、騎、東西に馳せ、車、南北に【一二】驚らば、深溝大渠有らん。夫れ【一三】一日の樂は、以て【一四】無隄の輿を

- 【一】 三河。河南、河内、河東。
- 【二】 三河の地を去り、【三】三河の地を去る也。
- 【三】 涇・渭。二水の名。
- 【四】 陸海。海は萬物の出づる所。關中は陸産饒富なること、海の萬物を出すこと窮り無きが如し、故に之を陸海と謂ふ。
- 【五】 給。供給。
- 【六】 叩。仰と通ず。
- 【七】 杭稻。うるち。
- 【八】 鰕。蛙。
- 【九】 規。計り求むる也。
- 【一〇】 免。菟と通用す。
- 【一一】 虚。墟なり。
- 【一二】 亂れ馳するを驚と曰ふ。
- 【一三】 一日の樂。田獵をいふ。
- 【一四】 無隄の輿。隄は限なり。輿は乘輿なり。直接に天子を指さずして、輿といふなり。無隄の輿とは天子の富貴、隄限無きをいふ。



危くするに足らじ。是れ其の不可の三なり。夫れ殷は九市の宮を作りて、諸侯畔き、靈王は章華の臺を起して、楚の民散じ、秦は阿房の殿を起して、天下亂る。糞土の愚臣、盛意に逆ふ。罪、萬死に當る」と。上乃ち朔を拜して太中大夫・給事中と爲し、黄金百斤を賜ふ。然れども遂に上林苑を

起すこと、壽王の奏する所の如し。上又、好みて自ら熊豕を撃ち、野獸を馳逐す。司馬相如・上

疏して諫めて曰はく、「臣聞く、物には類を同じくして能を殊にする者有り。故に力は烏獲を

稱し、捷は慶忌を言ひ、勇は賁育を期すと。臣の愚なる、竊に以爲へらく、人には誠に之れ

有り。獸も亦宜しく然るべしと。今、陛下、好みて阻險を陵ぎ、猛獸を射る。卒然として逸材

の獸に遇ひ、不存の地に駭き、屬車の清塵を犯さば、輿は轅を還すに及ばず、人は巧を施すに暇

あらず、烏獲・逢蒙の技有りと雖も、用ふるを得ず、枯木朽株、盡く難を爲さん。是れ胡越、轂下に

起りて、羌夷、軫に接するなり。豈に殆からずや。萬全にして患無しと雖も、然れども本、天子の

宜しく近づくべき所に非ざるなり。且つ夫れ道を清めて後行き、中路にして馳するも、猶ほ時に

衛

の勇士。

【五〇】 不存。不虞。

【五一】 清塵。塵とは行いて塵を起すを謂ふ。清は尊貴の意なり。帝の行列をいふなり。

【五二】 逢蒙。古の善く射る者。

【五三】 軫。車後の横木。

【五四】 衛。衛は馬の勒、轅は車の鈎心。衛は馬の變とは、馬衛或は斷え、鈎心或は出で、傾敗して以て人を傷づくるを謂ふ。

【五五】 九市の宮。紂王、宮中に於て九市を設く。

【五六】 靈王。楚の王。楚の靈王、章華の臺を作りて、亡人を納れて以てこれを實し、卒に乾谿の禍あり。

【五七】 給事中。左右に侍從するを掌る官。

【五八】 烏獲。秦の武王の力士。

【五九】 慶忌。吳王僚の子。

【六〇】 賁育。孟賁、夏育。皆古

糜の變有り。況んや豊草を涉り、丘虚を馳せ、前には獸を利とするの樂有り、而して内には變を存るの意無きをや。其の害を爲すや難からず。夫れ萬乘の重きを輕んじて、以て安しと爲さず、萬有一危の塗に出づるを樂しみ、以て娛と爲すは、臣竊に陛下の爲めに取らず。蓋し明者は、遠く未だ萌さざるに見、而して知者は、危きを形無きに避く、既は固に多く隱微に藏れて、人の忽せにする所に發する者なり。故に鄙諺に曰はく、「家に千金を累ぬれば、坐するに堂に垂せず」と。此の言は小なりと雖も、以て大に諭ふ可し」と。上、之を善しとす。

四年、夏、風あり、赤きこと血の如し。

六月、旱す。

秋九月、星有り、東北に孛す。

是の歲、南越王佗・死す。其の孫文王胡立つ。

五年、春、二銖錢を罷め、半兩錢を行ふ。

五經博士を置く。

漢世宗孝武皇帝建元四年——五年

五五七

【六一】 豊草。茂草。

【六二】 萬有一危。萬に一危有り、危険の事無きに非ざるをいふ。

【六三】 坐するに堂に垂せず。坐せざるなり。墜墮せんことを恐るる也。

【六四】 建元元年、三銖錢を行ひしが、是に至りて罷め、又、新に半兩錢を鑄る。



夏五月、大に蝗あり。

秋八月、廣川の惠王越、清河の哀王乘、皆薨す。後無し。國除かる。

六年、春二月、乙未、遼東の高廟、災あり。

夏四月壬子、高園の便殿、火あり。上、素服すること五日。

五月丁亥、太皇太后崩す。

六月癸巳、丞相昌、免じ、武安侯田蚡、丞相と爲る。蚡、驕侈にして、宅を治むること、諸第に甲たり。田園、膏腴を極め、郡縣の物を市買し、道に相屬し、多く四方の賂遺を受け、其の家の金玉婦女狗馬聲樂玩好、勝げて數ふ可からず。入りて事を奏する毎に、坐語して日を移し、言ふ所皆聽かる。人を薦むるに、或は家より起りて二千石に至るものあり。權、主上を移す。上乃ち曰はく、「君、吏を除すること已に盡きしか未だしきか。吾も亦吏を除せんと欲す」と。嘗て考工の地を請ひて宅を益さんとす。上怒りて曰はく、「君何ぞ遂に武庫を取らざる」と。是の後、乃ち稍退く。秋八月、星有り、東方に孛す。長さ天に竟る。

【一】 二王は皆景帝の子、越は中の二年四月、封を受け、乘は中の三年三月、封を受けしが、是に至りて國除かる。

【二】 景帝、郡國に令して各、高祖の廟を立てしが故に、遼東に高廟ありしなり。

【三】 高園、高祖の陵上の園なり。陵園の中に正寢あり、以て平生に象り、又、便殿を立てて、休息閑宴の處と爲すなり。

【四】 素服、喪服なり。

【五】 太皇太后、孝文の皇后竇氏。

【六】 諸第に甲たり。諸第の最たり。

【七】 家、庶人の家の義。

【八】 考工、少府の屬官。器械を作るを主る。

閩越王郢、兵を興して南越の邊邑を撃つ。南越王、天子の約を守り、敢て擅に兵を興さず、人をして上書して天子に告げしむ。是に於て、天子、南越王の義を多とし、大に爲めに兵を發し、大行王恢をして豫章に出で、大農令韓安國をして會稽に出で、閩越を撃たしむ。淮南王安、上書して諫めて曰はく、「陛下、天下に臨み、徳を布き恵を施し、天下、攝然として、人、其の生を安んじ、自ら以へらく、身を没するまで兵革を見ずと。今聞く、有司、兵を擧げ、將に以て越を誅せんとすと。臣安竊に陛下の爲めに之を重る。越は方外の地、剪髮文身の民なり。冠帶の國の法度を以て理む可からざるなり。三代の盛なるより、胡越は正朔を受くるに與らず。疆服すること能はず。威・制すること能はざるに非ざるなり。以爲へらく、居られざるの地、牧せられざるの民、以て中國を煩はすに足らざるなりと。漢初めて定まりてより以來、七十二年、越人の相攻撃する者、勝げて數ふ可からず。然れども、天子未だ嘗て兵を擧げて其の地に入らざるなり。臣聞く、越は城郭邑里有るに非ざるなり、谿谷の間、篁竹の中に處り、水闘に習ひ、舟を用ふるに便に、地、深昧にして木險多しと。中國の人、其の教阻を知らずして、其の地に入らば、百と雖も其の一に當らず、其の地を得とも、郡縣にす可からず、之を攻むとも、暴に取る可からざらん。地圖を以

- 【一】 大農令。本と秦の治粟内史にして、漢初これに因る。景帝の中の六年、更めて大農令と名づく。帝の太初元年、更めて大司農と名づく。
- 【二】 攝然。安き貌。
- 【三】 地は居ること能はず、民は牧養すること能はざるなり。
- 【四】 篁竹。竹やぶ。
- 【五】 深昧。草木多くして暗昧なるをいふ。



て其の山川要塞を察するに、相去ること寸數に過ぎずして、(三)間は獨り數百千里、險阻林叢をば、盡く(地圖)著はすこと能はず、之を視るに易きが若くなれども、之を行くは甚だ難し。天下、宗廟の靈に頼り、方内大に寧く、(四)戴白の老、兵革を見ず、民、夫婦相守り、父子相保んずるを得るは、陛下の徳なり。越人は、名は藩臣たれども、(五)貢酎の奉を、大内に輸さず、一卒の奉を、上事に(六)給せず。自ら相攻撃するに、陛下、兵を發して之を救ふは、是れ反つて(七)中國を以て蠻夷に勞するなり。且つ越人は、愚戇輕薄にして、約に負きて反覆し、其の天子の法度を用ひざること、一日の積に非ざるなり。壹たび詔を奉せざるに、兵を擧げて之を誅せば、臣恐らくは、後兵革、時として息むを得る無からんことを。間者、數年、歲比に登らず、民、爵を賣り(八)子を贅するを待つて、以て衣食を接ぐ。陛下の徳澤之を振救するに頼りて、溝壑に轉死する毋きを得たり。四年、登らず、五年、復た蝗あり、民生未だ復せず。今、兵を發して、數千里を行き、衣糧を(九)資し、越の地に入らんとす。(一〇)輜に輿りて(一一)領を諭え、舟を(一二)挖きて水に入り、行くこと數百千里、夾むに深林叢竹を以てし、

- 【一】 間。中間なり。
- 【二】 戴白。白頭なり。
- 【三】 貢酎。土貢、酎金。酎とは宗廟に薦むる醇酒なり。諸侯王、各々金を出して祭を助く。これを酎金といふ。大内は都内なり、國の寶藏なり。
- 【四】 給。供給。
- 【五】 中國云云。中國の人を蠻夷の地に疲勞せしむる也。
- 【六】 子を贅す。借財の保證の爲めに、債主の許に、子供を遣はず也。
- 【七】 資。齎すなり。
- 【八】 輜。竹輿。
- 【九】 領。山嶺。
- 【一〇】 挖。曳く。
- 【一一】 水道の上下、石を撃つ。水道に巨石多く、船行上下するに、皆石と相撃觸するをいふ。

中に蝮蛇猛獸多く、夏月暑時。(一三)歐泄霍亂の病相隨屬するなり。曾て未だ兵を施ひ刃を接へざるに、死傷者必ず衆からん。前時、南海王、反するや、(一四)陛下の先臣、將軍、問忌をして兵を將ゐて之を撃たしむ。(一五)其の軍を以て降る。之を(一六)上塗に處く。後復た反す。會、天暑く雨多く、樓船の卒、(一七)水居して棹を撃ち、未だ戦はざるに疾みて死する者、半に過ぐ。親老涕泣し、孤子啼號し、家を破り業を散じ、尸を千里の外に迎へ、骸骨を裹みて歸り、悲哀の氣、數年、息まざりき。長老、今に至るまで以て記するを爲す。曾て未だ其の地に入らざるに、而も禍已に此に至れり。陛下、徳は天地に配し、明は日月に象。恩は禽獸に至り、澤は草木に及ぶ。一人だにも、飢寒して其の天年を終へずして死する者有れば、之が爲めに心に悽愴す。今、方内、狗吠の警無くして、而も陛下の甲卒をして死亡し、中原に暴露し、山谷に(一八)霑漬せしめば、邊境の民、之が爲めに早く閉ぢ晏く開き、(一九)朝夕に及ばざらん。臣安、竊に陛下の爲めに之を重る。南方の地形に習はざる者は、多くは越を以て、人衆く兵彊く、能く(二〇)邊城に難すと爲す。(二一)淮南全國の時、邊吏と爲るもの多かりき。臣竊に之を聞く、

- 【一三】 歐泄。嘔吐と下痢。
- 【一四】 陛下の先臣。淮南の厲王長。
- 【一五】 問忌。淮南王傳には簡忌に作る。
- 【一六】 上塗。塗水のの上流。
- 【一七】 水居。常に舟中水上に居る也。棹を撃つとは舟を行るの勞役あるをいふ。
- 【一八】 霑漬。うるほひ、ひたさるる也。
- 【一九】 朝夕に及ばざらん。危亡を憂へて自ら保んぜざる也。
- 【二〇】 邊城に難す。邊城の爲めに難を作す也。
- 【二一】 淮南全國云云。淮南の未だ分れて三と爲らざる時、淮南の人、越と境を接する邊境に於て吏と爲る者多かりければ、故に其の地形を知るを得たり。



(其ノ)中國と異なり、限るに高山を以てし、人迹絶え、車道、通せず。(是)天地の、外内を隔つる所以なり。其の中國に入るには、必ず領水を下る。領水の山は峭峻にして、漂石、舟を破る。大船を以て食糧を載せて下る可からざるなり。越人、變を爲さんと欲すれば、必ず先づ餘干の界中に田し、食糧を積み、乃ち入りて材を伐り船を治む。邊城の守候誠に謹み、越人、入りて材を伐る者有らば、輒ち收捕し、其の積聚を焚かば、百越と雖も、邊城を奈何せん。且つ越人は、縣力薄材にして、陸戰すること能はず、又、車騎弓弩の用無し。然れども入る可からざるは、地の險なるに保するを以て、而して中國の人、其の水士に耐へざればなり。臣聞く、越の甲卒は、數十萬に下らずと。之に入る所以は、五倍にして乃ち足り、車を輓き餉を奉ずる者は、其の中に在らず。南方は暑濕にして、夏に近くして、瘴熱し、暴露して水居し、蝮蛇、蠱生じ、疾疫多く作り、兵未だ刃に血ぬらざるに、病死する者什に二三、越國を擧げて之を虜にすと雖も、以て亡ふ所を償ふに足らじ。臣聞く、道路言ふ、閩越王は、弟甲・弒して之を殺し、甲以て誅死せられ、其の民、未だ屬する所有らずと。陛下、若し來し内れて之を中國に處かんと欲せば、重臣をして臨みて、存し、徳を施し賞を垂れ、以て之を招致せよ。此れ必ず幼を携へ

- 【三】 領水。贛江。
- 【四】 餘干。縣の名、江西省潯陽道餘干縣。
- 【五】 縣力。力弱くして縣の如きを言ふ。
- 【六】 之に入る云云。漢の軍、これより多きこと五倍にして、然る後、其の地に入るを得可き也。
- 【七】 瘴。黃疸の病。
- 【八】 蠱。蟲の毒。
- 【九】 甲。閩越王の弟の名。
- 【一〇】 存。恤み問ふ。

老を扶けて、以て聖徳に歸せん。若し陛下、之を用ふる所無くば、則ち其の國を存し、其の王侯を建てて、以て越を畜ふを爲せ。此れ必ず質を委して藩臣と爲り、世に貢職に共せん。陛下、方寸の印・丈二の組を以て、方外を填撫し、一卒を勞せず、一戰を頓らずして、威徳並び行はれん。今、兵を以て其の地に入らば、此れ必ず震恐して、有司を以て、之を屠滅せんと欲すと爲さん。必ず雉兔のごとく逃れて山林險阻に入らん。(漢ノ)背きて之を去らば、則ち(越)復た相羣聚せん。(漢ノ)留まりて之を守り、歳を歴年を経ば、則ち士卒罷勸し、食糧乏絶し、民、兵事に苦しみ、盜賊必ず起らん。臣聞く、長老言はく、「秦の時、嘗て尉屠睢をして越を撃たしめ、又、監祿をして渠を鑿ち道を通せしむ。越人、逃れて深山林叢に入り、攻むるを得可からず。軍を留めて空地に屯守し、日を曠しくし久しきに引き、士卒勞勸す。越出でて之を撃ち、秦の兵大に敗る。乃ち適戍を發して、以て之に備ふ。此の時に當りて、外内騒動し、皆、生を聊んせず、亡逃相從ひ、羣りて盜賊を爲す。是に於て、山東の難始めて興れり」と。兵は凶事なり。一方に急あれば、四面皆聳く。臣恐らくは變故の生じ、姦邪の作るこ

- 【一】 絶世を繼ぐ。その世統の絶えしを繼ぐ意。
- 【二】 共。供なり。
- 【三】 方寸の印・丈二の組云云。藩王たるの印及びそれに附する組を賜ふこと、即ち封冊を與ふることによりて、兵を動かすに勝る大効果ありとなり。
- 【四】 罷勸。疲倦。
- 【五】 尉。都尉なり。
- 【六】 監祿。監は郡監。祿は名。
- 【七】 久しきに引く。漢書嚴助傳には「久しきを持す」に作る。
- 【八】 適戍。謫戍なり。
- 【九】 聳。聳動する也。漢書には從に作る。



と、此に由りて始まらんことを。臣聞く、「天子の兵は、征有りて戰無し」と。敢て校ぶるもの莫きを言ふなり。如し越人をして微幸を蒙りて以て執事の顏行に逆らはしめ、駟興の卒、一も備はらずして歸る者有らば、越王の首を得と雖も、臣猶ほ竊に大漢の爲めに之を羞づ。陛下、四海を以て境と爲し、生民の屬は、皆臣妾たり。徳惠を垂れて、以て之を覆露し、生を安んじ業を樂しましめば、則ち澤萬世に被り、之を子孫に傳へ、之を無窮に施し、天下の安きこと、猶ほ泰山にして之を四維するがごとくならん。夷狄の地は、何ぞ以て一日の間を爲して汗馬の勞を煩はすに足らんや。詩に云はく、「王猶允に塞ち、徐方既く來る」と。王道甚だ大にして、遠方之に懷くを言ふなり。臣安竊に恐る、將吏の十萬の師を以て、一使の任と爲さんことを」と。是の時、漢の兵、遂に出で、未だ領を險えず。閩越王郢、兵を發して險に距ぐ。其の弟餘善、乃ち相・宗族と謀りて曰はく、「王、擅に兵を發して南越を撃ち(一)請はざりしを以て、故に天子の兵來り誅む。漢の兵は衆くして疆

【五〇】敢て校ぶる莫し。敢て與に強弱曲直を計較せざるを言ふ。  
 【五一】蒙。犯す。漢書には蒙の下に死の字あり、死を蒙して微幸し云々と讀む。勝れりと爲す。  
 【五二】顏行。軍隊の前列。  
 【五三】駟興。駟は薪を折る者。興は車を駕するを主る者。皆賤役の人なり。  
 【五四】覆露。おほひ、うるほす。  
 【五五】四維。維はこれを聯繫すと爲す。

【五六】一日の間。一日の間暇の娛。  
 【五七】詩に云はく云云。詩經大雅の常武篇に出づ。王道、信に天下に充滿し、徐方淮夷、盡く來り服する也。  
 【五八】一使の任。漢、一使を發してこれを鎮撫するときは、越人賓服して、兵往くを煩はざるを言ふ。  
 【五九】領。嶺と通す。  
 【六〇】相。閩越國の相なり。

し。卽し幸に之に勝つとも、後に來ること益多く、終に國を滅ぼして止まん。今、王を殺して以て天子に謝し、天子聽きて兵を罷めば、固に國完からん。聽かずんば乃ち力戰せん。勝たずんば卽ち亡げて海に入らん。』皆曰はく、「善し」と。乃ち郢王を鏑殺し、使をして其の頭を奉じて大行に致さしむ。大行曰はく、「來る所爲は、王を誅せんとなり。今、王の頭至りて罪を謝し、戰はずして殞す。利、焉よりも大なるは莫し」と。乃ち便宜を以て兵を案じ、大農の軍に告げ、而して使をして王の頭を奉じて、馳せて天子に報せしむ。詔して兩將の兵を罷む。曰はく、「郢等首惡たり。獨り無諸の孫、繇君丑は、謀に與らず」と。乃ち中郎將をして丑を立てて越の繇王と爲し、閩越の先の祭祀を奉せしむ。餘善、已に郢を殺し、威國に行はれ、國民多く屬す。竊に自立して王と爲る。繇王、制すること能はず。上之を聞き、餘善は復た師を興すに足らずと爲して曰はく、「餘善は、數郢と與に亂を謀りしかども、後首として郢を誅し、師、勞せざるを得たり」と。因つて餘善を立てて東越王と爲し、繇王と並び處らしむ。上、莊助をして意を南越に諭さしむ。南越王胡、頓首して曰はく、「天子、乃ち臣が爲めに兵を興して、閩越を討せり。死すとも以て徳に報ゆる無し」と。太子嬰齊を遣はして入りて宿衛せしめ、助に謂つて曰はく、「國新に寇を被れり。使者行れ。胡方に日夜裝して、入りて天子に見えん」と。助還り、淮南を過ぐ。上、又、助をして淮南王安に諭すに、越を

【六一】鏑。短き矛をいふ。  
 【六二】殞。死する也。  
 【六三】繇。邑の名。  
 【六四】裝。旅裝。



討するの事を以てし、其の意に嘉答せしむ。安、及ばずと謝す。助既に南越を去るや、南越の大臣、皆、其の王を諫めて曰はく、『漢、兵を興して邽を誅せり。亦行かば、以て南越を驚動せん。且つ先王昔言へり、「天子に事ふるには、禮を失ふ無きを期す」と。之を要するに、以て好語を説びて入りて見ゆ可からず。』(若シ入り)則ち復た歸るを得ざらん。亡國の勢なり」と。是に於て、胡、病と稱し、竟に入りて見えず。

是の歳、韓安國、御史大夫と爲る。

東海の太守濮陽の汲黯、主爵都尉と爲る。

始め黯、謁者と爲り、嚴を以て憚らる。東越相

攻むるや、上、黯をして往いて之を視しむ。至

らず。吳に至りて還り、報じて曰はく、『越人相

攻むるは、固に其の俗然り。以て天子の使を辱むるに足らず』と。河内・失火し、千餘家を延焼す

るや、上、黯をして往いて之を視しむ。還り報じて曰はく、『家人・失火し、屋比くして延焼す。

憂ふるに足らざるなり。臣、河南を過ぐ。河南の貧人、水旱に傷られしもの萬餘家あり、或は父子相

食む。臣謹みて便宜を以て節を持し、河南の倉粟を發して、以て貧民を振ふ。臣請ふ、節を歸し、(六)

制を矯むるの罪に伏せん』と。上、賢として之を釋す。其の東海に在るや、官を治め民を理むるに、

【六五】好語。甘言なり。漢の使者の好語を喜びて入朝す可からず。

【六六】主爵中尉は秦の官、列侯を掌る、景帝の中の六年、更めて都尉と名づく。

【六七】家人。庶人の家。比は近す。

【六八】制。制詔。漢の律に、制を矯むる者は、棄市の罪に論す。

【六九】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【七〇】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【七一】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【七二】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【七三】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【七四】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【七五】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【七六】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【七七】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【七八】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【七九】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【八〇】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【八一】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【八二】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【八三】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【八四】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【八五】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【八六】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【八七】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【八八】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【八九】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【九〇】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【九一】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【九二】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【九三】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【九四】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【九五】家人。失火し、屋比くして延焼す。

【九六】家人。失火し、屋比くして延焼す。

清静を好み、(六)丞史を擇びて之に任じ、大指を責むるのみ、苛小ならず。黯、多病にして、(七)閨閣の内に臥し、出でざること歳餘、東海大に治まり、之を稱す。上聞き、召して主爵都尉と爲し、(八)九卿に列す。其の治、務めて無爲に在り、大體を引き、(九)文法に拘らず。黯、人と爲り、性、倨にして禮少く、面折して人の過を容るること能はず。時に天子、方に文學儒者を招く。上曰はく、『吾、(十)云云せんと欲す。』黯對へて曰はく、『陛下は、内、多欲にして、外、仁義を施す。奈何ぞ(十一)唐虞の治に效はんと欲するや』と。上默然として、怒りて色を變じて朝を罷む。公卿、皆、黯の爲めに懼る。上退き、左右に謂つて曰はく、『甚だしいかな汲黯の戇たるや』と。羣臣或は黯を(十二)數む。黯曰はく、『天子、公卿輔弼の臣を置くは、寧んぞ從諛して意を承け、主を不義に陥らしめんとならんや。且つ已に其の位に在り。縦ひ身を愛すとも、朝廷を辱むるを奈何せんや』と。黯、多病にして、病みて且に三月に満たんとす。上、常に(十三)告を賜ふこと數なり。終に愈えず。最後に病むや、莊助爲めに告を請ふ。上曰はく、『汲黯は何如なる人ぞや。』助曰はく、『黯をして職に任じ官に居らしめば、以て人に踰ゆる無からん。然れども其の少主を輔け、城を守ること深く堅く、これ

【六九】丞史。丞及び史なり。漢の制、郡守の屬官に丞あり、諸曹の掾史あり。

【七〇】閨閣。寢室。

【七一】九卿に列す。太常、郎中令、中大夫令、太僕、大理、太行令、宗正、太司農、少府を正九卿と爲し、中尉、主爵都尉、内史は九卿に列す。

【七二】文法。法律をいふ。

【七三】倨。簡傲なり。

【七四】云云は猶ほ此の如く此の如くと言ふがごとし。史、其の辭を略するのみ。

【七五】唐虞。堯舜。

【七六】數。責むる也。

【七七】告。休暇をいふ。



を招けども來らず。之を磨けども去らざるに至りては、自ら賁育と謂ふと雖も、亦、之を奪ふこと能はじ。』上曰はく、『然り。古に社稷の臣有り。黜が如きに至りては、之に近し』と。

匈奴來りて和親を請ふ。天子、其の議を下す。大行王恢は燕の人なり。胡の事に習ふ。議して曰はく、『漢、匈奴と和親すれども、率ね數歲に過ぎずして、即ち復た約に倍く。許す勿きに如かず、兵を興して之を撃たん。』韓安國曰はく、『匈奴は遷徙して鳥舉し、得て制し難し。上古より、屬して人と爲さず。今、漢、行くこと數千里にして、之と利を争はば、則ち人馬罷乏し、虜、全きを以て其の敵れたるを制せん。此れ危道なり。和親するに如かず』と。羣臣の議する者、多く安國に附く。是に於て、上、和親を許す。

- 【七】 遷徙して鳥舉す。水草を追うて移轉して、鳥の舉るが如きをいふ。
- 【八】 屬して人と爲さず。人類と見なさざるなり。
- 【九】 孝廉を擧ぐ。孝は善く父母に事ふる者、廉は清廉なる者。これを官吏に推薦せしめしなり。
- 【一〇】 部伍。軍行に各、分部あり、伍は五人を伍と爲すなり。部に校尉あり、伍に伍長あり。
- 【一一】 刁斗。銅製の鑼にして、一斗を受く。晝は飲食を炊ぎ、夜は鳴らして陣を警む。
- 【一二】 莫府。幕府、即ち將軍の陣營。

元光元年、冬十一月、初めて郡國をして 孝廉各一人を擧げしむ。董仲舒の言に従ふなり。

衛尉李廣、驍騎將軍と爲り、雲中に屯し、中尉程不識、車騎將軍と爲り、鴈門に屯す。六月、罷む。廣と程不識と、俱に邊の太守を以て兵に將たり。當時に名有り。廣は、行くに 部伍行陳無く、善き水草に就きて舍止す。人人自ら便とす。刁斗を撃つて以て自ら衛らす。莫府、文書を省約す。然れども亦斥候を遠くす。未だ嘗て害に遭はず。程不識は、部曲行伍を正しくし、營陳には刁斗を撃ち、士吏は軍簿を治め、明に至るまで、軍、休息するを得ず。然れども亦未だ嘗て害に遇はず。不識曰はく、『李廣の軍は、極めて簡易なり。然れども虜卒に之を犯さば、以て禁する無からん。而れども其の士卒、亦、佚樂して、威、之が爲めに死するを樂しむ。我が軍は、煩擾なりと雖も、然れども虜、我を犯すを得ず』と。然れども匈奴は、李廣の略を畏れ、士卒も亦多く、李廣に従ふを樂しみて、程不識(ニ從)を 苦ふ。

臣光曰はく、易に曰はく、『師は出すに律を以てす。否ざれば臧きも凶』と。衆を治むるに法を用ひざれば凶ならざる無きを言ふなり。李廣の將たる、人人をして自ら便とせしむ。廣の材を以てして、此の如くするは、可なり。然れども以て法と爲す可からず。何となれば則ち其の繼ぐ者難ければなり。況んや之と時を並べて將と爲るをや。夫れ小人の情は、安肆に樂しみて、近禍に味し。彼、既に程不識を以て煩擾と爲して、廣に従ふを樂しむ。且つ將に其の上を仇として服せざらんとす。然らば則ち簡易の害は、徒に廣の軍の以て虜の倉卒を禁する無からんのに非ざるなり。故に曰はく、『兵事は嚴を以て終る』と。將と爲る者、亦嚴にして已む。然らば則ち程不識に倣はば、功無しと雖も、猶ほ敗れず、李廣に倣はば、覆亡せざるこ

- 【五】 苦。厭ひ、苦しとする也。
- 【六】 易云。易の師卦初六の爻の辭。衆を齊ふるに律を以てす、律を失へば則ち散す。故に、師を出すには律を以てす。律を失ふ可からず。律を失ふときは、たとひ正義の師と雖も、敗戦に至る也。



と鮮からんかな。

夏四月、天下に赦す。

五月、詔して賢良文學を擧げしめ、上親ら之を策す。

秋七月癸未、日、之を食する有り。

卷の第十八

漢紀十

世宗孝武皇帝上の下

元光二年、冬十月、上、雍に行幸し、五時を禱る。

李少君、竈を祠り老を卻くる方を以て上に見ゆ。上、之を尊ぶ。少君は、故の深澤侯の舍人にして、其の年及び其の生長(所)を匿し、其の遊ぶこと方を以てして諸侯に徧く、妻子無し。人、其の能く物を使ひ及び死せざるを聞き、更るゝ之に饋遺す。常に金錢衣食を餘す。人、皆以爲へらく、生業を治めずして饒給すと。又、其の何の所の人なるを知らず、愈信じて争うて之に事ふ。少君、善く功發奇中を爲す。嘗て武安侯に従つて飲む。坐中に、九十餘の老人有り。少君、乃ち其の大父と游射せし處を言ふ。老人、兒たりし時、其の大父に従ひ、其の處を識れり。一坐

漢世宗孝武皇帝元光二年

五七一

- 【一】 元光二年。西紀前一三三年。
- 【二】 竈を祠り老を卻くる方。方士の術の一なり。竈を祠りて以て鬼物を致し、丹砂を化して以て黄金と爲し、以て飲食の器を爲り、以て壽を延ばす術なり。
- 【三】 物。鬼物をいふ。
- 【四】 功發奇中。史記孝武本紀には巧發奇中に作る。時時、言を發して中る所有るなり。
- 【五】 武安侯。田蚡。



盡く驚く。少君、上に言して曰はく、「竈を祠れば則ち物を致す。物を致せば、丹砂、化して黄金と爲す可く、壽、益す可く、蓬萊の仙者、見る可し。之を見て以て封禪すれば則ち死せず。黄帝是れなり。臣嘗て海上に遊び、安期生を見る。(安期) 臣に棗を食はしむ、大さ瓜の如し。安期生は仙者なり、蓬萊の中に通ず。合へば則ち人を見、合はざれば則ち隠る」と。是に於て、天子始めて親ら竈を祠り、方士を遣はして海に入り、蓬萊・安期生の屬を求めしめ、而して丹砂諸藥齊を化して黄金と爲すを事とす。居ること之を久しうして、李少君病みて死す。天子以爲へらく、化し去りて・死せずと。而して海上・燕・齊の怪迂の方士、多く更るく來りて神事を言ふ。

毫の人謬忌、太一を祠る方を奏して曰はく、「天神の貴き者は太一なり。太一の佐を五帝と曰ふ」と。是に於て、天子、其の祠を長安の東南郊に立つ。

雁門の馬邑の豪蕞壹、大行王恢に因りて言ふ、「匈奴初めて和親し、邊を親信す。誘ふに利を以てして之を致し・兵を伏して襲ひ撃つ可し。必ず破るの道なり」と。上、公卿を召して問ふ。王恢曰はく、「臣聞く、全代の時、北には強胡の敵

- 【六】安期生。仙人の名。列仙傳に、安期生は、瑯邪の人、薬を東海の邊に賣る、時の人皆、千歳と言ふ、とあり。
- 【七】臣に棗を食はしむ。史記孝武本紀及び封禪書には「巨棗を食ふ」に作る。此は漢書郊祀志に従ふ。
- 【八】太一。方士のいふ天の尊神。
- 【九】五帝。東方の青帝、南方の赤帝、西方の白帝、北方の黒帝、中央の黄帝。三皇五帝の五帝とは異なる。
- 【一〇】馬邑。山西省雁門道馬邑縣。
- 【一一】全代の時。戦國の初め、代自ら一國たり。故に全代といふ。

有り、内には中國の兵を連ぬ。然れども尙ほ(代)老を養ひ幼を長じ・種樹するに時を以てし・倉廩常に實つるを得、匈奴、輕しく侵さざりきと。今、陛下の威を以て、海内、一と爲れり。然るに匈奴、侵盜して已まざるは、它無し、(二)恐れざるの故を以てなるのみ。臣竊に以爲へらく、之を撃つこと便なり。」韓安國曰はく、「臣聞く、(三)高皇帝、嘗て平城に圍まれ、七日、食はず。圍を解きて位に反るに及びて、忿怒の心無かりきと。夫れ聖人は、天下を以て(四)度と爲す者なり。己の私怒を以て天下の公を傷らす。故に劉敬を遣はして和親を結ばしめ、今に至るまで五世の利たり。臣竊に以爲へらく、撃つ勿きこと便なり。」恢曰はく、「然らず。高帝、身、堅を被り鋭を執ること、行幾十年。平城の怨を報いざる所以は、力能はざるに非ず、天下の心を休むる所以なり。今、邊境數驚き、士卒傷つき死し、中國(五)樵車相望む。此れ仁人の(六)隱む所なり。故に曰はく、之を撃つこと便なりと。」安國曰はく、「然らず。臣聞く、兵を用ふる者は、飽を以て飢を待ち、治を正しくして以て其の亂を待ち、(七)舍を定めて以て其の勞を待つ。故に兵を接すれば(八)衆を覆し、國を伐てば城を墮る。常に坐して敵國を役す。此れ聖人の兵なりと。今、將に甲を巻き輕く擧げ・深く入り長く毆らんとするは、以て功を爲し難からん。從に行かば

- 【一】恐れず。示すに威を以てせざるが故に、匈奴、懼るるを知らざるを言ふ。
- 【二】事。十一卷高祖七年に見ゆ。
- 【三】度。度量のこと。天下を容るるが如き大度量あるをいふ。
- 【四】樵車相望む。樵は小棺なり。軍に従つて死する者は、樵を以て其の喪を送り致す。隸を載するの車、道に相望むは、其の多きを言ふ也。
- 【五】隱。痛む也。
- 【六】舍。止息の處。



則ち迫脅せられ、衡に行かば則ち中絶せん。疾くせば則ち糧乏しく、徐ろにせば則ち利に後れん。千里に至らずして、人馬、食に乏しからん。兵法に曰はく、(二四)人に獲を遺るなり」と。臣故に曰はく、撃つ勿きこと便なり」と。恢曰はく、『然らず。臣が今之を撃たん』と言ふは、固より發して深く入らんとには非ざるなり。將に單于の欲に順因して誘うて之を邊に致さんとするなり。吾、(二五)梟騎壯士を選び、陰に伏して處らしめ、以て之が備を爲し、審かに險阻を遮り、以て其の戒を爲し、吾が執已に定まり、或は其の左に營し、或は其の右に營し、或は其の前に當り、或は其の後を絶たば、單于、禽にす可し。百全にして必ず取らん』と。上、恢の議に従ふ。夏六月、御史大夫韓安國を以て護軍將軍と爲し、衛尉李廣を驍騎將軍と爲し、太僕公孫賀を輕車將軍と爲し、大行王恢を將屯將軍と爲し、太中大夫李息を材官將軍と爲し、車騎材官三十餘萬を將ゐて、馬邑の旁谷の中に匿れしめ、約すらく、『單于、馬邑に入らんととき、兵を縱て』と。陰に聶壹をして間を爲し、亡げて匈奴に入り、單于に謂つて曰はしむ、『吾能く馬邑の令丞を斬りて城を以て降らん。財物、盡く得可し』と。單于、愛信して以て然りと爲して之を許す。聶壹、乃ち詐りて死罪の囚を斬り、其の頭を馬邑の城下に懸け、單于の使者に示して信と爲して曰はく、『馬邑の長吏已に死せり。』

- 【一八】 利に後る。利に及ばざる也。
- 【一九】 人に獲を遺る。敵に虜獲せらるるをいふ。
- 【二〇】 梟騎。勇猛なる騎士。
- 【二一】 輕車。古の戰車。
- 【二二】 將屯。諸屯を監するを主る。
- 【二三】 令丞。縣に令あり丞あり、長吏なり。

急に來る可し』と。是に於て、單于、塞を穿ちて十萬騎を將ゐて、(二四)武州の塞に入る。未だ馬邑に至らざること百餘里、畜野に布けども人の牧する者無きを見て、之を怪しみ、乃ち亭を攻め、(二五)雁門の尉史を得、之を殺さんと欲す。尉史、乃ち單于に漢の兵の居る所を告ぐ。單于大に驚きて曰はく、『吾固より之を疑へり』と。乃ち兵を引き還る。出でて曰はく、『吾が尉史を得たるは、天なり』と。尉史を以て天王と爲す。塞下傳へて言ふ、『單于已に去れり』と。漢の兵追うて塞に至り、及ばざるを度り、乃ち皆兵を罷む。王恢は、別に代より出でて胡の輜重を撃つを主り、單于の還る兵多しと聞き、亦、敢て出でず。上、恢を怒る。恢曰はく、『始め約して、馬邑城に入り、兵・單于と接して、臣其の輜重を撃たば、利を得可しと爲せり。今、單于、至らずして還れり。臣以へらく、三萬人の衆は敵せず、祇に辱を取らんと。固より還らば斬られんことを知れり。然れども陛下の士三萬人を完うせり』と。是に於て、恢を廷尉に下す。廷尉、恢を逗撓に當し、斬に當す。恢、千金を丞相蚡に行ふ。蚡、敢て上に言はずして、太后に言つて曰はく、『王恢、首として馬邑の事を爲せり。今、成らずして恢を誅するは、是れ匈奴の爲めに仇を報ゆるなり』と。上、太后に朝す。太后、蚡の言を以て上に告ぐ。上曰はく、『首として馬邑の事を爲しし者は恢なり。故に天下の兵數十萬を發し、其の言に従つて此を爲せり。且つ縱ひ單于は得可』

- 【二四】 武州。縣の名、山西省雁門道左雲縣の南に在り。
- 【二五】 漢の制、塞に近き地には、皆、尉を置く、百里に一人、士史・尉史各、二人。
- 【二六】 逗撓。逗は留止する也。撓は屈弱を謂ふ。敵を見てとどまり、たわむこと。



からずとも、恢の所部、其の輜重を撃ちしならば、猶ほ頗る以て士大夫の心を尉むるを得可かりしならん。今、恢を誅せずんば、以て天下に謝する無からん」と。是に於て、恢聞きて乃ち自殺す。是より後、匈奴、和親を絶ち、路に當るの塞を攻め、往往入りて漢の邊に盜すること、勝てて數ふ可からず。然れども尙ほ關市を食樂し、漢の財物を嗜む。漢も亦關市絶たず、以て其の意に中つ。

三年、春、河水徙り、頓丘より東南に流る。夏五月丙子、復た濮陽の瓠子に決し、鉅野に注ぎ、淮泗に通じ、郡を汎すこと十六。天子、汲黯・鄭當時をして、卒十萬を發して之を塞がしむ。輒ち復た壞る。是の時、田蚡の奉邑、餼を食む。蚡は河北に居り、河決して南すれば、則ち蚡は水災無く、邑收多し。蚡、上に言つて曰はく、「江河の決するは、皆、天事なり。未だ人力を以て強ひて塞ぎ易からず。之を塞ぐは、未だ必ずしも天に應せず」と。而して氣を望み數を用ふる者、亦、以て然りと爲す。是に於て、天子、之を久しくして、復た塞ぐを事とせざるなり。初め孝景の時、魏其侯寶嬰、大將軍たり。武安侯田蚡は、乃ち諸郎た

【一】 河水徙る。黄河の河道の洪水のために變じたるをいふ也。  
【二】 頓丘。今の河南省河北道濮縣。  
【三】 瓠子。直隸省大名道濮陽縣。  
【四】 鉅野。山東省濟寧道鉅野縣。  
【五】 鄒。縣の名、今の山東省東臨道平原縣の境に在り。  
【六】 諸郎。諸曹郎なり。

り、酒に侍し、跪起すること子姪の如し。已にして蚡は日に益々貴幸せられ、丞相と爲り、魏其は執を失ひ、賓客益々衰ふ。獨り故の燕の相潁陰の灌夫のみ去らず。嬰乃ち厚く夫を遇し、相爲めに引重す。其の游、父子の如く然り。夫、人と爲り、剛直にして酒を使ひ、諸の執有りて己の右に在る者をば、必ず之を陵ぐ。數々酒に因りて丞相に忤ふ。丞相乃ち奏す、「灌夫を案せん。家屬、潁川に横にして、民之に苦しむ」と。夫及び支屬を收繫す。皆、棄市の罪を得。魏其・上書して、灌夫を救はんことを論ず。上、武安と東朝廷にして之を辨せしむ。魏其・武安、因つて互に相詆訐す。上、朝臣に問ふ、「兩人孰れか是なる」と。唯だ汲黯のみ魏其を是とし、韓安國は、兩つながら以て是と爲し、鄭當時は、魏其を是とし、後、敢て堅からず。上、當時を怒りて曰はく、「吾并せて若が屬を斬らん」と。即ち罷めて起つて入り、食を太后に上る。太后怒つて食はず、曰はく、「今我在り、而るに人皆吾が弟を藉む。我をして百歳の後ならしめば、皆、之を魚肉にせんか」と。上、已むを得ずして、遂に灌夫を族し、有司をして魏其を案治せしめ、棄市の罪を得たり。

【七】 跪起。挨拶應對なり。  
【八】 引重す。相牽引して聲勢を爲す也。  
【九】 己の右に在る者。己よりも位貴きもの。  
【一〇】 東朝廷。太后、長樂宮に居る。未央宮の東に在り。  
【一一】 吾が弟を藉む。田蚡は太后の弟なり。藉むは踏む。踏みつけにするといはん程の義なり。  
【一二】 淮南王安云云。後の十九卷元狩元年に在り。  
【一三】 蚡云云。前卷建元二年に見ゆ。  
【一四】 引。天子の爲めに導引す



四年、冬十二月晦、魏其を渭城に論殺す。春三月乙卯、武安侯蚡も亦  
薨す。〔一〕淮南王安敗るに及びて、上、蚡が安の金を受けて不順の語有  
しを聞き、曰はく、『武安侯をして在らしめば、族せんものを』と。

夏四月、隕つる霜、艸を殺す。

御史大夫安國、丞相の事を行ふ。〔三〕引するとき車より墮ちて、蹇す。五

月丁巳、平棘侯薛澤を以て丞相と爲す。安國病みて免す。

地震ふ。

天下に赦す。

九月、中尉張敖を以て御史大夫と爲す。韓安國・疾愈え、復た中尉と爲る。

河間王徳、學を修め古を好み、事を實にして是を求め、金帛を以て

四方の善書を招求し、書を得ること多く、漢朝と等し。是の時、淮南王安

も亦書を好めども、招致する所、率ね浮辨多し。獻王の得る所の書は、

皆、古文先秦の舊書なり。禮樂古事を采り、稍稍増輯して、五百餘篇に至る。

者に於てす。山東の諸儒、多く之に従つて遊ぶ。

る也。これは案内の先驅をなす意なり。

【四】蹇。跛となる也。

【五】河間王徳。景帝の子、武帝の兄。獻王と諡す。景帝の

前の二年、封を受く。

【六】事を實にして是を求め。事實を得るを務め、毎に眞の是を求むる也。

【七】浮辨多し。實用無きを言ふ。

【八】先秦。猶ほ秦先と言ふがごとし。未だ書を焚かざるの前を謂ふ。

【九】被服造次。衣服を著る間、急遽苟且の間。僅の間をいふ。

被服造次、必ず儒

五年、冬十月、河間王・來朝し、雅樂を獻す。〔二〕三雍宮〔制〕及び詔策の問ふ所の三十餘事を對ふ。其の對、道術を推して言ひ、事の中を得、文約かにして指明かなり。天子、太樂官に下して、常に河間王の獻する所の雅樂を存肄し、歲時に以て數に備ふ。然れども常に御せざるなり。春正月、河間王・薨す。中尉常麗・以て聞す。曰はく、『王は身端しく行治まり、溫仁恭儉、篤敬にして下を愛し、明かに知り深く察し、鰥寡を恵む』と。太行令・奏す、『諡法に、聰明睿知なるを獻と曰ふ』と。諡して獻王と曰ふ。

班固・贊して曰はく、昔、魯の哀公言へる有り、『寡人、深宮の中に生

れ、婦人の手に長じ、未だ嘗て憂を知らず、未だ嘗て懼を知らず』と。

信なるかな斯の言や。危亡せざらんと欲すと雖も、得可からざるのみ。

是の故に。〔四〕古人は、晏安を以て鳩毒と爲す。徳無くして富貴なる、之

を不幸と謂ふ。漢興りてより、孝平に至るまで、諸侯王、百を以て數ふ、

卒に多く驕淫にして道を失へり。何となれば則ち放恣の中に沈溺し、居

執、然らしむるなり。凡人より、猶ほ習俗に繋る。而るを況んや哀公の

倫をや。夫れ唯だ大雅にして、卓爾として羣せざるは、河間の獻王、之

に近し。

【一】三雍宮。辟雍、明堂、靈臺。

【二】太樂官。太常に屬す。

【三】存肄。肄は習ふ也。

【四】古人云云。左傳に、管敬仲曰く、晏安は鳩毒なり、懷ふ可からずと。

【五】事は前卷の建元六年に見ゆ。

【六】風曉。諷諭する也。

【七】枸醬。枸は桑に似たる樹。其の實を以て作りたる醬。

【八】牂柯江。都江。上流は貴州



初め 王恢が東越を討するや、番陽の令唐蒙をして、南越を風曉せしむ。南越、蒙に食はしむるに蜀の枸醬を以てす。蒙、従つて來る所を問ふ。(答へ) 曰はく、『西北の牂柯江よりす。牂柯江は廣さ數里、番禺の城下に出づ』と。蒙歸りて長安に至り、蜀の賈人に問ふ。賈人曰はく、『獨り蜀のみ枸醬を出す。多く持ちて竊に出で。夜郎に市ふ。夜郎は牂柯江に臨む。江は廣さ百餘歩、以て船を行るに足る。南越、財物を以て夜郎を役屬し、西のかた 桐師に至る。然れども亦、臣とし使ふこと能はざるなり』と。蒙乃ち上書して、上に説きて曰はく、『南越王は、黃屋左纛し、地・東西萬餘里、名は外臣たれども、實は一州の主なり。今、長沙・豫章より往くには、水道多く絶えて、行き難し。竊に聞く、夜郎は、有る所の精兵、十餘萬を得可しと。船を牂柯江に浮べて、其の不意に出でば、此れ越を制する 一奇なり。誠に漢の疆きと巴蜀の饒なるを以てせば、夜郎の道を通じ、爲めに吏を置かんこと、甚だ易からん』と。上、之を許す。乃ち蒙を拜して中郎將と爲す。千人・食重萬餘人を將ゐて、巴蜀の 笮關より入り、遂に夜郎侯多同を見る。蒙厚く賜ひ、諭すに威徳を以てし、約して爲めに吏を置き、其の子をして令と爲らしむ。夜郎の旁の小邑、皆、漢の繒帛を貪り、以爲へらく、漢の道は險なり、終に、

- 【九】番禺。廣東省粵海道番禺縣。
- 【一〇】夜郎。西南夷の一、今の貴州省黔中道貴西道方面に據れるものなり。
- 【一一】桐師。西南夷の一、雲南省騰越道舊大理府内。
- 【一二】一奇。一奇策。
- 【一三】食重。糧食輜重。
- 【一四】笮關。四川省建昌道清溪縣の東北にあり。

有つこと能はざらんと。乃ち且く蒙の約を聽く。還りて報ず。上、以て犍爲郡と爲す。巴蜀の卒を發して道を治め、(一五) 樊道より牂柯江を指す。作者數萬人。士卒多く 物故し、逃亡する者有り。(一六) 軍興の法を用ひて、(一七) 其の渠率を誅す。巴蜀の民大に驚き恐る。上、之を聞き、司馬相如をして唐蒙等を責めしめ、因つて巴蜀の民に諭告するに、上の意に非ざるを以てす。相如還りて報ず。是の時、(一八) 笮の君長、南夷が漢と通じて、賞賜を得ること多きを聞き、多く、内の臣妾と爲り、吏を請うて南夷に比せんことを欲願す。天子、相如に問ふ。相如曰はく、『笮・冉駹は、蜀に近く、道も亦通じ易し。秦の時、嘗て通じて郡縣と爲す。漢興るに至りて罷む。今誠に復た通じて、爲めに郡縣を置かば、南夷に愈らん』と。天子、以て然りと爲し、乃ち相如を拜して中郎將と爲し、節を建てて往いて使せしむ。及び副使王然于等、傳に乗り、巴蜀の吏の幣物に因りて、以て西夷に賂ふ。邛・笮・冉駹・斯榆の君、皆、内臣と爲り、邊關を除かんことを請ふ。關益、(一九) 斥まり、西のかた 沫若水に至り、南のかた牂柯に至るまで、(二〇) 微を爲り、(二一) 零關道に通じ、(二二) 孫水に橋し、以て邛都に通ず。爲め

- 【一五】樊道。縣の名、即ち今の四川省永寧道宜賓縣。
- 【一六】物故。死する也。
- 【一七】軍興の法。軍事の徵集の法。
- 【一八】渠率。首領。
- 【一九】邛・笮。古の西南夷の二國の名。邛は四川省建昌道西昌縣の東南に在り、笮は同漢源縣の東南に在り。
- 【二〇】冉駹。西夷の二族の名。四川省西川道茂縣の地。
- 【二一】斥。開き廣まる。
- 【二二】沫若水。沫水、若水。沫水は今の四川省建昌道蘆山縣の西北より出で、東南流して同道樂山縣に至り、岷江に入る。若水は今の鴉龍江。
- 【二三】微。邊塞。木柵を水涯に作りて、中國と外夷との經界



に一都尉を置き、十餘縣、蜀に屬す。天子大に説ぶ。

詔して、卒萬人を發して、鴈門の阻險を治めしむ。

秋七月、大風、木を抜く。

女巫楚服等、陳皇后に教へて、祠祭し、厭勝し、婦人の媚道を挾む。

事覺る。上、御史張湯をして之を窮治せしむ。湯深く黨與を竟め、相連及

して誅せらるる者三百餘人。楚服は市に梟首せらる。乙巳、皇后に冊を賜

ひ、其の璽綬を收め、罷めて長門宮に退居せしむ。寶太主慙ち思れ、

稽顙して上に謝す。上曰はく、『皇后の爲す所は、不軌なり。大義に於て、

廢せざるを得ず。主、當に道を信じて以て自ら慰むべし。妄言を受けて以

て嫌懼を生ずること勿かれ』と。后、廢せらるると雖も、供奉すること法の

如く、長門、上の宮に異なる無きなり。

初め上、嘗て酒を寶太主の家に置く。主、幸する所の賣珠兒董偃を見す。

上、之に衣冠を賜ひ、尊びて名いはず、稱して主人翁と爲し、之をして

侍飲せしむ。是に由りて、董君の貴寵せらるること、天下、聞かざるもの

莫し。(董)常に從つて北宮に游戲し、平樂に馳逐し、鷄鞠の會を觀

を定むるをいふ。

【四】零關道。地名、今の四川

省建昌道蘆山縣の東南五十里

に在り。

【五】孫水。今の四川省の安寧

河、南して金沙江に入る。

【六】阻險を治む。道を通じて

平易ならしむる也。

【七】厭勝。まじなひ。

【八】媚道を挾む。呪詛するを

言ふ。

【九】長門宮。長安城の東南に

在り。

【一〇】寶太主。陳皇后之母。即

ち館陶公主。

【一一】不軌。無道。

【一二】平樂。未央宮の北に在り

周回十五里。

【一三】鷄鞠。闘鷄及び蹴鞠。

狗馬の足を角す。上大に之を歡樂す。上、寶太主の爲めに、酒を宣室に置き、謁者をして引き

て董君を内れしむ。是の時、中郎東方朔、殿下に陛戟す。戟を避けて

前みて曰はく、『董偃は、斬罪三あり、安んぞ入るを得んや。』上曰はく、

『何の謂ぞや。』朔曰はく、『偃は人臣を以て、私に公主に侍す、其の罪の

一なり。男女の化を敗りて、婚姻の禮を亂り、王制を傷る、其の罪の二な

り。陛下は春秋に富み、方に思を六經に積む。偃は經に遵ひ學を勧めず、

反つて靡麗を以て、右と爲し、奢侈を務と爲し、狗馬の樂を盡し、耳目

の欲を極む。是れ乃ち國家の大賊、人主の大賊なり。其の罪の三なり』

と。上、默然として應へず、良久しうして曰はく、『吾業に已に飲を設く。

後は自ら改めん。』朔曰はく、『夫れ宣室は先帝の正處なり、法度の政に

非ざれば、入ることを得ず。故に淫亂の漸は、其の變、篡を爲す。是を以

て、豎貂、淫を爲して、易牙、患を作し、慶父死して、魯國全し。』上

曰はく、『善し』と。詔有りて止め、更に酒を北宮に置き、董君を引き

東司馬門より入らしむ。朔に黄金三十斤を賜ふ。董君の寵、是に由りて日に衰ふ。是の後、公主、

貴人、多く禮制を踰ゆ。

【一四】角。較する也。

【一五】宣室。未央宮の前殿の正

室。政教を布くの室。

【一六】陛戟。戟を持ちて陛側に

列する也。

【一七】右と爲す。これを尊ぶ也。

【一八】大賊。賊は、いさこむし。

沙を含みて人を射て災を爲す

といふ。

【一九】豎貂、易牙。皆齊の桓公

の佞臣。

【二〇】慶父。魯の桓公の庶子、

莊公の弟。哀姜に通ず。莊公

薨するや、慶父、其の子般及

び閔公を弑し、亂を爲さんと

欲して、克たず、縊れ死す。

魯乃ち定まる。



上、張湯を以て太中大夫と爲し、趙禹と共に、諸の律令を定めしむ。務めて深文に在り、守職の吏を拘し、見知の法を作り、吏傳へて相監司せしむ。法を用ふる益刻なること、此より始まる。

八月、螟あり。

是の歳、吏民の當世の務に明かに先聖の術に習ふ有る者を徴し、次に續食して、計と偕にせしむ。菑川の人公孫弘、對策して曰はく、「臣聞く、上古堯舜の時、爵賞を貴くせざれども、民、善に勸み、刑罰を重くせざれども、民犯さざりき。躬ら率ゐるに正を以てして、民を遇すること信なればなり。末世は、爵を貴くし賞を厚くすれども、民勸まず、刑を深くし罰を重くすれども、姦止まず。其上、正しからず、民を遇すること信ならざればなり。夫れ賞を厚くし刑を重くするは、未だ以て善を勸めて非を禁するに足らず。必ず信なるのみ。是の故に、能に因りて官に任ずれば、則ち分職治まり、無用の言を去れば、則ち事情得られ、無用の器を作らざれば、則ち賦斂省かれ、民の時を奪はず、民の力を妨げざれば、則ち百姓富み、徳有る者は進み、徳無き者は退けば、則ち朝廷尊く、功有る者は上に、功無き者は下なれば、則ち羣臣遂し、罰、罪に當れば、則ち姦邪止み、

- 【四二】 深文。法文深刻なり。
- 【四三】 見知の法。犯人を見知して告げざる者は犯人と同罪に處するとの法規。
- 【四四】 螟。苗の心を食ふ蟲。
- 【四五】 縣次に續食す。沿道の各縣をして次第に接續して、これが飲食を供給せしむる也。
- 【四六】 計と偕にせしむ。年年郡國より計算帳を上る使者と共に入京せしむる也。
- 【四七】 遂。次第有る也。

賞、賢に當れば、則ち臣下勸む。凡そ此の八つの者は、治の本なり。故に民は、之を業とすれば則ち争はず、理得れば則ち怨みず、禮有れば則ち暴ならず、之を愛すれば則ち上を親しむ。此れ天下を有つの急なる者なり。禮義は民の服する所なり。而して賞罰、之に順へば、則ち民、禁を犯さず。臣、之を聞く、氣同じければ則ち從ひ、聲比すれば則ち應ずと。今、人主、上に和徳あれば、百姓、下に和合す。故に心和すれば則ち氣和し、氣和すれば則ち形和し、形和すれば則ち聲和し、聲和すれば則ち天地の和應す。故に陰陽和し、風雨時あり、甘露降り、五穀登り、六畜蕃く、嘉禾興り、朱艸生じ、山童ならず、澤涸れず。此れ和の至なり」と。時に對する者百餘人。太常、弘を奏するに、第、下に居る。策・奏す。天子、弘の對を擢んで第一と爲す。拜して博士と爲し、金馬門に待詔す。齊の人轅固、年九十餘、亦、賢良を以て徵せらる。公孫弘、目を仄て固に事ふ。固曰はく、「公孫子、正學を務めて以て言へ。曲學して以て世に阿る無かれ」と。諸儒、固を疾み毀る者多し。固遂に老を以て罷め歸る。是の時、巴蜀の四郡、山を鑿ちて西南夷に通ずること千餘里、戍轉して相餉る。數歲にして、道通せず。士罷れ餓る暑濕に離ひ、死する者甚だ衆し。西南夷、又、數反す。兵を發して興擊し、費、巨萬を以て計れども、功無し。上、之を患ふ。詔して公孫弘をして

- 【四七】 之を業とすれば則ち争はず。各、其の業を得るときは争心無き也。
- 【四八】 比。和する也。
- 【四九】 朱艸。瑞草なり。
- 【五〇】 金馬門。宦者の署、武帝、大宛の馬を得、銅を以て像を鑄、署の門に立つ、因つて以て名と爲す。
- 【五一】 四郡。蜀郡、廣漢郡、犍爲郡、巴郡。



これを視しむ。還りて事を奏し、盛に西南夷の用ふる所無きを毀る。上、聽かず。弘、朝會する毎に、其の端を開陳し、人主をして自ら擇ばしめ、肯て面折廷爭せず。是に於て、上、其の行愼厚にして、辯論餘り有り。文法吏事に習ひ。縁飾するに儒術を以てするを察し、大に之を説ぶ。一歳の中に、遷りて左内史に至る。弘、事を奏するに、不可有れども、廷にて辨せず。常に汲黯と間を請ひ、黯先づ之を發し、弘、其の後を推す。天子常に説び、言ふ所皆聽かる。此を以て、日に益、親貴せらる。弘、嘗て公卿と議を約す。上の前に至るや、皆、其の約に倍き、以て上の旨に順ふ。汲黯、廷にて弘を詰りて曰はく、『齊の人は、詐多くして情實無し。始め臣等と此の議を建て、今、皆、之に倍く。不忠なり』と。上、弘に問ふ。弘、謝して曰はく、『夫れ臣を知る者は、臣を以て忠と爲し、臣を知らざる者は、臣を以て不忠と爲す』と。上、弘の言を然りとす。左右の幸臣、毎に弘を毀る。上益、厚く之を遇す。

六年、冬、初めて商車に算す。

大司農鄭當時言ふ、『渭を穿ちて渠を爲り、下、河に至らば、關東の粟を漕するに、徑くして

- 【五】 縁飾。たとへば衣に純縁を加ふるが如く、これを飾る也。
- 【五】 間を請ふ。上の間隙の時を求む。
- 【五】 齊の人。公孫弘を指す。
- 【五】 情實。まこと。
- 【一】 商車に算す。始めて商買の車船に税して、算を出さしむ。
- 【二】 渠は長安の傍の南山より起り、下、河に至るまで、三百餘里。
- 【三】 漕。運漕するなり。

易く、又、以て渠下の民田萬餘頃に溉ぐ可し』と。春、詔して、卒數萬人を發して渠を穿つこと、當時の策の如くせしむ。三歳にして通ず。人、以て便と爲す。

匈奴、上谷に入り、吏民を殺略す。車騎將軍衛青を遣はして上谷に出で、騎將軍公孫敖をして代に出で、輕車將軍公孫賀をして雲中に出で、驍騎將軍李廣をして雁門に出で、各、萬騎をもて、胡を關市の下に撃たしむ。衛青は、龍城に至り、胡の首虜七百人を得。公孫賀は、得る所無し。公孫敖は、胡の敗る所と爲り、七千騎を亡ふ。李廣も亦、胡の敗る所と爲る。胡、廣を生得し、兩馬の間に置き、絡げて盛臥せしむ。行くこと十餘里、廣伴り死し、暫くにして騰りて胡兒の馬上に上り、其の弓を奪ひ、馬に鞭ちて南に馳せ、遂に脱し歸るを得たり。漢、敖、廣を吏に下す。斬に當す。贖うて庶人と爲る。唯だ青のみ爵關内侯を賜はる。青は、奴虜より出づと雖も、然れども騎射を善くし、材力、人に絶し、士大夫を遇するに禮を以てし、士卒に與するに恩有り、衆、用を爲すを樂しみ、將帥の材有り。故に出づる毎に輒ち功有り。天下、此に由りて、上の人を知るに服す。

- 【四】 上谷。直隸省口北道懷來縣。
- 【五】 龍城。匈奴が天を祭り大に諸部を會する處。喀爾喀の地。
- 【六】 盛臥。仰臥なり。
- 【七】 暫。卒(ニハカ)にしてと言ふが如し。
- 【八】 奴虜より出づ。青は本と平陽公主の家の騎奴なりしなり。卷十七孝武帝建元二年春三月の條參照。

夏、大に旱し、蝗あり。



六月、上、雍に行幸す。秋、匈奴數邊に盜す。漁陽尤も甚だし。衛尉韓安國を以て、材官將軍と爲し、漁陽に屯せしむ。

元朔元年、冬十一月、詔して曰はく、「朕深く執事に詔して、廉を興し孝を擧げしむ。庶幾はくは風を成し、(一)休を聖緒に紹がんことを。夫れ(二)十室の邑には、必ず忠信有り。三人並び行けば、厥れ我が師有り。今或は(三)闔郡にして一人をも薦めざるに至る。是れ化、下に究まらずして、行を積むの君子、(四)上聞に壅がるなり。且つ賢を進むるは上賞を受け、賢を蔽ふは顯戮を蒙るは、古の道なり。其れ二千石の(五)擧げざる者の罪を議せよ」と。有司奏す、「孝を擧げざるは、詔を奉せざるなり、當に不敬を以て論すべし。廉を察せざるは、任に勝へざるなり、當に免すべし」と。

十二月、江都の易王非・薨す。

皇子據生る。衛夫人の子なり。三月甲子、衛夫人を立てて皇后と爲し、天下に赦す。

秋、匈奴二萬騎、漢に入り、遼西の太守を殺し、二千餘人を略し、韓安國の壁を圍み、又、漁陽・雁門に入り、各千餘人を殺略す。安國益東に徙り、北平に屯す。數月にして病みて死す。天子乃ち復た李廣を召し、拜して右北平の太守と爲す。匈奴(一)號して漢の飛將軍と曰ひ、之を避け、數歲、敢て右北平に入らず。車騎將軍衛青、三萬騎を將ゐて雁門に出で、將軍李息、代に出づ。青の斬首虜・數千人。

東夷の葦君・南閩等、二十八萬人と共に降る。蒼海郡と爲す。人徒の費、(二)南夷に擬す。燕・齊の間、靡然として騷動す。

是の歲、(三)魯の共王餘・長沙の定王發、皆薨す。臨菑の人主父偃・嚴安、(四)無終の人徐樂、皆上書して事を言ふ。始め偃、齊・燕・趙に遊ぶ。皆、能く厚く遇するもの莫し。諸生、相與に排擯して、容れず。家貧しくして、假貸せんとすれども、得る所無し。乃ち西して關に入り、闕下に上書す。朝に奏し、暮に召されて入る。言ふ所は九事、其の八事は律令たり。一事は、匈奴を伐つを諫む。其の辭に曰はく、(五)司馬法に曰はく、「國、大なりと雖も、戰を好めば必ず亡ぶ。天下、平かなりと雖も、戰を忘るれば必

【九】 漁陽。京兆密雲縣。  
【一〇】 休。云云。休は美なり。先聖の休美なる緒業を繼ぐなり。

【一】 十室の邑。云云。論語に曰はく、十室の邑には、必ず忠信なること丘が如き者有らんと。又曰はく、三人行かば、必ず我が師有らんと。

【二】 闔郡。總一郡の中。  
【三】 天子に聞達するを得ざるなり。  
【四】 奏可。奏上する所を裁可する也。

【五】 非は景帝の子、前の二年汝南に封ぜられ、二年、江都に徙ざる。  
【六】 皇子據。是れ即ち戾太子なり。

【七】 右北平。直隸省津海道遼化縣。  
【八】 南閩。葦の君長の名。葦は濊貊なり。今の朝鮮江原道方面に據りしものなり。漢はその地を收めて蒼海郡を置きしが、間もなく廢せり。

【九】 殆ど南夷の時の費用と同額なり。  
【一〇】 二王は皆景帝の子、餘は前の二年を以て淮陽に封ぜられ、三年、魯に徙る。發も亦前の二年を以て封を長沙に受く。

【一一】 無終。縣の名、右北平郡に屬す。今の京兆薊縣に無終の故城あり。  
【一二】 司馬法。兵書の名。



す危し」と。夫れ怒は逆徳なり。兵は凶器なり。争は末節なり。夫れ戦勝を務め武事を窮むる者は、未だ悔いざる者有らざるなり。昔、秦の皇帝、戦國を并吞し、勝を務めて休まず、匈奴を攻めんと欲す。李斯諫めて曰はく、「不可なり。夫れ匈奴は城郭の居、委積の守無く、遷徙して鳥舉し、得て制し難きなり。輕兵深く入らば、糧食必ず絶えん。糧を踵いで以て行かば、重くして事に及ばじ。其の地を得とも、以て利と爲すに足らず、其の民を得とも、調して守る可からざらん。勝つて必ず之を殺さば、民の父母に非ざるなり。中國を靡敝し、匈奴に快心するは、長策に非ざるなり」と。秦の皇帝聽かず、遂に蒙恬をして兵を將ゐて胡を攻めしめ、地を辟くこと千里、河を以て境と爲す。地固より沮澤鹹鹵にして、五穀を生ぜず。然る後、天下の丁男を發して、以て北河を守らしめ、兵を暴し師を露すこと、十有餘年、死する者、勝て敷可からず。終に、河を踰えて北すること能はず。是れ豈に人衆足らず、兵革備はらざるならんや。其の勢不可なればなり。又、天下をして、芻を蜚ばし粟を輓かしむ。東陲・琅邪・負海の郡より起りて、北河に轉輸するに、率ね三十鍾にして一石を致すのみ。男子疾耕すれども、糧餉に足らず、女子紡績すれども、帷幕に足らず、百姓靡敝して、孤寡老弱、相養ふ

- 【二四】委積。倉庫の貯蓄。
- 【二五】重し。軍の行くに困難なる也。
- 【二六】調。和調する也。
- 【二七】芻を蜚ばし粟を輓く。芻粟穀を運輸するをいふ。
- 【二八】東陲。漢書には黃腫に作る。黃腫は二縣の名、竝に東萊郡に在り。負海。海邊。
- 【二九】三十鍾。一鍾は六斛四斗、三十鍾は百九十二斛。
- 【三〇】疾耕。農耕を勉勵するなり。

こと能はず、道路に死する者相望む。蓋し天下始めて秦に呻きしなり。高皇帝が天下を定むるに至るに及びて、地を邊に略し、匈奴が代谷の外に聚まるを聞きて、之を撃たんと欲す。御史成進み諫めて曰はく、「不可なり。夫れ匈奴の性は、獸のごとく聚まりて鳥のごとく散す。之に従ふは影を搏つが如し。今、陛下の盛徳を以て匈奴を攻むるは、臣竊に之を危む」と。高帝聽かず、遂に北して代谷に至る。果して平城の圍有り。高皇帝蓋し之を悔ゆること甚だし。乃ち劉敬をして往きて和親の約を結ばしむ。然る後、天下、干戈の事を忘る。夫れ匈奴の得て制し難きは、一世に非ざるなり。行盜・侵驅は、以て業と爲す所なり。天性固に然り。上、虞・夏・殷・周に及ぶまで、固より(之)程督せず、禽獸として之を畜ひ、屬して人と爲さず。夫れ上、虞・夏・殷・周の統を觀ずして、下、近世の失に循ふ。此れ臣が大に憂ふる所、百姓の疾苦する所なり」と。嚴安・上書して曰はく、「今、天下の人民、財を用ふること侈靡なり。車馬衣裘宮室、皆競うて修飾し、五聲を調へて、節族有らしめ、五色を雜へて、文章有らしめ、五味を重ねて、前に方丈にし、以て欲を天下に觀す。彼の民の情、美を見れば則ち之を願ふ。是れ民に教ふるに侈を以てするなり。侈りて節無ければ、則ち瞻らす可から

- 【三一】侵驅。來りて邊境を侵して人畜を驅掠する也。
- 【三二】程督。程は課なり。督は視責なり。課程を定め督責するなり。
- 【三三】五聲。宮、商、角、徵、羽。
- 【三四】節族。節奏なり。
- 【三五】文章。彩色あること。
- 【三六】欲を天下に觀す。これを顯し示して、天下の人をして慕ひ欲せしむる也。
- 【三七】瞻。足る也。



民、本を離れて末を【三〇】微む。末は徒に得可からず。故に【三二】措紳の者は、詐を爲すを憚らず、帶劍の者は、人を殺して以て矯奪するを夸り、而して世、愧づるを知らず。是を以て、法を犯す者衆し。臣願はくは、民の制度を爲り、以て其の淫を防ぎ、貧富をして相耀かさずして、以て其の心を和せしめんことを。心志定まらば、則ち盜賊消し、刑罰少く、陰陽和し、萬物蕃からん。昔、秦王、意廣く心逸し、海外を威さんと欲し、蒙恬をして兵を將ゐて以て北のかた胡を攻めしめ、又、尉屠睢をして樓船の士を將ゐて以て越を攻めしむ。是の時に當りて、秦の禍、北は胡に構へ、南は越に挂り、兵を無用の地に宿め、進めども退くを得ず、行ふこと十餘年、丁男は甲を被り、丁女は轉輸し、生を聊んせざるに苦しみ、自ら道樹に【三一】經れ、死する者相望む。秦の皇帝崩するに及びて、天下大に畔き、世を滅ぼし祀を絶てり。兵を窮むるの禍なり。故に周は之を弱きに失ひ、秦は之を強きに失ふ。變せざるの患なり。今、南夷を徇へ、夜郎を朝せしめ、羌燹を降し、葳州を略し、城邑を建て、深く匈奴に入り、其の龍城を燔く。議者は之を美す。此れ人臣の利にして、天下の長策に非ざるなり』と。徐樂、上書して曰はく、『臣聞く、天下の患は、土崩に在り、瓦解に在らず、古今、一なりと。何をか土崩と謂ふ。秦の末世是れなり。陳涉は、千乗の尊・尺土の地無く、身、王公大人名族の後に非ず、【三三】郷曲の譽【三三】（無く）、孔・曾・墨子の賢・陶朱・猗頓の富有るに非ざるなり。然れども窮巷より起り、【三三】棘矜を奮ひ、【三四】偏袒大呼して、天下、風に從へり。此れ其の故何ぞや。民困しめども主恤へず、下怨むれども上知らず、俗已に亂れて政修まらざるに由る。此の三つの者は、陳涉が以て資と爲せる所なり。此を之れ土崩と謂ふ。故に曰はく、天下の患は、土崩に在り。何をか瓦解と謂ふ。吳・楚・齊・趙の兵是れなり。七國、大逆を爲すを謀り、號して皆、萬乗の君と稱し、帶甲數十萬、威は以て其の境內を嚴すに足り、財は以て其の士民を勸むるに足る。然れども西して尺寸の地をも【三五】攘ふこと能はずして、身、中原に禽と爲りしは、此れ其の故何ぞや。權・匹夫よりも輕くして、兵・陳涉よりも弱きに非ざるなり。是の時に當りて、先帝の徳未だ衰へずして、土に安んじ俗を樂しむの民衆し。故に諸侯、【三六】竟外の助無し。此を之れ瓦解と謂ふ。故に曰はく、天下の患は、瓦解に在らずと。此の二體は、安危の明要にして、賢主の宜しく意を留めて深く察すべき所なり。間者、關東、五穀數、登らず、年歲未だ復せず、民多く窮困す。之に重ねるに邊境の事を以てす。數を推し理に循うて之を觀れば、民、宜しく其の處に安んぜざる者有るべし。安んぜず、故に動き易し。動き易きは、土崩の執なり。故に賢主は、獨り萬化の原を觀、安危の機に明かに、之を廟堂の上に修めて、未だ形れざるの患を銷す。其の要は、天下をして土崩の執無からしむるを期するのみ』と。書・奏す。天子、三人を召し見て、謂つて曰はく、『公等は

【二六】 微。要求する也。  
 【二九】 措紳の者。官位高き人。  
 【三〇】 經。縊死する也。  
 【三一】 羌燹。樊道即ち四川省永寧道宜賓縣の羌族。  
 【三三】 原文「郷」の上に「無」の字を脱す。

るなり。然れども窮巷より起り、【三三】棘矜を奮ひ、【三四】偏袒大呼して、天下、風に從へり。此れ其の故何ぞや。民困しめども主恤へず、下怨むれども上知らず、俗已に亂れて政修まらざるに由る。此の三つの者は、陳涉が以て資と爲せる所なり。此を之れ土崩と謂ふ。故に曰はく、天下の患は、土崩に在り。何をか瓦解と謂ふ。吳・楚・齊・趙の兵是れなり。七國、大逆を爲すを謀り、號して皆、萬乗の君と稱し、帶甲數十萬、威は以て其の境內を嚴すに足り、財は以て其の士民を勸むるに足る。然れども西して尺寸の地をも【三五】攘ふこと能はずして、身、中原に禽と爲りしは、此れ其の故何ぞや。權・匹夫よりも輕くして、兵・陳涉よりも弱きに非ざるなり。是の時に當りて、先帝の徳未だ衰へずして、土に安んじ俗を樂しむの民衆し。故に諸侯、【三六】竟外の助無し。此を之れ瓦解と謂ふ。故に曰はく、天下の患は、瓦解に在らずと。此の二體は、安危の明要にして、賢主の宜しく意を留めて深く察すべき所なり。間者、關東、五穀數、登らず、年歲未だ復せず、民多く窮困す。之に重ねるに邊境の事を以てす。數を推し理に循うて之を觀れば、民、宜しく其の處に安んぜざる者有るべし。安んぜず、故に動き易し。動き易きは、土崩の執なり。故に賢主は、獨り萬化の原を觀、安危の機に明かに、之を廟堂の上に修めて、未だ形れざるの患を銷す。其の要は、天下をして土崩の執無からしむるを期するのみ』と。書・奏す。天子、三人を召し見て、謂つて曰はく、『公等は

【三三】 棘矜。戟の把。  
 【三四】 偏袒。片肌ぬぎ。  
 【三五】 攘。侵し取る也。漢の尺寸の地を侵し取ることを得ざりしをいふ。  
 【三六】 竟外。境外。



皆安にか在りし。何ぞ相見るの晩きや」と。皆拜して郎中と爲す。主父偃尤も親幸せられ、一歳の中に、凡そ四たび遷り、中大夫と爲る。大臣、其の口を畏れ、【三〇】賂遺、千金を累ぬ。或るひと偃に謂つて曰はく、「太だ【三〇】横なり。」偃曰はく、「吾生きて【三〇】五鼎に食はずば、死して即ち【三〇】五鼎に烹られんのみ」と。

二年、冬、淮南王に几杖と朝する毋きとを賜ふ。

主父偃、上に説きて曰はく、「古は諸侯、百里に過ぎず、疆弱の形、制し易し。今は諸侯、或は城を連ぬること數十、地方千里、緩なれば則ち驕奢にして、淫亂を爲し易く、急なれば則ち其の疆を阻みて合従し、以て京師に逆ふ。法を以て之を割削せば、則ち逆節萌起せん。【三〇】前日の鼂錯是れなり。今、諸侯の子弟、或は十數にして、【四〇】適嗣代つて立ち、餘は骨肉と雖も、尺地の封無きは、則ち仁孝の道、宣びざるなり。願はくは陛下、諸侯をして恩を推して、子弟に分つに地を以てし、之を侯とするを得しめよ。彼の人人、願ふ所を得るを喜ばん。上、徳を以て施し、實は其の國を分ち、削らずして稍く弱からん」と。上、之に従ふ。春正月、詔して曰はく、「諸侯王、或は私恩を推して子弟に邑を分たんと欲する者は、各をして【三〇】條

- 【三〇】 賂遺。まひなひ。
- 【三一】 横。専横なり。
- 【三二】 五鼎。牛、羊、豕、魚、麩なり。諸侯の食なり。
- 【三三】 五鼎に烹らる。饅煮の誅を被るをいふ。
- 【三四】 阻。恃むなり。
- 【三五】 逆節。逆亂なり。
- 【三六】 事は十六卷景帝の前の三年に見ゆ。
- 【三七】 適嗣。嫡嗣。
- 【三八】 條上。列記して奏上する也。

上せしむ。朕且に臨みて其の號名を定めんとす」と。是に於て、藩國始めて分れて、子弟畢く侯たり。

匈奴、上谷・漁陽に入り、吏民千餘人を殺略す。衛青・李息を遣はして、雲中に出で、以て西して隴西に至り、胡の樓煩・白羊王を【三〇】河南に撃たしむ。胡の首虜數千・牛羊百餘萬を得、白羊・樓煩王を走らし、遂に河南の地を取る。詔して青を封じて長平侯と爲す。青の校尉蘇建・張次公、皆、功有り。建を封じて平陵侯と爲し、次公を岸頭侯と爲す。主父偃言ふ、「河南の地は肥饒にして、外は河を阻つ。蒙恬、之に城きて、以て匈奴を逐ひ、内、轉輸戍漕を省き、中國を廣くす。胡を滅ぼすの本なり」と。上、公卿に下して議せしむ。皆、不便なりと言ふ。上、竟に偃の計を用ひて、朔方郡を立て、蘇建をして十餘萬人を興して朔方城を築かしめ、復た故の秦の時蒙恬が爲りし所の塞を繕め、河に因りて固と爲す。轉漕甚だ遠く、山東より、咸其の勞を被り、費すこと數十百鉅萬、府庫竝に虚し。漢も亦、上谷の斗辟縣造陽の地を棄てて、以て胡に予ふ。

- 【三〇】 隴西。甘肅省蘭山道舊蘭州。鞏昌。秦州諸府州の地。狄道に治す。
- 【三一】 河南。オールドスの地。内蒙古綏遠特別區域に屬す。
- 【三二】 朔方郡。即ち内蒙古オールドスの地。故城はオールドス右翼後旗に在り。
- 【三三】 斗辟縣。縣の斗曲して匈奴の界に入りたる者、其の中の造陽の地なり。造陽は今の直隸省口北道懷來縣なり。

三月乙亥晦、日、之を食する有り。夏、民を募りて朔方に徙すこと、十萬口。



主父偃、上に説きて曰はく、『(一〇)茂陵初めて立つ。天下の豪傑、并兼の家、衆を亂すの民、皆、茂陵に徙す可し。内は京師を實たし、外は姦猾を銷せん。此れ謂はゆる誅せずして害除くなり』と。上、之に従ひ、郡國の豪傑及び(一一)豊二百萬以上なるものを茂陵に徙す。軹の人郭解は、關東の大俠なり、亦、徙さるる中に在り。衛將軍爲めに言ふ、『郭解は、家貧しくして、徙さるるに中らず』と。上曰はく、『解は布衣なるに、權、將軍をして爲めに言はしむるに至る。此れ其の家貧しからざるなり』と。卒に解の家を徙す。解、平生、(一二)睚眦すれば人を殺すこと、甚だ衆し。上、之を聞き、吏に下して解を捕治す。殺す所は皆赦の前に在り。軹に儒生あり、使者の坐に侍す。客、郭解を譽む。生曰はく、『解は専ら姦を以て公法を犯す。何ぞ賢と謂はん』と。解の客聞き、此の生を殺し、其の舌を斷つ。吏、此を以て解を責む。解、實に殺す者を知らず。殺す者も亦絶えて、誰たるを知るもの莫し。吏、解の無罪を奏す。公孫弘議して曰はく、『解は布衣にして、任俠を爲し權を行ひ、睚眦を以て人を殺す。解、此を知らずと雖も、罪は解が之を殺すよりも甚だし。大道無道に當す』と。遂に郭解を族す。

班固曰はく、古は天子は國を建て、諸侯は家を立て、卿大夫より、以て庶人に至るまで、各等差有り。是を以て、民、其の上に服事して、下、(一三)覬覦する無し。周室既に微にして、禮樂征伐、

諸侯より出で、桓・文の後、大夫、權を世にし、陪臣、命を執り、陵夷して戰國に至り、合從連衡す。是に繇りて、列國の公子、魏に信陵有り、趙に平原有り、齊に孟嘗有り、楚に春申有り、皆、王公の執に藉り、競うて游俠を爲し、(一四)鷄鳴狗盜をも、賓禮せざるは無し。而して趙の相虞卿は、國を棄て君を捐て、(一五)以て窮交魏齊の厄を周ひ、信陵無忌は、符を竊み命を矯め、將を戮し師を専らにして、以て平原の急に赴く。皆、以て重きを諸侯に取り、名を天下に顯はす。腕を搯して游談する者、(一六)四豪を以て稱首と爲す。是に於て、公に背き黨に死するの議成り、職を守り上に奉ずるの義廢る。漢興るに至るに及びて、禁網疏闊にして、未だ匡し改むるを知らざるなり。是の故に、代の相陳豨は、從車千乘あり、而して吳・潁・淮南は、皆、賓客を招くこと千を以て數ふ。外戚の大臣・魏其・武安の屬、京師に(一七)競逐し、布衣の游俠・劇孟・郭解の徒、閭閻に馳騫し、權、州域に行はれ、力、公侯を折く。衆庶、其の名迹を榮として、覬うて之を慕ふ。其の刑辟に陷ると雖も、自ら身を殺して名を成すこと(一八)季路(一九)仇牧の若しと與し、死すれども悔いず。故に曾子曰はく、『上、其の道を失して、民散すること久し。明王・上に在り・之に示すに好惡を以てし・之を齊ふるに

- 【一〇】 茂陵。初めて建元二年に立つ。
- 【一一】 豊。貴。
- 【一二】 睚眦すれば人を殺す。目を舉げて睨んだといふ位の少しばかりの怨を以て、人を殺す。
- 【一三】 覬覦。非望を企つる也。
- 【一四】 卷三周の赧王の十七年の條參照。
- 【一五】 卷五周の赧王五十六年の條參照。
- 【一六】 卷五周の赧王の五十七年の條參照。
- 【一七】 四豪。信陵君、平原君、孟嘗君、春申君。
- 【一八】 競逐。競争する也。
- 【一九】 季路。孔子の弟子。衛侯輒の難に死す。
- 【二〇】 仇牧。宋の大夫。宋萬、閔公を弑せしとき、仇牧、これを聞きて、趨りて至り、難に死す。左傳に見ゆ。



禮法を以てするに非ずんば、民、曷に由りてか禁を知りて正に反らんや」と。古の法を正すや、五伯は三王の罪人なり。而して六國は五伯の罪人なり。夫れ四豪は、又六國の罪人なり。況んや郭解の倫に於ては、匹夫の細を以て、殺生の權を竊む、其の罪已に誅に容れず。其の溫良にして泛く愛し、窮を振ひ急を周ひ、謙退して伐らざるを觀るに、亦、皆、絶異の姿有り。惜しいかな、道德に入らずして、苟くも末流に放縱するや。身を殺し宗を亡ぼせるは、不幸に非ざるなり。

荀悅論じて曰はく、世に三遊有り、徳の賊なり。一に曰はく遊俠、二に曰はく遊説、三に曰はく遊行。氣執を立て、威福を作し、私交を結び、以て強を世に立つる者、之を遊俠と謂ふ。辯辭を飾り、詐謀を設け、天下に馳逐し、以て時教を要むる者、之を遊説と謂ふ。色は仁を取り、以て時好に合ひ、黨類を連れ、虚譽を立て、以て權利を爲す者、之を遊行と謂ふ。此の三つの者は、亂の由つて生ずる所なり。道を傷ひ徳を害ひ、法を敗り世を惑はす。先王の慎む所なり。國に四民有り。各其の業を修む。四民の業に由らざる者、之を野民と謂ふ。野民、生ぜざれば、王道乃ち成る。凡そ此の三遊の作るは、季世に生ず。周・秦の末、尤も甚だし。上、明かならず、下、正しからず、制度立たず、綱紀弛廢し、毀譽を以て榮辱を爲し、其の眞を核めず、愛憎を以て利害を爲し、其の實を論せず、喜怒を以て賞

- 【二】 身殺され宗族滅ぶるは不幸にして此に至りたるに非ずして、蓋し當然の事なり。
- 【三】 色は仁を取る。外面は仁者らしき様子をなす也。
- 【四】 四民。士農工商。
- 【五】 季世。末世なり。
- 【六】 核。要むる也。

罰を爲し、其の理を察せず、上下相冒し、萬事乖錯す。是を以て、言論する者は、薄厚を計りて辭を吐き、選舉する者は、親疎を度りて筆を擧げ、善惡は衆聲に謬り、功罪は王法に亂る。然れば則ち利は義を以て求む可からず、害は道を以て避く可からざるなり。是を以て、君子は禮を犯し、小人は法を犯し、犇走馳騁し、職を越え度を僭し、華を飾り實を廢て、競うて時利に趣き、父兄の尊を簡かにして、賓客の禮を崇くし、骨肉の恩を薄くして、朋友の愛を篤くし、修身の道を忘れて、衆人の譽を求め、衣食の業を割きて、以て饗宴の好に供し、苞苴、門庭に盈ち、聘問、道路に交はり、書記は公文よりも繁く、私務は官事よりも衆し。是に於て、流俗成りて正道壞る。是を以て、聖王、上に在れば、國を經し民を序で、其の制度を正しくし、善惡は功罪に要して、毀譽に淫せず、其の言を聽きて其の事を責め、其の名を擧げて其の實を指す。故に實の其の聲に應せざる者は、之を虚と謂ひ、情の其の貌を覆はざる者は、之を偽と謂ひ、毀譽の其の眞を失ふ者は、之を誣と謂ひ、事を言ひて其の類を失ふ者は、之を罔と謂ふ。虚偽の行は設くるを得ず、誣罔の辭は行ふを得ず、罪惡有る者は、僥倖無く、罪過無き者は憂懼せず、請謁は行はるる所無く、貨賂は用ひらるる所無く、華文を息め、浮辭を去り、僞辯を

- 【六】 乖錯。乖亂錯雜。
- 【七】 苞苴。贈り物。
- 【八】 善惡云云。善惡を定むるには、必ず功と罪との如何によりて、衆人の毀譽の惑はず所とならず。
- 【九】 聲。名聲。
- 【一〇】 情の其貌を覆はざる者。眞實の心情と外面の様子と相應せざる者。
- 【一一】 僥倖無し。幸にして免るること無きをいふ。

漢世宗孝武皇帝元朔二年



禁じ、淫智を絶ち、百家の紛亂を放ち、聖人の至道に壹に、之を養ふに仁恵を以てし、之を文るに禮樂を以てすれば、則ち風俗定まりて、大化成る。

燕王定國、父康王の姫と對し、弟の妻を奪うて姫と爲し、肥如の令郢人を殺す。郢人の兄弟、上書して之を告ぐ。主父偃、中より其の事を發く。公卿、定國を誅せんと請ふ。上、之を許す。定國、自殺す。國除かる。齊の厲王次昌も亦、其の

姉紀翁主と通す。主父偃、其の女を齊王に納れんと欲す。齊の紀太后許さず。偃因つて上に言つて曰はく、『齊の臨菑は、十萬戸、市租千金、人衆く

殷富にして、長安よりも鉅なり。天子の親弟愛子に非ざれば、此に王たるを得ず。今、齊王は、親屬に於て益、疏なり。又聞く、其の姉と亂すと。

請ふ之を治めん』と。是に於て、帝、偃を拜して齊の相と爲し、且つ其の事を正さしむ。偃、齊に至り、急に王の後宮・宦者を治む。辭、王に及ぶ。

王懼れ、藥を飲みて自殺す。偃、少かりし時、齊及び燕・趙に遊ぶ。貴きに及びて、連に燕・齊を敗る。趙王彭祖懼れ、上書して、『主父偃、諸侯の金を受く。故を以て、諸

侯の子弟、以て封を得る者多し』と告ぐ。齊王の自殺するに及びて、上聞きて大に怒り、以爲へらく、偃、其の王を劫して、自殺せしむ。乃ち徴して吏に下す。偃、諸侯の金を受くるに服せしが、

服せしが、

【三】肥如。縣の名、直隸省津海道盧龍縣の西。

【四】文帝の初、王澤、燕に封ぜられ、子康王嘉に傳ふ、文帝九年、嘉薨じ、定國嗣ぐ、蓋し立ちて四十二年なり。

【五】齊の孝王將闔、文帝の十六年、封を受け、子懿王壽に傳へ、壽、次昌に傳ふ。

【六】彭祖は景帝の子、前の二年、廣川に封ぜられ、五年、趙に徙さる。

【七】服。服罪なり。

實に王を劫して自殺せしめず。上、誅する勿からんと欲す。公孫弘曰はく、『齊王、自殺して、後無く、國除かれて郡と爲りて漢に入る。主父偃は本首惡なり。陛下、偃を誅せずば、以て天下に謝する無からん』と。乃ち遂に主父偃を族す。

張歐・免す。上、蓼侯 孔臧を以て御史大夫と爲さんと欲す。臧・辭して曰はく、『臣は世、經學を以て業と爲す。乞ふ太常と爲り、臣の家業を典り、從弟侍中安國と與

に、古訓を綱紀し、永く來嗣に垂れしめん』と。上、乃ち臧を以て太常と爲し、其の禮賜、三公の如し。

三年、冬、匈奴の軍臣單于、死す。其の弟、左谷蠡王伊稚斜、自立して單于と爲り、軍臣單于の太子於單を攻め破る。於單亡げて漢に降る。

公孫弘を以て御史大夫と爲す。是の時、方に西南夷に通じ、東には蒼海(郡)を置き、北には朔方の郡を築く。公孫弘數、諫めて以爲はく、『中國を

罷敵し、以て無用の地に奉ず。願はくは之を罷めん』と。天子、朱買臣等をして、難するに朔方を置くの便を以てせしめ、十策を發す。弘、一をも(應フ)得ず。弘乃ち謝して曰はく、『山東の鄙人、其

の便なること是の若きを知らず。願はくは西南夷と蒼海とを罷めて、専ら朔方に奉せん』と。上乃

【一】孔臧。孔子の子孫なり。安國は其の從弟たり、安國は孔子の十三世の孫なり。

【二】侍中は加官、禁中に入出するを得。

【三】匈奴の左右谷蠡王は左右賢王の下に在り。

【四】十策云云。利益あること十個條を言ふ。弘、一條もこれを論難すること能はず。



ち之を許す。春、蒼海郡を罷む。弘、布被を爲り、食、肉を重ねず。汲黯曰はく、「弘は位、三公に在りて、奉祿甚だ多し。然るに布被を爲るは、此れ詐なり」と。上、弘に問ふ。弘、謝して曰はく、「之れ有り。夫れ九卿の臣と善き者は、黯に過ぐるは無し。然るに今日、廷に弘を詰る。誠に弘の病に中る。夫れ三公を以て布被を爲ること、小吏と差ふ無きは、誠に詐を飾り、以て名を釣らんと欲す。汲黯の言の如し。且つ汲黯の忠無くんば、陛下、安んぞ此の言を聞くを得ん」と。天子、以て謙讓と爲し、愈益之を尊ぶ。

三月、天下に赦す。

夏四月丙子、匈奴の太子於單を封じて涉安侯と爲す。數月にして卒す。

初め匈奴の降者言ふ、「月氏は故、敦煌・祁連の間に居り、疆國たりしが、匈奴の冒頓、攻めて之を破り、(一)老上單子、月氏の王を殺し、其の頭を以て飲器と爲す。餘衆遁逃して遠く去り、匈奴を怨めども、與に共に之を撃つもの無し」と。上、能く使を月氏に通ずる者を募る。漢中の張騫、郎を以て募に應じ、隴西に出で、匈奴の中を徑。單子、之を得、騫を留むること十餘歳。騫、間を得て亡

【三】 布被。布の寝具。

【四】 奉祿。俸祿。

【五】 敦煌・祁連。敦煌は甘肅省安肅道敦煌縣。祁連は甘涼道張掖縣の西南にある連山をいふ(南山山脈ともいふ)。月氏はトルコ種の民族なり。

【六】 老上單子云云。老上單子が月氏を破滅してこれを遠く西方に逐ひしは、漢の文帝の

前元九年(西紀前一七一年)乃至同帝後元元年(一六一年)の間のことなり。

【七】 張騫の出征は恐らく武帝の建元二年(西紀前一三九年)にして、而して次に記さるる如くこの年即ち元朔三年(西紀前一二六年)歸朝せしなるべし。

げ、月氏に郷ひ、西に走ること數十日、大宛に至る。大宛、漢の財に饒なるを聞き、通せんと欲すれども得ず、騫を見て喜び、爲めに(二)導譯を發し、(三)康居に抵し、傳して大月氏に致す。大月氏の太子、王と爲り、既に(四)大夏を撃ち、其の地を分ちて之に居る。地、肥饒にして寇少く、殊えて胡に報いんとの心無し。騫留まること歳餘、竟に月氏の要領を得ること能はず。乃ち還る。南山に竝ひ、(五)羌中より歸らんと欲し、復た匈奴の得る所と爲る。留まること歳餘、會伊稚斜、於單を逐ひ、匈奴の國內亂る。騫乃ち(六)堂邑氏の奴甘父と與に逃げ歸る。上、騫を拜して太中大夫と爲し、甘父を奉使君と爲す。騫初め行く時、百餘人、去りて十三歳、唯だ二人のみ還るを得たり。

【八】 大宛。今の露領中アジアのフェルガナ(Fergana)地方に當る。大月氏の北に在る。

【九】 導譯。嚮導通譯する人。

【一〇】 康居。今の中アジアのキルギス(Kirgizia)荒原の地にありしもの、種族はトルコ種なり。

【一一】 大月氏。月氏はすでに西に遷り當時は中央アジアのアムダリア(Amu-darya)流域に國し居たりしなり。大夏の

故地も亦その領有となりしなり。

【一二】 大夏。西洋史にいふバクトリア(Bactria)なり。今のアフガニスタン(Afghanistan)より印度の西北地方を占めたるなり。

【一三】 羌中。青海方面をいふ。羌は西藏種の民族なり。

【一四】 堂邑。姓なり、漢人なり、其の奴なる甘父といふ者。

【一五】 皇太后。武帝の母、即ち王太后。

匈奴の數萬騎、塞に入り、代郡の太守恭及を殺し、千餘人を略す。

六月庚午、(一)皇太后崩す。



秋、西夷を罷め、獨り南夷・夜郎の兩縣に一都尉を置き、稍く犍爲をして自ら葆就せしめ、力を専らにして朔方に城く。

匈奴、又、鴈門に入り、千餘人を殺略す。

是の歳、中大夫張湯を廷尉と爲す。湯は、人と爲り詐多く、智を舞はして以て人を御す。時に上方

に文學に郷ふ。湯、陽に浮慕し、董仲舒・公孫弘

等に事へ、千乗の兒寛を以て、奏讞掾と爲し、

古法の義を以て疑獄を決す。治むる所、即し上

の意の罪せんと欲する所なれば、監史の深

禍なる者と與にし、即し上の意の釋さんと欲す

る所なれば、監史の輕平なる者と與にす。上、是

に由りて之を悦ぶ。湯、故人の子弟に於て、之

を調護すること尤も厚く、其の諸公に造請するや、寒暑を避けず。是を以て、湯、文深意忌に

して、平に専らならずと雖も、然れども此の聲譽を得たり。汲黯數、湯を上の前に質責して曰は

く、「公、正卿と爲り、上は先帝の功業を襲にすること能はず、下は天下の邪心を抑へ、國を安ん

じ民を富まし、囹圄をして空虚ならしむること能はず。何ぞ空しく高皇帝の約束を取りて、紛更す

るを爲す。而して公は此を以て『種無からん』と。黯、時に湯と論議す。湯は辯にして常に文深

小苛に在り。黯は、伉厲にして守ること高く、

屈すること能はず、忿發して罵りて曰はく、

『天下、刀筆の吏の以て公卿と爲す可からざる

を謂ふ。果して然り。必ず湯ならん、天下をし

て、足を重ねて立ち、目を側て視しめんものは』と。

四年、冬、上、甘泉に行幸す。

夏、匈奴、代郡・定襄・上郡に入ること、各三萬騎、數千人を殺略す。

【一六】自ら葆就せしむ。自ら保ち守り且つ其の郡縣を成さしむる也。葆は保と同じ。  
【一七】奏讞掾。廷尉の掾(屬官)にして専ら奏讞を主る。  
【一八】深禍。法を持すること深刻にして人を禍に致さんと欲する也。  
【一九】調護。かばふ。

【二〇】造請。造は詣る也。請は謁問する也。  
【二一】平。公平なり。  
【二二】質責。對面して詰責す。  
【二三】正卿。漢の官、九卿の外に、又、九卿に列する者あり、故に九卿を正卿と謂ふ。  
【二四】襲。襲大なり。  
【二五】紛更。紛亂變更す。

【二六】種無からん。誅、子孫に及ぶべきをいふ。  
【二七】文深小苛。文意深刻、小細苛察。

【二八】伉厲。伉直嚴厲。  
【二九】足を重ねて立つ。懼るるの甚だしきをいふ。

國譯資治通鑑第一終



端明殿學士兼翰林侍讀學士太中大夫提舉西京嵩山崇福宮上柱國河內郡開國公食邑二千六百戶食實封一千戶臣司馬光進資治通鑑表

臣光言先奉

勅編集歷代君臣事迹又奉

聖旨賜名資治通鑑今已了畢者伏念臣性識愚魯學術荒疎凡百事爲皆出入下獨於前史粗嘗盡心自幼至老嗜之不厭每患遷固以來文字繁多自布衣之士讀之不徧況於人主日有萬機何暇周覽臣常不自揆欲刪削冗長舉撮機要專取關國家盛衰繫生民休戚善可爲法惡可爲戒者爲編年一書使先後有倫精粗不雜私家力薄無由可成伏遇英宗皇帝資叡智之性

敷文明之治思

歷覽古事用

恢張大猷爰

詔下臣傳之編集臣夙昔所願一朝獲伸踴躍奉承惟懼不稱

先帝仍命自選辟官屬於崇文院置局

許借龍圖天章閣三館祕閣書籍賜以



御府筆墨繪帛及  
御前錢以供果餌以內臣為承受

眷遇之榮近臣莫及不幸書未

進御

先帝違棄羣臣

陛下紹膺

大統欽承

先志

寵以冠序

錫之嘉名每開

經筵常令進讀臣雖頑愚荷

兩朝知待如此其厚隕身喪元未足

報塞苟智力所及豈敢有遺會差知永興軍以衰疾不任治劇乞就冗官

陛下俯從所欲曲賜

容養差判西京留司御史臺及提舉西京嵩山崇福宮前後六任仍聽以書局自隨給之祿

秩

不責職業臣既無它事得以研精極慮窮竭所有日力不足繼之以夜徧閱舊史旁采小說  
簡牘盈積浩如淵海抉擿幽隱校計毫釐上起戰國下終五代凡一千三百六十二年修成  
二百九十四卷又略舉事目年經國緯以備

檢尋為目錄三十卷又參考羣書評其同異俾歸一塗為考異三十卷合三百五十四卷自  
治平開局迄今始成歲月淹久其閒牴牾不敢自保罪負之重固無所逃臣光誠惶誠懼頓  
首頓首重念臣違離闕庭十有五年雖身處于外區區之心朝夕寤寐何嘗不在

陛下之左右願以駑蹇無施而可是以專事鉛槧用酬

大恩庶竭涓塵少裨

海嶽臣今骸骨癯瘠目視昏近齒牙無幾神識衰耗目前所為旋踵遺忘臣之精力盡於此

書伏望

陛下寬其妄作之誅

察其願忠之意以

清閒之宴時賜

省覽



鑒前世之興衰。考當今之得失。

嘉善於惡。

取是捨非。足以

懋稽古之盛德。

躋無前之至治。俾四海羣生咸蒙其福。則臣雖委骨九泉。志願永畢矣。謹奉表陳進以

聞。臣光誠惶誠懼。頓首頓首謹言。

元豐七年十一月 日

進呈

檢閱文字承事郎 臣 司 馬 康

同修 奉議郎 臣 范 祖 禹

同修 祕書丞 臣 劉 恕

同修 尚書屯田員外郎充集賢校理 臣 劉 放

編集端明殿學士兼翰林侍讀學士太中大夫 臣 司 馬 光

獎諭詔書

勅。司馬光修資治通鑑成事。史學之廢久矣。紀次無法。論議不明。豈足以示懲勸。明久遠哉。卿博學多聞。貫穿今古。上自晚周。下迄五代。發揮綴緝。成一家之書。褒貶去取。有所據依。省閱以還。良深嘉歎。今賜卿銀絹對衣腰帶鞍轡馬具。如別錄。至可領也。故茲獎諭。想宜知悉。冬寒。卿比平安。好遣書指不多及。

十五日

元豐八年九月十七日。准尚書省劄子。奉

聖旨。重行校定。

元祐元年十月十四日。奉

聖旨。下杭州鑿板。

校對 宣德郎 祕書省正字 臣 張 耒

校對 宣德郎 祕書省正字 臣 晁 補 之

校對 朝奉郎 行祕書省正字 上騎都尉 臣 宋 匪 躬

校對 朝奉郎 行祕書省校書郎 充集賢校理 武騎尉 賜緋魚袋 臣 盛 次 仲



校定承議郎充祕閣校理武騎尉賜緋魚袋 臣張舜民  
 校定承議郎祕書省校書郎集賢校理武騎尉賜緋魚袋 臣孔武仲  
 校定修實錄院檢討官朝奉郎行祕書省著作佐郎武騎尉賜緋魚袋 臣黃庭堅  
 校定 宣德郎守右正言 臣劉安世  
 校定奉議郎行祕書省著作佐郎兼侍講賜緋魚袋 臣司馬康  
 校定修實錄檢討官承議郎祕書省著作郎兼侍講上騎都尉賜緋魚袋 臣范祖禹

太中大夫守尙書右丞上柱國汝郡開國侯食邑二千八百戶食實封二百戶賜紫金魚袋 臣呂大防

通議大夫守尙書左丞上柱國平原郡開國公食邑二千五百戶食實封柒百戶 臣李清臣

金紫光祿大夫守尙書右僕射兼中書侍郎上柱國東平郡開國公食邑七千一百戶食實封二千三百戶 臣呂公著

### 治平資治通鑑事略

治平三年四月辛丑命龍圖直學士侍讀司馬光編集歷代君臣事迹初光患歷代史繁重學者不能綜況於人主欲上自戰國下迄五季正史之外旁采他書關國家興衰係生民休戚善可爲法惡可爲戒者依左氏傳體爲編年一書名曰通志遂約戰國至秦二世爲八卷以進英宗悅之命續其書置局祕閣以劉恕趙君錫同修四年十月己酉初御邇英甲寅初進讀賜名資治通鑑神宗親製序面賜光序曰光之志以爲威烈王命韓趙魏爲諸侯周雖未滅王制盡矣此亦古人述作造端立意之所繇也其所載明君良臣切摩治道議論之精語德刑之善制天人相與之際休咎庶證之原威福盛衰之本規模利害之効良將之方略循吏之條教斷以邪正要於治忽辭令淵厚之體箴諫深切之義良謂備焉凡十六代博而得其要簡而周於事是亦典刑之總會冊牘之淵林矣元豐七年十二月戊辰書成二百九十四卷上起戰國下終五代凡一千三百六十二年又略舉事目年經國緯爲目錄三十卷參攷羣書評其同異俾歸一塗爲考異三十卷合三百五十四卷自治平開局迄今始成凡十九年詔書獎諭賜銀帛衣帶靴馬上諭輔臣曰前代未嘗有此書過荀悅漢紀遠矣以光爲資政殿學士輔臣請觀之遂命付三省



資治通鑑序

御製

朕惟君子多識前言往行。以畜其德。故能剛健篤實。輝光日新。書亦曰。王人求多聞。時惟建事。詩書春秋。皆所以明乎得失之迹。存王道之正。垂鑑戒於後世者也。漢司馬遷。鈎石室金匱之書。據左氏國語。推世本戰國策。楚漢春秋。采經摭傳。罔羅天下。放失舊聞。考之行事。馳騁上下。數千載間。首記軒轅。至于麟止。作為紀表世家傳。後之述者。不能易此體也。惟其是非不謬於聖人。褒貶出於至當。則良史之才矣。若稽古

英考。留神載籍。萬機之下。未嘗廢卷。嘗命龍圖閣直學士司馬光。論次歷代君臣事迹。俾就祕閣。繙閱。給史筆札。起周威烈王。訖于五代。光之志。以為周積衰。王室微。禮樂征伐。自諸侯出。平王東遷。齊楚秦晉始大。桓文更霸。猶託尊王為辭。以服天下。威烈王自陪臣命韓趙魏為諸侯。周雖未滅。王制盡矣。此亦古人述作造端立意之所繇也。其所載。明君良臣。切摩治道。議論之精語。德刑之善制。天人相與之際。休咎庶證之原。威福盛衰之本。規模利害之効。良將之方略。循吏之條教。斷之以邪正。要之於治忽。辭令淵厚之體。箴諫深切之義。良謂



備焉。凡十六代。勒成二百九十四卷。列于戶牖之間。而盡古今之統。博而得其要。簡而周于事。是亦典刑之總會。冊牘之淵林矣。荀卿有言。欲觀聖人之迹。則於其粲然者矣。後王是也。若夫漢之文宣。唐之太宗。孔子所謂吾無間焉者。自餘治世盛王。有慘怛之愛。有忠利之教。或知人善任。恭儉勤畏。亦各得聖賢之一體。孟軻所謂吾於武成。取二三策而已。至于荒墜顛危。可見前車之失。亂賊姦宄。厥有履霜之漸。詩云。商鑑不遠。在夏后之世。故賜其書名曰資治通鑑。以著朕之志焉耳。

治平四年十月初開

經筵奉

聖旨。讀資治通鑑。其月九日。臣光初

進讀。

面賜

御製序。令候書成。日寫入。

# 資治通鑑卷第一

朝散大夫右諫議大夫權御史中丞充理檢使上護軍賜紫金魚袋臣司馬光奉勅編集

## 周紀一

### 威烈王

二十三年。初命晉大夫魏斯趙籍韓虔為諸侯。

臣光曰。臣聞天子之職。莫大於禮。禮莫大於分。分莫大於名。何謂禮。紀綱是也。何謂分。君臣是也。何謂名。公侯卿大夫是也。夫以四海之廣。兆民之衆。受制於一人。雖有絕倫之力。高世之智。莫不奔走而服役者。豈非以禮為之紀綱哉。是故天子統三公。三公率諸侯。諸侯制卿大夫。卿大夫治士庶人。貴以臨賤。賤以承貴。上之使下。猶心腹之運手足。根本之制支葉。下之事上。猶手足之衛心腹。支葉之庇本根。然後能上下相保。而國家治安。故曰天子之職。莫大於禮也。文王序易。以乾坤為首。孔子繫之曰。天尊地卑。乾坤定矣。卑高以陳。貴賤位矣。言君臣之位。猶天地之不可易也。春秋抑諸侯。尊王室。王人雖微。序於諸侯之上。以是見聖人於君臣之際。未嘗不惓惓也。非有桀紂之暴。湯武之仁。人歸之。天命之。君臣之分。當守節伏死而已矣。是故以微子而代紂。則成湯配天矣。以季札而君吳。則太伯血食矣。然二子寧亡國而不為者。誠以禮之大節不可亂也。故曰。禮莫大於分也。夫禮。



辯貴賤。序親疏。裁羣物。制庶事。非名不著。非器不形。名以命之。器以別之。然後上下粲然有倫。此禮之大經也。名器既亡。則禮安得獨在哉。昔仲叔于奚。有功於衛。辭邑而請繁纓。孔子以爲不如多與之邑。惟名與器。不可以假人。君之所司也。政亡則國家從之。衛君待孔子而爲政。孔子欲先正名。以爲名不正則民無所措手足。夫繁纓小物也。而孔子惜之。正名細務也。而孔子先之。誠以名器既亂。則上下無以相保故也。夫事未有不生於微。而成於著。聖人之慮遠。故能謹其微而治之。衆人之識近。故必待其著而後救之。治其微則用力寡而功多。救其著則竭力而不能及也。易曰。履霜。堅冰至。書曰。一日二日萬幾。謂此類也。故曰。分莫大於名也。嗚呼。幽厲失德。周道日衰。綱紀散壞。下陵上替。諸侯專征。大夫擅政。禮之大體。什喪七八矣。然文武之祀。猶縣縣相屬者。蓋以周之子孫尚能守其名分故也。何以言之。昔晉文公有大功於王室。請隧於襄王。襄王不許。曰。王章也。未有代德而有二王。亦叔父之所惡也。不然。叔父有地而隧。又何請焉。文公於是懼而不敢違。是故以周之地。則不大於曹滕。以周之民。則不衆於邾莒。然歷數百年。宗主天下。雖以晉楚齊秦之彊。不敢加者。何哉。徒以名分尚存故也。至於季氏之於魯。田常之於齊。白公之於楚。智伯之於晉。其勢皆足以逐君而自爲。然而卒不敢者。豈其力不足而心不忍哉。乃畏奸名犯分。而天下共誅之也。今晉大夫暴蔑其君。剖分晉國。天子既不能討。又寵秩之。使列於諸侯。是區區之名分。復不能守而并棄之也。先王之禮。於斯盡矣。或者以爲當是之時。周室微弱。三晉彊盛。雖欲勿許。其可得乎。是大不然。夫三晉雖彊。苟不顧天下之誅。而犯義侵禮。則不請於天子而自立矣。不請於天子而自立。則爲悖逆之臣。天下苟有桓文之君。必奉禮義而征之。今請於天子。而天子許之。是受天子之命。而爲諸侯也。誰得而討之。故三晉之列於諸侯。非三晉之壞禮。乃天子自壞之也。嗚呼。君臣之禮既壞矣。則天下以智

力相雄長。遂使聖賢之後。爲諸侯者。社稷無不泯絕。生民之類。糜滅幾盡。豈不哀哉。

初智宣子將以瑤爲後。智果曰。不如宵也。瑤之賢於人者五。其不逮者一也。美鬢長大則賢。射御足力則賢。伎藝畢給則賢。巧文辯慧則賢。彊毅果敢則賢。如是而甚不仁。夫以其五賢陵人。而以不仁行之。其誰能待之。若果立瑤也。智宗必滅。弗聽。智果別族於太史。爲輔氏。趙簡子之子。長曰伯魯。幼曰無恤。將置後。不知所立。乃書訓戒之辭於二簡。以授二子曰。謹識之。三年而問之。伯魯不能舉其辭。求其簡。已失之矣。問無恤。誦其辭甚習。求其簡。出諸袖中而奏之。於是簡子以無恤爲賢。立以爲後。簡子使尹鐸爲晉陽。請曰。以爲繭絲乎。抑爲保障乎。簡子曰。保障哉。尹鐸損其戶數。簡子謂無恤曰。晉國有難。而無以尹鐸爲少。無以晉陽爲遠。必以爲歸。及智宣子卒。智襄子爲政。與韓康子魏桓子宴於藍臺。智伯戲康子而侮段規。智國聞之。諫曰。主不備難。難必至矣。智伯曰。難將由我。我不爲難。誰敢與之。對曰。不然。夏書有之。一人三失。怨豈在明。不見是圖。夫君子能勤小物。故無大患。今主一宴。而恥人之君相。又弗備。曰。不敢與難。無乃不可乎。螻蟻蜂蟄。皆能害人。况君相乎。弗聽。智伯請地於韓康子。康子欲弗與。段規曰。智伯好利而懷不與。將伐我。不如與之。彼狃於得地。必請於他人。他人不與。必嚮之以兵。然後我得免於患。而待事之變矣。康子曰。善。使者致萬家之邑於智伯。智伯悅。又求地於魏桓子。桓子欲弗與。任章曰。何故弗與。桓子曰。無故索地。故弗與。任章曰。無故索地。諸大夫必懼。吾與之地。智伯必驕。彼驕而輕敵。此懼而相親。以相親之兵。待輕敵之人。智氏之命。必不長矣。周書曰。將欲敗之。必姑輔之。將欲取之。必姑與之。主不如與之。以驕智伯。然後可以擇交而圖智氏矣。奈何獨以吾爲智氏質乎。桓子曰。善。復與之萬家之邑。一。智伯又求蔡。卓狼之地於趙襄子。襄子弗與。智伯怒。帥韓魏之甲。以攻趙氏。襄子將出。曰。吾何走乎。從者曰。長子近。且城厚完。襄子曰。民罷力以完之。又斃死以守之。其誰與我。從者



曰邯鄲之倉庫實。襄子曰：浚民之膏澤以實之，又因而殺之，其誰與我？其晉陽乎？先主之所屬也。尹鐸之所寬也。民必和矣。乃走晉陽。三家以國人圍而灌之。城不浸者三版。沈竈產鼃。民無叛意。智伯行水。魏桓子御。韓康子驂乘。智伯曰：吾乃今知水可以亡人國也。桓子肘康子。康子履桓子之跗。以汾水可以灌安邑。絳水可以灌平陽也。絺疵謂智伯曰：韓魏必反矣。智伯曰：子何以知之？絺疵曰：以人事知之。夫從韓魏之兵以攻趙，趙亡，難必及韓魏矣。今約勝趙而三分其地，城不沒者三版，人馬相食，城降有日。而二子無喜志，有憂色，是非反而何？明日，智伯以絺疵之言告二子。二子曰：此夫讒人欲戍爲趙氏游說，使主疑於二家，而懈於攻趙氏也。不然，夫二家豈不利朝夕分趙氏之田而欲爲危難不可成之事乎？二子出，絺疵入曰：主何以臣之言告二子也？智伯曰：子何以知之？對曰：臣見其視臣端而趨疾，知臣得其情故也。智伯不悛。絺疵請使於齊。趙襄子使張孟談潛出見二子曰：臣聞唇亡則齒寒，今智伯帥韓魏以攻趙，趙亡，則韓魏爲之次矣。二子曰：我心知其然也，恐事未遂而謀泄，則禍立至矣。張孟談曰：謀出二主之口，入臣之耳，何傷也？二子乃潛與張孟談約，爲之期日而遣之。襄子夜使人殺守隄之吏，而決水灌智伯軍。智伯軍救水而亂，韓魏翼而擊之。襄子將卒犯其前，大敗智伯之衆，遂殺智伯，盡滅智氏之族。唯輔果在。

臣光曰：智伯之亡也，才勝德也。夫才與德異而世俗莫之能辯，通謂之賢，此其所以失人也。夫聰察彊毅之謂才，正直中和之謂德，才者德之資也，德者才之帥也。雲夢之竹，天下之勁也，然而不矯揉，不羽括，則不能以入堅，棠谿之金，天下之利也，然而不鎔範，不砥礪，則不能以擊彊，是故才德全盡，謂之聖人，才德兼亡，謂之愚人，德勝才，謂之君子，才勝德，謂之小人。凡取人之術，苟不得聖人君子而與之，與其得小人，不若得愚人。何則？君子挾才以爲善，小人挾才以爲惡，挾才以爲善者，善無不至矣，挾才以爲惡者，惡亦無不至矣。

愚者雖欲爲不善，智不能周，力不能勝，譬如乳狗搏人，人得而制之。小人智足以遂其奸，勇足以決其暴，是虎而翼者也。其爲害豈不多哉？夫德者人之所嚴，而才者人之所愛，愛者易親，嚴者易疎，是以察者多蔽於才，而遺於德。自古昔以來，國之亂臣，家之敗子，才有餘而德不足，以至于顛覆者多矣。豈特智伯哉？故爲國爲家者，苟能審於才德之分，而知所先後，又何失人之足患哉？

三分智氏之田。趙襄子漆智伯之頭，以爲飲器。智伯之臣豫讓欲爲之報仇，乃詐爲刑人，挾匕首入襄子宮中塗廁。襄子如廁，心動，索之，獲豫讓。左右欲殺之，襄子曰：智伯死無後，而此人欲爲報仇，真義士也。吾謹避之耳。乃舍之。豫讓又漆身爲癩，吞炭爲啞，行乞於市。其妻不識也，行見其友，其友識之，爲之泣曰：以子之才，臣事趙孟，必得近幸，子乃爲所欲爲，顧不顧易邪？何乃自苦如此？求以報仇，不亦難乎？豫讓曰：既已委質爲臣，而又求殺之，是二心也。凡吾所爲者，極難耳。然所以爲此者，將以愧天下後世之爲人臣懷二心者也。襄子出，豫讓伏於橋下。襄子至橋，馬驚，索之，得豫讓，遂殺之。襄子爲伯魯之不立也，有子五人，不肯置後，封伯魯之子於代，曰代成君。早卒，立其子浣爲趙氏後。襄子卒，弟桓子逐浣而自立。一年卒，趙氏之人曰：桓子立，非襄主意，乃共殺其子，復迎浣而立之，是爲獻子。獻子生籍，是爲烈侯。魏斯者，魏桓子之孫也，是爲文侯。韓康子生武子，武子生虔，是爲景侯。○魏文侯以卜子夏田子方爲師，每過段干木之廬，必式。四方賢士多歸之。文侯與羣臣飲酒樂，而天雨，命駕將適野。左右曰：今日飲酒樂，天又雨，君將安之？文侯曰：吾與虞人期獵，雖樂，豈可無一會期哉？乃往，身自罷之。韓借師於魏，以伐趙。文侯曰：寡人與趙兄弟也，不敢聞命。趙借師於魏，以伐韓，文侯應之亦然。二國皆怒而去。已而知文侯以講於己也，皆朝于魏。魏於是始大。於三晉諸侯莫能與之爭。使樂羊伐中山，克之，以封其子擊。文侯問於羣臣曰：我何如主？皆曰：仁君。任



座曰君得中山不以封君之弟而以封君之子何謂仁君文侯怒任座趨出次問翟璜對曰仁君文侯曰何以知之對曰臣聞君仁則臣直嚮者任座之言直臣是以知之文侯悅使翟璜召任座而反之親下堂迎之以爲上客文侯與田子方飲文侯曰鐘聲不比乎左高田子方笑文侯曰何笑子方曰臣聞之君明樂官不明樂音今君審於音臣恐其聾於官也文侯曰善子擊出遭田子方於道下車伏謁子方不爲禮子擊怒謂子方曰富貴者驕人乎貧賤者驕人乎子方曰亦貧賤者驕人耳富貴者安敢驕人國君而驕人則失其國大夫而驕人則失其家失其國者未聞有以國待之者也失其家者未聞有以家待之者也夫士貧賤者言不用行不合則納履而去耳安往而不得貧賤哉子擊乃謝之文侯謂李克曰先生嘗有言曰家貧思良妻國亂思良相今所置非成則璜二子何如對曰卑不謀尊疏不謀戚臣在闕門之外不敢當命文侯曰先生臨事勿讓克曰君弗察故也居視其所親富視其所與達視其所舉窮視其所不爲貧視其所不取五者足以定之矣何待克哉文侯曰先生就舍吾之相定矣李克出見翟璜翟璜曰今者聞君召先生而卜相果誰爲之克曰魏成翟璜忿然作色曰西河守吳起臣所進也君內以鄴爲憂臣進西門豹君欲伐中山臣進樂羊中山已拔無使守之臣進先生君之子無傳臣進屈侯鮒以耳目之所睹記臣何負於魏成李克曰子言克於子之君者豈將比周以求大官哉君問相於克克之對如是所以知君之必相魏成者魏成食祿千鍾什九在外什一在內是以東得卜子夏田子方段干木此三人者君皆師之子所進五人者君皆臣之子惡得與魏成比也翟璜逡巡再拜曰璜鄙人也失對願卒爲弟子吳起者衛人仕於魯齊人伐魯魯人欲以爲將起取齊女爲妻魯人疑之起殺妻以求將大破齊師或譖之魯侯曰起始事曾參母死不奔喪曾參絕之今又殺妻以求爲君將起殘忍薄行人也且以魯國區區而有勝敵之名則諸侯圖魯矣起恐得罪聞魏文侯賢乃

往歸之文侯問諸李克李克曰起貪而好色然用兵司馬穰苴弗能過也於是文侯以爲將擊秦拔五城起之爲將與士卒最下者同衣食臥不設席行不騎乘親裹贏糧與士卒分勞苦卒有病疽者起爲吮之卒母聞而哭之入曰子卒也而將軍自吮其疽何哭爲母曰非然也往年吳公吮其父疽其父戰不旋踵遂死于敵吳公今又吮其子妾不知其死所矣是以哭之○燕滑公薨子愖公立

二十四年王崩子安王驕立○盜殺楚聲王國人立其子悼王

安王

元年秦伐魏至陽狐

二年魏韓趙伐楚至桑丘○鄭圍韓陽翟○韓景侯薨子烈侯取立○趙烈侯薨國人立其弟武侯○秦簡公薨子惠公立

三年王子定奔晉○虢山崩壅河

四年楚圍鄭鄭人殺其相駟子陽

五年日有食之○三月盜殺韓相俠累俠累與濮陽嚴仲子有惡仲子聞軹人聶政之勇以黃金百鎰爲政母壽欲因以報仇政不受曰老母在政身未敢以許人也及母卒仲子乃使政刺俠累俠累方坐府上兵衛甚衆聶政直入上階刺殺俠累因自皮面決眼自屠出腸韓人暴其尸於市購問莫能識其姊嫫聞而往哭之曰是軹深井里聶政也以妾尙在之故重自刑以絕從妾奈何畏殺身之誅終滅賢弟之名遂死於政尸之旁

六年鄭駟子陽之黨弑繻公而立其弟乙是爲康公○宋悼公薨子休公田立

八年齊伐魯取最○鄭負黍叛復歸韓



九年。魏伐鄭。○晉烈公薨。子孝公傾立。  
 十一年。秦伐韓。宜陽取六邑。○初。田常生襄子盤。盤生莊子白。白生太公和。是歲。齊田和遷齊康公於海上。使食一城。以奉其先祀。  
 十二年。秦晉戰于武城。○齊伐魏。取襄陽。○魯敗齊師于平陸。  
 十三年。秦侵晉。○齊田和會魏文侯。楚人衛人于濁澤。求為諸侯。魏文侯為之請於王及諸侯。王許之。

十五年。秦伐蜀。取南鄭。○魏文侯薨。太子擊立。是為武侯。武侯浮西河而下。中流。顧謂吳起曰。美哉山河之固。此魏國之寶也。對曰。在德不在險。昔三苗氏。左洞庭。右彭蠡。德義不修。禹滅之。夏桀之居。左河濟。右泰華。伊闕在其南。羊腸在其北。修政不仁。湯放之。商紂之國。左孟門。右太行。常山在其北。大河經其南。修政不德。武王殺之。由此觀之。在德不在險。若君不修德。舟中之人。皆敵國也。武侯曰。善。魏置相。相田文。吳起不悅。謂田文曰。請與子論功。可乎。田文曰。可。起曰。將三軍。使士卒樂死。敵國不敢謀。子孰與起。文曰。不如子。起曰。治百官。親萬民。實府庫。子孰與起。文曰。不如子。起曰。守西河。秦兵不敢東鄉。韓趙賓從。子孰與起。文曰。不如子。起曰。此三者。子皆出吾下。而位居吾上。何也。文曰。主少國疑。大臣未附。百姓不信。方是之時。屬之子乎。屬之我乎。起默然良久曰。屬之子矣。久之。魏相公叔尚主。而害吳起。公叔之僕曰。起易去也。起為人。剛勁自喜。子先言於君曰。吳起賢人也。而君之國小。臣恐起之無留心也。君盍試延以女。起無留心。則必辭矣。子因與起歸。而使公主辱起。起見公主之賤。子也必辭。則子之計中矣。公叔從之。吳起果辭。公主魏武侯疑之而未信。起懼誅。遂奔楚。楚悼王素聞其賢。至則任之為相。起明法審令。捐不急之官。廢公族疏遠者。以撫養戰鬪之士。要在彊兵。破遊說之言。從橫者。於是南平百越。北却三晉。西伐秦。諸侯皆患楚之彊。而楚之貴戚大

臣多怨吳起者。○秦惠公薨。子出公立。○趙武侯薨。國人復立烈侯之太子章。是為敬侯。○韓烈侯薨。子文侯立。

十六年。初命齊大夫田和為諸侯。○趙公子朝作亂。奔魏。與魏襲邯鄲。不克。

十七年。秦庶長改。逆獻公于河西而立之。殺出子及其母。沈之淵旁。○齊伐魯。○韓伐鄭。取陽城。伐宋。執宋公。齊太公薨。子桓公午立。

十九年。魏敗趙師于兔臺。

二十年。日有食之。既。

二十一年。楚悼王薨。貴戚大臣作亂。攻吳起。起走。之王尸而伏之。擊起之徒。因射刺起。并中王尸。既葬。肅王即位。使令尹盡誅為亂者。坐起夷宗者七十餘家。

二十二年。齊伐燕。取桑丘。魏韓趙伐齊。至桑丘。

二十三年。趙襲衛。不克。○齊康公薨。無子。田氏遂并齊而有之。是歲。齊桓公亦薨。子威王因齊立。

二十四年。狄敗魏師于澮。○魏韓趙伐齊。至靈丘。○晉孝公薨。子靖公俱酒立。

二十五年。蜀伐楚。取茲方。○子思言苟變於衛侯曰。其才可將五百乘。公曰。吾知其可將。然變也。嘗為吏。賦於民。而食人二雞子。故弗用也。子思曰。夫聖人之官人。猶匠之用木也。取其

所長。棄其所短。故杞梓連抱。而有數尺之朽。良工不棄。今君處戰國之世。選爪牙之士。而以

二卵棄千城之將。此不可使聞於鄰國也。公再拜曰。謹受教矣。衛侯言計非是。而羣臣和者。

如出一口。子思曰。以吾觀衛。所謂君不君。臣不臣者也。公丘懿子曰。何乃若是。子思曰。人主

自臧。則眾謀不進。事是而臧之。猶却眾謀。况和非以長惡乎。夫不察事之是非。而悅人讚己。

闇莫甚焉。不度理之所在。而阿諛求容。諂莫甚焉。君闇臣諂。以居百姓之上。民不與也。若此。

周紀 安王九年——二十五年

九



不已。國無類矣。子思言於衛侯曰。君之國事將日非矣。公曰。何故。對曰。有由然焉。君出言。自以爲是。而卿大夫莫敢矯其非。卿大夫出言。亦自以爲是。而士庶人莫敢矯其非。君臣既自賢矣。而羣下同聲賢之。賢之則順而有福。矯之則逆而有禍。如此。則善安從生。詩曰。具曰予聖。誰知烏之雌雄。抑亦似君之君臣乎。○魯穆公薨。子共公奮立。○韓文侯薨。子哀侯立。二十六年。王崩。子烈王喜立。○魏韓趙共廢晉靖公爲家人。而分其地。

烈王

元年。日有食之。○韓滅鄭。因徙都之。○趙敬侯薨。子成侯種立。

三年。燕敗齊師於林狐。○魯伐齊。入陽關。○魏伐齊。至博陵。○燕僖公薨。子桓公立。○宋休公薨。子辟公立。○衛慎公薨。子聲公訓立。

四年。趙伐衛。取都鄙七十三。○魏敗趙師于北蘭。

五年。魏伐楚。取魯陽。○韓嚴遂弑哀侯。國人立其子懿侯。初。哀侯以韓廙爲相。而愛嚴遂。二人甚相害也。嚴遂令人刺韓廙於朝。廙走。哀侯抱之。人刺韓廙。兼及哀侯。○魏武侯薨。不立太子。子罃與公中緩爭立。國內亂。

六年。齊威王來朝。是時。周室微弱。諸侯莫朝。而齊獨朝之。天下以此益賢威王。○趙伐齊。至鄆。○魏敗趙師于懷。○齊威王召即墨大夫。語之曰。自子之居即墨也。毀言日至。然吾使人視即墨。田野辟。人民給。官無事。東方以寧。是子不事吾左右以求助也。封之萬家。召阿大夫。語之曰。自子守阿。譽言日至。吾使人視阿。田野不辟。人民貧餒。昔日趙攻鄆。子不救。衛取薛陵。子不知。是子厚幣。事吾左右。以求譽也。是日烹阿大夫。及左右嘗譽者。於是羣臣聳懼。莫敢飾詐。務盡其情。齊國大治。彊於天下。○楚肅王薨。無子。立其弟良夫。是爲宣王。○宋辟公

薨。子剔成立。

七年。日有食之。○王崩。弟扁立。是爲顯王。○魏大夫王錯出奔韓。公孫頤謂韓懿侯曰。魏亂。可取也。懿侯乃與趙成侯合兵伐魏。戰于濁澤。大破之。遂圍魏。成侯曰。殺罃立公中緩。割地而退。我二國之利也。懿侯曰。不可。殺魏君。暴也。割地而退。貪也。不如兩分之。魏分爲兩。不彊於宋衛。則我終無魏患矣。趙人不聽。懿侯不悅。以其兵夜去。趙成侯亦去。罃遂殺公中緩而立。是爲惠王。

太史公曰。魏惠王所以身不死。國不分者。二國之謀不和也。若從一家之謀。魏必分矣。故曰。君終無適子。其國可破也。

資治通鑑卷第一



# 資治通鑑卷第二

## 周紀二

顯王

元年齊伐魏取觀津。○趙侵齊取長城。  
三年魏韓會于宅陽。○秦敗魏師韓師于洛陽。  
四年魏伐宋。

五年秦獻公敗三晉之師于石門斬首六萬王賜以黼黻之服。

七年魏敗韓師趙師于澮。○秦魏戰于少梁魏師敗績獲魏公孫痤。○衛聲公薨子成侯速立。○燕桓公薨子文公立。○秦獻公薨子孝公立孝公生二十一年矣是時河山以東疆國六淮泗之間小國十餘楚魏與秦接界魏築長城自鄭濱洛以北有上郡楚自漢中南有巴黔中皆以夷翟遇秦擯斥之不得與中國之會盟於是孝公發憤布德修政欲以彊秦八年孝公下令國中曰昔我穆公自岐雍之間修德行武東平晉亂以河為界西霸戎翟廣地千里天子致伯諸侯畢賀為後世開業甚光美會往者厲蹀簡公出子之不寧國家內憂未遑外事三晉攻奪我先君河西地醜莫大焉獻公即位鎮撫邊境徙治櫟陽且欲東伐復穆公之故地修穆公之政令寡人思念先君之意常痛於心賓客羣臣有能出奇計彊秦者吾且尊官與之分土於是衛公孫鞅聞是令下乃西入秦公孫鞅者衛之庶孫也好刑名之學事魏相公叔痤知其賢未及進會病魏惠王往問之曰公叔病如有不可諱將奈社稷何

公叔曰痤之中庶子衛鞅年雖少有奇才願君舉國而聽之王嘿然公叔曰君即不聽用鞅必殺之無令出境王許諾而去公叔召鞅謝曰吾先君而後臣故先為君謀後以告子子必速行矣鞅曰君不能用子之言任臣又安能用子之言殺臣乎卒不去王出謂左右曰公叔病甚悲乎欲令寡人以國聽衛鞅也既又勸寡人殺之豈不悖哉衛鞅既至秦因嬖臣景監以求見孝公說以富國彊兵之術公大悅與議國事

十年衛鞅欲變法秦人不悅衛鞅言於秦孝公曰夫民不可與慮始而可與樂成論至德者不和於俗成大功者不謀於眾是以聖人苟可以彊國不讓其故甘龍曰不然因民而教者不勞而成功緣瀆而治者吏習而民安之衛鞅曰常人安於故俗學者溺於所聞以此兩者居官守瀆可也非所與論於瀆之外也智者作瀆愚者制焉賢者更禮不肖者拘焉公曰善以衛鞅為左庶長卒定變法之令令民為什伍而相收司連坐告姦者與斬敵首同賞不告姦者與降敵同罰有軍功者各以率受上爵為私鬪者各以輕重被刑大小僇力本業耕織致粟帛多者復其身事末利及怠而貧者舉以為收孥宗室非有軍功論不得為屬籍明尊卑爵秩等級各以差次名田宅臣妾衣服有功者顯榮無功者雖富無所芬華令既具未布恐民之不信乃立三丈之木於國都市南門募民有能徙置北門者予十金民怪之莫敢徙復曰能徙者予五十金有一人徙之輒予五十金乃下令行朞年秦民之國都言新令之不便者以千數於是太子犯法衛鞅曰法之不行自上犯之太子君嗣也不可施刑刑其傅公子虔黥其師公孫賈明日秦人皆趨令行之十年秦國道不拾遺山無盜賊民勇於公戰怯於私鬪鄉邑大治秦民初言令不便者有來言令便衛鞅曰此皆亂法之民也盡遷之於邊其後民莫敢議令

臣光曰夫信者人君之大寶也國保於民民保於信非信無以使民非民無以守國是故



古之王者不欺四海。霸者不欺四鄰。善爲國者不欺其民。善爲家者不欺其親。不善者反之。欺其鄰國。欺其百姓。甚者欺其兄弟。欺其父子。上不信下。下不信上。上下離心。以至於敗。所利不能藥其所傷。所獲不能補其所亡。豈不哀哉。昔齊桓公不背曹沫之盟。晉文公不貪伐原之利。魏文侯不棄虞人之期。秦孝公不廢徙木之賞。此四君者。道非粹白。而商君尤稱刻薄。又處戰攻之世。天下趨於詐力。猶且不敢忘信。以畜其民。況爲四海治平之政者哉。

韓懿侯薨。子昭侯立。

十一年。秦敗韓師于西山。

十二年。魏韓會于鄙。

十三年。燕趙會于阿。○趙齊宋會于平陸。

十四年。齊威王。魏惠王。會田于郊。惠王曰。齊亦有寶乎。威王曰。無有。惠王曰。寡人國雖小。尙有徑寸之珠。照車前後各十二乘者十枚。豈以齊大國而無寶乎。威王曰。寡人之所以爲寶者。與王異。吾臣有檀子者。使守南城。則楚人不敢爲寇。泗上十二諸侯皆來朝。吾臣有盼子者。使守高唐。則趙人不敢東漁于河。吾吏有黔夫者。使守徐州。則燕人祭北門。趙人祭西門。從而從者七千餘家。吾臣有種首者。使備盜賊。則道不拾遺。此四臣者。將照千里。豈特十二乘哉。惠王有慙色。○秦孝公。魏惠王。會于杜平。○魯共公薨。子康公毛立。

十五年。秦敗魏師于元里。斬首七千級。取少梁。○魏惠王伐趙。圍邯鄲。楚王使景舍救趙。十六年。齊威王使田忌救趙。初。孫臏與龐涓俱學兵法。龐涓仕魏。爲將軍。自以能不及孫臏。乃召之。至則以法斷其兩足而黥之。欲使終身廢棄。齊使者至魏。孫臏以刑徒。陰見說齊使者。齊使者竊載與之齊。田忌善而客待之。進於威王。威王問兵法。遂以爲師。於是威王謀救

趙。以孫臏爲將。辭以刑餘之人。不可。乃以田忌爲將。而孫子爲師。居輜車中。坐爲計謀。田忌欲引兵之趙。孫子曰。夫解雜亂紛糾者。不控拳。救鬪者。不搏擲。批亢擣虛。形格勢禁。則自爲解耳。今梁趙相攻。輕兵銳卒。必竭於外。老弱疲於內。子不若引兵疾走魏都。據其街路。衝其方虛。彼必釋趙以自救。是我一舉。解趙之圍。而收弊於魏也。田忌從之。十月。邯鄲降魏。魏師還。與齊戰于桂陵。魏師大敗。○韓伐東周。取陵觀廩丘。○楚昭奚恤爲相。江乙言於楚王曰。人有愛其狗者。狗嘗溺井。其鄰人見。欲入言之。狗當門而噬之。今昭奚恤常惡臣之見。亦猶是也。且人有好揚人之善者。王曰。此君子也。近之。好揚人之惡者。王曰。此小人也。遠之。然則且有子弑其父。臣弑其主者。而王終己不知也。何者。以王好聞人之美。而惡聞人之惡也。王曰。善。寡人願兩聞之。

十七年。秦大良造伐魏。○諸侯圍魏襄陵。十八年。秦衛鞅圍魏固陽。降之。○魏人歸趙邯鄲。與趙盟漳水上。○韓昭侯以申不害爲相。申不害者。鄭之賤臣也。學黃老刑名。以干昭侯。昭侯用爲相。內修政教。外應諸侯。十五年。終申子之身。國治兵彊。申子嘗請仕其從兄。昭侯不許。申子有怨色。昭侯曰。所爲學於子者。欲以治國也。今將聽子之謁。而廢子之術乎。已其行子之術。而廢子之請乎。子嘗教寡人。修功勞。視次第。今有所私求。我將奚聽乎。申子乃辟舍。請罪曰。君真其人也。昭侯有弊袴。命藏之。侍者曰。君亦不仁者矣。不賜左右而藏之。昭侯曰。吾聞明主愛一嘔一啜。嘔有爲。啜有爲。爲

侯。今袴豈特嘔啜哉。吾必待有功者。十九年。秦商鞅築冀闕宮。庭於咸陽。徙都之。令民父子兄弟同室內息者。爲禁。并諸小鄉聚。集爲一縣。縣置令丞。凡三十一縣。廢井田。開阡陌。平斗桶權衡丈尺。○秦魏遇于彤。○趙成侯薨。公子緜與太子爭立。緜敗奔韓。



二十一年。秦商鞅更爲賦稅法行之。  
二十二年。趙公子范襲邯鄲。不勝而死。  
二十三年。齊殺其大夫牟。○魯康公薨。子景公偃立。○衛更貶號曰侯。服屬三晉。  
二十五年。諸侯會于京師。  
二十六年。王致伯于秦。諸侯皆賀秦。秦孝公使公子少官帥師。會諸侯于逢澤。以朝王。  
二十八年。魏龐涓伐韓。韓請救於齊。齊威王召大臣而謀曰。蚤救孰與晚救。成侯曰。不如勿救。田忌曰。弗救則韓且折而入於魏。不如蚤救之。孫臏曰。夫韓魏之兵未弊而救之。是吾代韓受魏之兵。顧反聽命於韓也。且魏有破國之志。韓見亡。必東面而愬於齊矣。吾因深結韓之親。而晚承魏之弊。則可受重利而得尊名也。王曰。善。乃陰許韓使而遣之。韓因恃齊。五戰不勝。而東委國於齊。齊因起兵。使田忌田嬰田盼將之。孫子爲師。以救韓。直走魏都。龐涓聞之。去韓而歸。魏人大發兵。以太子申爲將。以禦齊師。孫子謂田忌曰。彼三晉之兵。素悍勇而輕齊。齊號爲怯。善戰者因其勢而利導之。兵瀆百里而趣利者。蹶上將。五十里而趣利者。軍半至。乃使齊軍入魏地。爲十萬竈。明日。爲五萬竈。又明日。爲二萬竈。龐涓行三日。大喜曰。我固知齊軍怯。入吾地三日。士卒亡者過半。乃棄其步軍。與其輕銳。倍日并行逐之。孫子度其行。暮當至馬陵。馬陵道隘。而旁多阻隘。可伏兵。乃斫大樹。白而書之曰。龐涓死此樹下。於是令齊師善射者。萬弩夾道而伏。期日暮。見火舉而俱發。龐涓果夜到。斫木下。見白書。以火燭之。讀未畢。萬弩俱發。魏師大亂相失。龐涓自知智窮兵敗。乃自剄曰。遂成豎子之名。齊因乘勝。大破魏師。虜太子申。成侯鄒忌。惡田忌。使人操十金。下於市曰。我田忌之人也。我爲將。三戰三勝。欲行大事。可乎。卜者出。因使人執之。田忌不能自明。率其徒攻臨淄。求成侯。不克。出奔楚。

二十九年。衛鞅言於秦孝公曰。秦之與魏。譬若人有腹心之疾。非魏并秦。秦即并魏。何者。魏居嶺阨之西。都安邑。與秦界河。而獨擅山東之利。利則西侵秦。病則東收地。今以君之賢聖。國賴以盛。而魏往年大破於齊。諸侯畔之。可因此時伐魏。魏不支秦。必東徙。然後秦據河山之固。東鄉以制諸侯。此帝王之業也。公從之。使衛鞅將兵伐魏。魏使公子卬將而禦之。軍既相距。衛鞅遣公子卬書曰。吾始與公子驩。今俱爲兩國將。不忍相攻。可與公子面相見盟。樂飲而罷兵。以安秦魏之民。公子卬以爲然。乃相與會盟已飲。而衛鞅伏甲士。襲虜公子卬。因攻魏師。大破之。魏惠王恐。使獻河西之地於秦。以和。因去安邑。徙都大梁。乃嘆曰。吾恨不用公叔之言。秦封衛鞅商於十五邑。號曰商君。○齊趙伐魏。○楚宣王薨。子威王商立。  
三十一年。秦孝公薨。子惠文王立。公子虔之徒。告商君欲反。發吏捕之。商君亡之魏。魏人不受。復內之秦。商君乃與其徒之商於。發兵北擊鄭。秦人攻商君。殺之。車裂以徇。盡滅其家。初商君相秦。用法嚴酷。嘗臨渭論囚。渭水盡赤。爲相十年。人多怨之。趙良見商君。商君問曰。子觀我治秦。孰與五殺大夫賢。趙良曰。千人之諾諾。不如一士之諤諤。僕請終日正言。而無誅可乎。商君曰。諾。趙良曰。五殺大夫。荆之鄙人也。穆公舉之牛口之下。而加之百姓之上。秦國莫敢望焉。相秦六七年。而東伐鄭。三置晉君。一救荆禍。其爲相也。勞不坐乘。暑不張蓋。行於國中。不從車乘。不操干戈。五殺大夫死。秦國男女流涕。童子不歌謠。春者不相杵。今君之見也。因嬖人景監。以爲主。其從政也。凌轢公族。殘傷百姓。公子虔杜門不出。已八年矣。君又殺祝懽。而黥公孫賈。詩曰。得人者興。失人者崩。此數者。非所以得人也。君之出也。後車載甲。多力而駢脅者。爲驂乘。持矛而操闔戟者。旁車而趨。此一物不具。君固不出。書曰。恃德者昌。恃力者亡。此數者。非恃德也。君之危若朝露。而尙貪商於之富。寵秦國之政。畜百姓之怨。秦王一旦捐賓客。而不立朝。秦國之所以收君者。豈其微哉。商君弗從。居五月而難作。



三十二年韓申不害卒。

三十三年宋太丘社亡。○鄒人孟軻見魏惠王。王曰。叟不遠千里而來。亦有利吾國乎。孟子曰。君何必曰利。仁義而已矣。君曰。何以利吾國。大夫曰。何以利吾家。士庶人曰。何以利吾身。上下交征利。而國危矣。未有仁而遺其親者也。未有義而後其君者也。王曰。善。初孟子師子思。嘗問牧民之道何先。子思曰。先利之。孟子曰。君子所以教民者。亦仁義而已矣。何必利。子思曰。仁義固所以利之也。上不仁。則下不得其所。上不義。則下樂爲詐也。此爲不利大矣。故易曰。利者義之和也。又曰。利用安身。以崇德也。此皆利之大者也。

臣光曰。子思孟子之言。一也。夫唯仁者爲知仁義之爲利。不仁者不知也。故孟子對梁王。直以仁義而不及利者。所與言之人異故也。

三十四年秦伐韓。拔宜陽。

三十五年齊王魏王會于徐州。以相王。○韓昭侯作高門。屈宜曰。君必不出此門。何也。不。時。吾所謂時者。非時日也。夫人固有利不利時。往者君嘗利矣。不作高門。前年秦拔宜陽。今年旱。君不以此時恤民之急。而顧益奢。此所謂時誦舉贏者也。故曰不時。○越王無疆伐齊。齊王使人說之。以伐齊不如伐楚之利。越王遂伐楚。楚人大敗之。乘勝盡取吳故地。東至于浙江。越以此散諸公族。爭立。或爲王。或爲君。濱於海上。朝服於楚。

三十六年楚王伐齊。圍徐州。○韓高門成。昭侯薨。子宣惠王立。○初洛陽人藩秦。說秦王以兼天下之術。秦王不用其言。蘇秦乃去。說燕文公曰。燕之所以不犯寇。被甲兵者。以趙之爲蔽其南也。且秦之攻燕也。戰於千里之外。趙之攻燕也。戰於百里之內。夫不憂百里之患。而重千里之外。計無過於此者。願大王與趙從親。天下爲一。則燕國必無患矣。文公從之。資蘇秦車馬。以說趙肅侯曰。當今之時。山東之建國。莫彊於趙。秦之所害。亦莫如趙。然而秦不敢

舉兵伐趙者。畏韓魏之議其後也。秦之攻韓魏也。無有名山大川之限。稍蠶食之。傳國都而止。韓魏不能支秦。必入臣於秦。秦無韓魏之規。則禍中於趙矣。臣以天下地圖案之。諸侯之地。五倍於秦。料度諸侯之卒。十倍於秦。六國爲一。并力西鄉而攻秦。秦必破矣。夫衡人者。皆欲割諸侯之地。以與秦。秦成。則其身富榮。國被秦患。而不與其憂。是以衡人日夜務以秦權。恐渴諸侯。以求割地。故願大王熟計之也。竊爲大王計。莫如一韓魏齊楚燕趙爲從親。以畔秦。令天下之將相。會於洹水之上。通質結盟。約曰。秦攻一國。五國各出銳師。或撓秦。或救之。有不如約者。五國共伐之。諸侯從親。以擯秦。秦甲必不敢出於函谷。以害山東矣。肅侯大說。厚待蘇秦。尊寵賜賚之。以約於諸侯。會秦使犀首伐魏。大敗其師四萬餘人。禽將龍賈。取雕陰。且欲東兵。蘇秦恐秦兵至趙。而敗從約。念莫可使用於秦者。乃激怒張儀。入之於秦。張儀者。魏人。與蘇秦俱事鬼谷先生。學縱橫之術。蘇秦自以爲不及也。儀游諸侯。無所遇。困於楚。蘇秦故召而辱之。儀恐。念諸侯獨秦能苦趙。遂入秦。蘇秦陰遣其舍人。賈金幣資儀。儀得見秦王。秦王說之。以爲客卿。舍人辭去。曰。蘇君憂秦伐趙。敗從約。以爲非君。莫能得秦柄。故激怒君。使臣陰奉給君資。盡蘇君之計謀也。張儀曰。嗟乎。此吾在術中而不悟。吾不及蘇君明矣。爲吾謝蘇君。蘇君之時。儀何敢言。於是蘇秦說韓宣惠王曰。韓地方九百餘里。帶甲數十萬。天下之彊弓勁弩利劍。皆從韓出。韓卒超足而射。百發不暇。止以韓卒之勇。被堅甲。蹀躞。弩帶利劍。一人當百。不足言也。大王事秦。秦必求宜陽成臯。今茲効之。明年復求割地。與則無地以給之。不與。則棄前功。受後禍。且大王之地。有盡。而秦求無已。以有盡之地。逆無已之求。此所謂市怨結禍者也。不戰而地已削矣。鄙諺曰。寧爲雞口。無爲牛後。夫以大王之賢。挾強韓之兵。而有牛後之名。臣竊爲大王羞之。韓王從其言。蘇秦說魏王曰。大王之地方千里。地名雖小。然而田舍廬廡之數。曾無所芻牧。人民之衆。車馬之多。日夜行不絕。鞦韆殷殷。若



有三軍之衆。臣竊量大王之國不下楚。今竊聞大王之卒。武士二十萬。蒼頭二十萬。奮擊二十萬。廝徒十萬。車六百乘。騎五千匹。乃聽於羣臣之說。而欲臣事秦。故敝邑趙王。使臣効愚計。奉明約。在大王之詔。詔之。魏王聽之。蘇秦說齊王曰。齊四塞之國。地方二千餘里。帶甲數十萬。粟如丘山。三軍之良。五家之兵。進如鋒矢。戰如雷霆。解如風雨。即有軍役。未嘗倍泰山。絕清河。涉渤海者也。臨淄之中。七萬戶。臣竊度之。不下戶三男子。不待發於遠縣。而臨淄之卒。固已二十一萬矣。臨淄甚富而實。其民無不鬪。雞走狗。六博闕鞠。臨淄之塗。車轂擊。人肩摩。連袂成帷。揮汗成雨。夫韓魏之所以重畏秦者。爲與秦接壤也。兵出而相當。不十日而戰。勝存亡之機決矣。韓魏戰而勝秦。則兵半折。四境不守。戰而不勝。則國已危。亡隨其後。是故韓魏之所以重與秦戰。而輕爲之臣也。今秦之攻齊。則不然。倍韓魏之地。過衛陽晉之道。經乎亢父之險。車不得方軌。騎不得比行。百人守險。千人不敢過也。秦雖欲深入。則狼顧。恐韓魏之議其後也。是故恫疑虛喝。驕矜而不敢進。則秦之不能害齊亦明矣。夫不深料秦之無奈齊何。而欲西面而事之。是羣臣之計過也。今無臣事秦之名。而有疆國之實。臣是故願大王少留意計之。齊王許之。乃西南說楚威王曰。楚天下之疆國也。地方六千餘里。帶甲百萬。車千乘。騎萬匹。粟支十年。此霸王之資也。秦之所害莫如楚。楚彊則秦弱。秦彊則楚弱。其勢不兩立。故爲大王計。莫如從親以孤秦。臣請令山東之國。奉四時之獻。以承大王之明詔。委社稷。奉宗廟。練士厲兵。在大王之所用之。故從親。則諸侯割地以事楚。衡合。則楚割地以事秦。此兩策者。相去遠矣。大王何居焉。楚王亦許之。於是蘇秦爲從約長。并相六國。北報趙。車騎輜重。擬於王者。○齊威王薨。子宣王辟疆立。知成侯賣田忌。乃召而復之。○燕文公薨。子易王立。○衛成侯薨。子平侯立。

三十七年。秦惠王使犀首欺齊魏。與共伐趙。以敗從約。趙肅侯讓蘇秦。蘇秦恐。請使燕必報齊。蘇秦去趙。而從約皆解。趙人決河水。以灌齊魏之師。齊魏之師乃去。○魏以陰晉爲和於秦。寔華陰。○齊王伐燕。取十城。已而復歸之。

三十九年。秦伐魏。圍焦。曲沃。魏入少梁。河西地於秦。

四十年。秦伐魏。度河。取汾陰皮氏。拔焦。○楚威王薨。子懷王槐立。宋公剔成之弟偃。襲攻剔成。剔成奔齊。偃自立爲君。

四十一年。秦公子華。張儀帥師圍魏蒲陽。取之。張儀言於秦王。請以蒲陽復與魏。而使公子綵質於魏。儀因說魏王曰。秦之遇魏甚厚。魏不可以無禮於秦。魏因盡入上郡十五縣。以謝焉。張儀歸而相秦。

四十二年。秦縣義渠。以其君爲臣。○秦歸焦。曲沃於魏。

四十三年。趙肅侯薨。子武靈王立。置博聞師三人。左右司過三人。先問先君貴臣。肥義。加其秩。

四十四年。夏。四月。戊午。秦初稱王。○衛平侯薨。子嗣君立。衛有胥靡。亡之魏。因爲魏王之后。治病。嗣君聞之。請以五十金買之。五反。魏不與。乃以左氏易之。左右諫曰。夫以一都買一胥靡。可乎。嗣君曰。非子所知也。夫治無小。亂無大。瀆不立。誅不必。雖有十左氏。無益也。瀆立。誅必失。十左氏。無害也。魏王聞之。曰。人主之欲不聽之不祥。因載而往。徒獻之。

四十五年。秦張儀帥師伐魏。取陝。○蘇秦通於燕文公之夫人。易王知之。蘇秦恐。乃說易王曰。臣居燕。不能使燕重。而在齊。則燕重。易王許之。乃僞得罪於燕。而奔齊。齊宣王以爲客卿。蘇秦說齊王。高宮室。大苑囿。以明得意。欲以敝齊而爲燕。

四十六年。秦張儀及齊楚之相。會齧桑。○韓燕皆稱王。趙武靈王獨不肯。曰。無其實。敢處其名乎。令國人謂己曰君。



四十七年。秦張儀自齧桑還。而免相。相魏。欲令魏先事秦。而諸侯効之。魏王不聽。秦王伐魏。取曲沃平周。復陰厚張儀。益甚。

四十八年。王崩。子慎覲王定立。○燕易王薨。子噲立。○齊王封田嬰於薛。號曰靖郭君。靖郭君言於齊王曰。五官之計。不可不日聽而數覽也。王從之。已而厭之。悉以委靖郭君。靖郭君由是得專齊之權。靖郭君欲城薛。客謂靖郭君曰。君不聞海大魚乎。網不能止。鉤不能牽。蕩而失水。則螻蟻制焉。今夫齊。亦君之水也。君長有齊。奚以薛為。苟為失齊。雖隆薛之城。到於天。庸足恃乎。乃不果城。靖郭君有子四十人。其賤妾之子曰文。文通儻饒智。畧說靖郭君。以散財養士。靖郭君使文主家。待賓客。賓客爭譽其美。皆請靖郭君。以文為嗣。靖郭君卒。文嗣為薛公。號曰孟嘗君。孟嘗君招致諸侯遊士。及有罪亡人。皆舍業厚遇之。存救其親戚。食客常數千人。各自以為孟嘗君親己。由是孟嘗君之名重天下。

臣光曰。君子之養士。以為民也。易曰。聖人養賢。以及萬民。夫賢者。其德足以敦化正俗。其才足以頓網振紀。其明足以燭微慮遠。其彊足以結仁固義。大則利天下。小則利一國。是以君子豐祿以富之。隆爵以尊之。養一人而及萬人者。養賢之道也。今孟嘗君之養士也。不恤智愚。不擇臧否。盜其君之祿。以立私黨。張虛譽。上以侮其君。下以蠹其民。是姦人之雄也。烏足尚哉。書曰。受為天下逋逃主。萃淵藪。此之謂也。

孟嘗君聘於楚。楚王遺之象牀。登徒直送之。不欲行。謂孟嘗君門人公孫戊曰。象牀之直千金。苟傷之毫髮。則賣妻子不足償也。足下能使僕無行者。有先人之寶劍。願獻之。公孫戊許諾。入見孟嘗君曰。小國所以皆致相印於君者。以君能振達貧窮。存亡繼絕。故莫不悅君之義。慕君之廉也。今始至楚。而受象牀。則未至之國。將何以待君哉。孟嘗君曰。善。遂不受。公孫戊趨去。未至中閭。孟嘗君召而反之曰。子何足之高。志之揚也。公孫戊以實對。孟嘗君乃書。

門版曰。有能揚文之名。止文之過。私得實於外者。疾入諫。

臣光曰。孟嘗君可謂能用諫矣。苟其言之善也。雖懷詐諛之心。猶將用之。况盡忠無私。以事其上乎。詩云。采芣采菲。無以下體。孟嘗君有焉。

韓宣惠王欲兩用公仲公叔為政。問於繆留對曰。不可。晉用六卿。而國分。齊簡公用陳成子及闞止。而見殺。魏用犀首張儀。而西河之外亡。今君兩用之。其多力者內樹黨。其寡力者藉外權。羣臣有內樹黨以驕主。有外為交以削地。君之國危矣。

資治通鑑卷第二



# 資治通鑑卷第三

## 周紀三

### 慎覲王

元年。衛更貶號曰君。

二年。秦伐韓。取鄆。○魏惠王薨。子襄王立。孟子入見。而出語人曰。望之。不似人君。就之。而不見。所畏焉。卒然問曰。天下惡乎定。吾對曰。定于一。孰能一之。對曰。不嗜殺人者。能一之。孰能與之。對曰。天下莫不與也。王知夫苗乎。七八月之間。旱則苗槁矣。天油然作雲。沛然下雨。則苗浥然興之矣。其如是。孰能禦之。

三年。楚趙魏韓燕同伐秦。攻函谷關。秦人出兵逆之。五國之師皆敗走。○宋初稱王。

四年。秦敗韓師于修魚。斬首八萬級。虜其將鯁申。差于濁澤。諸侯振恐。○齊大夫與蘇秦爭寵。使人刺秦殺之。張儀說魏襄王曰。梁地方不至千里。卒不過三十萬。地四平。無名山大川之限。卒戍楚韓齊趙之境。守亭障者。不過十萬。梁之地勢固戰場也。夫諸侯之約。從盟於洹水之上。結為兄弟。以相堅也。今親兄弟同父母。尚有爭錢財相殺傷。而欲恃反覆蘇秦之餘謀。其不可成亦明矣。大王不事秦。秦下兵攻河外。據卷衍酸棗。劫衛取陽晉。則趙不南。趙不南。則梁不北。梁不北。則從道絕。從道絕。則大王之國欲毋危。不可得也。故願大王審定計議。且賜骸骨。魏王乃倍從約。而因儀以請成于秦。張儀歸。復相秦。○魯景公薨。子平公旅立。五年。巴蜀相攻擊。俱告急於秦。秦惠王欲伐蜀。以為道險阨難至。而韓又來侵。猶豫未能決。

司馬錯請伐蜀。張儀曰。不如伐韓。王曰。請聞其說。儀曰。親魏善楚。下兵三川。攻新城宜陽。以臨二周之郊。據九鼎。按圖籍。挾天子。以令於天下。天下莫敢不聽。此王業也。臣聞爭名者於朝。爭利者於市。今三川周室。天下之朝市也。而王不爭焉。願爭於戎翟。去王業遠矣。司馬錯曰。不然。臣聞欲富國者。務廣其地。欲彊兵者。務富其民。欲王者。務博其德。三資者備。而王隨之矣。今王地小民貧。故臣願先從事於易。夫蜀西僻之國。而戎翟之長也。有桀紂之亂。以秦攻之。譬如使豺狼逐羣羊。得其地。足以廣國。取其財。足以富民。繕兵。不傷衆。而彼已服焉。拔一國。而天下不以為暴。利盡四海。而天下不以為貪。是我一舉而名實附也。而又有禁暴止亂之名。今攻韓。劫天子。惡名也。而未必利也。又有不義之名。而攻天下所不欲。危矣。臣請論其故。周天下之宗室也。齊韓之與國也。周自知失九鼎。韓自知亡三川。將二國并力合謀。以因乎齊趙。而求解乎楚魏。以鼎與楚。以地與魏。王弗能止也。此臣之所謂危也。不如伐蜀。完王從錯計。起兵伐蜀。十月取之。貶蜀王。更號為侯。而使陳莊相蜀。蜀既屬秦。秦以益彊富厚。輕諸侯。○蘇秦既死。秦弟代厲。亦以遊說顯於諸侯。燕相子之與蘇代婚。欲得燕權。蘇代使於齊而還。燕王噲問曰。齊王其霸乎。對曰。不能。王曰。何故。對曰。不信其臣。於是燕王專任子之。鹿毛壽謂燕王曰。人之謂堯賢者。以其能讓天下也。今王以國讓子之。是王與堯同名也。燕王因屬國於子之。子之大重。或曰。禹薦益。而以啓人為吏。及老。而以啓為不足任。天下傳之於益。啓與交黨。攻益奪之。天下謂禹名傳天下於益。而實令啓自取之。今王言屬國於子之。而吏無非太子人者。是名屬子之。而實太子用事也。王因收印綬。自三百石吏已上。而效之子之。子之南面行王事。而噲老不聽政。願為臣。國事皆決於子之。六年。王崩。子赧王延立。



赧王上

元年秦人侵義渠得二十五城。○魏人叛秦秦人伐魏取曲沃而歸其人又敗韓於岸門韓太子倉入質于秦以和。○燕子之爲王三年國內大亂將軍市被與太子平謀攻子之齊王令人謂太子曰寡人聞太子將飭君臣之義明父子之位寡人之國唯太子所以令之太子因要黨聚衆使市被攻子之不克市被反攻太子搆難數月死者數萬人百姓恫恐齊王令章子將五都之兵因北地之衆以伐燕燕士卒不戰城門不閉齊人取子之醢之遂殺燕王噲齊王問孟子曰或謂寡人勿取燕或謂寡人取之以萬乘之國伐萬乘之國五旬而舉之人力不至於此不取必有天殃取之何如孟子對曰取之而燕民悅則取之古之人有行之者武王是也取之而燕民不悅則勿取古之人有行之者文王是也以萬乘之國伐萬乘之國簞食壺漿以迎王師豈有他哉避水火也如水益深如火益熱亦運而已矣諸侯將謀救燕齊王謂孟子曰諸侯多謀伐寡人者何以待之對曰臣聞七十里爲政於天下者湯是也未聞以千里畏人者也書曰後我后後來其蘇今燕虐其民王往而征之民以爲將拯己於水火之中也簞食壺漿以迎王師若殺其父兄係累其子弟毀其宗廟遷其重器如之何其可也天下固畏齊之彊也今又倍地而不行仁政是動天下之兵也王速出令反其旆倪止其重器謀於燕衆置君而後去之則猶可及止也齊王不聽已而燕人叛王曰吾甚慚於孟子陳賈曰王無患焉乃見孟子曰周公何人也曰古聖人也陳賈曰周公使管叔監商管叔以商畔也周公知其將畔而使之與曰不知也陳賈曰然則聖人亦有過與曰周公弟也管叔兄也周公之過不亦宜乎且古之君子過則改之今之君子過則順之古之君子其過也如日月之食民皆見之及其更民皆仰之今之君子豈徒順之又從爲之辭○是歲齊宣王

薨子湣王地立。

二年秦右更疾伐趙拔藺虜其將莊豹。○秦王欲伐齊患齊楚之從親乃使張儀至楚說楚王曰大王誠能聽臣閉關絕約於齊臣請獻商於之地六百里使秦女得爲大王箕帚之妾秦楚嫁女娶婦長爲兄弟之國楚王說而許之羣臣皆賀陳軫獨弔王怒曰寡人不興師而得六百里地何弔也對曰不然以臣觀之商於之地不可得而齊秦合齊秦合則患必至矣王曰有說乎對曰夫秦之所以重楚者以其有齊也今閉關絕約於齊則楚孤秦奚貪夫孤國而與之商於之地六百里張儀至秦必負王是王北絕齊交西生患於秦也兩國之兵必俱至爲王計者不若陰合而陽絕於齊使人隨張儀苟與吾地絕齊未晚也王曰願陳子閉口毋復言以待寡人得地乃以相印授張儀厚賜之遂閉關絕約於齊使一將軍隨張儀至秦張儀詳墮車不朝三月楚王聞之曰儀以寡人絕齊未甚邪乃使勇士宋遺借宋之符北罵齊王齊王大怒折節以事秦齊秦之交合張儀乃朝見楚使者曰子何不受地從某至某廣袤六里使者怒還報楚王楚王大怒欲發兵而攻秦陳軫曰軫可發口言乎攻之不如因賂之以一名都與之并力而攻齊是我亡地秦取償於齊也今王已絕於齊而責欺於秦是吾合齊秦之交而來天下之兵也國必大傷矣楚王不聽使屈匄帥師伐秦秦亦發兵使庶長章擊之。

三年春秦師及楚戰于丹陽楚師大敗斬甲士八萬虜屈匄及列侯執珪七十餘人遂取漢中郡楚王悉發國內兵以復襲秦戰于藍田楚師大敗韓魏聞楚之困南襲楚至鄧楚人聞之乃引兵歸割兩城以請平于秦。○燕人共立太子平是爲昭王昭王於破燕之後弔死問孤與百姓同甘苦卑身厚幣以招賢者謂郭隗曰齊因孤之國亂而襲破燕孤極知燕小力少不足以報然誠得賢士與共國以雪先王之恥孤之願也先生視可者得身事之郭隗曰



古之人君。有以千金使涓人求千里馬者。馬已死。買其首五百金而返。君大怒。涓人曰。死馬且買之。況生乎。馬今至矣。不期年。千里之馬至者三。今王必欲致士。先從魏始。況賢于魏者。豈遠千里哉。於是昭王爲魏改築宮。而師事之。於是士爭趣燕。樂毅自魏往。劇辛自趙往。昭王以樂毅爲亞卿。任以國政。○韓宣惠王薨。子襄王倉立。四年。蜀相殺蜀侯。○秦惠王使人告楚懷王。請以武關之外。易黔中地。楚王曰。不願易地。願得張儀。而獻黔中地。張儀聞之。請行。王曰。楚將甘心於子。奈何行。張儀曰。秦彊楚弱。大王在楚。不宜敢取。臣且善其嬖。臣靳尚。靳尚得事幸姬。鄭袖袖之言。王無不聽者。遂往楚。王囚將殺之。靳尚謂鄭袖曰。秦王甚愛張儀。將以上庸六縣及美女贖之。王重地尊秦。秦女必貴。而夫人斥矣。於是鄭袖日夜泣於楚王曰。臣各爲其主耳。今殺張儀。秦必大怒。妾請子母俱遷江南。毋爲秦所魚肉也。王乃赦張儀。而厚禮之。張儀因說楚王曰。夫爲從者。無以異於驅羣羊而攻猛虎。不格明矣。今王不事秦。秦劫韓驅梁。而攻楚。則楚危矣。秦西有巴蜀。治船積粟。浮岷江而下。一日行三百餘里。不至十日。而拒扞關。扞關驚。則從境以東。盡城守矣。黔中巫郡。非王之有。秦舉甲出武關。則北地絕。秦兵之攻楚也。危難在三月之內。而楚待諸侯之救。在半歲之外。夫待弱國之救。忘彊秦之禍。此臣所爲大王患也。大王誠能聽臣。臣請令秦楚長爲兄弟之國。無相攻伐。楚王已得張儀。而重出黔中地。乃許之。張儀遂之韓。說韓王曰。韓地險惡。山居。五穀所生。非菽而麥。國無二歲之食。見卒不過二十萬。秦被甲百餘萬。山東之士。被甲蒙冑。以會戰。秦人捐甲徒褐。以趨敵。左挾人頭。右挾生虜。夫戰。孟賁烏獲之士。以攻不服之弱國。無異垂千鈞之重於鳥卵之上。必無幸矣。大王不事秦。秦下甲據宜陽。塞成臯。則王之國分矣。鴻臺之宮。桑林之苑。非王之有也。爲大王計。莫如事秦。以攻楚。以轉禍而悅秦。計無便於此者。韓王許之。張儀歸報。秦王封以六邑。號武信君。復使東說齊王曰。從人

說大王者。必曰。齊蔽於三晉。地廣民衆。兵彊士勇。雖有百秦。將無奈齊何。大王賢其說。而不計其實。今秦楚嫁女娶婦。爲昆弟之國。韓獻宜陽。梁效河外。趙王入朝。割河間。以事秦。大王不事秦。秦驅韓梁。攻齊之南地。悉趙兵。度清河。指博關。臨菑卽墨。非王之有也。國一日見攻。雖欲事秦。不可得也。齊王許張儀。張儀去。西說趙王曰。大王收率天下。以擯秦。秦兵不敢出函谷關。十五年。大王之威。行於山東。敝邑恐懼。繕甲厲兵。力田積粟。愁居懼處。不敢動搖。唯大王有意督過之也。今以大王之力。舉巴蜀。并漢中。包兩周。守白馬之津。秦雖僻遠。然而心忿含怒之日久矣。今秦有敝甲凋兵。軍於澠池。願渡河踰漳。據番吾。會邯鄲。戰之下。願以甲子合戰。正殷紂之事。謹使使臣。先聞左右。今楚與秦爲昆弟之國。而韓梁稱東藩之臣。齊獻魚鹽之地。此斷趙之右肩也。夫斷右肩而與人鬪。失其黨而孤居。求欲毋危。得乎。今秦發三將軍。其一軍塞午道。告齊。使度清河。軍於邯鄲之東。一軍軍成臯。驅韓梁軍於河外。一軍軍於澠池。約四國爲一。以攻趙。趙服。必四分其地。臣竊爲大王計。莫如與秦王面相約。而口相結。常爲兄弟之國也。趙王許之。張儀乃北之燕。說燕王曰。今趙王已入朝。効河間。以事秦。大王不事秦。秦下甲雲中。九原。驅趙而攻燕。則易水長城。非大王之有也。且今時。齊趙之於秦。猶郡縣也。不敢妄舉師以攻伐。今王事秦。長無齊趙之患矣。燕王請獻常山之尾五城。以和張儀。歸報。未至咸陽。秦惠王薨。子武王立。武王自爲太子時。不說張儀。及卽位。羣臣多毀短之。諸侯聞儀與秦王有隙。皆畔衡。復合從。五年。張儀說秦武王曰。爲王計者。東方有變。然後王可以多割得地也。臣聞齊王甚憎臣。臣之所在。齊必伐之。臣願乞其不肖之身。以之梁。齊必伐梁。齊梁交兵。而不能相去。王以其間伐韓。入三川。挾天子。案圖籍。此王業也。王許之。齊王果伐梁。梁王恐。張儀曰。王勿患也。請令齊罷兵。乃使其舍人之楚。借使謂齊王曰。甚矣王之託義於秦也。齊王曰。何故。楚使者曰。張



儀之去秦也。固與秦王謀矣。欲齊梁相攻。而令秦取三川也。今王果伐梁。是王內罷國。而外伐與國。而信儀於秦王也。齊王乃解兵還。張儀相魏。一歲卒。儀與蘇秦。皆以縱橫之術遊諸侯。致位富貴。天下爭慕效之。又有魏人公孫衍者。號曰犀首。亦以談說顯名。其餘蘇代蘇厲。周最樓緩之徒。紛紛徧於天下。務以辯詐相高。不可勝紀。而儀秦衍最著。

孟子論之曰。或謂公孫衍。張儀。豈不大丈夫哉。一怒而諸侯懼。安居而天下熄。孟子曰。是惡足爲大丈夫哉。君子立天下之正位。行天下之正道。得志則與民由之。不得志。則獨行其道。富貴不能淫。貧賤不能移。威武不能屈。是之謂大丈夫。楊子法言曰。或問儀秦。學乎鬼谷術。而習乎縱橫言。安中國者。各十餘年。是夫。曰。詐人也。聖人惡諸。曰。孔子讀而儀秦行。何如也。曰。甚矣。鳳鳴而鷲翰也。然則子貢不爲歟。曰。亂而不解。子貢恥諸。說而不富貴。儀秦恥諸。或曰。儀秦。其才矣乎。跡不蹈已。曰。昔在任人。帝而難之。不以才乎。才乎才。非吾徒之才也。

秦王使甘茂誅蜀相莊。○秦王魏王會于臨晉。○趙武靈王納吳廣之女孟姚。有寵。是爲惠后。生子何。

六年。秦初置丞相。以樗里疾爲右丞相。七年。秦魏會于應。○秦王使甘茂約魏。以伐韓。而令向壽輔行。甘茂令向壽還。謂王曰。魏聽臣矣。然願王勿伐。王迎甘茂於息壤。而問其故。對曰。宜陽大縣。其實郡也。今王倍數險。行千里。攻之難。魯人有與會參同姓名者。殺人。人告其母。其母織自若也。及三人告之。其母投杼下機。踰牆而走。臣之賢。不若會參王之信臣。又不如其母。疑臣者。非特三人。臣恐大王之投杼也。魏文侯令樂羊將而攻中山。三年而拔之。反而論功。文侯示之謗書一篋。樂羊再拜稽首曰。此非臣之功。君之力也。今臣羈旅之臣也。樗里子。公孫夷。挾韓而議之。王必聽之。是王

欺魏王。而臣受公仲侈之怨也。王曰。寡人弗聽也。請與子盟。乃盟于息壤。秋。甘茂庶長封帥師伐宜陽。

八年。甘茂攻宜陽。五月而不拔。樗里子公孫夷果爭之。秦王召甘茂。欲罷兵。甘茂曰。息壤在彼。王曰。有之。因大悉起兵。以佐甘茂。斬首六萬。遂拔宜陽。韓公仲侈入謝於秦。以請平。○秦武王好以力戲。力士任鄙。烏獲。孟說。皆至大官。八月。王與孟說舉鼎絕脈。而薨。族孟說。武王無子。異母弟稷爲質於燕。國人逆而立之。是爲昭襄王。昭襄王母。半八子。楚女也。寔宣太后。○趙武靈王。北略中山之地。至房子。遂至代。北至無窮。西至河。登黃華之上。與肥義謀。胡服。騎射。以教百姓。曰。愚者所笑。賢者察焉。雖驅世以笑我。胡地中山。吾必有之。遂胡服。國人皆不欲。公子成稱疾不朝。王使人請之。曰。家聽於親。國聽於君。今寡人作教易服。而公叔不服。吾恐天下議已也。制國有常。利民爲本。從政有經。上行爲上。明德先論於賤。而從政先信於貴。故願慕公叔之義。以成胡服之功也。公子成再拜稽首曰。臣聞中國者。聖賢之所教也。禮樂之所用也。遠方之所觀赴也。蠻夷之所則效也。今王舍此。而襲遠方之服。變古之道。逆人之心。臣願王執圖之也。使者以報。王自往請之。曰。吾國東有齊中山。北有燕東胡。西有樓煩秦韓之邊。今無騎射之備。則鄙幾於不守也。先君醜之。故寡人變服騎射。欲以備四境之難。報中山之怨。而叔順中國之俗。惡變服之名。以忘鄙事之醜。非寡人所望也。公子成聽命。乃賜胡服。明日服而朝。於是始出胡服令。而招騎射焉。

九年。秦昭王使向壽平宜陽。而使樗里子甘茂伐魏。甘茂言於王。以武遂復歸之韓。向壽公孫夷爭之。不能得。由此怨讒甘茂。茂懼。輟伐魏。蒲阪亡去。樗里子與魏講。而罷兵。甘茂奔齊。○趙王略中山地。至寧葭。西略胡地。至榆中。林胡王獻馬。歸使樓緩之秦。仇液之韓。王賁之



楚富丁之魏。趙爵之齊。代相趙固主胡。致其兵。○楚王與齊韓合從。  
十年。彗星見。○趙王伐中山。取丹丘。爽陽。鴻之塞。又取鄒石邑。封龍東垣。中山獻四邑。以和。  
○秦宣太后異父弟曰穰侯魏冉。同父弟曰華陽君平戎。王之同母弟曰高陵君涇陽君。魏冉最賢。自惠王武王時。任職用事。武王薨。諸弟爭立。唯魏冉力能立昭王。昭王即位。以魏冉為將軍。衛咸陽。是歲。庶長壯及大臣諸公子謀作亂。魏冉誅之。及惠文后。皆不得良死。悼武王后。出居于魏。王兄弟不善者。魏冉皆滅之。王少。宣太后自治事。任魏冉為政。威震秦國。  
十一年。秦王。楚王。盟于黃棘。秦復與楚上庸。  
十二年。彗星見。○秦取魏蒲阪。晉陽。封陵。又取韓武遂。○齊韓魏以楚負其從。親合兵伐楚。楚王使太子橫為質于秦。以請救。秦客卿通將兵救楚。三國引兵去。  
十三年。秦王。魏王。韓太子嬰。會于臨晉。韓太子至咸陽而歸。秦復與魏蒲阪。○秦大夫有私與楚太子鬪者。太子殺之。亡歸。  
十四年。日有食之。既。○秦人取韓穰。○蜀守輝叛秦。秦司馬錯往誅之。○秦庶長奐會韓魏齊兵伐楚。敗其師於重丘。殺其將唐昧。遂取重丘。○趙王伐中山。中山君犇齊。  
十五年。秦涇陽君為質於齊。○秦華陽君伐楚。大破楚師。斬首三萬。殺其將景缺。取楚襄城。楚王恐。使太子為質於齊。以請平。○秦樗里疾卒。以趙人樓緩為丞相。○趙武靈王愛少子何。欲及其生而立之。  
十六年。五月。戊申。大朝東宮。傳國於何。王廟見禮畢。出臨朝。大夫悉為臣。肥義為相國。并傳王。武靈王自號主父。主父欲使子治國。身胡服。將士大夫。西北畧胡地。將自雲中。九原。南襲咸陽。於是詐自為使者入秦。欲以觀秦地形。及秦王之為人。秦王不知。已而怪其狀甚偉。非人臣之度。使人逐之。主父行已脫關矣。審問之。乃主父也。秦人大驚。○齊王。魏王。會于韓。○

秦人伐楚。取八城。秦王遣楚王書曰。始寡人與王約為兄弟。盟于黃棘。太子入質。至驩也。太子陵殺寡人之重臣。不謝而亡去。寡人誠不勝怒。使兵侵君王之邊。今聞君王乃令太子質於齊。以求平。寡人與楚接壤。婚姻相親。而今秦楚不驩。則無以令諸侯。寡人願與君王會武關。面相約結。盟而去。寡人之願也。楚王患之。欲往。恐見欺。欲不往。恐秦益怒。昭晳曰。毋行。而發兵自守耳。秦虎狼也。有并諸侯之心。不可信也。懷王之子蘭勸王行。王乃入秦。秦王令一將軍詐為王。伏兵武關。楚王至。則閉關。劫之。與俱。西至咸陽。朝章臺。如藩臣禮。要以割巫黔中郡。楚王欲盟。秦王欲先得地。楚王怒曰。秦詐我。而又彊要我地。因不復許。秦人留之。楚大臣患之。乃相與謀曰。吾王在秦。不得還。要以割地。而太子為質於齊。齊秦合謀。則楚無國矣。欲立王子之在國者。昭晳曰。王與太子俱困於諸侯。今又倍王命而立其庶子。不宜。乃詐赴于齊。齊潛王召羣臣謀之。或曰。不若留太子。以求楚之淮北。齊相曰。不可。郢中立王。是吾抱空質。而行不義於天下也。其人曰。不然。郢中立王。因與其新王市。曰。予我下東國。吾為王殺太子。不然。將與三國共立之。齊王卒用其相計。而歸楚太子。楚人立之。○秦王聞孟嘗君之賢。使涇陽君為質於齊。以請孟嘗君來入秦。秦王以為丞相。  
十七年。或謂秦王曰。孟嘗君相秦。必先齊。而後秦。秦其危哉。秦王乃以樓緩為相。囚孟嘗君。欲殺之。孟嘗君使人求解於秦王。幸姬姬曰。願得君狐白裘。孟嘗君有狐白裘。已獻之秦王。無以應姬求。客有善為狗盜者。入秦藏中。盜狐白裘。以獻姬。姬乃為之言于王。而遣之。王後悔。使追之。孟嘗君至關。關法。鷄鳴而出。客時尙蚤。追者將至。客有善為鷄鳴者。野鷄聞之。皆鳴。孟嘗君乃得脫歸。○楚人告于秦曰。賴社稷神靈。國有王矣。秦王怒。發兵出武關。擊楚。斬首五萬。取十六城。○趙王封其弟為平原君。平原君好士。食客嘗數千人。有公孫龍者。善為堅白同異之辨。平原君客之。孔穿自魯適趙。與公孫龍論臧三耳。龍甚辯析。子高弗應。俄而



辭出明日復見平原君。平原君曰：疇昔公孫之言信辯也。先生以爲何如？對曰：然。幾能令臧三耳矣。雖然實難。僕願得又問於君。今謂三耳甚難而實非也。謂兩耳甚易而實是也。不知君將從易而是者乎？其亦從難而非者乎？平原君無以應。明日謂公孫龍曰：公無復與孔子高辯事也。其人理勝於辭。公辭勝于理。終必受誦。鄒衍過趙。平原君使與公孫龍論白馬非馬之說。鄒子曰：不可。夫辯者別殊類。使不相害。序異端。使不相亂。抒意通指。明其所謂。使人與知焉。不務相迷也。故勝者不失其所守。不勝者得其所求。若是。故辯可爲也。及至煩文以相假飾。辭以相悖。巧譬以相移。引人使不得及其意。如此。害大道。夫繳紛爭言而競後息。不能無害君子。衍不爲也。座皆稱善。公孫龍由是遂細。

### 資治通鑑卷第三

### 資治通鑑卷第四

#### 周紀四

##### 赧王中

十八年。楚懷王亡歸。秦人覺之。遮楚道。懷王從間道走趙。趙主父在代。趙人不敢受。懷王將走魏。秦人追及之。以歸。○魯平公薨。子緡公賈立。  
 十九年。楚懷王發病薨於秦。秦人歸其喪。楚人皆憐之。如悲親戚。諸侯由是不直秦。○齊韓魏趙宋同擊秦。至鹽氏而還。秦與韓武遂與魏封陵以和。○趙主父行新地。遂出代西。遇樓煩王於西河。而致其兵。○魏襄王薨。子昭王立。○韓襄王薨。子釐王咎立。  
 二十年。秦尉錯伐魏襄城。○趙主父與齊燕共滅中山。遷其王於膚施。歸行賞大赦。置酒酺五日。○趙主父封其長子章於代。號曰安陽君。安陽君素侈。心不服其弟。主父使田不禮相之。李兌謂肥義曰：公子章彊壯而志驕。黨衆而欲大。田不禮忍殺而驕。二人相得。必有陰謀。夫小人有欲。輕慮淺謀。徒見其利。不顧其害。難必不久矣。子任重而勢大。亂之所始。而禍之所集也。子何不稱疾毋出。而傳政於公子成。毋爲禍梯。不亦可乎。肥義曰：昔者主父以王屬義也。曰：毋變而度。毋易而慮。堅守一心。以歿而世。義再拜受命。而籍之。今畏不禮之難而忘吾籍。變執大焉。諺曰：死者復生。生者不愧。吾欲全吾言。安得全吾身乎。子則有賜而忠我矣。雖然。吾言已在。前矣。終不敢失。李兌曰：諾。子勉之矣。吾見子。已今年耳。涕泣而出。李兌數見公子成。以備田不禮。肥義謂信期曰：公子章與田不禮。聲善而實惡。內得主而外爲暴。矯命。



以擅一旦之命。不難為也。今吾憂之。夜而忘寐。飢而忘食。盜出入。不可以不備。自今以來。有召王者。必見吾面。我將以身先之。無故而後。王可入也。信期曰。善。主父使惠文王朝羣臣。而自從旁窺之。見其長子儼然也。反北面為臣。誦於其弟。心憐之。於是乃欲分趙而王公子章於代。計未決而輟。主父及王游沙丘。異宮。公子章田不禮。以其徒作亂。詐以主父令召王。義先入。殺之。高信即與王戰。公子成與李兌自國至。乃起四邑之兵。入距難。殺公子章。及田不禮。滅其黨。公子成為相。號安平君。李兌為司寇。是時惠文王少。成兌專政。公子章之敗也。往走主父。主父開之。成兌因圍主父。公子章死。成兌謀曰。以章故圍主父。即解兵。吾屬夷矣。乃遂圍之。令宮中人後出者夷。宮中人悉出。主父欲出。不得。又不得食。探雀穀而食之。三月餘。餓死沙丘宮。主父定死。乃發喪。赴諸侯。主父初以長子章為太子。後得吳娃。愛之。為不出者數歲。生子何。乃廢太子章而立之。吳娃死。愛弛。憐故太子。欲兩王之。猶豫未決。故亂起。○秦樓緩免相。魏冉代之。

二十一年。秦敗魏師于解。

二十二年。韓公孫喜。魏人。伐秦。穰侯薦左更白起於秦王。以代向壽將兵。敗魏師韓師于伊闕。斬首二十四萬級。虜公孫喜。拔五城。秦王以白起為國尉。○秦王遣楚王書曰。楚倍秦。秦且率諸侯伐楚。願王之飭士卒。得一樂戰。楚王患之。乃復與秦和親。

二十三年。楚襄王迎婦於秦。  
臣光曰。甚哉秦之無道也。殺其父而劫其子。楚之不競也。忍其父而婚其讐。烏呼。楚之君。誠得其道。臣誠得其人。秦雖疆。烏得陵之哉。善乎荀卿論之。曰。夫道善用之。則百里之地。可以獨立。不善用之。則楚六千里。而為讐人役。故入主不務得道。而廣有其勢。是其所以危也。

秦魏冉謝病免。以客卿燭壽為丞相。

二十四年。秦伐韓。拔宛。秦燭壽免。魏冉復為丞相。封於穰與陶。謂之穰侯。又封公子市于宛。公子悝于鄧。

二十五年。魏入河東地四百里。韓入武遂地二百里于秦。○魏芒卯始以詐見重。

二十六年。秦大良造白起。客卿錯。伐魏。至軹。取城大小六十一。

二十七年。冬。十月。秦王稱西帝。遣使立齊王為東帝。欲約與共伐趙。蘇代自燕來。齊王曰。秦使魏冉致帝。子以為何如。對曰。願王受之。而勿稱也。秦稱之。天下安之。王乃稱之。無後也。秦稱之。天下惡之。王因勿稱。以收天下。此大資也。且伐趙。孰與伐宋。利今王不如釋帝。以收天下之望。發兵以伐宋。宋舉。則楚趙梁衛皆懼矣。是我以名尊秦。而令天下憎之。所謂以卑為尊也。齊王從之。稱帝二日。而復歸之。十二月。呂禮自齊入秦。秦王亦去帝。復稱王。秦攻趙。拔杜陽。

二十八年。秦攻魏。拔新垣曲陽。

二十九年。秦司馬錯擊魏河內。魏獻安邑以和。秦出其人歸之魏。○秦敗韓師於夏山。○宋有雀生。歸於城之陬。史占之。曰。吉。小而生巨。必霸天下。宋康王喜。起兵。滅滕。伐薛。東敗齊。取五城。南敗楚。取地三百里。西敗魏軍。與齊魏為敵國。乃愈自信其霸。欲霸之亟成。故射天笞地。斬社稷。而焚滅之。以示威服鬼神。為長夜之飲於室中。室中人呼萬歲。則堂上之人應之。堂下之人又應之。門外之人又應之。以至於國中。無敢不呼萬歲者。天下之人。謂之桀宋。齊潛王起兵伐之。民散。城不守。宋王奔魏。死于溫。

三十年。秦王會楚王於宛。會趙王於中陽。秦蒙武擊齊。拔九城。○齊潛王既滅。宋而驕。乃南侵楚。西侵三晉。欲并二周。為天子。狐喧正議。斬之。檀衢陳舉直言。殺之。東閭燕昭王。日夜撫



循其人。益以富實。乃與樂毅謀伐齊。樂毅曰。齊霸國之餘業也。地大人衆。未易獨攻也。王必欲伐之。莫如約趙及楚。魏於是使樂毅約趙。別使使者連楚魏。且令趙囑秦以伐齊之利。諸侯害齊王之驕暴。皆爭合謀與燕伐齊。

三十一年。燕王悉起兵。以樂毅爲上將軍。秦尉斯離帥師。與三晉之師會之。趙王以相國印授樂毅。樂毅并將秦魏韓趙之兵。以伐齊。齊潛王悉國中衆。以拒之。戰於濟西。齊師大敗。樂毅還秦韓之師。分魏師。以略宋地。部趙師。以收河間。身率燕師。長驅逐北。劇辛曰。齊大而燕小。賴諸侯之助。以破其軍。宜及時攻。取其邊城。以自益。此長久之利也。今過而不攻。以深入爲名。無損於齊。無益於燕。而結深怨。後必悔之。樂毅曰。齊王伐功矜能。謀不逮下。廢黜賢良。信任諂諛。政令戾虐。百姓怨對。今軍皆破亡。若因而乘之。其民必叛。禍亂內作。則齊可圖也。若不遂乘之。待彼悔前之非。改過恤下。而撫其民。則難慮也。遂進軍深入。齊人果大亂。失度。潛王出走。樂毅入臨淄。取寶物祭器。輸之於燕。燕王親至濟上。勞軍。行賞饗士。封樂毅爲昌國君。遂使留徇齊城之未下者。齊王出亡之衛。衛君辟宮舍之。稱臣而共具。齊王不遜。衛人侵之。齊王去奔鄒魯。有驕色。鄒魯弗內。遂走莒。楚使淖齒將兵救齊。因爲齊相。淖齒欲與燕分齊地。乃執潛王而數之。曰。千乘博昌之間。方數百里。雨血沾衣。王知之乎。曰。知之。嬴博之間。地坼及泉。王知之乎。曰。知之。有人當闕而哭者。求之不得。去則聞其聲。王知之乎。曰。知之。淖齒曰。天雨血沾衣者。天以告也。地坼及泉者。地以告也。有人當闕而哭者。人以告也。天地人皆告矣。而王不知誠焉。何得無誅。遂弑王於鼓里。

荀子論之曰。國者。天下之利勢也。得道以持之。則大安也。大榮也。積美之源也。不得道以持之。則大危也。大累也。有之不如無之。及其綦也。索爲匹夫。不可得也。齊潛宋獻是也。故用國者。義立而王。信立而霸。權謀立而亡。挈國以呼禮義。而無以害之。行一不義。殺一無

罪。而得天下。仁者不爲也。揅然扶持心國。且若是其固也。之所與爲之者。之人。則舉義士也。之所以爲布陳於國家刑法者。則舉義法也。主之所極然。帥羣臣而首嚮之者。則舉義志也。如是。則下仰上。以義矣。是基定也。基定而國定。國定而天下定。故曰。以國濟義。一日而白。湯武是也。是所謂義立而王也。德雖未至也。義雖未濟也。然而天下之理略矣。刑賞已諾。信於天下矣。臣下曉然。皆知其可要也。政令已陳。雖觀利敗。不欺其民。約結已定。雖觀利敗。不欺其與。如是。則兵勁城固。敵國畏之。國一綦明。與國信之。雖在僻陋之國。威動天下。五伯是也。是所謂信立而霸也。挈國以呼功利。不務張其義。齊其信。唯利之求。內則不憚詐其民。而求小利焉。外則不憚詐其與。而求大利焉。內不修正其所以有。然常欲人之有。如是。則臣下百姓。莫不以詐心待其上矣。上詐其下。下詐其上。則是上下析也。如是。則敵國輕之。與國疑之。權謀日行。而國不免危削。綦之而亡。齊潛薛公是也。故用彊齊。非以修禮義也。非以本政教也。非以一天下也。綿綿常以結引馳外爲務。故彊南足以破楚。西足以誦秦。北足以敗燕。中足以舉宋。及以燕趙起而攻之。若振槁然。而身死國亡。爲天下大戮。後世言惡。則必稽焉。是無他故焉。唯其不由禮義。而由權謀也。三者明主之所謹擇也。仁人之所務白也。善擇者制人。不善擇者。人制之。

樂毅聞畫邑人王蠋賢。令軍中環畫邑三十里。無入。使人請蠋。蠋謝不往。燕人曰。不來。吾且屠畫邑。蠋曰。忠臣不事二君。烈女不更二夫。國破君亡。吾不能存。而又欲劫之以兵。吾與其不義而生。不若死。遂經其頸於樹枝。自奮絕脰而死。燕師乘勝長驅。齊城皆望風奔潰。樂毅修整燕軍。禁止侵掠。求齊之逸民。顯而禮之。寬其賦斂。除其暴令。修其舊政。齊民喜悅。乃遣左軍。渡膠東。東萊前軍。循泰山。以東至海。略琅邪。右軍。循河濟。屯阿鄆。以連魏師。後軍。旁北海。以撫千乘。中軍。據臨淄。而鎮齊都。祀桓公。管仲於郊。表賢者之閭。封王蠋之墓。齊人食邑



於燕者二十餘君。有爵位於薊者百有餘人。六月之間。下齊七十餘城。皆爲郡縣。○秦王魏王韓王會于京師。

三十二年。秦趙會于穰。○秦拔魏安城兵至大梁而還。○齊淖齒之亂。潛王子法章變姓名爲莒太史敫家傭。太史敫女。奇法章狀貌。以爲非常人。憐而常竊衣食之。因與私通。王孫賈從潛王。失王之處。其母曰。汝朝出而晚來。則吾倚門而望。汝暮出而不還。則吾倚閭而望。汝今事王。王走。汝不知其處。汝尙何歸焉。王孫賈乃入市中。呼曰。淖齒亂齊國。殺潛王。欲與我誅之者。袒右。市人從者四百人。與攻淖齒。殺之。於是齊亡。臣相與求潛王子。欲立之。法章懼其誅。已久之。乃敢自言。遂立以爲齊王。保莒城。以拒燕。布告國中曰。王已立。在莒矣。○趙王得楚和氏璧。秦昭王欲之。請易以十五城。趙王欲勿與。畏秦彊。欲與之。恐見欺。以問藺相如。對曰。秦以城求璧。而王不許。曲在我矣。我與之璧。而秦不與我城。則曲在秦。均之二策。寧許以負秦。臣願奉璧而往。使秦城不入。臣請完璧而歸之。趙王遣之。相如至秦。秦王無意償趙城。相如乃以詐給秦王。復取璧。遣從者懷之。間行歸趙。而以身待命於秦。秦王以爲賢。而弗誅。禮而歸之。趙王以相如爲上大夫。○衛嗣君薨。子懷君立。嗣君好察微隱。縣令有發擗而席弊者。嗣君聞之。乃賜之席。令大驚。以君爲神。又使人過關市。賂之以金。旣而召關市問。有客過。與汝金。汝回遣之。關市大恐。又愛泄姬。重如耳。而恐其因愛重。以壅己也。乃貴薄疑。以敵如耳。尊魏妃。以偶泄姬。曰。以是相參也。

荀子論之曰。成侯嗣君。聚斂計數之君也。未及取民也。子產取民者也。未及爲政也。管仲爲政者也。未及修禮也。故修禮者王。爲政者彊。取民者安。聚斂者亡。

三十三年。秦伐趙。拔兩城。

三十四年。秦伐趙。拔石城。○秦穰侯復爲丞相。楚欲與齊韓共伐秦。因欲圖周。王使東周武

公謂楚令尹昭子曰。周不可圖也。昭子曰。乃圖周則無之。雖然。何不可圖。武公曰。西周之地。絕長補短。不過百里。名爲天下共主。裂其地。不足以肥國。得其衆。不足以勁兵。雖然。攻之者。名爲弑君。然而猶有欲攻之者。見祭器在焉。故也。夫虎肉臊。而兵利身。人猶攻之。若使澤中之麋。蒙虎之皮。人之攻之也。必萬倍矣。裂楚之地。足以肥國。誣楚之名。足以尊主。今子欲誅殘天下之共主。居三代之傳器。器南則兵至矣。於是楚計輟不行。

三十五年。秦白起敗趙軍。斬首二萬。取代光狼城。又使司馬錯發隴西兵。因蜀攻楚黔中。拔之。楚獻漢北及上庸地。

三十六年。秦白起伐楚。取鄢鄧西陵。秦王使使者告趙王。願爲好。會於河外滎池。趙王欲毋行。廉頗藺相如計曰。王不行。示趙弱且怯也。趙王遂行。相如從。廉頗送至境。與王訣曰。王行。度道里會遇之禮畢。還不過三十日。三十日不還。則請立太子。以絕秦望。王許之。會于滎池。王與趙王飲酒。酣。秦王請趙王鼓瑟。趙王鼓之。藺相如復請秦王擊缶。秦王不肯。相如曰。五步之內。臣請得以頸血濺大王矣。左右欲刃相如。相如張目叱之。左右皆靡。王不懌。爲一擊缶。罷酒。秦終不能有加於趙。趙人亦盛爲之備。秦不敢動。趙王歸國。以藺相如爲上卿。位在廉頗之右。廉頗曰。我爲趙將。有攻城野戰之功。藺相如素賤人。徒以口舌。而位居我上。吾羞。不忍爲之下。宣言曰。我見相如。必辱之。相如聞之。不肯與會。每朝常稱病。不欲爭列。出而望見。輒引車避匿。其舍人皆以爲恥。相如曰。子視廉將軍。孰與秦王。曰。不若。相如曰。夫以秦王之威。而相如廷叱之。辱其羣臣。相如雖騖。獨畏廉將軍哉。顧吾念之。彊秦所以不敢加兵於趙者。徒以吾兩人在也。今兩虎共鬪。其勢不俱生。吾所以爲此者。先國家之急。而後私讐也。廉頗聞之。肉袒負荊。至門謝罪。遂爲刎頸之交。○初。燕人攻安平。臨淄市掾田單。在安平。使其宗人。皆以鐵籠傅車轄。及城潰。人爭門而出。皆以軸折車敗。爲燕所擒。獨田單宗人。以鐵



籠得免，遂犇即墨。是時齊地皆屬燕，獨莒即墨未下。樂毅乃并右軍前軍，以圍莒。左軍後軍圍即墨，即墨大夫出戰而死。即墨人曰：安平之戰，田單宗人以鐵籠得全，是多智習兵，因共立以爲將，以拒燕。樂毅圍二邑，朞年不剋，乃令解圍，各去城九里而爲壘。令曰：城中民出者勿獲，困者賑之，使卽舊業，以鎮新民。三年而猶未下，或讒之於燕昭王曰：樂毅智謀過人，伐齊呼吸之間，剋七十餘城，今不下者兩城耳，非其力不能拔，所以三年不攻者，欲久仗兵威，以服齊人。南面而王耳，今齊人已服，所以未發者，以其妻子在燕故也。且齊多美女，又將忘其妻子，願王圖之。昭王於是置酒大會，引言者而讓之曰：先王舉國以禮賢者，非貪土地，以遺子孫也。遭所傳德薄，不能堪命，國人不順，齊爲無道，乘孤國之亂，以害先王。寡人統位，痛之入骨，故廣延羣臣，外招賓客，以求報讐，其有成功者，尙欲與之同共燕國。今樂君親爲寡人破齊，夷其宗廟，報塞先仇，齊國固樂君所有，非燕之所得也。樂君若能與燕並爲列國，結歡同好，以抗諸侯之難，燕國之福，寡人之願也。汝何敢言若此，乃斬之。賜樂毅妻，以後服賜其子，以公子之服，輅車乘馬，後屬百兩，遣國相奉而致之。樂毅立樂毅爲齊王，樂毅惶恐，不受拜書，以死自誓。由是齊人服其義，諸侯畏其信，莫敢復有謀者。頃之，昭王薨，惠王立，惠王自爲太子時，嘗不快於樂毅，田單聞之，乃縱反間於燕，宣言曰：齊王已死，城之不拔者二耳。樂毅與燕新王有隙，畏誅而不敢歸，以伐齊爲名，實欲連兵南面王齊，齊人未附，故且緩攻即墨，以待其事。齊人所懼，唯恐他將之來，卽墨殘矣。燕王固已疑樂毅，得齊反間，乃使騎劫代將，而召樂毅。樂毅知王不善代之，遂犇趙。燕將士由是憤惋不和。田單令城中人食必祭其先祖於庭，飛鳥皆翔舞而下。城中燕人怪之。田單因宣言曰：當有神師下教我，有一卒曰：臣可以爲師乎？因反走。田單起，引還坐。東鄉師事之。卒曰：臣欺君，田單曰：子勿言也。因師之。每出約束，必稱神師，乃宣言曰：吾唯懼燕軍之剋，所得齊卒，置之前行，卽墨敗矣。燕人

聞之，如其言。城中見降者盡剋，皆怒，堅守。唯恐見得，單又縱反間言，吾懼燕人掘吾城外冢墓，可爲寒心。燕軍盡掘冢墓，燒死人。齊人從城上望見，皆涕泣，共欲出戰，怒自十倍。田單知士卒之可用，乃自操版，鍤與士卒分功，妻妾編於行伍之間，盡散飲食饗士，令甲卒皆伏，使老弱女子乘城，遣使約降於燕，燕軍皆呼萬歲。田單又收民金，得千鎰，令卽墨富豪遺燕將，曰：卽降，願無虜掠吾族家，燕將大喜，許之。燕軍益懈，田單乃收城中得牛千餘，爲絳繒衣，畫以五采龍文，束兵刃於其角，而灌脂，束葦於其尾，燒其端，鑿城數十穴，夜縱牛，壯士五千隨其後，牛尾熱，怒而犇燕軍，燕軍大驚，視牛皆龍文，所觸盡死傷，而城中鼓譟從之。老弱皆擊銅器爲聲，聲動天地。燕軍大駭，敗走。齊人殺騎劫，追亡逐北，所過城邑皆叛燕，復爲齊。田單兵日益多，乘勝，燕日敗亡，走至河上，而齊七十餘城皆復焉。乃迎襄王於莒，入臨淄，封田單爲安平君。齊王以太史敫之女爲后，生太子建。太史敫曰：女不取媒，因自嫁，非吾種也。汗吾世，終身不見君王后，君王后亦不以不見故，失人子之禮。○趙王封樂毅於觀津，尊寵之，以警動於燕齊。燕惠王乃使人讓樂毅，且謝之曰：將軍過聽，以與寡人有隙，遂捐燕歸趙，將軍自爲計，則可矣，而亦何以報先王之所以遇將軍之意乎？樂毅報書曰：昔伍子胥說聽於闔閭，而吳遠迹至郢，夫差弗是也。賜之鴟夷，而浮之江，吳王不寤先論之可以立功，故沈子胥而不悔，子胥不蚤見主之不同量，是以至於入江而不化，夫免身立功，以明先王之迹，臣之上計也。離毀辱之誹謗，墮先王之名，臣之所大恐也。臨不測之罪，以幸爲利，義之所不敢出也。臣聞古之君子，交絕不出惡聲，忠臣去國不潔其名。臣雖不佞，數奉教於君子矣。唯君王之留意焉。於是燕王復以樂毅子間爲昌國君，而樂毅往來復通燕，卒於趙。號曰望諸君。○田單相齊，過淄水，有老人涉淄而寒，出水不能行，田單解其裘而衣之。襄王惡之，曰：田單之施於人，將以取我國乎？不早圖，恐後之變也。左右顧無人，巖下有貫珠者，襄王呼而問之曰：



汝聞吾言乎。對曰：聞之。王曰：汝以爲何如。對曰：王不如因以爲己善。王嘉單之善，下令曰：寡人憂民之饑也，單收而食之，寡人憂民之寒也，單解裘而衣之，寡人憂勞百姓，而單亦憂稱寡人之意，單有是善，而王嘉之，單之善亦王之善也。王曰：善，乃賜單牛酒，後數日，貫珠者復見。王曰：王朝日宜召田單而揖之於庭，口勞之，乃布令求百姓之饑寒者，收穀之，乃使人聽於閭里，聞大夫之相與語者，曰：田單之愛人，嗟乃王之教也。田單任貂勃於王，王有所幸臣，九人欲傷安平君，相與語於王曰：燕之伐齊之時，楚王使將軍將萬人而佐齊，今國已定，而社稷已安矣，何不使使者謝於楚王。王曰：左右孰可。九人之屬曰：貂勃可。貂勃使楚楚王受而觴之，數月不反。九人之屬相與語曰：夫一人之身而牽留萬乘者，豈不以據勢也哉。且安平君之與王也，君臣無異，而上下無別，且其志欲爲不善，內撫百姓，外懷戎翟，禮天下之賢士，其志欲有爲，願王察之。異日，王曰：召相單而來。田單免冠徒跣肉袒而進，退而請死罪。五日，而王曰：子無罪於寡人，子爲子之臣禮，吾爲吾之王禮而已矣。貂勃從楚來，王賜之酒，酒酣，王曰：召相單而來，貂勃避席稽首曰：王上者孰與周文王。王曰：吾不若也。貂勃曰：然，臣固知王不若也。下者孰與齊桓公。王曰：吾不若也。貂勃曰：然，臣固知王不若也。然則周文王得呂尚以爲太公，齊桓公得管夷吾以爲仲父，今王得安平君而獨曰單，安得此亡國之言乎。且自天地之闢，民人之始，爲人臣之功者，誰有厚於安平君者哉。王不能守王之社稷，燕人興師而襲齊，王走而之，城陽之山中，安平君以惴惴卽墨，三里之城，五里之郭，敵卒七千人，禽其司馬，而反千里之齊，安平君之功也。當是之時，舍城陽而自王，天下莫之能止，然而計之於道，歸之於義，以爲不可，故棧道木閣而迎王，與后於城陽山中，王乃得反，子臨百姓，今國已定，民已安矣，王乃曰單，嬰兒之計，不爲此也。王亟殺此九子者，以謝安平君，不然，國其危矣。乃殺九子，而逐其家，益封安平君以夜邑萬戶。田單將攻狄，往見魯仲連，魯仲連曰：將

軍攻狄，不能下也。田單曰：臣以卽墨破亡餘卒，破萬乘之燕，復齊之墟，今攻狄而不下，何也。上車弗謝而去，遂攻狄，三月不克。齊小兒謠曰：大冠若箕，脩劍拄頤，攻狄不能下，壘枯骨成丘。田單乃懼，問魯仲連曰：先生謂單不能下狄，請聞其說。魯仲連曰：將軍之在卽墨，坐則織黃，立則仗鍤，爲士卒倡曰：無可往矣，宗廟亡矣，今日尙矣，歸於何黨矣。當此之時，將軍有死之心，士卒無生之氣，聞君言，莫不揮泣奮臂而欲戰，此所以破燕也。當今將軍東有夜邑之奉，西有淄上之娛，黃金橫帶，而騁乎淄澠之間，有生之樂，無死之心，所以不勝也。田單曰：單之有心，先生志之矣。明日，乃厲氣循城，立於矢石之所，援枹鼓之，狄人乃下。○初，齊潛王既滅宋，欲去孟嘗君，孟嘗君奔魏，魏昭王以爲相，與諸侯共伐破齊，潛王死，襄王復國，而孟嘗君中立，爲諸侯無所屬，襄王新立，畏孟嘗君，與之連和，孟嘗君卒，諸子爭立，而齊魏共滅薛，孟嘗君絕嗣。

三十七年，秦大良造白起伐楚，拔郢燒夷陵，楚襄王兵散，遂不復戰，東北徙都於陳，秦以郢爲南郡，封白起爲武安君。  
三十八年，秦武安君定巫黔中，初置黔中郡。○魏昭王薨，子安釐王立。  
三十九年，秦武安君伐魏，拔兩城。○楚王收東地兵，得十餘萬，復西取江南十五邑。○魏安釐王封其弟無忌爲信陵君。  
四十年，秦相國穰侯伐魏，韓暴驚救魏，穰侯大破之，斬首四萬，暴驚走，開封，魏納八城以和，穰侯復伐魏，走芒卯，入北宅，魏人割溫以和。  
四十一年，魏復與齊合從，秦穰侯伐魏，拔四城，斬首四萬。○魯潛公薨，子頃公讐立。  
四十二年，趙人魏人伐韓華陽，韓人告急於秦，秦王弗救，韓相國謂陳筮曰：事急矣，願公雖病，爲一宿之行，陳筮如秦，見穰侯，穰侯曰：事急矣，故使公來，陳筮曰：未急也，穰侯怒曰：何也。



陳筮曰。彼韓急。則將變而他從。以未急故。復來耳。穰侯曰。請發兵矣。乃與武安君及客卿胡陽救韓。八日而至。敗魏軍於華陽之下。走芒卯。虜三將。斬首十三萬。武安君又與趙將賈偃戰。沈其卒二萬人于河。魏段干子請割南陽予秦。以和。蘇代謂魏王曰。欲璽者。段干子也。欲地者。秦也。今王使欲地者制璽。欲璽者制地。魏地盡矣。夫以地事秦。猶抱薪救火。薪不盡。火不滅。王曰。是然也。雖然。事始已行。不可更矣。對曰。夫博之所以貴梟者。便則食。不便則止。今何王之用智。不如用梟也。魏王不聽。卒以南陽為和。寔脩武。○韓釐王薨。子桓惠王立。○韓魏既服於秦。秦王將使武安君與韓魏伐楚。未行。而楚使者黃歇至。聞之。畏秦乘勝。一舉而滅楚也。乃上書曰。巨聞物至則反。冬夏是也。致至則危。累棊是也。今大國之地。徧天下。有其二垂。此從生民以來。萬乘之地。未嘗有也。先王三世不忘。接地於齊。以絕從親之要。今王使盛橋守事於韓。盛橋以其地入秦。是王不用甲。不信威。而得百里之地。王可謂能矣。王又舉甲而攻魏。杜大梁之門。舉河內。拔燕酸棗。虛桃。入邢。魏之兵雲翔。而不敢撓。王之功亦多矣。王休甲息衆。二年而後復之。又并蒲衍首垣。以臨仁平丘。黃濟陽嬰城。而魏氏服。王又割濮磨之北。注齊秦之要。絕楚趙之脊。天下五合六聚。而不敢撓。王之威亦單矣。王若能保功守威。緇攻取之心。而肥仁義之地。使無後患。三王不足。四。五伯不足。六也。王若負人徒之衆。仗兵革之彊。乘毀魏之威。而欲以力臣天下之主。臣恐其有後患也。詩曰。靡不有初。鮮克有終。易曰。狐涉水。濡其尾。此言始之易。終之難也。者吳之信越也。從而伐齊。既勝。齊人於艾陵還為越。王禽於三江之浦。智氏之信韓魏也。從而伐趙。攻晉陽城。勝有日矣。韓魏叛之。殺智伯瑤於鑿臺之下。今王妬楚之不毀。而忘毀楚之彊。韓魏也。臣為王慮。而不取也。夫楚國。援也。鄰國。敵也。今王信韓魏之善。王此正吳之信越也。臣恐韓魏卑辭除患。而實欲欺大國也。何則。王無重世之德於韓魏。而有累世之怨焉。夫韓魏父子兄弟。接踵而死於秦。將十世矣。故

韓魏之不亡。秦社稷之憂也。今王資之。與攻楚。不亦過乎。且攻楚。將惡出兵。王將借路於仇讐之韓魏乎。兵出之日。而王憂其不反也。王若不借路於仇讐之韓魏。必攻隨水右壤。此皆廣川大水。山林谿谷。不食之地。是王有毀楚之名。而無得地之實也。且王攻楚之日。四國必悉起兵而應王。秦楚之兵。構而不離。魏氏將出而攻。留方與銓。湖陵。碭。蕭。相。故宋。必盡。齊人南面攻楚。泗上必舉。此皆平原四達膏腴之地。如此。則天下之國。莫彊於齊魏矣。臣為王慮。莫若善楚。秦楚合而為一。以臨韓。必斂手而朝。王施以東山之險。帶以曲河之利。韓必為關內之侯。若是。而王以十萬戍鄭。梁氏寒心。許鄆陵嬰城。而上蔡召陵不往來也。如此。魏亦關內侯矣。大王壹善楚。而關內兩萬乘之主。注地於齊。齊右壤。可拱手而取也。王之地。一經兩海。要約天下。是燕趙無齊楚。齊楚無燕趙也。然後危動燕趙。直搖齊楚。此四國者。不待痛而服矣。王從之。止武安君。而謝韓魏。使黃歇歸。約親於楚。

資治通鑑卷第四



# 資治通鑑卷第五

## 周紀五

### 赧王下

四十三年。楚以左徒黃歇侍太子完。為質於秦。○秦置南陽郡。○秦魏楚共伐燕。○燕惠王薨。子武成王立。

四十四年。趙蘭相如伐齊。至平邑。趙田部吏趙奢收租稅。平原君家不肯出。趙奢以法治之。殺平原君用事者九人。平原君怒。將殺之。趙奢曰。君於趙為貴公子。今縱君家而不奉公。則法削。法削則國弱。國弱則諸侯加兵。是無趙也。君安得有此富乎。以君之貴。奉公如法。則上下平。上下平則國彊。國彊則趙固。而君為貴戚。豈輕於天下邪。平原君以為賢。言之於王。王使治國賦。國賦太平。民富而府庫實。

四十五年。秦伐趙。圍閼與。趙王召廉頗。樂乘而問之。曰。可救否。皆曰。道遠險阻。難救。問趙奢。趙奢對曰。道遠險阻。譬猶兩鼠鬪於穴中。將勇者勝。王乃令趙奢將兵救之。去邯鄲三十里而止。令軍中曰。有以軍事諫者死。秦師軍武安。西鼓譟勒兵。武安屋瓦盡振。趙軍中候。有一人言急救武安。趙奢立斬之。堅壁二十八日不行。復益增壘。秦間入趙軍。趙奢善食遺之。間以報秦將。秦將大喜曰。夫去國三十里而軍不行。乃增壘。閼與非趙地也。趙奢既已遣閒。卷甲而趨。一日一夜而至。去閼與五十里而軍。軍壘成。秦師聞之。悉甲而往。趙軍士許歷請以軍事諫。趙奢進之。許歷曰。秦人不意趙至此。其來氣盛。將軍必厚集其陳。以待之。不然必敗。

趙奢曰。請受教。許歷請刑。趙奢曰。胥後令邯鄲。許歷復請諫。曰。先據北山上者勝。後至者敗。趙奢許諾。即發萬人趨之。秦師後至。爭山不得上。趙奢縱兵擊秦師。秦師大敗。解閼與而還。趙王封奢為馬服君。與廉藺同位。以許歷為國尉。○穰侯言客卿竈於秦王。使伐齊。取剛壽。以廣其陶邑。○初魏人范雎。從中大夫須賈。使於齊。齊襄王聞其辯口。私賜之金及牛酒。須賈以為雎以國陰事告齊也。歸而告其相魏齊。魏齊怒。笞擊范雎。折脅摺齒。雎佯死。卷以簣置廁中。使客醉者更溺之。以懲後。令無妄言者。范雎謂守者曰。能出我。我必有厚謝。守者乃請棄簣中死人。魏齊醉曰。可矣。范雎得出。魏齊悔。復召求之。魏人鄭安平。遂操范雎亡匿。更姓名曰張祿。秦謁者王稽使於魏。范雎夜見王稽。稽潛載與俱歸。薦之於王。王見之於離宮。范雎佯為不知。永巷而入其中。王來而宦者怒逐之。曰。王至。范雎謬曰。秦安得王。秦獨有太后。穰侯耳。王微聞其言。乃屏左右。跪而請曰。先生何以幸教寡人。對曰。唯唯。如是者三。王曰。先生卒不幸教寡人邪。范雎曰。非敢然也。臣羈旅之臣也。交疎於王。而所願陳者。皆匡君之事。處人骨肉之間。願效愚忠。而未知王之心也。此所以王三問而不敢對者也。臣知今日言之於前。明日伏誅於後。然臣不敢避也。且死者人之所必不免也。苟可以少有補於秦而死。此臣之所大願也。獨恐臣死之後。天下杜口裹足。莫肯鄉秦耳。王曰。先生是何言也。今者寡人得見先生。是天以寡人溷先生。而存先王之宗廟也。事無大小。上及太后。下至大臣。願先生悉以教寡人。無疑寡人也。范雎拜。王亦拜。范雎曰。以秦國之大。士卒之勇。以治諸侯。譬若走韓盧而搏蹇兔也。而閉關十五年。不敢窺兵於山東者。是穰侯為秦謀不忠。而大王之計亦有所失也。王曰。寡人願聞失計。然左右多竊聽者。范雎未敢言內。先言外事。以觀王之俯仰。因進曰。夫穰侯。越韓魏而攻齊。剛壽。非計也。齊潛王南攻楚。破軍殺將。再辟地千里。而齊尺寸之地無得焉者。豈不欲得地哉。形勢不能。有也。諸侯見齊之罷敝。起兵而伐齊。大



破之。齊幾於亡。以其伐楚而肥韓魏也。今王不如遠交而近攻。得寸則王之寸也。得尺亦王之尺也。今夫韓魏中國之處。而天下之樞也。王若用霸。必親中國。以爲天下樞。以威楚趙。楚彊則附趙。趙彊則附楚。楚趙皆附。齊必懼矣。齊附則韓魏因可虜也。王曰善。乃以范雎爲客卿。與謀兵事。

四十六年。秦中更胡傷。攻趙閼與。不拔。

四十七年。秦王用范雎之謀。使五大夫縮伐魏。拔懷。

四十八年。秦悼太子質於魏。而卒。

四十九年。秦拔魏邢丘。范雎日益親。用事。因承閒說王曰。臣居山東時。聞齊之有孟嘗君。不聞有王。聞秦有太后穰侯。不聞有王。夫擅國之謂王。能利害之謂王。制殺生之謂王。今太后擅行不顧穰侯。出使不報華陽。涇陽。擊斷無諱。高陵。進退不請。四貴備。而國不危者。未之有也。爲此四貴者下。乃所謂無王也。穰侯使者操王之重。決制於諸侯。剖符於天下。征敵伐國。莫敢不聽。戰勝攻取。則利歸於陶。戰敗。則怨結於百姓。而禍歸於社稷。臣又聞之。木實繁者披其枝。披其枝者傷其心。大其都者危其國。尊其臣者卑其主。淖齒管齊。射王股。擢王筋。懸之於廟梁。宿昔而死。李兌管趙。囚主父於沙丘。百日而餓死。今臣觀四貴之用事。此亦淖齒李兌之類也。夫三代之所以亡國者。君專授政於臣。縱酒弋獵。其所授者。妬賢疾能。御下蔽上。以成其私。不爲主計。而主不覺悟。故失其國。今自有秩以上。至諸大吏。下及王左右。無非相國之人者。見王獨立於朝。臣竊爲王恐。萬世之後。有秦國者。非王子孫也。王以爲然。於是廢太后。逐穰侯。高陵。華陽。涇陽。君於關外。以范雎爲丞相。封爲應侯。魏王使須賈聘於秦。應侯敝衣問步。而往見之。須賈驚曰。范叔固無恙乎。留坐飲食。取一綈袍贈之。遂爲須賈御。而至相府。曰。我爲君先入通於相君。須賈怪其久不出。問於門下。門下曰。無范叔。鄉者。吾相張

君也。須賈知見欺。乃膝行入。謝罪。應侯坐責讓之。且曰。爾所以得不死者。以綈袍戀戀尙有。故人之意耳。乃大供具。請諸侯賓客。坐須賈於堂下。置莖豆於前。而馬食之。使歸告魏王曰。速斬魏齊頭來。不然。且屠大梁。須賈還。以告魏齊。魏齊奔趙。匿於平原君家。○趙惠文王薨。子孝成王丹立。以平原君爲相。

五十年。秦宣太后薨。九月。穰侯出之陶。

臣光曰。穰侯。拔立昭王。除其災害。薦白起爲將。南取鄢郢。東屬地於齊。使天下諸侯稽首而事秦。秦益彊大者。穰侯之功也。雖其專恣驕貪。足以賈禍。亦未至盡如范雎之言。若雎者。亦非能爲秦忠謀。直欲得穰侯之處。故益其吭而奪之耳。遂使秦王絕母子之義。失舅甥之恩。要之。唯真傾危之士哉。

秦王以子安國君爲太子。○秦伐趙。取三城。趙王新立。太后用事。求救於齊。齊人曰。必以長安君爲質。太后不可。齊師不出。大臣彊諫。太后明謂左右曰。復言長安君爲質者。老婦必唾其面。左師觸龍。願見太后。太后盛氣。而胥之入。左師公徐趨而坐。自謝曰。老臣病足。不得見久矣。竊自恕。而恐太后體之有所苦也。故願望見太后。太后曰。老婦恃輦而行。曰。食得毋衰乎。曰。恃粥耳。太后不和之色稍解。左師公曰。老臣賤息。舒祺。最少不肖。而臣衰。竊憐愛之。願得補黑衣之缺。以衛王宮。昧死以聞。太后曰。諾。年幾何矣。對曰。十五歲矣。雖少。願及未填溝壑。而託之。太后曰。丈夫亦愛少子乎。對曰。甚於婦人。太后笑曰。婦人異甚。對曰。老臣竊以爲媼之愛燕后。賢於長安君。太后曰。君過矣。不若長安君之甚。左師公曰。父母愛其子。則爲之計深遠。媼之送燕后也。持其踵而泣。念其遠也。亦哀之矣。已行。非不思也。祭祀。則祝之曰。必勿使反。豈非爲之計長久。爲子孫相繼爲王也哉。太后曰。然。左師公曰。今三世以前。至於趙王之子孫。爲侯者。其繼有在者乎。曰。無有。曰。此其近者。禍及身。遠者。及其子孫。豈人主之子。



侯則不善哉。位尊而無功，奉厚而無勞，而挾重器多也。今媼尊長安君之位，而封之以膏腴之地，多與之重器，而不及今令有功於國，一旦山陵崩，長安君何以自託於趙哉？太后曰：諾。恣君之所使之。於是為長安君約車百乘，質於齊。齊師乃出，秦師退。○齊安平君田單將趙師以伐燕，取中陽。又伐韓，取注人。○齊襄王薨，子建立，建年少，國事皆決於君王后。五十二年，秦武安君伐韓，取南陽，攻太行道，絕之。○楚頃襄王疾病，黃歇言於應侯曰：今楚王疾恐不起，秦不如歸其太子，太子得立，其事秦必重，而德相國無窮，是親與國而得儲萬乘也。不歸，則咸陽布衣耳。楚更立君，必不事秦，是失與國而絕萬乘之和，非計也。應侯以告王。王曰：令太子之傅先往問疾，反而後圖之。黃歇與太子謀曰：秦之留太子，欲以求利也。今太子力未能有以利秦也，而陽文君子二人在中，王若卒，大命太子不在，陽文君子必立為後。太子不得奉宗廟矣，不如亡秦，與使者俱出，臣請止以死當之。太子因變服，為楚使者御，而出關。而黃歇守舍，常為太子謝病。度太子已遠，乃自言於王曰：楚太子已歸，出遠矣，歇願賜死。王怒，欲聽之。應侯曰：歇為人臣，出身以狗其主，太子立，必用歇，不如無罪而歸之，以親楚。王從之。黃歇至楚，三月，秋，頃襄王薨，考烈王即位，以黃歇為相，封以淮北地，號曰春申君。五十三年，楚人納州于秦，以平。○武安君伐韓，拔野王，上黨路絕。上黨守馮亭與其民謀曰：鄭道已絕，秦兵日進，韓不能應，不如以上黨歸趙。趙受我，秦必攻之。趙被秦兵，必親韓，韓趙為一，則可以當秦矣。乃遣使者告於趙曰：韓不能守上黨，入之秦，其吏民皆安於趙，不樂為秦。有城市邑十七，願再拜獻之。大王趙王以告平原君，對曰：聖人甚禍無故之利。王曰：人樂吾德，何謂無故？對曰：秦蠶食韓地，中絕不令相通，固自以為坐而受上黨也。韓氏所以不入於秦者，欲嫁其禍於趙也。秦服其勞，而趙受其利，雖強大不能得之於弱小，弱小固能得之於疆大乎？豈得謂之非無故哉？不如勿受。王以告平原君，平原君請受之。王乃使平原君

往受地，以萬戶都三，封其太守為華陽君，以千戶都三，封其縣令為侯。吏民皆益爵三級。馮亭垂涕，不見使者，曰：吾不忍賣主地而食之也。

五十五年，秦左庶長王齕攻上黨，拔之。上黨民走趙，趙廉頗軍於長平，以按據上黨。民王齕因伐趙，趙軍數戰不勝，亡一裨將。四尉趙王與樓昌、虞卿謀，樓昌請發重使為媾，虞卿曰：今制媾者在秦，秦必欲破王之軍矣。雖往請媾，秦將不聽，不如發使以重寶附楚魏，楚魏受之，則秦疑天下之合從，媾乃可成也。王不聽，使鄭朱媾於秦。秦受之，王謂虞卿曰：秦內鄭朱矣，對曰：王必不得媾，而軍破矣。何則？天下之賀戰勝者皆在秦矣。夫鄭朱，貴人也，秦王應侯必顯重之，以示天下。天下見王之媾於秦，必不救王。秦知天下之不救王，則媾不可得成矣。既而秦果顯鄭朱，而不與趙媾。秦數敗趙兵，廉頗壁不出，趙王以頗失亡多，而更怯不戰，怒數讓之。應侯又使人行千金於趙，為反間，曰：秦之所畏，獨畏馬服君之子趙括為將耳。廉頗易與，且降矣。趙王遂以趙括代頗。將，藺相如曰：王以名使括，若膠柱鼓瑟耳。括徒能讀其父書傳，不知合變也。王不聽。初，趙括自少時學兵法，以天下莫能當嘗與其父奢言兵事，奢不能難，然不謂善。括母問其故，奢曰：兵死地也，而括易言之。使趙不將括則已，若必將之，破趙軍者必括也。及括將行，其母上書言括不可使。王曰：何以對？曰：始妾事其父，時為將，身所奉飯而進食者，以十數。所友者，以百數。王及宗室所賞賜者，盡以與軍吏士大夫，受命之日，不問家事。今括一旦為將，東鄉而朝，軍吏無敢仰視之者。王所賜金帛，歸藏于家，而日視便利田宅可買者買之。王以為如其父，父子異心，願王勿遣。王曰：母置之，吾已決矣。母因曰：即如有不稱，妾請無隨坐。趙王許之。秦王聞括已為趙將，乃陰使武安君為上將軍，而王齕為裨將，令軍中有敢泄武安君將者，斬。趙括至軍，悉更約束，易置軍吏，出兵擊秦師。武安君佯敗而走，張二奇兵以劫之。趙括乘勝追造秦壁，壁堅，拒不得入。奇兵二萬五千人，絕趙軍之後。



又五千騎。絕趙壁間。趙軍分而為二。糧道絕。武安君出輕兵擊之。趙戰不利。因築壁堅守。以待救至。秦王聞趙食道絕。自如河內。發民年十五以上。悉詣長平。遮絕趙救兵。及糧食。齊人楚人救趙。趙人乏食。請粟于齊。王弗許。周子曰。夫趙之於齊楚。扞蔽也。猶齒之有唇也。唇亡則齒寒。今日亡趙。明日患及齊楚矣。救趙之務。宜若奉漏甕。沃焦釜然。且救趙。高義也。却秦師。顯名也。義救亡國。威却彊秦。不務為此。而愛粟。為國計者過矣。齊王弗聽。九月。趙軍食絕。四十六日。皆內陰相殺食。急來攻壘。欲出為四隊。四五復之。不能出。趙括自出。銳卒搏戰。秦人射殺之。趙師大敗。卒四十萬人皆降。武安君曰。秦已拔上黨。上黨民不樂為秦而歸趙。趙卒反覆。非盡殺之。恐為亂。乃挾詐而盡坑殺之。遺其小者二百四十人。歸趙。前後斬首虜四十五萬人。趙人大震。

五十六年。十月。武安君分軍為三。王齮攻趙武安皮牢。拔之。司馬梗北定太原。盡有上黨地。韓魏使蘇代。厚幣說應侯曰。武安君即圍邯鄲乎。曰。然。蘇代曰。趙亡。則秦王王矣。武安君為三公。君能為之下乎。雖欲無為之下。固不得已矣。秦嘗攻韓。圍邢丘。困上黨。上黨之民皆反為趙。天下不樂為秦民之日久矣。今亡趙。北地入燕。東地入齊。南地入韓魏。則君之所得民。無幾何人矣。不如因而割之。無以為武安君功也。應侯言於秦王曰。秦兵勞。請許韓趙之割地。以和。且休士卒。王聽之。割韓垣雍趙六城。以和。正月。皆罷兵。武安君由是與應侯有隙。趙王將使趙郝約事於秦。割六縣。虞卿謂趙王曰。秦之攻王也。倦而歸乎。王以其力尚能進。愛王而弗攻乎。王曰。秦不遺餘力矣。必以倦而歸也。虞卿曰。秦以其力攻其所不能取。倦而歸。王又以其力之不能取。以送之。是助秦自攻也。來年。秦攻王。王無救矣。趙王計未定。樓緩至趙。趙王與之計之。樓緩曰。虞卿得其一。不得其二。秦趙構難。而天下皆說何也。曰。吾且因彊而乘弱矣。今趙不如亟割地為和。以疑天下。慰秦之心。不然。天下將因秦之怒。乘趙之敝。

瓜分之。趙且亡。何秦之圖乎。虞卿聞之。復見曰。危哉。樓子之計。是愈疑天下。而何慰秦之心哉。獨不言其示天下弱乎。且臣言勿與者。非固勿與而已也。秦索六城於王。而王以六城賂齊。齊秦之深讐也。其聽王不待辭之畢也。則是王失之於齊。而取償於秦。而示天下有能為也。王以此發聲。兵未窺於境。臣見秦之重賂至趙。而反媾於王也。從秦為媾。韓魏聞之。必盡重王。是王一舉而結三國之親。而與秦易道也。趙王曰。善。使虞卿東見齊王。與之謀秦。虞卿未返。秦使者已在趙矣。樓緩聞之。亡去。趙王封虞卿以一城。秦之始伐趙也。魏王問於大夫。皆以為秦伐趙。於魏便。孔斌曰。何謂也。曰。勝趙。則吾因而服焉。不勝趙。則吾承敵而擊之。子順曰。不然。秦自孝公以來。戰未嘗屈。今又屬其良將。何敵之承。大夫曰。縱其勝趙。於我何損。鄰之羞國之福也。子順曰。秦貪暴之國也。勝趙。必復他求。吾恐於時。魏受其師也。先人有言。燕雀處屋。子母相哺。陶陶焉相樂也。自以為安矣。竈突炎上。棟宇將焚。燕雀顏不變。不知禍之將及己也。今子不悟趙破。患將及己。可以人而同於燕雀乎。子順者。孔子六世孫也。初魏王聞子順賢。遣使者奉黃金束帛。聘以為相。子順曰。若王能信用吾道。吾道固為治世也。雖蔬食飲水。吾猶為之。若徒欲制服吾身。委以重祿。吾猶一夫耳。魏王奚少於一夫。使者固請。子順乃之魏。魏王郊迎。以為相。子順改嬖寵之官。以事賢才。奪無任之祿。以賜有功。諸喪職者。咸不悅。乃造謗言。文咨以告子順。子順曰。民之不可與慮始久矣。古之善為政者。其初不能無謗。子產相鄭。三年而後謗止。吾先君之相魯。三月而後謗止。今吾為政日新。雖不能及賢。庸知謗乎。文咨曰。未識先君之謗。何也。子順曰。先君相魯。人誦之曰。靡裘而芾。投之無私。芾而靡裘。投之無郵。及三月。政化既成。民又誦曰。裘衣章甫。實獲我所。章甫裘衣。惠我無私。文咨喜曰。乃今知先生不異乎聖賢矣。子順相魏。凡九月。陳大計。輒不用。乃喟然曰。言不見用。是吾言之不當也。言不當於主。居人之官。食人之祿。是尸利素餐。吾罪深矣。退而以病致。



仕人謂子順曰王不用子子其行乎答曰行將何之山東之國將并於秦秦為不義義所不入遂寢於家新垣固謂子順曰賢者所在必興化致治今子相魏未聞異政而即自退意者志不得乎何去之速也子順曰以無異政所以自退也且死病無良醫今秦有吞食天下之心以義事之固不獲安救亡不暇何化之興昔伊摯在夏呂望在商而二國不治豈伊呂之不欲哉勢不可也當今山東之國敵而不振三晉割地以求安二周折而入秦燕齊楚已屈服矣以此觀之不出二十年天下其盡為秦乎秦王欲為應侯必報其仇聞魏齊在平原君所乃為好言誘平原君至秦而執之遣使謂趙王曰不得齊首吾不出王弟於關魏齊窮抵虞卿虞卿棄相印與魏齊偕亡至魏欲因信陵君以走楚信陵君意難見之魏齊怒自殺趙王卒取其首以與秦秦乃歸平原君九月五大夫王陵復將兵伐趙武安君病不任行五十七年正月王陵攻邯鄲少利益發卒佐陵陵亡五校武安君病愈王欲使代之武安君曰邯鄲實未易攻也且諸侯之救日至彼諸侯怨秦之日久矣秦雖勝於長平士卒死者過半國內空遠絕河山而爭人國都趙應其內諸侯攻其外破秦軍必矣王自命不行乃使應侯請之武安君終辭疾不肯行乃以王齮代王陵趙王使平原君求救於楚平原君約其門下食客文武備具者二十人與之俱得十九人餘無可取者毛遂自薦於平原君平原君曰夫賢士之處世也譬若錐之處囊中其末立見今先生處勝之門下三年於此矣左右未有所稱誦勝未有所聞是先生無所有也先生不能先生留毛遂曰臣乃今日請處囊中耳使遂蚤得處囊中乃脫穎而出非特其末見而已平原君乃與之俱十九人相與目笑之平原君至楚與楚王言合從之利害日出而言之日中不決毛遂按劍歷階而上謂平原君曰從之利害兩言而決耳今日出而言日中不決何也楚王怒叱曰胡不下吾乃與而君言汝何為者也毛遂按劍而前曰王之所以叱遂者以楚國之眾也今十步之內王不得恃楚國之

眾也王之命懸於遂手吾君在前叱者何也且遂聞湯以七十里之地王天下文王以百里之壤而臣諸侯豈其士卒眾多哉誠能據其勢而奪其威也今楚地方五千里持戟百萬此霸王之資也以楚之疆天下弗能當白起小豎子耳率數萬之眾與師以與楚戰一戰而擧鄢郢再戰而燒夷陵三戰而辱王之先人此百世之怨而趙之所羞而王弗之惡焉合從者為楚非為趙也吾君在前叱者何也楚王曰唯唯誠若先生之言謹奉社稷以從毛遂曰從定乎楚王曰定矣毛遂謂楚王之左右曰取雞狗馬之血來毛遂奉銅盤而跪進之楚王曰王當歃血以定從次者吾君次者遂遂定從於殿上毛遂左手持盤血而右手招十九人曰公等相與歃此血於堂下公等錄錄所謂因人成事者也平原君已定從而歸至於趙曰勝不敢相天下士矣遂以毛遂為上客於是楚王使春申君將兵救趙魏王亦使將軍晉鄙將兵十萬救趙秦王使謂魏王曰吾攻趙且暮且下諸侯敢救之者吾已拔趙必移兵先擊之魏王恐遣人止晉鄙留兵壁鄴名為救趙實挾兩端又使將軍新垣衍間入邯鄲因平原君說趙王欲共尊秦為帝以却其兵齊人魯仲連在邯鄲聞之往見新垣衍曰彼秦者棄禮義而上首功之國也彼即肆然而為帝於天下則連有蹈東海而死耳不願為之民也且梁未嘗秦稱帝之害故耳吾將言之昔者九侯鄂侯文王紂之三公也九侯有子而好獻之於紂紂以為惡醢九侯鄂侯爭之彊辯之疾故脯鄂侯文王聞之喟然而嘆故拘之羈里之庫百日欲令之死今秦萬乘之國也梁亦萬乘之國也俱據萬乘之國各有稱王之名奈何睹其一戰而勝欲從而帝之卒就脯醢之地乎且秦無已而帝則將行其天子之禮以號令於天下則且變易諸侯之大臣彼將奪其所不肖而與其所賢奪其所憎而與其所愛彼又將使其子女讒妾為諸侯妃姬處梁之宮梁王安得晏然而已乎而將軍又何以得故寵乎新垣衍



起再拜曰。吾乃今知先生天下之士也。吾請出。不敢復言帝秦矣。○燕武成王薨。子孝王立。○初魏公子無忌仁而下士。致食客三千人。魏有隱士曰侯嬴。年七十。家貧。爲大梁夷門監者。公子置酒。大會賓客。坐定。公子從車騎。虛左。自迎侯生。侯生攝敝衣冠。直上載公子。上坐。不讓。公子執轡愈恭。侯生又謂公子曰。臣有客在市屠中。願枉車騎過之。公子引車入市。侯生下。見其客朱亥。睥睨故久立。與其客語。微察公子。公子色愈和。乃謝客就車。至公子家。公子引侯生坐上坐。徧贊賓客。賓客皆驚。及秦圖趙。平原君之夫人。公子無忌之姊也。平原君使者冠蓋相屬於魏。讓公子曰。勝所以自附於婚姻者。以公子之高義。能急人之困也。今邯鄲且暮降秦。而魏救不至。縱公子輕勝棄之。獨不憐公子姊邪。公子患之。數請魏王。勅晉鄙令救趙。及賓客辯士游說萬端。王終不聽。公子乃屬賓客。約車騎百餘乘。欲赴鬪以死。於趙。過夷門見侯生。侯生曰。公子勉之矣。老臣不能從。公子去。行數里。心不快。復還。見侯生。侯生笑曰。臣固知公子之還也。今公子無他端。而欲赴秦軍。譬如以肉投餒虎。何功之有。公子再拜問計。侯嬴屏人曰。吾聞晉鄙兵符在王臥內。而如姬最幸。力能竊之。嘗聞公子爲如姬報其父仇。如姬欲爲公子死。無所辭。公子誠一開口。則得虎符。奪晉鄙之兵。北救趙。西却秦。此五伯之功也。公子如其言。果得兵符。公子行。侯生曰。將在外。君令有所不受。有如晉鄙合符。而不授兵。復請之。則事危矣。臣客朱亥其人力士。可與俱。晉鄙若聽。大善。不聽。可使擊之。於是公子請朱亥與俱。至鄴。晉鄙合符。疑之。舉手視公子曰。吾擁十萬之衆。屯於境上。今單車來代之。何如哉。朱亥袖四十斤鐵椎。椎殺晉鄙。公子遂勒兵。下令軍中曰。父子俱在軍中者。父歸。兄弟俱在軍中者。兄歸。獨子無兄弟者。歸養。得選兵八萬人。將之而進。王鮪久圍邯鄲。不拔。諸侯來救。戰數不利。武安君聞之曰。王不聽吾計。今何如矣。王聞之怒。彊起武安君。武安君稱病篤。不肯起。

五十八年。十月。免武安君爲士伍。遷之陰密。十二月。益發卒。軍汾城旁。武安君病未行。諸侯攻王鮪。鮪數却。使者日至。王乃使人遣武安君。不得留咸陽中。武安君出咸陽西門十里。至杜郵。王與應侯羣臣謀曰。白起之遷。意尙快。有餘言。王乃使使者賜之劍。武安君遂自殺。秦人憐之。鄉邑皆祭祀焉。魏公子無忌。大破秦師於邯鄲下。王鮪解邯鄲圍。走鄭安平。爲趙所困。將二萬人降趙。應侯由是得罪。公子無忌。既存趙。遂不敢歸魏。與賓客留居趙。使將將其軍。還魏。趙王與平原君計。以五城封公子。趙王掃除自迎。執主人之禮。引公子就西階。公子側行辭讓。從東階上。自言。舉過。以負於魏。無功於趙。趙王與公子飲。至暮。口不忍獻五城。以公子退讓也。趙王以鄙爲公子湯沐邑。魏亦復以信陵奉公子。公子聞趙有處士毛公。隱於博徒。薛公。隱於賣漿家。欲見之。兩人不肯見。公子乃間步從之游。平原君聞而非之。公子曰。吾聞平原君之賢。故背魏而救趙。今平原君所與遊。徒豪舉耳。不求士也。以無忌從此兩人遊。尙恐其不我欲也。平原君乃爲羞乎。爲裝欲去。平原君免冠謝。乃止。平原君欲封魯連。使者三返。終不肯受。又以千金爲魯連壽。魯連笑曰。所貴於天下士。爲人排患釋難。解紛亂。而無取也。卽有取。是商賈之事也。遂辭平原君而去。終身不復見。○秦太子之妃曰華陽夫人。無子。夏姬生子異人。異人質於趙。秦數伐趙。趙人不禮之。異人以庶孽孫質於諸侯。車乘進用不饒。居處困不得意。陽翟大賈呂不韋適邯鄲。見之曰。此奇貨可居。乃往見異人。說曰。吾能大子之門。異人笑曰。且自大君之門。不韋曰。子不知也。吾門待子門而大。異人心知所謂。乃引與坐深語。不韋曰。秦王老矣。太子愛華陽夫人。夫人無子。子之兄弟二十餘人。子侯有秦國之業。士倉又輔之。子居中。不甚見幸。久質諸侯。太子卽位。子不得爭爲嗣矣。異人曰。然則奈何。不韋曰。能立適嗣者。獨華陽夫人耳。不韋雖貧。請以千金爲子西遊。立子爲嗣。異人曰。必如君策。請得分秦國與君共之。不韋乃以五百金與異人。令結賓客。復以五百金買



奇物玩好。自奉而西。見華陽夫人之姊。而以奇物獻於夫人。因譽子異人之賢。賓客徧天下。常日夜泣思太子及夫人。曰。異人也。以夫人為天。夫人大喜。不韋因使其姊說夫人。曰。夫以色事人者。色衰則愛弛。今夫人愛而無子。不以繁華時。蚤自結於諸子。中賢孝者。舉以為適。即色衰愛弛。雖欲開一言。尚可得乎。今子異人賢而自知中子。不得為適。夫人誠以此時拔之。是子異人無國而有國。夫人無子而有子也。則終身有寵於秦矣。夫人以為然。承間言於太子。曰。子異人絕賢。來往者皆稱譽之。因泣曰。妾不幸無子。願得子異人。立以為子。以託妾身。太子許之。與夫人刻玉符。約以為嗣。因厚餽遺異人。而請呂不韋傳之。異人名譽盛於諸侯。呂不韋娶邯鄲諸姬絕美者。與居。知其有娠。異人從不韋飲。見而請之。不韋佯怒。既而獻之。孕期年。而生子政。異人遂以為夫人。邯鄲之圍。趙人欲殺之。異人與不韋行金六百斤。予守者。脫亡赴秦軍。遂得歸。異人楚服。而見華陽夫人。夫人曰。吾楚人也。當自子之。因更其名曰楚。

五十九年。秦將軍摎伐韓。取陽城。負黍。斬首四萬。伐趙。取二十餘縣。斬首虜九萬。赧王恐。背秦。與諸侯約。從將天下銳師。出伊闕。攻秦。令無得通陽城。秦王使將軍摎攻西周。赧王入秦。頓首受罪。盡獻其邑三十六。口三萬。秦受其獻。歸赧王於周。是歲。赧王崩。

### 資治通鑑卷第五

## 資治通鑑卷第六

### 秦紀一

#### 昭襄王

五十二年。河東守王稽。坐與諸侯通。棄市。應侯日以不懌。王臨朝而歎。應侯請其故。王曰。今武安君死。而鄭安平。王稽等皆畔。內無良將。而外多敵國。吾是以憂。應侯懼。不知所出。燕客蔡澤聞之。西入秦。先使人宣言於應侯。曰。蔡澤天下雄辯之士。彼見王。必因君奪君之位。應侯怒。使人召之。蔡澤見應侯。禮又倨。應侯不快。因讓之曰。子宣言欲代我相。請聞其說。蔡澤曰。吁。君何見之晚也。夫四時之序。成功者去。君獨不見夫秦之商君。楚之吳起。越之大夫。種何足願。與應侯謬曰。何為不可。此三子者。義之至也。忠之盡也。君子有殺身以成名。死無所恨。蔡澤曰。夫人立功。豈不期於成全邪。身名俱全者。上也。名可法而身死者。次也。名僂辱而身全者。下也。夫商君。吳起。大夫。種。其為人。盡忠致功。則可願矣。閔天。周公。豈不亦忠且聖乎。三子之可願。孰與閔天。周公哉。應侯曰。善。蔡澤曰。然則君之主。惇厚舊故。不倍功臣。孰與孝公。楚王。越王。曰。未知何如。蔡澤曰。君之功能。孰與三子。曰。不若。蔡澤曰。然則君身不。患恐甚於三子矣。語曰。日中則移。月滿則虧。進退贏縮。與時變化。聖人之道也。今君之怨已讐。而德已報。意欲至矣。而無變計。竊為君危之。應侯遂延以為上客。因薦於王。王召與語。大悅。拜為客卿。應侯因謝病免。王新悅。蔡澤計畫。遂以為相。國澤為相數月。免。○楚春。申君。以荀卿為蘭陵令。荀卿者。趙人。名況。嘗與臨武君論兵於趙。孝成王之前。王曰。請問兵要。臨武君



對曰。上得天時。下得地利。觀敵之變動。後之發。先之至。此用兵之要術也。荀卿曰。不然。臣所聞古之道。凡用兵攻戰之本。在乎一民。弓矢不調。則羿不能以中。六馬不和。則造父不能以致遠。士民不親附。則湯武不能以必勝也。故善附民者。是乃善用兵者也。故兵要在乎附民而已。臨武君曰。不然。兵之所貴者。勢利也。所行者。變詐也。善用兵者。感忽悠闊。莫知所從出。孫吳用之。無敵於天下。豈必待附民哉。荀卿曰。不然。臣之所道。仁人之兵。王者之志也。君之所貴。權謀勢利也。仁人之兵。不可詐也。彼可詐者。怠慢者也。露袒者也。君臣上下之間。滑然有離德者也。故以桀詐桀。猶巧拙有幸焉。以桀詐堯。譬之以卵投石。以指撓沸。若赴水火。入焉焦沒耳。故仁人之兵。上下一心。三軍同力。臣之於君也。下之於上也。若子之事父。弟之事兄。若手臂之扞頭目。而覆胸腹也。詐而襲之。與先驚而後擊之。一也。且仁人。用十里之國。則將有百里之聽。用百里之國。則將有千里之聽。用千里之國。則將有四海之聽。必將聰明警戒。和傅而一。故仁人之兵。聚則成卒。散則成列。延則若莫邪之長刃。嬰之者斷。兌則若莫邪之利鋒。當之者潰。圍居而方止。則若盤石。然觸之者。角摧而退耳。且夫暴國之君。將誰與至哉。彼其所與至者。必其民也。其民之親我。歡若父母。其好我。芬若椒蘭。彼反顧其上。則若灼黥。若仇讐。人之情。雖桀跖。豈有肯爲其所惡。賊其所好者哉。是猶使人之子孫。自賊其父母也。彼必將來告夫。又何可詐也。故仁人。用國日明。諸侯先順者安。後順者危。敵之者削。反之者亡。詩曰。武王載發。有虔秉鉞。如火烈烈。則莫我敢遏。此之謂也。孝成王臨武君曰。善。請問王者之兵。設何道而行。而可。荀卿曰。凡君賢者。其國治。君不能者。其國亂。隆禮貴義者。其國治。簡禮賤義者。其國亂。治者疆。亂者弱。是疆弱之本也。上足印。則下可用也。上不足印。則下不可用也。下可用則疆。下不可用則弱。是疆弱之常也。齊人隆技擊。其技也。得一首者。則賜贖鎰金。無本賞矣。是事小敵彘。則偷可用也。事大敵堅。則渙焉離耳。若飛鳥然。傾側反覆無

日。是亡國之兵也。兵莫弱是矣。是其去貨市。備而戰之幾矣。魏氏之武卒。以度取之。衣三屬之甲。操十二石之弩。負矢五十箇。置戈其上。冠胄帶劍。贏三日之糧。日中而趨百里。中試則復其戶。利其田宅。是其氣力。數年而衰。而復利未可奪也。改造則不易。周也。是故地雖大。其稅必寡。是危國之兵也。秦人。其生民也。陘隘。其使民也。酷烈。劫之以勢。隱之以慶。賞。鱗之以刑罰。使民所以要利於上者。非鬪無由也。使以功賞相長。五甲首而隸。五家。是最爲衆。疆長久之道。故四世有勝。非幸也。數也。故齊之技擊。不可以遇魏之武卒。魏之武卒。不可以遇秦之銳士。秦之銳士。不可以當桓文之節制。桓文之節制。不可以當湯武之仁義。有遇之者。若以焦熬投石焉。兼是數國者。皆干賞蹈利之兵也。傭徒鬻賣之道也。未有貴上安制。禁節之理也。諸侯有能微妙之。以節。則作而兼殆之耳。故招延募選。隆勢詐。上功利。是漸之也。禮義教化。是齊之也。故以詐遇詐。猶有巧拙焉。以詐遇齊。譬之猶以錐刀墮泰山也。故湯武之誅桀紂也。拱挹指麾。而疆暴之國。莫不趨使。誅桀紂。若誅獨夫。故秦誓曰。獨夫紂。此之謂也。故兵。大齊則制天下。小齊則治鄰敵。若夫招延募選。隆勢詐。上功利之兵。則勝不勝無常。代翁代張。代存代亡。相爲雌雄耳。夫是謂之盜兵。君子不由也。孝成王臨武君曰。善。請問爲將。荀卿曰。知莫大於棄疑。行莫大於無過。事莫大於無悔。事至無悔而止矣。不可必也。故制號政令。欲嚴以威。慶賞刑罰。欲必以信。處舍收藏。欲周以固。徒舉進退。欲安以重。欲疾以速。窺敵觀變。欲潛以深。欲伍以參。遇敵決戰。必行吾所明。無行吾所疑。夫是之謂六術。無欲將而惡廢。無怠勝而忘敗。無威內而輕外。無見其利而不顧其害。凡慮事欲熟。而用財欲泰。夫是之謂五權。將所以不受命於主有三。可殺而不可使。處不完。可殺而不可使。擊不勝。可殺而不可使。欺百姓。夫是之謂三至。凡受命於主。而行三軍。三軍既定。百官得序。羣物皆正。則主不能喜。敵不能怒。夫是謂之至臣。慮必先事。而申之以敬。慎終如始。始終如一。夫是



之謂大吉。凡百事之成也，必在敬之，其敗也，必在慢之。故敬勝，念則吉，怠勝，敬則滅，計勝，欲則從，欲勝，計則凶。戰如守，行如戰，有功如幸。敬，謀無曠，敬，事無曠，敬，吏無曠，敬，衆無曠，敬，敵無曠。夫是之謂五無曠。慎行此六術，五權三至，而處之以恭敬無曠，夫是之謂天下之將，則通於神明矣。臨武君曰：善。請問王者之軍制。荀卿曰：將死，鼓，御死，轡，百吏死，職，上大夫死，行，列，聞鼓聲而進，聞金聲而退。順命爲上，有功次之，令不進而進，猶令不退而退也。其罪惟均，不殺老弱，不獵禾稼，服者不禽，格者不赦，奔命者不獲，凡誅，非誅其百姓也。誅其亂百姓者也。百姓有悍其賊，則是亦賊也。以其順刃者生，僂刃者死，奔命者貢，微子開封於宋，曹觸龍斷於軍，商之服民，所以養生之者，無異周人。故近者誦謳而樂之，遠者竭蹶而趨之。無幽閒辟陋之國，莫不趨使而安樂之。四海之內，若一家，通達之屬，莫不從服。夫是之謂人師。詩曰：自西自東，自南自北，無思不服。此之謂也。王者有誅而無戰，城守不攻，兵格不擊，敵上下相喜，則慶之，不屠城，不潛軍，不留衆，師不越時，故亂者樂其政，不安其上，欲其至也。臨武君曰：善。陳豎問荀卿曰：先生議兵，常以仁義爲本，仁者愛人，義者循理，然則又何以兵爲？凡所爲有兵者，爲爭奪也。荀卿曰：非汝所知也。彼仁者愛人，愛人，故惡人之害之也。義者循理，循理，故惡人之亂之也。彼兵者，所以禁暴除害也，非爭奪也。○燕孝王薨，子喜立。○周民東亡，秦人取其寶器，遷西周公於豳，狐之聚。○楚王遷魯於莒，而取其地。

五十三年，遷伐魏，取吳城，韓王入朝，魏舉國聽命。

五十四年，王郊見上帝於雍。○楚遷於鉅陽。

五十五年，衛懷君朝於魏，魏人執而殺之，更立其弟，是爲元君。元君，魏婿也。

五十六年，秋，王薨，孝文王立，尊唐八子爲唐太后，以子楚爲太子。趙人奉子楚妻子歸之。韓王衰絰，入弔祠。○燕王喜使栗腹約歡於趙，以五百金爲趙王酒，反而言於燕王曰：趙壯者

皆死，長平，其孤未壯，可伐也。王召昌國君樂間問之，對曰：趙四戰之國，其民習兵，不可。王曰：吾以五而伐一，對曰：不可。王怒，羣臣皆以爲可，乃發二千乘，栗腹將而攻鄆，卿秦攻代，將渠曰：與人通關約交，以五百金飲人之王，使者報而攻之不祥，師必無功。王不聽，自將偏軍隨之。將渠引王之綬，王以足蹴之。將渠泣曰：臣非自爲爲王也。燕師至宋子，趙廉頗爲將，逆擊之，敗栗腹於鄆，敗卿秦樂乘於代，追北五百餘里，遂圍燕。燕人請和，趙人曰：必令將渠處和。燕王使將渠爲相，而處和。趙師乃解去。○趙平原君卒。

孝文王

元年，冬，十月，己亥，王卽位。三日，薨。子楚立，是爲莊襄王。尊華陽夫人爲華陽太后，夏姬爲夏太后。○燕將攻齊，聊城，拔之，或譖之燕王，燕將保聊城，不敢歸。齊田單攻之，歲餘不下。魯仲連乃爲書約之矢，以射城中，遺燕將，爲陳利害，曰：爲公計者，不歸燕則歸齊，今猶守孤城，齊兵日益，而燕救不至，將何爲乎？燕將見書，泣三日，猶豫不能自決，欲歸燕，已有隙，欲降齊，所殺虜於齊甚衆，恐已降而後見辱，喟然歎曰：與人刃我，寧我自刃。遂自殺。聊城亂，田單克聊城，歸。言魯仲連於齊，欲爵之。仲連逃之海上，曰：吾與富貴而詘于人，寧貧賤而輕于世，肆志焉。魏安釐王問天下之高士於子順，子順曰：世無其人也。抑可以爲次，其魯仲連乎。王曰：魯仲連，疆作之者，非體自然也。子順曰：人皆作之，作之不止，乃成君子，作之不變，習與體成，則自然也。

莊襄王

元年，呂不韋爲相國。○東周君與諸侯謀伐秦，王使相國帥師討滅之，遷東周君於陽人聚。



周既不祀。周比亡。凡有七邑。河南。洛陽。穀城。平陰。偃師。鞏。緱氏。○以河南洛陽十萬戶。封相國不韋。為文信侯。○蒙鶩伐韓。取成臯。滎陽。初置三川郡。○楚滅魯。遷魯頃公於下。為家人。二年。日有食之。○蒙鶩伐趙。取榆次。狼孟等。三十七城。○楚春申君言於楚王曰。淮北地邊於齊。其事急。請以為郡。而封於江東。楚王許之。春申君因城吳故墟。以為都邑。宮室極盛。三年。王齮攻上黨諸城。悉拔之。初置太原郡。○蒙鶩帥師伐魏。取高都。汲。魏師數敗。魏王患之。乃使人請信陵君於趙。信陵君畏得罪。不肯還。誠門下曰。有敢為魏使通者。死。賓客莫敢諫。毛公。薛公。見信陵君曰。公子所以重於諸侯者。徒以有魏也。今魏急。而公子不恤。一旦秦人克大梁。夷先王之宗廟。公子當何面目立天下乎。語未卒。信陵君色變。趣駕還魏。魏王持信陵君而泣。以為上將軍。信陵君使人求援於諸侯。諸侯聞信陵君復為魏將。皆遣兵救魏。信陵君率五國之師。敗蒙鶩於河外。蒙鶩遁走。信陵君追至函谷關。抑之而還。安陵人縮高之子。仕于秦。秦使之守管。信陵君攻之不下。使人謂安陵君曰。君其遣縮高。吾將仕之以五大夫。使為執節尉。安陵君曰。安陵小國也。不能必使其民。使者自往請之。使吏導使者。至縮高之所。使者致信陵君之命。縮高曰。君之幸高也。將使高攻管也。夫父攻子守。人之笑也。見臣而下。是倍主也。父教子倍。亦非君之所喜。敢再拜辭。使者以報信陵君。信陵君大怒。遣使之安陵君所。曰。安陵之地。亦猶魏也。今吾攻管而不下。則秦兵及我。社稷必危矣。願君生束縮高而致之。若君弗致。無忌將發十萬之師。以造安陵之城下。安陵君曰。吾先君成侯。受詔襄王。以守此城也。手授太府之憲。憲之上篇曰。臣弑君。子弑父。有常不赦。國雖大。赦降城亡子。不得與焉。今縮高辭大位。以全父子之義。而君曰。必生致之。是使我負襄王之詔。而廢太府之憲也。雖死。終不敢行。縮高聞之曰。信陵君為人。悍猛而自用。此辭必反。為國禍。吾已全己。無違入臣之義矣。豈可使吾君有魏患乎。乃之使者之舍。刎頸而死。信陵君聞之。縞素辟

舍。使使者謝安陵君曰。無忌小人也。困於思慮。失言於君。請再拜辭罪。王使人行萬金於魏。以間信陵君。求得晉鄙客。令說魏王曰。公子亡在外十年矣。今復為將。諸侯皆屬。天下徒聞信陵君。而不聞魏王矣。王又數使人賀信陵君。得為魏王。未也。魏王日聞其毀。不能不信。乃使人代信陵君將兵。信陵君自知再以毀廢。乃謝病不朝。日夜以酒色自娛。凡四歲而卒。韓王往弔。其子榮之。以告子順。子順曰。必辭之以禮。鄰國君弔。君為之主。今君不命子。則子無所受。韓君也。其子辭之。○五月丙午。王薨。太子政立。生十三年矣。國事皆決於文信侯。號稱仲父。○晉陽反。

始皇帝上

元年。蒙鶩擊定之。○韓欲疲秦人。使無東伐。乃使水工鄭國。為間於秦。鑿涇水。自仲山為渠。竝北山。東注洛。中作而覺。秦人欲殺之。鄭國曰。臣為韓延數年之命。然渠成。亦秦萬世之利也。乃使卒為之。注填闕之水。溉鹵鹵之地。四萬餘頃。收皆畝一鍾。關中由是益富饒。二年。庶公將卒攻卷。斬首三萬。○趙以廉頗為假相國。伐魏。取繁陽。趙孝成王薨。子悼襄王立。使武襄君樂乘代廉頗。廉頗怒。攻武襄君。武襄君走。廉頗出奔魏。久之。魏不能信用。趙師數困於秦。趙王思復得廉頗。廉頗亦思復用於趙。趙王使使者視廉頗。尚可用否。廉頗之仇郭開。多與使者金。令毀之。廉頗見使者。一飯斗。米肉十斤。被甲上馬。以示可用。使者還報曰。廉將軍雖老。尚善飯。然與臣坐。頃之。三遺矢矣。趙王以為老。遂不召。楚人陰使迎之。廉頗一為楚將。無功。曰。我思用趙人。卒死于壽春。三年。大饑。○蒙鶩伐韓。取十二城。○趙王以李牧為將。伐燕。取武遂。方城。李牧者。趙之北邊良將也。嘗居代。雁門。備匈奴。以便宜置吏。市租皆輸入莫府。為士卒費。日擊數牛。饗士。習騎



射謹烽火。多間諜。為約曰：匈奴即入盜，急入收保，有敢捕虜者，斬。匈奴每入，烽火謹，輒入收保，不戰。如是數歲，亦不亡失。匈奴皆以為怯。雖趙邊兵，亦以為吾將怯。趙王讓之，李牧如故。王怒，使佗人代之。歲餘，屢出戰，不利，多死亡。邊不得田畜。王復請李牧，李牧杜門稱病不出。王彊起之。李牧曰：「必欲用臣，如前，乃敢奉命。」王許之。李牧至邊，如約。匈奴數歲無所得，終以為怯。邊士日得賞賜，而不用，皆願一戰。於是乃具選車，得千三百乘，選騎得萬三千匹，百金之士五萬人，穀者十萬人，悉勒習戰。大縱畜牧，人民滿野。匈奴小人佯北不勝，以數千人委之。單于聞之，大率衆來入。李牧多為奇陳，張左右翼擊之，大破之，殺匈奴十餘萬騎，滅襜褕。破東胡，降林胡。單于奔走，十餘歲不敢近趙邊。先是天下冠帶之國七，而三國邊於戎狄。秦自隴以西，有縣諸緄戎、翟獯之戎，岐梁涇漆之北，有義渠、大荔、烏氏、朐衍之戎，而趙北有林胡、樓煩之戎，燕北有東胡。山戎各分散居谿谷，自有君長，往往而聚者，百有餘戎。然莫能相一。其後，義渠築城郭，以自守，而秦稍蠶食之。至惠王，遂拔義渠二十五城，昭王之時，宣太后誘義渠王，殺諸甘泉，遂發兵伐義渠，滅之。始於隴西北地，上郡築長城，以拒胡。趙武靈王北破林胡、樓煩，築長城，自代，並陰山下，至高闕，為塞，而置雲中、雁門、代郡。其後，燕將秦開為質于胡，胡甚信之，歸而襲破東胡。東胡却千餘里，燕亦築長城，自造陽至襄平，置上谷、漁陽、右北平、遼東郡，以拒胡，及戰國之末，而匈奴始大。

四年春，蒙驁伐魏，取囂。有詭三月，軍罷。○秦質子歸自趙，趙太子出歸國。○七月，蝗疫，令百姓納粟千石，拜爵一級。○魏安釐王薨，子景湣王立。  
五年，蒙驁伐魏，取酸棗、燕、虛、長平、雍丘、山陽等二十城。初置東郡。○初，劇辛在趙，與龐煖善，已而仕燕。燕王見趙數困於秦，廉頗去，而龐煖為將，欲因其敵而攻之，問於劇辛。對曰：「龐煖易與耳。燕王使劇辛將而伐趙，趙龐煖禦之，殺劇辛，取燕師二萬。」○諸侯患秦攻伐無已時。

六年，楚趙魏韓衛合從以伐秦。楚王為從長，春申君用事，取壽陵。至函谷，秦師出，五國之師皆敗走。楚王以咎春申君，春申君以此益疎。觀津人朱英謂春申君曰：「人皆以楚為彊，君用之而弱，其於英不然。先君時，秦善楚，二十年而不攻楚，何也？秦踰黽阨之塞而攻楚，不便，假道於兩周，背韓魏而攻楚，不可。今則不然，魏且暮亡，不能愛許，鄢陵魏割以與秦，秦兵去陳，百六十里，臣之所觀者，見秦楚之日鬪也。」楚於是去陳，徙壽春，命曰郢。春申君就封於吳，行相事。○秦拔魏朝歌及衛濮陽，衛元君率其支屬徙居野王，阻其山以保魏之河內。

七年，伐魏，取汲。○夏，太后薨。○蒙驁卒。  
八年，魏與趙鄰。○韓桓惠王薨，子安立。  
九年，伐魏，取垣蒲。○夏，四月，寒，民有凍死者。○王宿雍。○己酉，王冠帶劍。○楊端和伐魏，取衍氏。○初，王即位，年少，太后時與文信侯私通。王益壯，文信侯恐事覺禍及己，乃詐以舍人嫪毐為宦者，進於太后。太后幸之，生二子，封毐為長信侯。以太原為毐國，政事皆決於毐。客求為毐舍人者甚衆。王左右有與毐爭言者，告毐實非宦者。王下吏治毐，毐懼，矯王御璽，發兵欲攻蕲年宮，為亂。王使相國昌平君、昌文君發卒攻毐，咸陽斬首數百。毐敗走，獲之。秋九月，夷毐三族。黨與皆車裂滅宗，舍人罪輕者徙蜀。凡四千餘家，遷太后於雍，著陽宮，殺其二子。下令曰：「敢以太后事諫者，戮而殺之，斷其四支，積於闕下。死者二十七人，齊客茅焦上謁請諫。王使謂之曰：『若不見夫積闕下者邪？』對曰：『臣聞天有二十八宿，今死者二十七人，臣之來，固欲滿其數耳。臣非畏死者也，使者走入白之，茅焦邑子同食者，盡負其衣物而逃。王大怒曰：『是人也，故來犯吾，趣召鑊烹之。』是安得積闕下哉？王按劍而坐，口正沫出，使者召之入。茅焦徐行至前，再拜謁，起稱曰：『臣聞有生者不諱死，有國者不諱亡，諱死者不可以得生，諱亡者不可以得存，死生存亡，聖主所欲急聞也。陛下欲聞之乎？』王曰：『何謂也？』茅焦曰：『陛下



有狂悖之行。不自知邪。車裂假父。囊撲二弟。遷母於雍。殘戮諫士。桀紂之行。不至於是矣。令天下聞之。盡瓦解。無嚮秦者。臣竊爲陛下危之。臣言已矣。乃解衣伏質。王下殿。手自接之。曰。先生起就衣。今願受事。乃爵之上卿。王自駕虛左方。往迎太后。歸於咸陽。復爲母子如初。○楚考烈王無子。春申君患之。求婦人宜子者甚衆。進之。卒無子。趙人李園持其妹。欲進諸楚王。聞其不宜子。恐久無寵。乃求爲春申君舍人。已而謁歸。故失期而還。春申君問之。李園曰。齊王使人求臣之妹。與其使者飲。故失期。春申君曰。聘入乎。曰。未也。春申君遂納之。既而有娠。李園使其妹說春申君曰。楚王貴幸君。雖兄弟不如也。今君相楚二十餘年。而王無子。即百歲後。將更立兄弟。彼亦各貴。其故所親。君又安得常保此寵乎。非徒然也。君貴用事久。多失禮於王之兄弟。兄弟立。禍且及身矣。今妾有娠。而人莫知。妾幸君未久。誠以君之重。進妾於王。王必幸之。妾賴天而有男。則是君之子爲王也。楚國盡可得。孰與身臨不測之禍哉。春申君大然之。乃出李園妹。謹舍。而言諸楚王。王召入幸之。遂生男。立爲太子。李園妹爲王后。李園亦貴用事。而恐春申君泄其語。陰養死士。欲殺春申君。以滅口。國人頗有知之者。楚王病。朱英謂春申君曰。世有無望之福。亦有無望之禍。今君處無望之世。事無望之主。安可以無無望之人乎。春申君曰。何謂無望之福。曰。君相楚二十餘年矣。雖名相國。其實王也。王今病。且暮薨。而君相幼主。因而當國。王長而反政。不即遂南面稱孤。此所謂無望之福也。何謂無望之禍。曰。李園不治國。而君之仇也。不爲兵。而養死士之日久矣。王薨。李園必先入。據權而殺君。以滅口。此所謂無望之禍也。何謂無望之人。曰。君置臣郎中。王薨。李園先入。臣爲君殺之。此所謂無望之人也。春申君曰。足下置之。李園弱人也。僕又善之。且何至此。朱英知言不用。懼而亡去。後十七日。楚王薨。李園果先入。伏死士於棘門之內。春申君入。死士俠刺之。投其首於棘門之外。於是使吏盡捕誅春申君之家。太子立。是爲幽王。

楊子法言曰。或問信陵平原孟嘗春申益乎。曰。上失其政。姦臣竊國命。何其益乎。

王以文信侯奉先王功大。不忍誅。十年冬。十月。文信侯免相。出就國。宗室大臣議曰。諸侯人來仕者。皆爲其主遊間耳。請一切逐之。於是大索逐客。客卿楚人李斯亦在逐中。行且上書曰。昔穆公求士。西取由余於戎。東得百里奚於宛。迎蹇叔於宋。求丕豹公孫支於晉。并國二十。遂霸西戎。孝公用商鞅之法。諸侯親服。至今治彊。惠王用張儀之計。散六國之從。使之事秦。昭王得范雎。彊公室。杜私門。此四君者。皆以客之功。由此觀之。客何負於秦哉。夫色樂珠玉。不產於秦。而王服御者衆。取人則不然。不問可否。不論曲直。非秦者去。爲客者逐。是所重者在乎色樂珠玉。而所輕者在乎人民也。臣聞太山不讓土壤。故能成其大。河海不擇細流。故能就其深。王者不却衆庶。故能明其德。此五帝三王之所以無敵也。今乃棄黔首以資敵國。却賓客以業諸侯。所謂藉寇兵。齎盜糧者也。王乃召李斯。復其官。除逐客之令。李斯至。驪邑而還。王卒用李斯之謀。陰遣辯士。齎金玉。遊說諸侯。諸侯名士。可下以財者。厚遺結之。不肯者。利劍刺之。離其君臣之計。然後使良將隨其後。數年之中。卒兼天下。十一年。趙人伐燕。取狸陽。兵未罷。將軍王翦。桓騎。楊端和。伐趙。攻鄴。取九城。王翦攻闕與。轅陽。桓騎取鄴安陽。○趙悼襄王薨。子幽繆王遷立。其母倡也。嬖於悼襄王。悼襄王廢嫡子嘉。而立之。遷素以無行聞於國。○文信侯就國歲餘。諸侯賓客使者相望於道。請之。王恐其爲變。乃賜文信侯書曰。君何功於秦。封君河南。食十萬戶。何親於秦。號稱仲父。其與家屬徙處蜀。文信侯自知稍侵。恐誅。十二年。文信侯飲酖死。竊葬。其舍人臨者。皆逐遷之。且曰。自今以來。操國事不道。如嫪毐不韋者。籍其門視此。



楊子法言曰。或問呂不韋其智矣乎。以人易貨。曰。誰謂不韋智者歟。以國易宗。呂不韋之盜穿窬之雄乎。穿窬也者。吾見擔石矣。未見維陽也。

自六月不雨。至于八月。○發四郡兵助魏伐楚。

十三年。桓齮伐趙。敗趙將扈輒於平陽。斬首十萬。殺扈輒。趙王以李牧爲大將軍。復戰於宜安。肥下。秦師敗績。桓齮奔還。趙封李牧爲武安君。

十四年。桓齮伐趙。取宜安。平陽。武城。○韓王納地効璽。請爲藩臣。使韓非來聘。韓非者。韓之諸公子也。善刑名滲術之學。見韓之削弱。數以書干韓王。王不能用。於是韓非疾治國不務求人任賢。反舉浮淫之蠹。而加之功實之上。寬則寵名譽之人。急則用介冑之士。所養非所用。所用非所養。悲廉直不容於邪枉之臣。觀往者得失之變。作孤憤。五蠹。內外儲說林。說難。五十六篇。十餘萬言。王聞其賢。欲見之。非爲韓使於秦。因上書說王曰。今秦地方數千里。師名百萬。號令賞罰。天下不如。臣昧死願望見大王。言所以破天下從之計。大王誠聽臣說。一舉而天下之從不破。趙不舉。韓不亡。荆魏不臣。齊燕不親。霸王之名不成。四鄰諸侯不朝。大王斬臣以徇國。以戒爲王。謀不忠者也。王悅之。未任用。李斯嫉之。曰。韓非。韓之諸公子也。今欲并諸侯。非終爲韓。不爲秦。此人情也。今王不用。久留而歸之。此自遺患也。不如以法誅之。王以爲然。下吏治非。李斯使人遺非藥。令早自殺。韓非欲自陳。不得見。王後悔。使人赦之。非已死矣。

楊子法言曰。或問韓非作說難之書。而卒死乎說難。敢問。何反也。曰。說難。蓋其所以死乎。曰。何也。君子以禮動。以義止。合則進。否則退。確乎不憂其不合也。夫說人而憂其不合。則亦無所不至矣。或曰。非憂說之不合。非邪。曰。說不由道。憂也由道。而不合。非憂也。臣光曰。臣聞君子親其親。以及人之親。愛其國。以及人之國。是以功大名美。而享有百福。

也。今非爲秦畫謀。而首欲覆其宗國。以售其言。罪固不容於死矣。烏足愍哉。

十五年。王大興師伐趙。一軍抵鄴。一軍抵太原。取狼孟番吾。遇李牧而還。○初。燕太子丹嘗質于趙。與王善。王卽位。丹爲質於秦。王不禮焉。丹怒。亡歸。

十六年。韓獻南陽地。九月。發卒。受地於韓。○魏人獻地。○代地震。自樂徐以西北至平陰。臺屋牆垣。大半壞。地坼。東西百三十步。

十七年。內史勝滅韓。虜韓王安。以其地置潁川郡。○華陽太后薨。○趙大饑。○衛元君薨。子角立。

十八年。王翦將上地兵。下井陘。端和將河內兵。共伐趙。趙李牧司馬尙禦之。秦人多與趙王嬖臣郭開金。使毀牧及尙。言其欲反。趙王使趙葱及齊將顏聚代之。李牧不受命。趙人捕而殺之。廢司馬尙。

十九年。王翦擊趙軍。大破之。殺趙葱。顏聚亡。遂克邯鄲。虜趙王遷。王如邯鄲。故與母家有仇怨者。皆殺之。還從太原上郡歸。○太后薨。○王翦屯中山。以臨燕。趙公子嘉帥其宗數百人。犇代。自立爲代王。趙之亡大夫。稍稍歸之。與燕合兵。軍上谷。○楚幽王薨。國人立其弟郝。三。月。郝庶兄負芻殺之自立。○魏景湣王薨。子假立。○燕太子丹怨王。欲報之。以問其傅鞠武。鞠武請西約三晉。南連齊楚。北構匈奴。以圖秦。太子曰。太傅之計。曠日彌久。令人心惛然。恐不能須也。頃之。將軍樊於期得罪。亡之燕。太子受而舍之。鞠武諫曰。夫以秦王之暴。而積怒於燕。足爲寒心。又况聞樊將軍之所在乎。是謂委肉當餓虎之蹊也。願太子疾遣樊將軍入匈奴。太子曰。樊將軍窮困於天下。歸身於丹。是固丹命卒之時也。願更慮之。鞠武曰。夫行危以求安。造禍以爲福。計淺而怨深。連結一人之後交。不顧國家之大害。所謂資怨而助禍矣。太子不聽。太子聞衛人荊軻之賢。卑辭厚禮。而請見之。謂軻曰。今秦已虜韓王。又舉兵南伐。



楚北臨趙。趙不能支秦，則禍必至於燕。燕小弱，數困於兵，何足以當秦？諸侯服秦，莫敢合從。丹之私計，愚以為誠得天下之勇士，使於秦，劫秦王，使悉反諸侯侵地。若曹沫之與齊桓公，則大善矣。不可，則因而刺殺之。彼大將，擅兵於外，而內有亂，則君臣相疑，以其間，諸侯得合從。其破秦必矣。唯荆卿留意焉。荆卿許之。於是舍荆卿於上舍。太子日造門下，所以奉養荆卿，無所不至。及王翦滅趙，太子聞之，懼，欲遣荆卿行。荆卿曰：「今行而無信，則秦未可親也。誠得樊將軍首，與燕督亢之地圖，奉獻秦王，秦王必說見臣，臣乃有以報太子。」曰：「樊將軍窮困，來歸丹，丹不忍也。」荆卿乃私見樊於期，曰：「秦之遇將軍，可謂深矣。父母宗族，皆為戮沒。今聞購將軍首，金千斤，邑萬家，將奈何？」於期太息流涕曰：「計將安出？」荆卿曰：「願得將軍之首，以獻秦王，秦王必喜而見臣，臣左手把其袖，右手搥其胸，則將軍之仇報，而燕見陵之愧除矣。樊於期曰：「此臣之日夜切齒腐心也。」遂自刎。太子聞之，犇往伏哭，然已無奈何。遂以函盛其首，燕勇士秦舞陽為之副，使入秦。

資治通鑑卷第六

資治通鑑卷第七

秦紀一一

始皇帝下

二十年，荆軻至咸陽，因王寵臣蒙嘉卑辭以求見。王大喜，朝服，設九賓而見之。荆軻奉圖而進於王，圖窮而匕首見，因把王袖而搥之。未至身，王驚起，袖絕，荆軻逐王。王環柱而走，羣臣皆愕，卒起不意，盡失其度。而秦法，羣臣侍殿上者，不得操尺寸之兵，左右以手共搏之。且曰：「王負劍，負劍，王遂拔以擊荆軻，斷其左股，荆軻廢乃引匕首擗王，中銅柱，自知事不就，罵曰：『事所以不成者，以欲生劫之，必得約契，以報太子也。』遂體解荆軻以徇。王於是大怒，益發兵詣趙，就王翦以伐燕。與燕師代師戰於易水之西，大破之。

二十一年冬十月，王翦拔薊燕王及太子，率其精兵，東保遼東。李信急追之，代王嘉遣燕王書，令殺太子丹，以獻丹。匿衍水中。燕王使使斬丹，欲以獻王。王復進兵攻之。○王賁伐楚，取十餘城。王問於將軍李信曰：「吾欲取荆，於將軍度，用幾何人而足？」李信曰：「不過用二十萬人。」以問王翦。王翦曰：「非六十萬人不可。」王曰：「王將軍老矣，何怯也？遂使李信、蒙恬將二十萬人伐楚。王翦因謝病歸頻陽。」

二十二年，王賁伐魏，引河溝，以灌大梁。三月，城壞。魏王假降，殺之。遂滅魏。王使人謂安陵君曰：「寡人欲以五百里地易安陵。」安陵君曰：「大王加惠，以大易小，甚幸。雖然，臣受地於魏之先王，願終守之，弗敢易。王義而許之。」○李信攻平輿，蒙恬攻寢，大破楚軍。信又攻鄢郢，破之。於



是引兵而西與蒙恬會城父。楚人因隨之。三日三夜不頓舍。大敗李信。入兩壁。殺七都尉。李信奔還。王聞之大怒。自至頻陽。謝王翦曰。寡人不用將軍謀。李信果辱秦軍。將軍雖病。獨忍棄寡人乎。王翦謝病不能將。王曰。已矣。勿復言。王翦曰。必不得已用臣。非六十萬人不可。王曰。為聽將軍計耳。於是王翦將六十萬人伐楚。王送至霸上。王翦請美田宅甚衆。王曰。將軍行矣。何憂貧乎。王翦曰。為大王將有功。終不得封侯。故及大王之嚮臣。以請田宅。為子孫業耳。王大笑。王翦既行至關。使使還請善田者五輩。或曰。將軍之乞貸亦已甚矣。王翦曰。不然。王怛中而不信人。今空國中之甲士而專委於我。我不多請田宅。為子孫業。以自堅。願令王坐而疑我矣。

二十三年。王翦取陳以南。至平輿。楚人聞王翦益軍而來。乃悉國中兵以禦之。王翦堅壁不與戰。楚人數挑戰。終不出。王翦日休士洗沐。而善飲食撫循之。親與士卒同食。久之。王翦使人問軍中戲乎。對曰。方投石超距。王翦曰。可用矣。楚既不得戰。乃引而東。王翦追之。令壯士擊大破楚師。至蕲南。殺其將軍項燕。楚師遂敗走。王翦因乘勝略定城邑。

二十四年。王翦蒙武虜楚王負芻。以其地置楚郡。

二十五年。大興兵。使王賁攻遼東。虜燕王喜。臣光曰。燕丹不勝一朝之忿。以犯虎狼之秦。輕虛淺謀。挑怨速禍。使召公之廟不祀。忽諸罪孰大焉。而論者或謂之賢。豈不過哉。夫為國家者。任官以才。立政以禮。懷民以仁。交鄰以信。是以官得其人。政得其節。百姓懷其德。四鄰親其義。夫如是。則國家安如磐石。熾如焱火。觸之者碎。犯之者焦。雖有彊暴之國。尚何足畏哉。丹釋此不為。顧以萬乘之國。決匹夫之怒。逞盜賊之謀。功隳身戮。社稷為墟。不亦悲哉。夫其膝行蒲伏。非恭也。復言重諾。非信也。糜金散玉。非惠也。刎首決腹。非勇也。要之謀不遠而動不義。其楚白公勝之流乎。荆

軻懷其豢養之私。不顧七族。欲以尺八七首。彊燕而弱秦。不亦愚乎。故楊子論之。以要離為蛛蝥之靡。聶政為壯士之靡。荆軻為刺客之靡。皆不可謂之義。又曰。荆軻君子盜諸善哉。

王賁攻代。虜代王嘉。○王翦悉定荆江南地。降百越之君。置會稽郡。○五月。天下大酺。○初。齊君王后賢。事秦謹。與諸侯信。齊亦東邊海上。秦日夜攻三晉燕楚。五國各自救。以故齊王建立四十餘年。不受兵。及王后且死。戒王建曰。羣臣之可用者。某。王曰。請書之。王后曰。善。王取筆牘。受言。王后曰。老婦已忘矣。王后死。后勝相齊。多受秦間金。賓客入秦。秦又多與金。客皆為反間。勸王朝秦。不修攻戰之備。不助五國攻秦。秦以故得滅五國。齊王將入朝。雍門司馬前曰。所為立王者。為社稷邪。為王邪。王曰。為社稷。司馬曰。為社稷立王。王何以去社稷。而入秦。齊王還軍而反。即墨大夫聞之。見齊王曰。齊地方數千里。帶甲數百萬。夫三晉大夫皆不便秦。而在阿甄之間者。百數。王收而與之。百萬人。之衆。使收三晉之故地。即臨晉之關。可以入矣。鄆郢大夫。不欲為秦。而在城南下者。百數。王收而與之。百萬之師。使收楚故地。即武關。可以入矣。如此。則齊威可立。秦國可亡。豈特保其國家而已哉。齊王不聽。二十六年。王賁自燕南攻齊。猝入臨淄。民莫敢格者。秦使人誘齊王。約封以五百里之地。齊王遂降。秦遷之共處。之松柏之間。餓而死。齊人怨王建。不早與諸侯合從。聽姦人賓客。以亡其國。歌之曰。松柏耶。松柏耶。住建共者客耶。疾建用客之不詳也。

臣光曰。從衡之說。雖反覆百端。然大要合從者。六國之利也。昔先王建萬國。親諸侯。使之朝聘以相交。饗宴以相樂。會盟以相結者。無它。欲其同心勦力。以保家國也。歸使六國。能以信義相親。則秦雖彊暴。安得而亡之哉。夫三晉者。齊楚之藩蔽。齊楚者。三晉之根柢。形勢相資。表裏相依。故以三晉而攻齊楚。自絕其根柢也。以齊楚而攻三晉。自撤其藩蔽也。



安有撤其藩蔽以媚盜。曰：盜將愛我而不攻，豈不悖哉。

王初并天下，自以爲德兼三皇，功過五帝，乃更號曰皇帝，命爲制，令爲詔，自稱曰朕，追尊莊襄王爲太上皇。制曰：死而以行爲謚，則是子議父，臣議君也。甚無謂。自今以來，除謚法。朕爲始皇帝，後世以計數。二世三世，至于萬世，傳之無窮。○初，齊威宣之時，鄒衍論著終始五德之運，及始皇并天下，齊人奏之。始皇采用其說，以爲周得火德，秦代周從，所不勝爲水德。始改年，朝賀皆自十月朔，衣服旌旄節旗，皆尚黑，數以六爲紀。○丞相綰言：燕齊荆地遠，不爲置王，無以鎮之。請立諸子。始皇下其議，廷尉斯曰：周文武所封，子弟同姓甚衆，然後屬疏遠，相攻擊如仇讎。周天子弗能禁止，今海內賴陛下神靈，一統皆爲郡縣，諸子功臣，以公賦稅重賞賜之，甚足易制。天下無異意，則安寧之術也。置諸侯，不便。始皇曰：天下共苦戰鬪不休，以有侯王，賴宗廟，天下初定，又復立國，是樹兵也。而求其寧息，豈不難哉。廷尉議是，分天下爲三十六郡，郡置守尉監，收天下兵，聚咸陽，銷以爲鐘鐻，金人十二，重各千石，置宮庭中。一法度衡石丈尺，徙天下豪桀於咸陽，十二萬戶。諸廟及章臺上林，皆在渭南，每破諸侯，寫放其宮室，作之咸陽北阪上。南臨渭，自雍門以東，至涇渭，殿屋復道，周閣相屬，所得諸侯美人鐘鼓，以充入之。

二十七年，始皇巡隴西北地，至雞頭山，過回中焉。作信宮渭南，已。更命曰極廟，自極廟，道通驪山，作甘泉前殿，築甬道，自咸陽屬之，治馳道於天下。

二十八年，始皇東行郡縣，上鄒嶧山，立石頌功業。於是召集魯儒生七十人，至泰山下，議封禪。諸儒或曰：古者封禪爲蒲車，惡傷山之土石草木，掃地而祭，席用菹積，議各乖異。始皇以其難施用，由此紕儒生，而遂除車道。上自太山陽，至顛，立石頌德，從陰道下。禪於梁父，其禮頗采太祝之祀，雍上帝所用，而封藏皆祕之。世不得而記也。於是始皇遂東游海上，行禮祠

名山大川及八神。始皇南登琅邪，大樂之，留三月，作琅邪臺，立石頌德，明得意。初，燕人宋毋忌、羨門子高之徒，稱有僊道形解銷化之術。燕齊迂怪之士，皆爭傳習之。自齊威王、宣王、燕昭王，皆信其言，使人入海求蓬萊方丈瀛洲。云：此三神山，在勃海中，去人不遠，患且至，則風引船去，嘗有至者，諸僊人及不死之藥，皆在焉。及始皇至海上，諸方士齊人徐市等，爭上書言之，請得齊戒，與童男女求之。於是遣徐市發童男女數千人，入海求之。船交海中，皆以風爲解，曰：未能至，望見之焉。始皇還，過彭城，齊戒禱祠，欲出周鼎泗水，使千人沒水求之，弗得。乃西南渡淮水，之衡山南郡，浮江，至湘山祠，逢大風，幾不能渡。上問博士曰：湘君何神，對曰：聞之堯女，舜之妻，葬此。始皇大怒，使刑徒三千人，皆伐湘山樹，赭其山，遂自南郡，由武關歸。○初，韓人張良，其父祖以上五世相韓，及韓亡，良散千金之產，欲爲韓報仇。

二十九年，始皇東游，至陽武博浪沙中，張良令力士操鐵椎，狙擊始皇，誤中副車。始皇驚，求弗得，令天下大索十日。始皇遂登之罘，刻石旋之琅邪，道上黨入。

三十一年，使黔首自實田。

三十二年，始皇之碣石，使燕人盧生求羨門，刻碣石門，壞城郭，決通隄坊。始皇巡北邊，從上郡入，盧生使入海還，因奏錄圖書曰：亡秦者胡也。始皇乃遣將軍蒙恬發兵三十萬人，北伐匈奴。

三十三年，發諸嘗逋亡人，贅墾，賈人爲兵，略取南越陸梁地，置桂林南海象郡，以謫徙民五十萬人戍五嶺，與越雜處。○蒙恬斥逐匈奴，收河南地，爲四十四縣，築長城，因地形，用制險塞，起臨洮，至遼東，延袤萬餘里。於是渡河，據陽山，逶迤而北，暴師於外，十餘年，蒙恬常居上郡，統治之，威振匈奴。

三十四年，謫治獄吏不直，及覆獄故失者，築長城，及處南越地。丞相李斯上書曰：異時，諸侯



竝爭厚招游學。今天下已定，法令出一，百姓當家，則力農工，士則學習法令。今諸生不師今而學古，以非當世，惑亂黔首，相與非法教。人聞令下，則各以其學議之，入則心非，出則巷議，誇主以爲名，異趣以爲高，率羣下以造謗，如此弗禁，則主勢降乎上，黨與成乎下，禁之便。臣請史官非秦記皆燒之，非博士官所職，天下有藏詩書百家語者，皆詣守尉雜燒之，有敢偶語詩書，棄市。以古非今者，族。吏見知不舉，與同罪。令下三十日，不燒黥爲城旦，所不去者，醫藥卜筮種樹之書。若有欲學法令者，以吏爲師。制曰：可。魏人陳餘謂孔鮒曰：秦將滅先王之籍，而子爲書籍之主，其危哉！子魚曰：吾爲無用之學，知吾者惟友，秦非吾友，吾何危哉！吾將藏之，以待其求，求至無患矣。

三十五年，使蒙恬除直道，道九原，抵雲陽，塹山堙谷，千八百里，數年不就。○始皇以爲咸陽人多，先王之宮庭小，乃營作朝宮，渭南上林苑中，先作前殿，阿房東西五百步，南北五十丈，上可以坐萬人，下可以建五丈旗，周馳爲閣道，自殿下直抵南山，表南山之顛以爲闕，爲複道，自阿房度渭，屬之咸陽，以象天極閣道絕漢，抵營室也。隱宮徒刑者七十萬人，乃分作阿房宮，或作驪山，發北山石棹，寫蜀荆地材，皆至關中，計宮三百，關外四百餘。於是立石東海上，胸界中，以爲秦東門，因徙三萬家驪邑，五萬家雲陽，皆復不事十歲。○盧生說始皇曰：方中人主時爲微行，以辟惡鬼，惡鬼辟，真人至，願上所居宮，毋令人知，然後不死之藥，殆可得也。始皇曰：吾慕真人，自謂真人，不稱朕，乃令咸陽之旁二百里內，宮觀二百七十，複道甬道相連，帷帳鐘鼓，美人充之，各案署不移徙，行所幸，有言其處者，罪死。始皇幸梁山宮，從山上見丞相車騎衆，弗善也，中人或告丞相，丞相後損車騎。始皇怒曰：此中人泄吾語，案問莫服，捕時在旁者，盡殺之，自是後，莫知行之所在。羣臣受決事者，悉於咸陽宮，侯生、盧生相與譏議，始皇因亡去，始皇聞之，大怒曰：盧生等，吾尊賜之甚厚，今乃誹謗我，諸生在咸陽者，吾使

人廉問，或爲妖言，以亂黔首，於是使御史悉案問諸生，諸生傳相告引，乃自除，犯禁者四百六十餘人，皆阬之咸陽，使天下知之，以懲後，益發謫徙邊。始皇長子扶蘇諫曰：諸生皆誦法孔子，今上皆重法繩之，臣恐天下不安。始皇怒，使扶蘇北監蒙恬軍於上郡。三十六年，有隕石于東郡，或刻其石曰：始皇死而地分。始皇使御史逐問，莫服，盡取石旁居人誅之，燔其石。○遷河北榆中三萬家，賜爵一級。

三十七年冬，十月癸丑，始皇出游，左丞相斯從，右丞相去疾守，始皇二十餘子，少子胡亥最愛，請從，上許之。十一月，行至雲夢，望祀虞舜於九疑山，浮江下，觀籍柯，渡海渚，過丹陽，至錢唐，臨浙江，水波惡，乃西百二十里，從陘中渡，上會稽，祭大禹，望于南海，立石頌德，還過吳，從江乘渡，竝海上，北至琅邪之罘，見巨魚射殺之，遂竝海西，至平原津，而病，始皇惡言死，羣臣莫敢言死事，病益甚，乃令中車府令符璽事趙高爲書，賜扶蘇曰：與喪會咸陽，而葬，書已封，在趙高所，未付使者。秋七月丙寅，始皇崩於沙丘平臺，丞相斯爲上崩在外，恐諸公子及天下有變，乃祕之，不發喪，棺載輜涼車中，故幸宦者驂乘，所至上食，百官奏事如故，宦者輒從車中，可其奏事，獨胡亥、趙高及幸宦者五六人知之。初，始皇尊寵蒙氏，信任之，蒙恬任外將，蒙毅常居中參謀議，名爲忠信，故雖諸將相莫敢與之爭。趙高者，生而隱宮，始皇聞其彊力，通於獄法，舉以爲中車府令，使教胡亥決獄。胡亥幸之，趙高有罪，始皇使蒙毅治之，毅當高法，應死，始皇以高敏於事，赦之，復其官。趙高既雅得幸於胡亥，又怨蒙氏，乃說胡亥，請詐以始皇命誅扶蘇，而立胡亥爲太子，胡亥然其計。趙高曰：不與丞相謀，恐事不能成，乃見丞相斯曰：上賜長子書，及符璽，皆在胡亥所，定太子，在君侯與高之口耳，事將何如？斯曰：安得亡國之言，此非人臣所當議也。高曰：君侯材能謀慮，功高無怨，長子信之，此五者皆孰與蒙恬？斯曰：不及也。高曰：然則長子卽位，必用蒙恬爲丞相，君侯終不懷通侯之印，歸鄉里，明矣。



胡亥慈仁篤厚。可以爲嗣。願君審計而定之。丞相斯以爲然。乃相與謀。詐爲受始皇詔。立胡亥爲太子。更爲書。賜扶蘇數以不能闢地立功。士卒多耗。數上書。直言誹謗。日夜怨望。不得罷歸。爲太子。將軍恬不矯正。知其謀。皆賜死。以兵屬裨將王離。扶蘇發書泣。入內舍。欲自殺。蒙恬曰。陛下居外。未立太子。使臣將三十萬衆守邊。公子爲監。此天下重任也。今一使者來。卽自殺。安知其非詐。復請而後死。未暮也。使者數趣之。扶蘇謂蒙恬曰。父賜子死。尙安復請。卽自殺。蒙恬不肯死。使者以屬吏繫諸陽周。更置李斯舍人。爲護軍。還報。胡亥已聞扶蘇死。卽欲釋蒙恬。會蒙毅爲始皇出禱山川。還至。趙高言於胡亥曰。先帝欲舉賢立太子久矣。而毅諫以爲不可。不若誅之。乃繫諸代。遂從井陘。抵九原。會暑。輜車臭。乃詔從官。令車載一石鮑魚。以亂之。從直道至咸陽。發喪。太子胡亥襲位。九月。葬始皇於驪山下。鋼三泉。奇器珍怪。徙藏滿之。令匠作機弩。有穿近者。輒射之。以水銀爲百川。江河大海。機相灌輸。上具天文。下具地理。後宮無子者。皆令從死。葬既已下。或言工匠爲機藏皆知之。藏重卽泄。大事盡。閉之墓中。○二世欲誅蒙恬兄弟。二世兄子嬰諫曰。趙王遷殺李牧。而用顏聚。齊王建殺其故世忠臣。而用后勝。卒皆亡國。蒙氏秦之大臣謀士也。而陛下欲一旦棄去之。誅殺忠臣。而立無節行之人。是內使羣臣不相信。而外使鬪士之意離也。二世弗聽。遂殺蒙毅。及內史恬恬曰。自吾先人及至子孫。積功信於秦三世矣。今臣將兵三十餘萬。身雖囚繫。其勢足以倍畔。然自知必死而守義者。不敢辱先人之教。以不忘先帝也。乃吞藥自殺。

楊子法言曰。或問蒙恬忠而被誅。忠奚可爲也。曰。塹山堙谷。起臨洮。擊遼水。力不足。而屍有餘。忠不足相也。  
臣光曰。始皇方毒天下。而蒙恬爲之使。恬不仁可知矣。然恬明於爲人臣之義。雖無罪見誅。能守死不貳。斯亦足稱也。

### 二世皇帝上

元年。冬十月。戊寅。大赦。○春。二世東行郡縣。李斯從。到碣石。竝海南至會稽。而盡刻始皇所立刻石旁。著大臣從者名。以章先帝成功盛德。而還。夏四月。二世至咸陽。謂趙高曰。夫人生居世間也。譬猶騁六驥。過決隙也。吾既已臨天下矣。欲悉耳目之所好。窮心志之所樂。以終吾年壽。可乎。高曰。此賢主之所能行。而昏亂主之所禁也。雖然。有所未可。臣請言之。夫沙丘之謀。諸公子及大臣皆疑焉。而諸公子盡帝兄。大臣又先帝之所置也。今陛下初立。此其屬意怏怏。皆不服。恐爲變。臣戰戰栗栗。唯恐不終。陛下安得爲此樂乎。二世曰。爲之奈何。趙高曰。陛下嚴法而刻刑。令有罪者相坐。誅滅大臣及宗室。然後收舉遺民。貧者富之。賤者貴之。盡除先帝之故臣。更置陛下之所親信者。此則陰德歸陛下。害除而姦謀塞。羣臣莫不被潤澤。蒙厚德。陛下則高枕肆志寵樂矣。計莫出於此。二世然之。乃更爲法律。務益刻深。大臣諸公子有罪。輒下高鞫治之。於是公子十二人。僇死咸陽市。十公主。死於杜。財物入於縣官。相連逮者。不可勝數。公子將閻昆弟三人。囚於內宮。議其罪。獨後。二世使使令將閻曰。公子不臣。罪當死。吏致法焉。將閻曰。闕廷之禮。吾未嘗敢不從。賓贊也。廊廟之位。吾未嘗敢失節也。受命應對。吾未嘗敢失辭也。何謂不臣。願聞罪而死。使者曰。臣不得與謀。奉書從事。將閻乃仰天大呼。天者三曰。吾無罪。昆弟三人。皆流涕。拔劍自殺。宗室振恐。公子高欲奔。恐收族。乃上書曰。先帝無恙時。臣入則賜食。出則乘輿。御府之衣。臣得賜之。中厩之寶馬。臣得賜之。臣當從死。而不能。爲人子不孝。爲人臣不忠。不忠者無名。以立於世。臣請從死。願葬驪山之足。唯上幸哀憐之。書上。二世大說。召趙高而示之。曰。此可謂急乎。趙高曰。人臣當憂死。不暇。何變之得謀。二世可其書。賜錢十萬以葬。○復作阿房宮。盡徵材士五萬人。爲屯衛咸



陽令教射。狗馬禽獸當食者多，度不足，下調郡縣，轉輸菽粟芻藁，皆令自齎糧食。咸陽三百里內不得食其穀。○秋七月，陽城人陳勝、陽夏人吳廣起兵於蕲，是時發閭左戍漁陽，九百人屯大澤鄉。陳勝、吳廣皆爲屯長。會天大雨，道不通，度已失期，失期法皆斬，陳勝、吳廣因天下之愁怨，乃殺將尉，召令徒屬曰：「公等皆失期，失期當斬，假令毋斬，而戍死者固什六七。且壯士不死則已，死即舉大名耳，王侯將相寧有種乎？」衆皆從之。乃詐稱公子扶蘇、項燕爲壇而盟，稱大楚，陳勝自立爲將軍，吳廣爲都尉，攻大澤鄉，拔之，收而攻蕲，蕲下，乃令符離人葛嬰將兵，徇蕲以東，攻鉅野、苦、柘、譙，皆下之。行收兵，比至陳，車六七百乘，騎千餘，卒數萬人。攻陳，陳守尉皆不在，獨守丞與戰譙門中，不勝，守丞死，陳勝入據陳，初，大梁人張耳、陳餘相與爲刎頸交，秦滅魏，聞二人魏之名士，重賞購求之。張耳、陳餘乃變名姓，俱之陳，爲里監門，以自食。里吏嘗以過笞陳餘，陳餘欲起，張耳躡之，使受笞，吏去，張耳乃引陳餘之桑下，數之曰：「始吾與公言何如，今見小辱而欲死一吏乎？」陳餘謝之。陳涉既入陳，張耳、陳餘詣門上謁，陳涉素聞其賢，大喜，陳中豪桀父老請立涉爲楚王，涉以問張耳、陳餘，耳餘對曰：「秦爲無道，滅人社稷，暴虐百姓，將軍出萬死之計，爲天下除殘也，今始至陳而王之，示天下私，願將軍毋王，急引兵而西，遣人立六國後，自爲樹黨，爲秦益敵，敵多則力分，與衆則兵彊，如此則野無交兵，縣無守城，誅暴秦，據咸陽，以令諸侯，諸侯亡而得立，以德服之，則帝業成矣。今獨王陳，恐天下懈也。陳涉不聽，遂自立爲王，號張楚，當是時，諸郡縣苦秦法，爭殺長吏，以應涉，謁者從東方來，以反者聞，二世怒，下之吏，後使者至上問之，對曰：「羣盜鼠竊，郡守尉方逐捕，今盡得，不足憂也。」上悅。○陳王以吳叔爲假王，監諸將，以西擊滎陽，張耳、陳餘復說陳王請奇兵北略趙地，於是陳王以故所善陳人武臣爲將軍，邵騷爲護軍，以張耳、陳餘爲左右校尉，予卒三千人，徇趙。陳王又令汝陰人鄧宗、徇九江郡，當此時，楚兵數千人，爲聚者，不可勝數，葛

嬰至東城，立襄彊爲楚王，聞陳王已立，因殺襄彊，還報陳王，誅殺葛嬰。陳王令周市北徇魏地，以上蔡人房君蔡賜爲上柱國，陳王聞周文、陳之賢人也，習兵，乃與之將軍印，使西擊秦，武臣等從白馬渡河，至諸縣，說其豪桀，豪桀皆應之，乃行收兵，得數萬人，號武臣爲武信君，下趙十餘城，餘皆城守，乃引兵東北擊范陽，范陽蒯徹說武信君曰：「足下必將戰勝而後略地，攻得然後下城，臣竊以爲過矣。誠聽臣之計，可不攻而降城，不戰而略地，傳檄而千里定，可乎？」武信君曰：「何謂也？」徹曰：「范陽令徐公畏死而貪，欲先天下降，君若以爲秦所置吏，誅殺如前十城，則邊地之城皆爲金城湯地，不可攻也。君若齎臣侯印，以授范陽令，使乘朱輪華轂，驅馳燕趙之郊，卽燕趙城，可無戰而降矣。」武信君曰：「善。」以車百乘，騎二百，侯印迎徐公，燕趙聞之，不戰以城下者三十餘城。陳王既遣周章，以秦政之亂，有輕秦之意，不復設備，博士孔鮒諫曰：「臣聞兵法，不恃敵之不我攻，恃吾不可攻。今王恃敵而不自恃，若跌而不振，悔之無及也。」陳王曰：「寡人之軍，先生無累焉。」周文行收兵，至關，車千乘，卒數十萬，至戲軍焉。二世乃大驚，與羣臣謀曰：「奈何？」少府章邯曰：「盜已至衆，彊今發近縣，不及矣。」驪山徒多，請赦之，授兵以擊之。二世乃大赦天下，使章邯免驪山徒，人奴產子，悉發以擊楚軍，大敗之。周文走，張耳、陳餘至邯鄲，聞周章却，又聞諸將爲陳王徇地還者，多以讒毀得罪，誅，乃說武信君，令自王。八月，武信君自立爲趙王，以陳餘爲大將軍，張耳爲右丞相，邵騷爲左丞相，使人報陳王。陳王大怒，欲盡族武信君等家，而發兵擊趙。柱國房君諫曰：「秦未亡，而誅武信君等家，此生一秦也，不如因而賀之，使急引兵西擊秦。」陳王然之，從其計，徒繫武信君等家宮中，封張耳子敖爲成都君，使使者賀趙，令趣發兵。西入關，張耳、陳餘說趙王曰：「王王趙，非楚意，特以計賀王，楚已滅秦，必加兵於趙，願王毋西兵，北徇燕代，南收河內，以自廣，趙南據大河，北有燕代，楚雖勝秦，必不敢制趙，不勝秦，必重趙，趙乘秦楚之敝，可以得志於天下，趙王以爲然，因



不西兵。而使韓廣略燕。李良略常山。張騫略上黨。○九月。沛人劉邦起兵於沛。下相人項梁起兵於吳。狄人田儋起兵於齊。劉邦字季。爲人隆準龍顏。左股有七十二黑子。愛人喜施。意豁如也。常有天度。不事家人生產作業。初爲泗上亭長。單父人呂公好相人。見季狀貌。奇之。以女妻之。既而季以亭長爲縣。送徒驪山。徒多道亡。自度比至皆亡之。到豐西澤中亭。止飲。夜乃解縱。所送徒曰。公等皆去。吾亦從此逝矣。徒中壯士願從者十餘人。劉季被酒。夜徑澤中。有大蛇當徑。季拔劍斬蛇。有老嫗哭曰。吾子白帝子也。化爲蛇當道。今赤帝子殺之。因忽不見。劉季亡匿於芒碭山澤之間。數有奇怪。沛中子弟聞之。多欲附者。及陳涉起。沛令欲以沛應之。掾主吏蕭何曹參曰。君爲秦吏。今欲背之。率沛子弟恐不聽。願君召諸亡在外者。可得數百人。因劫衆。衆不敢不聽。乃令樊噲召劉季。劉季之衆已數十百人矣。沛令後悔。恐其有變。乃閉城守。欲誅蕭曹。蕭曹恐。踰城保劉季。劉季乃書帛射城上。遣沛父老爲陳利害。父老乃率子弟共殺沛令。開門迎劉季。立以爲沛公。蕭曹等爲收沛子弟得三千人。以應諸侯。項梁者。楚將項燕子也。嘗殺人。與兄子籍避仇吳中。吳中賢士大夫皆出其下。籍少時。學書不成。去學劍。又不成。項梁怒之。籍曰。書足以記名姓而已。劍一人敵。不足學。學萬人敵。於是項梁乃教籍兵法。籍大喜。略知其意。又不肯竟學。籍長八尺餘。力能扛鼎。才器過人。會稽守殷通聞陳涉起。欲發兵以應涉。使項梁及桓楚將。是時桓楚亡在澤中。梁曰。桓楚亡人。莫知其處。獨籍知之耳。梁乃誡籍持劍居外。梁復入。與守坐。請召籍。使受命召桓楚。守曰。諾。梁召籍入。須臾。梁胸籍曰。可行矣。於是籍遂拔劍斬守頭。項梁持守頭。佩其印綬。門下大驚。擾亂。籍所擊殺數十百人。一府中皆偪伏莫敢起。梁乃召故所知豪吏。諭以所爲起大事。遂舉吳中兵。使人收下縣。得精兵八千人。梁爲會稽守。籍爲裨將。徇下縣。籍是時年二十四。田儋故齊王族也。儋從弟榮。榮弟橫。皆豪健宗彊。能得人。周市徇地至狄。狄城守。田儋詳爲縛。

其奴。從少年之廷。欲謁殺奴。見狄令。因擊殺令。而召豪吏子弟曰。諸侯皆反秦。自立。齊古之建國也。儋田氏當王。遂自立爲齊王。發兵以擊周市。周市軍還去。田儋率兵東略定齊地。○韓廣將兵。北徇燕。燕地豪桀欲共立廣爲燕王。廣曰。廣母在趙。不可。燕人曰。趙方西憂秦。南憂楚。其力不能禁我。且以楚之彊。不敢害趙王。將相之家。趙獨安敢害將軍家乎。韓廣乃自立爲燕王。居數月。趙奉燕王母家屬歸之。趙王與張耳陳餘。北略地燕界。趙王問出。爲燕軍所得。燕囚之。欲求割地。使者往請。燕輒殺之。有廝養卒。走燕壁。見燕將曰。君知張耳陳餘何欲。曰。欲得其王耳。趙養卒笑曰。君未知此兩人所欲也。夫武臣張耳陳餘。杖馬箠。下趙數十城。此亦各欲南面而王。豈欲爲將相終已耶。顧其勢初定。未敢參分而王。且以少長。先立武臣爲王。以持趙心。今趙地已服。此兩人亦欲分趙而王。時未可耳。今君乃囚趙王。此兩人名爲求趙王。實欲燕殺之。此兩人分趙自立。夫以一趙。尚易燕。況以兩賢王。左提右挈。而責殺王之罪。滅燕易矣。燕將乃歸趙王。養卒爲御而歸。○周市自狄還。至魏地。欲立故魏公子寧陵君咎爲王。咎在陳。不得之。魏地已定。諸侯皆欲立周市爲魏王。市曰。天下昏亂。忠臣乃見。今天下共畔秦。其義必立魏王。後乃可。諸侯固請立市。市終辭不受。迎魏咎於陳。五反。陳王乃遣之。立咎爲魏王。市爲魏相。○是歲。二世廢衛君角爲庶人。衛絕祀。

資治通鑑卷第七



# 資治通鑑卷第八

## 秦紀三

### 二世皇帝下

二年冬十月泗川監平將兵圍沛公於豐沛公出與戰破之令雍齒守豐十一月沛公引兵之薛泗川守壯兵敗於薛走至戚沛公左司馬得殺之○周章出關止屯曹陽二月餘章邯追敗之復走灑池十餘日章邯擊大破之周文自刎軍遂不戰吳叔圍滎陽李由爲三川守守滎陽叔弗能下楚將軍田臧等相與謀曰周章軍已破矣秦兵且暮至我圍滎陽城弗能下秦兵至必大敗不如少遣兵守滎陽悉精兵迎秦軍今假王驕不知兵權不足與計事恐敗因相與矯王命以誅吳叔獻其首於陳王陳王使使賜田臧楚令尹印以爲上將田臧乃使諸將李歸等守滎陽自以精兵西迎秦軍於敖倉與戰田臧死軍破章邯進兵擊李歸等滎陽下破之李歸等死陽城人鄧說將兵居郟章邯別將擊破之鉅人伍逢將兵居許章邯擊破之兩軍皆散走陳陳王誅鄧說○二世數誚讓李斯居三公位如何令盜如此李斯恐懼重爵祿不知所出乃阿二世意以書對曰夫賢主者必能行督責之術者也故申子曰有天下而不恣睢命之曰以天下爲桎梏者無佗焉不能督責而顧以其身勞於天下之民若堯禹然故謂之桎梏也夫不能修申韓之明術行督責之道專以天下自適也而徒務苦形勞神以身殉百姓則是黔首之役非畜天下者也何足貴哉故明主能行督責之術以獨斷於上則權不在臣下然後能滅仁義之塗絕諫說之辯犖然行恣睢之心而莫之敢逆如此

羣臣百姓救過不給何變之敢圖二世說於是行督責益嚴稅民深者爲明吏殺人衆者爲忠臣刑者相半於道而死人日成積於市秦民益駭懼思亂○趙李良已定常山還報趙王趙王復使良略太原至石邑秦兵塞井陘未能前秦將詐爲二世書以招良良得書未信還之邯鄲益請兵未至道逢趙王姊出飲良望見以爲王伏謁道旁王姊醉不知其將使騎謝李良李良素貴起慙其從官從官有一人曰天下畔秦能者先立且趙王素出將軍下今女兒乃不爲將軍下車請追殺之李良已得秦書固欲反趙未決因此怒遣人追殺王姊因將其兵襲邯鄲邯鄲不知竟殺趙王邵騷趙人多爲張耳陳餘耳目者以故二人獨得脫○陳人秦嘉符離人朱雞石等起兵圍東海守於郟陳王聞之使武平君畔爲將軍監郟下軍秦嘉不受命自立爲大司馬惡屬武平君告軍吏曰武平君年少不知兵事勿聽因矯以王命殺武平君畔○二世益遣長史司馬欣董翳佐章邯擊盜章邯已破伍逢擊陳柱國房君殺之又進擊陳西張賀軍陳王出監戰張賀死臘月陳王之汝陰還至下城父其御莊賈殺陳王以降初陳涉既爲王其故人皆往依之妻之父亦往焉陳王以衆賓待之長揖不拜妻之父怒曰怙亂僭號而傲長者不能久矣不辭而去陳王跪謝遂不爲顧客出入愈益發舒言陳王故情或說陳王曰客愚無知顛妄言輕威陳王斬之諸故人皆自引去由是無親陳王者陳王以朱防爲中正胡武爲司過主司羣臣諸將狗地至令之不是輒繫而罪之以苛察爲忠其所不善者弗下吏輒自治之諸將以其故不親附此其所以敗也陳王故涓人將軍呂臣爲蒼頭軍起新陽攻陳下之殺莊賈復以陳爲楚葬陳王於殤諡曰隱王初陳王令鉅人宋留將兵定南陽入武關留已徇南陽聞陳王死南陽復爲秦宋留以軍降二世車裂留以徇○魏周市將兵略豐沛使人招雍齒雍齒雅不欲屬沛公即以豐降魏沛公攻之不克○趙張耳陳餘收其散兵得數萬人擊李良良敗走歸章邯客有說耳餘曰兩君羈旅而欲



附趙難可獨立。立趙後，輔以誼，可就功。乃求得趙歇。春正月，耳餘立歇為趙王，居信都。○東陽寧君秦嘉聞陳王軍敗，廼立景駒為楚王，引兵之方與，欲擊秦軍。定陶下，使公孫慶使齊，欲與之并力。俱進，齊王曰：「陳王戰敗，不知其死生，楚安得不請而立王？」公孫慶曰：「齊不請楚而立王，楚何故請齊而立王？」且楚首事，當令於天下。田儋殺公孫慶，秦左右校復攻陳，下之。呂將軍走，徵兵復聚，與番盜黥布相遇，攻擊秦左右校，破之。青波復以陳為楚，黥布者，六人也。姓英氏，坐灑黥，以刑徒論輸驪山，驪山之徒數十萬人，布皆與其徒長豪桀交通，乃率其曹耦亡之江中，為羣盜。番陽令吳芮甚得江湖間民心，號曰番君，布往見之，其眾已數千人。番君廼以女妻之，使將其兵擊秦。○楚王景駒在留，沛公往從之，張良亦聚少年百餘人，欲往從。景駒道遇沛公，遂屬焉。沛公拜良為廐將，良數以太公兵灑說沛公，沛公善之，常用其策。良為佗人言，皆不省。良曰：「沛公殆天授，故遂留不去。沛公與良俱見景駒，欲請兵以攻豐，時章邯、司馬卬將兵北定楚地，屠相，至碭，東陽寧君沛公引兵西與戰，蕭西不利，還收兵聚留。二月，攻碭，三日，拔之，收碭兵得六千人，與故合九千人。三月，攻下邑，拔之，還擊豐，不下。○廣陵人召平為陳王，狗廣陵未下，聞陳王敗走，章邯且至，廼渡江，矯陳王令，拜項梁為楚上柱國。曰：「江東已定，急引兵西擊秦。」梁廼以八千人渡江而西，聞陳嬰已下東陽，遣使欲與連和。俱西，陳嬰者，故東陽令史，居縣中，素信謹，稱為長者。東陽少年殺其令，相聚得二萬人，欲立嬰為王。嬰母謂嬰曰：「自我為汝家婦，未嘗聞汝先世之有貴者，今暴得大名，不祥。不如有所屬，事成，猶得封侯，事敗，易以亡，非世所指名也。」嬰乃不敢為王，謂其軍吏曰：「項氏世世將家，有名於楚，今欲舉大事，將非其人不可。我倚名族，亡秦必矣。」其眾從之。乃以兵屬梁。英布既破秦軍，引兵而東，聞項梁西渡淮，布與蒲將軍皆以其兵屬焉。項梁眾凡六七萬人，軍下邳。景駒、秦嘉、軍彭城東，欲以距梁。梁謂軍吏曰：「陳王先首事，戰不利，未聞所在。今秦嘉、倍陳

王而立景駒，大逆無道，乃進兵擊秦嘉。秦嘉軍敗走，追之至胡陵。嘉還戰一日，嘉死，軍降。景駒走死，梁地梁已并秦嘉軍。軍胡陵，將引軍而西。章邯軍至栗，項梁使別將朱雞石、餘樊君與戰，餘樊君死。朱雞石軍敗，亡走胡陵。梁乃引兵入薛，誅朱雞石。沛公從騎百餘，往見梁。梁與沛公卒五千人，五大夫將十人。沛公還引兵攻豐，拔之。雍齒犇魏。項梁使項羽別攻襄城，襄城堅守不下，已拔，皆阬之。還報，梁聞陳王定死，召諸別將，會薛計事。沛公亦往焉。居鄆人茫增年七十，素居家好奇計，往說項梁曰：「陳勝敗固當，夫秦滅六國，楚最無罪，自懷王入秦不反，楚人憐之。至今故楚南公曰：『楚雖三戶，亡秦必楚。』今陳勝首事，不立楚後而自立，其勢不長。今君起江東，楚讎起之將，皆爭附君者，以君世世楚將，為能復立楚之後也。於是項梁然其言，乃求得楚懷王孫心於民間，為人牧羊。夏六月，立以為楚懷王，從民望也。陳嬰為上柱國，封五縣，與懷王都盱眙。項梁自號為武信君，張良說項梁曰：「君已立楚後，而韓諸公子、橫陽君成最賢，可立為王。益樹黨，項梁使良求韓成，立以為韓王，以良為司徒，與韓王將千餘人。西略韓地，得數城，秦輒復取之。往來為游兵。潁川章邯已破陳王，乃進兵擊魏王於臨濟。魏王使周市出，請救於齊。楚、齊王儋及楚將項它皆將兵隨市救魏。○章邯夜銜枚擊大破齊軍於臨濟，下殺齊王及周市。魏王咎為其民約降，約定自燒殺。其弟豹亡走楚。楚懷王予魏豹數千人，復狗魏地。齊田榮收其兄儋餘兵，東走東阿。章邯追圍之。齊人聞田儋死，乃立故齊王建之弟假為王，田角為相，角弟間為將，以距諸侯。秋七月，大霖雨，武信君引兵攻亢父，聞田榮之急，廼引兵擊破章邯軍東阿下。章邯走而西，田榮引兵東歸齊。武信君獨追北，使項羽沛公別攻城陽，屠之。楚軍濮陽東，復與章邯戰，又破之。章邯復振，守濮陽環水。沛公、項羽去攻定陶。八月，田榮擊逐齊王假，假亡走楚。田角亡走趙。田間前救趙，因留不敢歸。田榮廼立儋子市為齊王，榮相之。田橫為將，平齊地。章邯兵益盛，項梁數使使告齊、趙。



發兵共擊章邯。田榮曰：「楚殺田假，趙殺角間，乃出兵。楚趙不許，田榮怒，終不肯出兵。」○郎中令趙高恃恩專恣，以私怨誅殺人衆多，恐大臣入朝奏事言之，乃說二世曰：「天子之所以貴者，但以聞聲，羣臣莫得見其面，故也。且陛下富於春秋，未必盡通諸事。今坐朝廷，譴舉有不當者，則見短於大臣，非所以示神明於天下也。陛下不如深拱禁中，與臣及侍中習灑者待事。事來有以揆之，如此，則大臣不敢奏疑事，天下稱聖主矣。」二世用其計，乃不坐朝廷，見大臣常居禁中。趙高侍中用事，事皆決於趙高。高聞李斯以爲言，乃見丞相曰：「關東羣盜多，今上急益發繇，治阿房宮，聚狗馬無用之物，臣欲諫，爲位賤，此真君侯之事。君何不諫？」李斯曰：「固也。吾欲言之久矣。今時上不坐朝廷，常居深宮，吾所言者不可傳也。欲見無間，趙高曰：君誠能諫，請爲君候上間。」語君於是。趙高侍二世，方燕樂，婦女居前，使人告丞相上方間，可奏事。丞相至宮門，上謁，如此者三。二世怒曰：「吾常多間日，丞相不來，吾方燕私，丞相輒來請事，丞相豈少我哉？且固我哉？」趙高因曰：「夫沙丘之謀，丞相與焉。今陛下已立爲帝，而丞相貴不益，此其意亦望裂地而王矣。且陛下不問臣，臣不敢言。丞相長男李由爲三川守，楚盜陳勝等皆丞相傍縣之子，以故楚盜公行。過三川，城守不肯擊，高聞其文書相往來，未得其審，故未敢以聞。且丞相居外，權重於陛下，二世以爲然，欲案丞相，恐其不審，乃先使人按驗三川守與盜通狀。李斯聞之，因上書言趙高之短曰：「高擅利擅害，與陛下無異。昔田常相齊，簡公竊其恩威，下得百姓，上得羣臣，卒弑簡公，而取齊國。此天下所明知也。今高有邪佚之志，危反之行，私家之富若田氏之於齊矣。而又貪欲無厭，求利不止，列勢次主，其欲無窮。劫陛下之威信，其志若韓琦爲韓安相也。陛下不圖，臣恐其必爲變也。」二世曰：「何哉？夫高故宦人也，然不爲安肆志，不以危易心，潔行脩善，自使至此，以忠得進，以信守位，朕實賢之。而君疑之，何也？且朕非屬趙君，當誰任哉？且趙君爲人精廉彊力，下知人情，上能適朕，君其勿疑。」二世

雅愛趙高，恐李斯殺之，乃私告趙高。高曰：「丞相所患者獨高，高已死，丞相即欲爲田常所爲，是時盜賊益多，而關中卒發，東擊盜者無已。右丞相馮去疾、左丞相李斯、將軍馮劫進諫曰：「關東羣盜竝起，秦發兵誅擊，所殺亡甚衆，然猶不止，盜多，皆以戍漕轉作事苦，賦稅大也。請且止阿房宮作者，減省四邊戍轉。」二世曰：「凡所爲貴有天下者，得肆意極欲，主重明灑，下不敢爲非，以制御四海矣。夫虞夏之主，貴爲天子，親處窮苦之實，以徇百姓，尙何於灑？且先帝起諸侯，兼天下，天下已定，外攘四夷，以安邊境，作宮室，以章得意，而君觀先帝功業有緒，今朕即位二年之間，羣盜竝起，君不能禁，又欲罷先帝之所爲，是上無以報先帝，次不爲朕盡忠力，何以在位？」去疾、斯劫吏案責佗罪，去疾劫自殺，獨李斯就獄。二世以屬趙高治之，責斯與子由謀反狀，皆收捕宗族賓客。趙高治斯，榜掠千餘，不勝痛，自誣服。斯所以不死者，自負其辯有功，實無反心，欲上書自陳。幸二世寤而赦之，乃從獄中上書曰：「臣爲丞相，治民三十餘年矣，逮秦地之陘隘，不過千里，兵數十萬，臣盡薄材，陰行謀臣，資之金玉，使游說諸侯，陰脩甲兵，飭政教，官鬪士，尊功臣，故終以脅韓弱魏，破燕趙，夷齊楚，卒兼六國，虜其王，立秦爲天子。又北逐胡貉，南定百越，以見秦之彊，更剋畫，平斗斛度量，文章布之天下，以樹秦之名。此皆臣之罪也。臣當死久矣。上幸盡其能力，乃得至今。願陛下察之。書上，趙高使吏棄去不奏。曰：「囚安得上書？」趙高使其客十餘輩，詐爲御史，謁者侍中，更往覆訊斯，斯更以其實對。輒使人復榜之。後二世使人驗斯，斯以爲如前，終不敢更言辭服。奏當上，二世喜曰：「微趙君，幾爲丞相所賣。」及二世所使案三川守由者至，則楚兵已擊破之。使者來，會丞相下吏，高皆妄爲反辭，以相傅會。遂具斯五刑論，腰斬咸陽市。斯出獄，與其中子俱執，顧謂其中子曰：「吾欲與若復牽黃犬，俱出上蔡東門，逐狡兔，豈可得乎？」遂父子相哭，而夷三族。二世乃以趙高爲丞相，事無大小，皆決焉。○項梁已破章邯於東阿，引兵西北至定陶，再破秦軍。項羽、沛公



又與秦軍戰於雍丘。大破之。斬李由。項梁益輕秦，有驕色。宋義諫曰：「戰勝而將驕，卒惰者敗。今卒少惰矣。秦兵日益，臣爲君畏之。」項梁弗聽。乃使宋義使於齊。道遇齊使者高陵君顯，曰：「公將見武信君乎？」曰：「然。」曰：「臣論武信君必敗，公徐行即免死，疾行則及禍。」二世悉起兵，益章邯擊楚軍，大破之。定陶，項梁死。時連雨，自七月至九月，項羽沛公攻外黃，未下。去攻陳留，聞武信君死，士卒恐，乃與將軍呂臣引兵而東。徙懷王自盱眙都彭城。呂臣軍彭城東，項羽軍彭城西，沛公軍碭。○魏豹下魏二十餘城，楚懷王立豹爲魏王。○後九月，楚懷王并呂臣項羽軍，自將之。以沛公爲碭郡長，封武安侯。將碭郡兵，封項羽爲長安侯，號爲魯公。呂臣爲司徒，其父呂青爲令尹。○章邯已破項梁，以爲楚地兵不足憂，乃度河北，擊趙。大破之，引兵至邯鄲。皆徙其民河內，夷其城郭。張耳與趙王歇走入鉅鹿城。王離圍之。陳餘北收常山兵，得數萬人。軍鉅鹿北。章邯軍鉅鹿南棘原。趙數請救於楚，高陵君顯在楚，見楚王曰：「宋義論武臣君之軍必敗，居數日，軍果敗。兵未戰而先見敗徵，此可謂知兵矣。」王召宋義與計事，而大說之。因置以爲上將軍，項羽爲次將，范增爲末將，以救趙。諸別將皆屬宋義，號爲「卿子冠軍」。初，楚懷王與諸將約，先入定關中者王之。當是時，秦兵彊，常乘勝逐北，諸將莫利先入關。獨項羽怨秦之殺項梁，奮願與沛公西入關，懷王諸老將皆曰：「項羽爲人，慄悍猾賊，嘗攻襄城，襄城無遺類，皆阬之。諸所過，無不殘滅。且楚數進取，前陳王項梁皆敗，不如更遣長者扶義而西，告諭秦父兄，秦父兄苦其主久矣，今誠得長者往，無侵暴，宜可下。」項羽不可，遣獨沛公素寬大長者，可遣懷王，乃不許項羽，而遣沛公西略地，收陳王項梁散卒，以伐秦。沛公道碭，至陽城，與杠里，攻秦壁，破其二軍。

三年冬十月，齊將田都、田榮助楚救趙。○沛公攻破東郡尉於成武。○宋義行至安陽，留四十六日不進。項羽曰：「秦圍趙急，宜疾引兵渡河，楚擊其外，趙應其內，破秦軍必矣。」宋義曰：

「不然。夫搏牛之蝱，不可以破蟻蝨。今秦攻趙，戰勝則兵疲，我承其敝，不勝則我引兵鼓行而西，必舉秦矣。故不如先鬪秦趙，夫被堅執銳，義不如公。坐運籌策，公不如義。因下令軍中曰：『有猛如虎，狼如羊，貪如狼，彊不可使者，皆斬之。』乃遣其子宋襄相齊，身送之。至無鹽，飲酒高會。天寒大雨，士卒凍餓。項羽曰：『將勦力而攻秦，久留不行，今歲饑，民貧，士卒食半，救軍無見糧，乃飲酒高會，不引兵渡河，因趙食，與趙并力攻秦，乃曰承其敝，夫以秦之彊，攻新造之趙，其勢必舉趙。趙舉秦彊，何敵之承？且國兵新破，王坐不安席，埽境內而專屬於將軍，國家安危在此一舉。今不恤士卒，而徇其私，非社稷之臣也。』十一月，項羽晨朝上將軍宋義，即其帳中，斬宋義頭，出令軍中曰：『宋義與齊謀反，楚王陰令籍誅之。當是時，諸將皆懼服，莫敢枝梧。皆曰：『首立楚者將軍家也。今將軍誅亂，乃相與共立羽爲假上將軍，使人追宋義子及之。』齊殺之，使桓楚報命於懷王。懷王因使羽爲上將軍。○十二月，沛公引兵至栗，遇剛武侯，奮其軍四千餘人，并之。與魏將皇欣、武滿軍合，攻秦軍，破之。○故齊王建孫安下濟北，從項羽救趙。章邯築甬道，屬河，餉王離。王離兵食多，急攻鉅鹿。鉅鹿城中，食盡，兵少。張耳數使人召前陳餘，陳餘度兵少，不敵秦，不敢前。數月，張耳大怒，怨陳餘，使張騫、陳澤往讓陳餘，曰：『始吾與公爲刎劉交，今王與耳，且暮且死，而公擁兵數萬，不肯相救，安在其相爲死？苟必信，胡不赴秦軍，俱死？且有十一二相全。』陳餘曰：『吾度前終不能救趙，徒盡亡軍，且餘所以不俱死，欲爲趙王張君報秦，今必俱死，如以肉委餓虎，何益？』張騫、陳澤要以俱死，餘乃使騫、澤將五千人，先嘗秦軍。至皆沒。當是時，齊師、燕師皆來救趙。張敖亦北收代兵，得萬餘人來，皆壁餘旁，未敢擊秦。項羽已殺卿子冠軍，威震楚國，乃遣當陽君、蒲將軍將卒二萬渡河，救鉅鹿。戰少利，絕章邯甬道，王離軍乏食。陳餘復請兵，項羽乃悉引兵渡河，皆沈船，破釜，燒廬舍，持三日糧，以示士卒必死，無一還心。於是至則圍王離，與秦軍遇，九戰，大破之。章邯引兵卻，諸侯



兵乃敢進擊秦軍。遂殺蘇角。虜王離。涉間不降。自燒殺。當是時。楚兵冠諸侯。軍救鉅鹿者十餘壁。莫敢縱兵。及楚擊秦。諸侯將從壁上觀。楚戰士無不一當十。呼聲動天地。諸侯軍無不人人惴恐。於是已破秦軍。項羽召見諸侯將。諸侯將入轅門。無不膝行而前。莫敢仰視。項羽由是始爲諸侯上將軍。諸侯皆屬焉。於是趙王歇及張耳。乃得出鉅鹿城。謝諸侯。張耳與陳餘相見。責讓陳餘。以不肯救趙。及問張騫。陳澤所在。疑陳餘殺之。數以問餘。餘怒曰。不意君之望臣深也。豈以臣爲重。去將印哉。乃脫解印綬。推與張耳。張耳亦愕不受。陳餘起如廁。客有說張耳曰。臣聞天與不取。反受其咎。今陳將軍與君印。君不受。反天不祥。急取之。張耳乃佩其印。收其麾下。而陳餘還。亦望張耳不讓。遂趨出。獨與麾下所善數百人。之河上澤中。漁獵。趙王歇還信都。○春二月。沛公北擊昌邑。遇彭越。彭越以其兵從沛公。越昌邑人。常漁鉅野澤中。爲羣盜。陳勝項梁之起。澤間少年相聚百餘人。往從彭越。曰。請仲爲長。越謝曰。臣不願也。少年彊請乃許。與期旦日出會。後期者斬。旦日出。十餘人。後者至日中。於是越謝曰。臣老。諸君彊以爲長。今期而多後。不可盡誅。誅最後者一人。令校長斬之。皆笑曰。何至於此。請後不敢。於是越引一人。斬之。設壇祭。令徒屬皆大驚。莫敢仰視。乃略地。收諸侯散卒。得千餘人。遂助沛公。攻昌邑。昌邑未下。沛公引兵西過高陽。高陽人酈食其。家貧落魄。爲里監門。沛公麾下騎士。適食其里中人。食其見。謂曰。諸侯將過高陽者數十人。吾問其將。皆握齷。好苛禮自用。不能聽大度之言。吾聞沛公。慢而易人。多大略。此真吾所願從游。莫爲我先。若見沛公。謂曰。臣里中有酈生。年六十餘。長八尺。人皆謂之狂生。生自謂我非狂生。騎士曰。沛公不好儒。諸客冠儒冠來者。沛公輒解其冠。溲溺其中。與人言。常大罵。未可以儒生說也。酈生曰。第言之。騎士從容言。如酈生所誠者。沛公至高陽傳舍。使人召酈生。酈生至。入謁。沛公方偃牀。使兩女子洗足。而見酈生。酈生入。則長揖不拜。曰。足下欲助秦攻諸侯乎。且欲率

諸侯破秦也。沛公罵曰。豎儒。天下同共苦秦久矣。故諸侯相率而攻秦。何謂助秦攻諸侯乎。酈生曰。必聚徒合義兵。誅無道秦。不宜偃見長者。於是沛公輟洗。起攝衣。延酈生上坐。謝之。酈生因言六國縱橫時。沛公喜。賜酈生食。問曰。計將安出。酈生曰。足下起糾合之衆。收散亂之兵。不滿萬人。欲以徑入彊秦。此所謂探虎口者也。夫陳留天下之衝。四通五達之郊也。今其城中又多積粟。臣善其令。請得使之令。下足下。卽不聽。足下引兵攻之。臣爲內應。於是遣酈生行。沛公引兵隨之。遂下陳留。號酈食其爲廣野君。酈生言其弟商。時商聚少年。得四千人。來屬沛公。沛公以爲將。將陳留兵。以從。酈生常爲說客。使諸侯。○三月。沛公攻開封。未拔。西與秦將楊熊會戰。白馬。又戰曲遇。東大破之。楊熊走。之滎陽。二世使使者斬之。以狗。○夏四月。沛公南攻潁川。屠之。因張良。遂略韓地。時趙別將司馬卬。方欲度河入關。沛公乃北攻平陰。絕河津。南戰洛陽。東軍不利。南出轅轅。張良引兵從沛公。沛公令韓王成留守陽翟。與良俱南。六月。與南陽守齋戰。犇東破之。略南陽郡。南陽守走保城守宛。沛公引兵過宛。西張良諫曰。沛公雖欲急入關。秦兵尙衆。距險。今不下宛。宛從後擊。彊秦在前。此危道也。於是沛公乃夜引軍從他道還。偃旗幟。遲明。圍宛城。三匝。南陽守欲自剄。其舍人陳恢曰。死未晚也。乃踰城見沛公曰。臣聞足下約。先入咸陽者王之。今足下留守宛。宛郡縣連城數十。其吏民自以爲降必死。故皆堅守乘城。今足下盡日止攻。士死傷者必多。引兵去宛。宛必隨足下。後足下前則失咸陽之約。後有彊宛之患。爲足下計。莫若約降封其守。因使止守。引其甲卒。與之西。諸城未下者。聞聲爭開門而待足下。足下通行無所累。沛公曰。善。秋七月。南陽守齋降。封爲殷侯。封陳恢千戶。引兵西。無不下者。至丹水。高武侯鯁。襄侯王陵降。還攻胡陽。遇番君別將梅鋗。與偕攻析酈。皆降。所過亡得。鹵掠秦民皆喜。○王離軍旣沒。章邯軍棘原。項羽軍漳南。相持未戰。秦軍數却。二世使人讓章邯。章邯恐。使長史欣請事。至咸陽。留司馬門三日。



趙高不見。有不信之心。長史欣恐。還走其軍。不敢出故道。趙高果使人追之。不及。欣至軍。報曰。趙高用事於中。下無可爲者。今戰能勝。高必嫉妬吾功。不能勝。不免於死。願將軍執計之。陳餘亦遣章邯書曰。白起爲秦將。南征鄢郢。北阬馬服。攻城略地。不可勝計。而竟賜死。蒙恬爲秦將。北逐戎人。開榆中地。數千里。竟斬陽周。何者。功多。秦不能盡封。因以法誅之。今將軍爲秦將。三歲矣。所亡失以十萬數。而諸侯竝起。滋益多。彼趙高素諛日久。今事急。亦恐二世誅之。故欲以濃誅將軍。以塞責。使人更代將軍。以脫其禍。夫將軍居外久。多內郤。有功亦誅。無功亦誅。且天之亡秦。無愚智皆知之。今將軍內不能直諫。外爲亡國將。孤特獨立。而欲常存。豈不哀哉。將軍何不還兵。與諸侯爲從。約共攻秦。分王其地。南面稱孤。此孰與身伏鈇質。妻子爲戮乎。章邯狐疑。陰使侯始成使項羽。欲約。約未成。項羽使蒲將軍。日夜引兵度三戶。軍漳南。與秦軍戰。再破之。項羽悉引兵。擊秦軍。汙水上。大破之。章邯使人見項羽。欲約。項羽召軍吏。謀曰。糧少。欲聽其約。軍吏皆曰。善。項羽乃與期。洹水南。殷虛上。已盟。章邯見項羽而流涕。爲言。趙高。項羽乃立章邯爲雍王。置楚軍中。使長史欣爲上將軍。將秦軍。爲前行。○瑕丘申陽。下河南。引兵從項羽。○初中丞相趙高欲專秦權。恐羣臣不聽。乃先設驗。持鹿獻於二世。曰。馬也。二世笑曰。丞相誤邪。謂鹿爲馬。問左右。或默。或言馬。以阿順趙高。或言鹿者。高因陰中諸言。鹿者以濃。後羣臣皆畏高。莫敢言其過。高前數言關東盜。無能爲也。及項羽虜王離等。而章邯等軍數敗。上書請益助。自關以東。大抵盡畔秦吏。應諸侯。諸侯咸率其衆。西鄉。八月。沛公將數萬攻武關。屠之高。二世怒。誅及其身。乃謝病。不朝見。二世夢白虎。齧其左驂馬。殺之。心不樂。怪問占夢。卜曰。涇水爲祟。二世乃齋於望夷宮。欲祠涇水。沈四白馬。使使責讓高。以盜賊事。高懼。乃陰與其婿咸陽令閻樂。及弟趙成。謀曰。上不聽諫。今事急。欲歸禍於吾。欲易置上。更立子嬰。子嬰仁儉。百姓皆戴其言。乃使郎中令爲內應。詐爲有大賊。令

樂召吏發卒。追劫樂母。置高舍。遣樂將吏卒千餘人。至望夷宮殿門。縛衛令僕射曰。賊入此。何不止。衛令曰。周廬設卒甚謹。安得賊敢入宮。樂遂斬衛令。直將吏入。行射郎宦者。郎宦者大驚。或走。或格。格者輒死。死者數十人。郎中令與樂俱入。射上幄坐幃。二世怒。召左右。左右皆惶擾不鬪。旁有宦者一人侍。不敢去。二世入內。謂曰。公何不早告我。乃至於此。宦者曰。臣不敢言。故得全。使臣早言。皆已誅。安得至今。閻樂前即二世。數曰。足下驕恣。誅殺無道。天下共畔足下。足下其自爲計。二世曰。丞相可得見否。樂曰。不可。二世曰。吾願得一郡爲王。弗許。又曰。願爲萬戶侯。弗許。曰。願與妻子爲黔首。比諸公子。閻樂曰。臣受命於丞相。爲天下誅足下。足下雖多言。臣不敢報。麾其兵進。二世自殺。閻樂歸報趙高。趙高乃悉召諸大臣公子。告以誅二世之狀。曰。秦故王國。始皇君天下。故稱帝。今六國復自立。秦地益小。乃以空名爲帝。不可。宜如故便。乃立子嬰爲秦王。以黔首葬二世。杜南宜春苑中。九月。趙高令子嬰齋戒。當廟見。受玉璽。齋五日。子嬰與其子二人謀。曰。丞相高殺二世。望夷宮。恐羣臣誅之。乃詐以義立我。我聞趙高乃與楚約。滅秦宗室。而分王關中。今使我齋見廟。此欲因廟中殺我。我稱病不行。丞相必自來。來則殺之。高使人請子嬰。數輩。子嬰不行。高果自往。曰。宗廟重事。王奈何不行。子嬰遂刺殺高於齋宮。三族高家。以狗遺將。將兵距嶢關。沛公欲擊之。張良曰。秦兵尙彊。未可輕。願先遣人益張旗幟於山上。爲疑兵。使酈食其。陸賈往說秦將。啗以利。秦將果欲連和。沛公欲許之。張良曰。此獨其將欲叛。恐其士卒不從。不如因其懈怠。擊之。沛公引兵繞嶢關。踰黃山。擊秦軍。大破之。藍田南。遂至藍田。又戰其北。秦兵大敗。

資治通鑑卷第八

秦紀 二世皇帝下三年



# 資治通鑑卷第九

翰林學士朝散大夫右諫議大夫知制誥兼侍講同提舉萬壽觀公事兼判集賢院上護軍河內郡開國侯食邑一千三百戶賜紫金魚袋臣司馬光奉勅編集

## 漢紀一

### 太祖高皇帝上之上

元年冬十月沛公至霸上秦王子嬰素車白馬係頸以組封皇帝璽符節降軹道旁諸將或言誅秦王沛公曰始懷王遣我固以能寬容且人已降殺之不祥乃以屬吏賈誼論曰秦以區區之地致萬乘之權招八州而朝同列百有餘年然後以六合為家殺函為宮一夫作難而七廟墮身死人手為天下笑者何也仁誼不施而攻守之勢異也沛公西入咸陽諸將皆爭走金帛財物之府分之蕭何獨先入收秦丞相府圖籍藏之以此沛公得具知天下阨塞戶口多少疆弱之處沛公見秦宮室帷帳狗重寶婦女以千數意欲留居之樊噲諫曰沛公欲有天下邪將為富家翁邪凡此奢麗之物皆秦所以亡也沛公何用焉願急還霸上無留宮中沛公不聽張良曰秦為無道故沛公得至此夫為天下除殘賊宜縞素為資今始入秦即安其樂此所謂助桀為虐且忠言逆耳利於行毒藥苦口利於病願沛公聽樊噲言沛公乃還軍霸上十一月沛公悉召諸縣父老豪傑謂曰父老苦秦苛法

久矣吾與諸侯約先入關者王之吾當王關中與父老約法三章耳殺人者死傷人及盜抵罪餘悉除去秦法諸吏民皆案堵如故凡吾所以來為父老除害非有所侵暴無恐且吾所以還軍霸上待諸侯至而定約束耳乃使人與秦吏行縣鄉邑告諭之秦民大喜爭持牛羊酒食獻饗軍士沛公又讓不受曰倉粟多非乏不欲費民民又益喜唯恐沛公不為秦王項羽既定河北率諸侯兵欲西入關先是諸侯吏卒繇使屯戍過秦中者秦中吏卒遇之多無狀及章邯以秦軍降諸侯諸侯吏卒乘勝多奴虜使之輕折辱秦吏卒秦吏卒多怨竊言曰章將軍等詐吾屬降諸侯今能入關破秦大善即不能諸侯虜吾屬而東秦又盡誅吾父母妻子奈何諸將微聞其計以告項羽項羽召黥布蒲將軍計曰秦吏卒尚眾其心不服至關不聽事必危不如擊殺之而獨與章邯長史欣都尉翳入秦於是楚軍夜擊阬秦卒二十餘萬人新安城南或說沛公曰秦富十倍天下地形疆聞項羽號章邯為雍王王關中今則來沛公恐不得有此可急使兵守函谷關無內諸侯軍稍徵關中兵以自益距之沛公然其計從之已而項羽至關關門閉聞沛公已定關中大怒使黥布等攻破函谷關十二月項羽進至戲沛公左司馬曹無傷使人言項羽曰沛公欲王關中令子嬰為相珍寶盡有之欲以求封項羽大怒饗士卒期且日擊沛公軍當是時項羽兵四十萬號百萬在新豐鴻門沛公兵十萬號二十萬在霸上范增說項羽曰沛公居山東時貪財好色今入關財物無所取婦女無所幸此其志不在小吾令人望其氣皆為龍虎成五采此天子氣也急擊勿失楚左尹項伯者項羽季父也素善張良乃夜馳之沛公軍私見張良具告以事欲呼與俱去曰毋俱死也張良曰臣為韓王送沛公沛公今有急亡去不義不可不語良乃人具告沛公沛公大驚良曰料公士卒足以當項羽乎沛公默然曰固不如也且為之奈何張良曰請往謂項伯言沛公之不敢叛也沛公曰君安與項伯有故張良曰秦時與臣游嘗殺人臣活之今事有急



故幸來告良。沛公曰：孰與君少長？良曰：長於臣。沛公曰：君爲我呼入，吾得見事之。張良出，固要項伯。項伯卽入，見沛公。沛公奉卮酒爲壽，約爲婚姻。曰：吾入關，秋毫不敢有所近，籍吏民，封府庫，而待將軍。所以遣將守關者，備它盜之出入與非常也。日夜望將軍至，豈敢反乎？願伯具言臣之不敢倍德也。項伯許諾，謂沛公曰：且日不可不蚤自來謝。沛公曰：諾。於是項伯復夜去。至軍中，具以沛公言報項羽。因言曰：沛公不先破關中，公豈敢入乎？今人有大功而擊之不義也。不如因善遇之。項羽許諾。沛公旦日從百餘騎來見項羽，鴻門謝曰：臣與將軍戮力而攻秦，將軍戰河北，臣戰河南，不自意能先入關破秦，得復見將軍於此。今者有小人之言，令將軍與臣有隙。項羽曰：此沛公左司馬曹無傷言之，不然籍何以至此。項羽因留沛公，與飲。范增數目項羽，舉所佩玉玦，以示之者三。項羽默然不應。范增起出，召項莊，謂曰：君王爲人不忍，若入前爲壽，壽畢，請以劍舞。因擊沛公於坐，殺之不者若屬，皆且爲所虜。莊則入爲壽，壽畢，曰：軍中無以爲樂，請以劍舞。項羽曰：諾。項莊拔劍起舞，項伯亦拔劍起舞，常以身翼蔽沛公，莊不得擊。於是張良至軍門，見樊噲，噲曰：今日之事何如？良曰：今項莊拔劍舞，其意常在沛公也。噲曰：此迫矣，臣請入與之同命。噲卽帶劍擁盾入軍門，衛士欲止不內，樊噲側其盾以撞衛士，仆地，遂入，披帷立，目視項羽，頭髮上指，目眦盡張。項羽按劍而跽曰：客何爲者？張良曰：沛公之參乘樊噲也。項羽曰：壯士，賜之卮酒，則與斗。卮酒噲拜謝起，立而飲之。項羽曰：賜之彘肩，則與一生彘肩。樊噲覆其盾於地，加彘肩其上，拔劍切而啗之。項羽曰：壯士復能飲乎？樊噲曰：臣死且不避，卮酒安足辭。夫秦有虎狼之心，殺人如不能舉，刑人如恐不勝，天下皆叛之。懷王與諸將約曰：先破秦入咸陽者王之。今沛公先破秦入咸陽，毫毛不敢有所近，還軍霸上，以待將軍。勞苦而功高，未有封爵之賞，而聽細人之說，欲誅有功之人，此亡秦之續耳。竊爲將軍不取也。項羽未有以應，曰：坐。樊噲從良坐，坐須臾，沛公

起如廁，因招樊噲出。沛公曰：今者出未辭也，爲之奈何？樊噲曰：如今人方爲刀俎，我方爲魚肉，何辭爲？於是遂去。鴻門去霸上四十里，沛公則置車騎，脫身獨騎，樊噲、夏侯嬰、靳彊、紀信等四人持劍盾步走，從驪山下道芷陽間行趣霸上，留張良，使謝項羽。以白璧獻羽，玉斗與亞父。沛公謂良曰：從此道至吾軍，不過二十里耳，度我至軍中，公乃入。沛公已去，閒至軍中，張良入謝曰：沛公不勝杯杓，不能辭，謹使臣良奉白璧一雙，再拜獻將軍足下。玉斗一雙，再拜奉亞父足下。項羽曰：沛公安在？良曰：聞將軍有意督過之，脫身獨去，已至軍矣。項羽則受璧，置之坐上。亞父受玉斗，置之地，拔劍撞而破之，曰：唉，豎子不足與謀，奪將軍天下者，必沛公也。吾屬今爲之虜矣。沛公至軍，立誅殺曹無傷，居數日，項羽引兵西屠咸陽，殺秦降王子嬰，燒秦宮室，火三月不滅，收其貨寶婦女而東。秦民大失望。韓生說項羽曰：關中阻山帶河，四塞之地，地肥饒，可都，以霸。項羽見秦宮室皆已燒殘破，又心思東歸，曰：富貴不歸故鄉，如衣繡夜行，誰知之者？韓生退曰：人言楚人沐猴而冠耳，果然。項羽聞之，烹韓生。項羽使人致命懷王。懷王曰：如約，項羽怒曰：懷王者，吾家所立耳，非有功伐，何以得專主約？天下初發難時，假立諸侯後，以伐秦，然身被堅執銳，首事暴露於野三年，滅秦定天下者，皆將相諸君與籍之力也。懷王雖無功，固當分其地而王之。諸將皆曰：善。春正月，羽陽尊懷王爲義帝，曰：古之帝者地方千里，必居上游，乃徙義帝於江南都郴。二月，羽分天下，王諸將，羽自立爲西楚霸王，王梁、楚、地九郡，都彭城。羽與范增疑沛公，而業已講解，又惡負約，乃陰謀曰：巴蜀道險，秦之遷人皆居之，乃曰：巴蜀亦關中地也，故立沛公爲漢王，王巴蜀漢中，都南鄭，而三分關中。王秦降將以距塞漢路，章邯爲雍王，王咸陽，以西都廢丘，長史欣者，故爲掾陽獄掾，嘗有德於項梁，都尉董翳者，本勸章邯降楚，故立欣爲塞王，王咸陽，以東至河，都櫟陽，立翳爲翟王，王上郡，都高奴。項羽欲自取梁地，乃徙魏王豹爲西魏王，王河東，都平陽，瑕丘申陽者，張



耳嬖臣也。先下河南郡，迎楚河上，故立申陽爲河南王。都洛陽。韓王成因，故都陽翟。趙將司馬卬定河內，數有功，故立卬爲殷王。王河內，都朝歌。徙趙王歇爲代王。趙相張耳、素賢又從入關，故立耳爲常山王。王趙地，治襄國。當陽君黥布爲楚將，常冠軍，故立布爲九江王。都六。番君吳芮率百越，佐諸侯，又從入關，故立芮爲衡山王。都邾。義帝柱國共敖將兵擊南郡，功多，因立敖爲臨江王。都江陵。徙燕王韓廣爲遼東王。都無終。燕將臧荼從楚救趙，因從入關，故立荼爲燕王。都薊。徙齊王田市爲膠東王。都即墨。齊將田都從楚救趙，因從入關，故立都爲齊王。都臨菑。項羽方渡河救趙，田安下濟北數城，引其兵降項羽，故立安爲濟北王。都博陽。田榮數負項梁，又不肯將兵從楚擊秦，以故不封。成安君陳餘棄將印去，不從入關，亦不封。客多說項羽曰：張耳、陳餘一體有功於趙，今耳爲王，餘不可以不封，羽不得已，聞其在南皮，因環封之三縣。番君將梅銷功多，封十萬戶侯。漢王怒，欲攻項羽，周勃灌嬰樊噲皆勸之。蕭何諫曰：雖王漢中之惡，不猶愈於死乎？漢王曰：何爲乃死也？何曰：今衆弗如，百戰百敗，不死何爲？夫能誦於一人之下，而信於萬乘之上者，湯武是也。臣願大王王漢中，養其民，以致賢人，收用巴蜀，還定三秦，天下可圖也。漢王曰：善。乃遂就國。以何爲丞相。漢王賜張良金百鎰，珠二斗。良具以獻項伯。漢王亦因令良厚遺項伯，使盡請漢中地。項王許之。夏四月，諸侯罷戲下兵，各就國。項王使卒三萬人從漢王之國，楚與諸侯之慕從者數萬人。從杜南入，蝕中。張良送至褒中，漢王遣良歸韓。良因說漢王燒絕所過棧道，以備諸侯盜兵。且示項羽無東意。○田榮聞項羽徙齊王市於膠東，而以田都爲齊王，大怒。五月，榮發兵距擊田都，都亡走楚。榮留齊王市，不令之膠東。市畏項羽，竊亡之國。榮怒。六月，追擊殺市於即墨。自立爲齊王。是時，彭越在鉅野，有衆萬餘人，無所屬。榮與越將軍卬使擊濟北。秋七月，越擊殺濟北王安。榮遂并王三齊之地，又使越擊楚。項王命蕭公角將兵擊越，越大破楚軍。○張耳之國。

陳餘益怒曰：張耳與餘功等也。今張耳王，餘獨侯。此項羽不平，乃陰使張同、夏說說齊王榮曰：項羽爲天下宰，不平。盡王諸將善地，徙故王於醜地。今趙王乃北居代，餘以爲不可。聞大王起兵不聽不義，願大王資餘兵，擊常山，復趙王。請以趙爲扞蔽。齊王許之，遣兵從陳餘。○項王以張良從漢王，韓王成又無功，故不遣之國，與俱至彭城，廢以爲穰侯。已又殺之。○初淮陰人韓信，家貧，無行，不得推擇爲吏，又不能治生商賈，常從人寄食，人多厭之。信釣于城下，有漂母見信飢，飯信。信喜，謂漂母曰：吾必有以重報母。母怒曰：大丈夫不能自食，吾哀王孫而進食，豈望報乎？淮陰屠中少年有侮信者，曰：若雖長大，好帶刀劍，中情怯耳。因衆辱之，曰：信能死，刺我，不能死，出我袴下。於是信孰視之，俛出袴下，蒲伏。一市人皆笑信，以爲怯。及項梁渡淮，信杖劍從之，居麾下，無所知名。項梁敗，又屬項羽，羽以爲郎中，數以策干羽，羽不用。漢王之入蜀，信亡楚歸漢，未知名。爲連敖，坐當斬。其輩十三人皆已斬，次至信，信乃仰視，適見滕公，曰：上不欲就天下乎？何爲斬壯士？滕公奇其言，壯其貌，釋而不斬，與語，大說之。言於王。王拜以爲治粟都尉，亦未之奇也。信數與蕭何語，何奇之。漢王至南鄭，諸將及士卒皆歌謳思東歸，多道亡者。信度何等已數言王，王不我用，即亡去。何聞信亡，不及以聞，自追之。人有言王曰：丞相何亡？王大怒，如失左右手。居一二日，何來謁王。王且怒且喜，罵何曰：若亡何也？何曰：臣不敢亡也。臣追亡者耳。王曰：若所追者誰？何曰：韓信也。王復罵曰：諸將亡者以十數，公無所追，追信詐也。何曰：諸將易得耳，至如信者，國士無雙。王必欲長王漢中，無所事，信必欲爭天下，非信無可與計事者。顧王策安所決耳。王曰：吾亦欲東耳，安能鬱鬱久居此乎？何曰：計必欲東，能用信，信即留，不能用，信終亡耳。王曰：吾爲公以爲將，何曰：雖爲將，信不留，王曰：以爲大將，何曰：幸甚。於是王欲召信拜之。何曰：王素慢無禮，今拜大將，如呼小兒，此乃信所以去也。王必欲拜之，擇良日，齋戒，設壇場，具禮，乃可耳。王許之。諸將皆喜，人人各



自以爲得大將。至拜大將，乃韓信也。一軍皆驚，信拜禮畢，上坐。王曰：丞相數言將軍，將軍何以教寡人計策？信辭謝，因問王曰：今東鄉爭權天下，豈非項王邪？漢王曰：然。曰：大王自料勇悍仁彊，孰與項王？漢王默然良久曰：不如也。信再拜賀曰：惟信亦以爲大王不如也。然臣嘗事之，請言項王之爲人也。項王，暗噁叱咤，千人皆廢，然不能任屬賢將，此特匹夫之勇耳。項王見人恭敬慈愛，言語嘔嘔，人有疾病，涕泣分食飲，至使人有功當封爵者，印劓敝，忍不能予。此所謂婦人之仁也。項王雖霸天下而臣諸侯，不居關中，而都彭城，背義帝之約，而以親愛王諸侯，不平。逐其故主，而王其將相，又遷逐義帝，置江南，所過無不殘滅，百姓不親附，特劫於威彊耳。名雖爲霸，實失天下心，故其彊易弱。今大王誠能反其道，任天下武勇，何所不誅，以天下城邑封功臣，何所不服，以義兵從，思東歸之士，何所不散，且三秦王爲秦將，將秦子弟數歲矣，所殺亡不可勝計，又欺其衆降諸侯，至新安，項王詐坑秦降卒二十餘萬，唯獨邯欣翳得脫。秦父兄怨此三人，痛入骨髓。今楚強以威王此三人，秦民莫愛也。大王之入武關，秋毫無所害，除秦苛法，與秦民約法三章，秦民無不欲得大王，秦者於諸侯之約，大王當王關中，關中民咸知之。大王失職，入漢中，秦民無不恨者。今大王舉而東，三秦可傳檄而定也。於是漢王大喜，自以爲得信，遂聽信計，部署諸將所擊，留蕭何收巴蜀租，給軍糧食。八月，漢王引兵從故道，出襲雍，雍王章邯迎擊漢陳倉，雍兵敗，還走，止戰好時，又敗走廢丘。漢王遂定雍地，東至咸陽，引兵圍雍王於廢丘，而遣諸將略地，塞王欣、翟王翳皆降，以其地爲渭南、河上。上郡令將軍薛歐、王吸出武關，因王陵兵以迎太公、呂后。項王聞之，發兵距之陽夏，不得前。王陵者，沛人也，先聚黨數千人居南陽，至是始以兵屬漢。項王取陵母置軍中，陵使至，則東鄉坐，陵母欲以招陵，陵母私送使者，泣曰：願爲老妾語陵，善事漢王，漢王長者，終得天下，毋以老妾故持二心，妾以死送使者，遂伏劍而死。項王怒，亨陵母。○項王以故吳

令鄭昌爲韓王，以距漢。○張良遺項王書曰：漢王失驪，欲得關中，如約即止，不敢東，又以齊梁反書遺項王，曰：齊欲與趙并滅楚，項王以此故無西意，而北擊齊。○燕王廣不肯之，遼東臧荼擊殺之，并其地。○是歲，以內史沛周苛爲御史大夫。○項王使趣義帝行，其羣臣左右稍稍叛之。

二年冬十月，項王密使九江衡山臨江王擊義帝，殺之江中。○陳餘悉三縣兵與齊兵共襲常山，常山王張耳敗走漢，謁漢王於廢丘，漢王厚遇之。陳餘迎趙王於代，復爲趙王，趙王德陳餘，立以爲代王。陳餘爲趙王弱，國初定，不之國，留傅趙王，而使夏說以相國守代。○張良自韓閒行歸漢，漢王以爲成信侯，良多病，未嘗特將，常爲畫策臣。時時從漢王。○漢王如陝，鎮撫關外父老。○河南王申陽降，置河南郡。○漢王以韓襄王孫信爲韓太尉，將兵略韓地，信急擊韓王昌於陽城，昌降。十一月，立信爲韓王，常將韓兵。從漢王。○漢王還都櫟陽。○諸將拔隴西。○春正月，項王北至城陽，齊王榮將兵會戰，敗走平原，平原民殺之。項王復立田假爲齊王，遂北至北海，燒夷城郭室屋，坑田榮降卒，係虜其老弱婦女，所過多所殘滅。齊民相聚叛之。○漢將拔北地，虜雍王弟平。○三月，漢王自臨晉渡河，魏王豹降，將兵從。下河內，虜殷王卬，置河內郡。○初，陽武人陳平家貧，好讀書，里中社，平爲宰，分肉甚均，父老曰：善陳孺子之爲宰，平曰：嗟乎！使平得宰天下，亦如是肉矣。及諸侯叛秦，平事魏王，咎於臨濟，爲太僕，說魏王不聽，人或讒之，平亡去。後事項羽，賜爵爲卿，殷王反，項羽使平擊降之，還拜爲都尉，賜金二十鎰，居無何，漢王攻下殷，項王怒，將誅定殷將吏，平懼，乃封其金與印，使使歸項王，而挺身間行，杖劍亡，渡河，歸漢王於修武，因魏無知求見漢王，漢王召入，賜食，遣罷就舍，平曰：臣爲事來，所言不可以過今日，於是漢王與語而說之，問曰：子之居楚，何官？曰：爲都尉。是日，即拜平爲都尉，使爲參乘，典護軍，諸將盡謹曰：大王一日得楚之亡卒，未知其高下，而



卽與同載。反使監護長者。漢王聞之。愈益幸平。○漢王南渡平陰津。至洛陽。新城三老董公遮說王曰。臣聞順德者昌。逆德者亡。兵出無名。事故不成。故曰。明其爲賊。敵乃可服。項羽爲無道。放殺其主。天下之賊也。夫仁不以勇。義不以力。大王宜率三軍之衆。爲之素服。以告諸侯。而伐之。則四海之內。莫不仰德。此三王之舉也。於是漢王爲義帝發喪。袒而大哭。哀臨三日。發使告諸侯曰。天下共立義帝。北面事之。今項羽放殺義帝。帝喪。袒而大哭。哀臨三日。中兵收三河士。南浮江漢以下。願從諸侯。王擊楚之殺義帝者。使者至。趙陳餘曰。漢殺張耳。乃從。於是漢王求人類張耳者。斬之。持其頭遺陳餘。餘乃遣兵助漢。○田榮弟橫收散卒。得數萬人。起城陽。夏四月。立榮子廣爲齊王。以拒楚。項王因留連戰。未能下。雖聞漢東。旣擊齊。欲遂破之。而後擊漢。漢王以故得率諸侯兵。凡五十六萬人。伐楚。到外黃。彭越將其兵三萬。餘人歸漢。漢王曰。彭將軍收魏地。得十餘城。欲急立魏後。今西魏王豹。真魏後。乃拜彭越爲魏相國。擅將其兵。略定梁地。漢王遂入彭城。收其貨寶美人。日置酒高會。項王聞之。令諸將擊齊。而自以精兵三萬人。南從魯。出胡陵。至蕭。晨擊漢軍。而東至彭城。日中大破漢軍。漢軍皆走。相隨入穀泗水。死者十餘萬人。漢卒皆南走山。楚又追擊。至靈壁。東睢水上。漢軍却爲石。竊冥晝晦。逢迎楚軍。大亂壞散。而漢王乃得與數十騎遁去。欲過沛。收家室。而楚亦使人之沛。取漢王家。皆亡。不與漢王相見。漢王道逢孝惠魯元公主。載以行。楚騎追之。漢王急。推墮二子車下。滕公爲太僕。常下收載之。如是者三。曰。今雖急。不可以驅。奈何棄之。故徐行。漢王怒。欲斬之者十餘。滕公卒保護脫。二子審食其從。太公呂后。閒行求漢王。不相遇。反遇楚軍。楚軍與歸。項王常置軍中。爲質。是時呂后兄周呂侯。爲漢將。兵居下邑。漢王間往從之。稍稍收其士卒。諸侯皆背漢。復與楚。塞王欣翟王翳。亡降楚。○田橫進攻田假。假走。楚殺

之。橫遂復定三齊之地。○漢王問羣臣曰。吾欲捐關以東。等奔之。誰可與共功者。張良曰。九江王布。楚梟將。與項王有隙。彭越與齊反。梁地此兩人可急使。而漢王之將。獨韓信可屬大事。當一面。卽欲捐之。捐之此三人。則楚可破也。初項王擊齊。徵兵九江。九江王布稱病不往。遣將將軍數千人行。漢之破楚。彭城布又稱病不佐。楚王由此怨布。數使使者謂讓。召布。布愈恐。不敢往。項王方北憂齊趙。西患漢。所與者。獨九江王。又多布材。欲親用之。以故未之擊。漢王自下邑徙軍碭。遂至虞。謂左右曰。如彼等者。無足與計天下事。謁者隨何進曰。不審陛下所謂。漢王曰。孰能爲我使九江。令之發兵倍楚。留項王數月。我之取天下。可以百全。隨何曰。臣請使之。漢王使與二十人俱。○五月。漢王至滎陽。諸敗軍皆會。蕭何亦發關中老弱未傅者。悉詣滎陽。漢軍復大振。楚起於彭城。常乘勝逐北。與漢戰滎陽南。京索閒。楚騎來衆。漢王擇軍中可爲騎將者。皆推故秦騎士重泉人李必。駱甲。漢王欲拜之。必甲曰。臣故秦民。恐軍不信。臣願得大王左右善騎者。傅之。乃拜灌嬰爲中大夫。令李必駱甲爲左右校尉。將騎兵。擊楚騎於滎陽東。大破之。楚以故不能過滎陽。而西。漢王軍滎陽。築甬道。屬之河。以取敖倉粟。○周勃灌嬰等言于漢王曰。陳平雖美。如冠玉。其中未必有也。臣聞平居家時。盜其嫂。事魏不容。亡歸楚。不中。又亡歸漢。今日大王尊官之。令護軍。臣聞平不受諸將金。金多者得善處。金少者得惡處。平反覆亂臣也。願王察之。漢王疑之。召讓魏無知。無知曰。臣所言者能也。陛下所問者行也。今有尾生孝己之行。而無益勝負之數。陛下何暇用之乎。楚漢相距。臣進奇謀之士。願其計誠足。以利國家。不耳。盜嫂受金。又何足疑乎。漢王召讓平曰。先生事魏。不中。事楚而去。今又從吾游。信者固多心乎。平曰。臣事魏王。魏王不能用。臣說。故去。事項王。項王不能信人。其所任愛。非諸項。卽妻之昆弟。雖有奇士。不能用。聞漢王能用。人。故歸大王。臣裸身來不受金。無以爲資。誠臣計畫有可采者。願大王用之。使無可用者。金具在。請封輸



官得請骸骨。漢王乃謝厚賜，拜爲護軍中尉，盡護諸將。諸將乃不敢復言。○魏王豹謁歸，視親疾，至則絕河津，反爲楚。○六月，漢王還櫟陽。○壬午，立子盈爲太子，赦罪人。○漢兵引水灌廢丘，廢丘降。章邯自殺，盡定雍地，以爲中地。北地、隴西郡。○關中大飢，米斛萬錢，人相食，令民就食蜀漢。初，秦之亡也，豪桀爭取金玉，宣曲任氏獨窖倉粟，及楚漢相距，滎陽民不得耕種，而豪桀金玉盡歸任氏。任氏以此起富者數世。○秋八月，漢王如滎陽，命蕭何守關中，侍太子，爲法令約束，立宗廟社稷，宮室縣邑，事有不及，奏決者，輒以便宜施行。上來以聞，計關中戶口，轉漕調兵，以給軍，未嘗乏絕。○漢王使酈食其往說魏王豹，且召之。豹不聽，曰：「漢王慢而侮人，罵詈諸侯羣臣，如罵奴耳，吾不忍復見也。」於是漢王以韓信爲左丞相，與灌嬰、曹參俱擊魏。漢王問食其：「魏大將誰也？」對曰：「柏直。」王曰：「是口尚乳臭，安能當韓信騎將誰也？」曰：「馮敬。」是秦將馮無擇子也。雖賢，不能當灌嬰。步卒將誰也？」曰：「項它。」曰：「不能當曹參。」吾無患矣。韓信亦問酈生：「魏得無用周叔爲大將乎？」酈生曰：「柏直也。」信曰：「豎子耳。」遂進兵。魏王盛兵蒲坂，以塞臨晉。信乃益爲疑兵，陳船欲渡，臨晉而伏兵從夏陽，以木罌渡軍，襲安邑。魏王豹驚，引兵迎信。九月，信擊虜豹，傳詣滎陽，悉定魏地，置河東、上黨、太原郡。○漢之敗於彭城，而西也。陳餘亦覺張耳不死，即背漢。韓信既定魏，使人請兵三萬人，願以北舉燕趙，東擊齊，南絕楚糧道。漢王許之，乃遣張耳與俱引兵東北擊趙。代後九月，信破代兵，禽夏說於關與，信之下魏破代，漢輒使人收其精兵，詣滎陽，以距楚。

資治通鑑卷第九

資治通鑑卷第十

太祖高皇帝上之下

三年冬十月，韓信、張耳以兵數萬東擊趙。趙王及成安君陳餘聞之，聚兵井陘口，號二十萬。廣武君李左車說成安君曰：「韓信、張耳乘勝而去，國遠鬪，其鋒不可當。臣聞千里餽糧，士有飢色，樵蘇後爨，師不宿飽。今井陘之道，車不得方軌，騎不得成列，行數百里，其勢糧食必在其後，願足下假臣奇兵三萬人，從間路絕其輜重，足下深溝高壘，勿與戰，彼前不得鬪，退不得還，野無所掠，不至十日而兩將之頭可致於麾下。否則必爲二子所禽矣。」成安君嘗自稱義兵，不用詐謀奇計，曰：「韓信兵少而疲如此，避而不擊，則諸侯謂吾怯，而輕來伐我矣。」韓信使人間視，知其不用廣武君策，則大喜，乃敢引兵遂下。未至井陘口三十里，止舍。夜半傳發，選輕騎二千人，人持一赤幟，從間道躡山，而望趙軍。誠曰：「趙見我走，必空壁逐我，若疾入趙壁，拔趙幟，立漢赤幟，令其裨將傳餐。」曰：「今日破趙會食，諸將皆莫信，佯應曰：『諾。』」信曰：「趙已先據便地爲壁，且彼未見吾大將旗鼓，未肯擊前行，恐吾至阻險而還也。」乃使萬人先行，出背水陳。趙軍望見而大笑，平旦，信建大將旗鼓，行出井陘口，趙開壁擊之。大戰良久，於是信與張耳佯棄旗鼓，走水上軍。水上軍開入之，復疾戰。趙果空壁，爭漢旗鼓，逐信耳。信已入水上軍，軍皆殊死戰，不可敗。信所出奇兵二千騎，共候趙空壁逐利，則馳入趙壁，皆拔趙旗，立漢赤幟二千。趙軍已不能得信等，欲還歸壁，壁皆漢赤幟，見而大驚，以爲漢皆已得趙



王將矣。兵遂亂遁走。趙將雖斬之，不能禁也。於是漢兵夾擊，大破趙軍，斬成安君泜水上。禽趙王歇，諸將劾首虜畢，賀。因問信曰：「兵法，右倍山陵，前左水澤。今者將軍令臣等反背水陳，曰：『破趙會食。』臣等不服，然竟以勝。此何術也？」信曰：「此在兵法，顧諸君不察耳。兵法不曰：『陷之死地而後生。』置之亡地而後存，且信非得素拊循士大夫也。此所謂驅市人而戰之，其勢非置之死地，使人入自爲戰，今予之生地，皆走，寧尚可得而用之乎？」諸將皆服曰：「善。非臣所及也。」信募生得廣武君者，予千金，有縛致麾下者，信解其縛，東鄉坐，師事之。問曰：「僕欲北伐燕，東伐齊，何若而有功？」廣武君辭謝曰：「臣敗亡之虜，何足以權大事乎？」信曰：「僕聞之，百里奚居虞而虞亡，在秦而秦霸，非愚于虞而智于秦也。用與不用，聽與不聽也。誠令成安君聽足下計，若信者亦已爲禽矣。以不用足下故，信得侍耳。今僕委心歸計，願足下勿辭。」廣武君曰：「今將軍涉西河，虜魏王，禽夏說，東下井陘，不終朝而破趙二十萬衆，誅成安君，名聞海內，威震天下，農夫莫不輟耕釋耒，榆衣甘食，傾耳以待命者，此將軍之所長也。然而衆勞卒罷，其實難用。今將軍欲舉倦敝之兵，頓之燕堅城之下，欲戰不得，攻之不拔，情見勢屈，曠日持久，糧食單竭，燕既不服，齊必距境，以自彊，燕齊相持而不下，則劉項之權未有所分也。此將軍所短也。善用兵者，不以短擊長，而以長擊短。」韓信曰：「然則何由？」廣武君對曰：「方今爲將軍計，莫如按甲休兵，鎮撫趙民，百里之內，牛酒日至，以饗士大夫，北首燕路，而後遣辨士奉咫尺之書，暴其所長于燕，燕必不敢不聽從。燕已從而東臨齊，雖有智者亦不知爲齊計矣。如是，則天下事皆可圖也。兵固有先聲而後實者，此之謂也。」韓信曰：「善。從其策。」發使使燕，燕從風靡，遣使報漢，且請以張耳王趙。漢王許之。楚數使奇兵渡河擊趙，張耳、韓信往來救趙。因行定趙城邑，發兵詣漢。○甲戌晦，日有食之。○十一月癸卯晦，日有食之。隨何至九江，九江太宰主之。三日不得見，隨何說太宰曰：「王之不見何，必以楚爲彊，漢爲弱也。此臣之所以爲使，

使何得見，言之而是，大王所欲聞也；言之而非，使何等二十人伏斧質九江市，足以明王倍漢而與楚也。太宰乃言之。王見之，隨何曰：「漢王使臣敬進書大王御者，竊怪大王與楚何親也。」九江王曰：「寡人北鄉而臣事之，隨何曰：『大王與項王俱列爲諸侯，北鄉而臣事之者，必以楚爲彊，可以託國也。』項王伐齊，身負版築，爲士卒先。大王宜悉九江之衆，身自將之，爲楚前鋒，今乃發四千人以助楚，夫北面而臣事人者，固若是乎？漢王入彭城，項王未出齊也。大王宜悉九江之兵，渡淮，日夜會戰彭城下，大王乃撫萬人之衆，無一人渡淮者，垂拱而觀，其孰勝？夫託國於人者，固若是乎？大王提空名以鄉楚，而欲厚自託，臣竊爲大王不取也。然而大王不背楚者，以漢爲弱也。夫楚兵雖彊，天下負之以不義之名，以其背盟約而殺義帝也。漢王收諸侯，還守成，阜滎陽，下蜀漢之粟，深溝壁壘，分卒守徼，乘塞，楚人深入敵國，八九百里，老弱轉糧千里之外，漢堅守而不動，楚進則不得攻，退則不能解，故曰：『楚兵不足恃也。』使楚勝漢，則諸侯自危懼而相救，夫楚之彊，適足以致天下之兵耳。故楚不如漢，其勢易見也。今大王不與萬全之漢，而自託於危亡之楚，臣竊爲大王惑之。臣非以九江之兵足以亡楚也。大王發兵而倍楚，項王必留，留數月，漢之取天下，可以萬全。臣請與大王提劍而歸漢，漢王必裂地而封大王，又況九江，必大王有也。」九江王曰：「請奉命。」陰許，許與漢，未敢洩也。楚使者在九江，舍傳舍，方急責布發兵，隨何直入，坐楚使者上，曰：「九江王已歸漢，楚何以得發兵？布愕然。楚使者起，何因說布曰：『事已構，可遂殺楚使者，無使歸，而疾走漢。』布曰：『如使者教，於是殺楚使者，因起兵而攻楚。』楚使項聲、龍且攻九江，數月，龍且破九江軍，布欲引兵走漢，恐楚兵殺之，乃間行，與何俱歸漢。十二月，九江王至漢，漢王方踞牀洗足，召布入見，布大怒，悔來欲自殺，及出，就舍，帳御飲食從官，皆如漢王居。布又大喜，過望，於是乃使人入九江，楚已使項伯收九江兵，盡殺布妻子，布使者頗得故人幸臣，將衆數千人歸漢。漢益九江



王兵與俱屯成臯。楚數侵奪漢甬道，漢軍乏食，漢王與酈食其謀，燒楚權，食其曰：昔湯伐桀，封其後於杞，武王伐紂，封其後於宋。今秦失德棄義，侵伐諸侯，滅其社稷，使無立錐之地。陛下誠能復立六國之後，此其君臣百姓必皆戴陛下之德，莫不嚮風慕義，願爲臣妾。德義已行，陛下南鄉稱霸，楚必斂衽而朝。漢王曰：善。趣刻印，先生因行佩之矣。食其未行，張良從外來謁，漢王方食，曰：子房前客有爲我計，燒楚權者，具以酈生語告良，曰：何如？良曰：誰爲陛下畫此計者？陛下事去矣。漢王曰：何哉？對曰：臣請借前箸爲大王籌之。昔湯武封桀紂之後者，度能制其死生之命也。今陛下能制項籍之死命乎？其不可一也。武王入殷，表商容之閭，釋箕子之囚，封比干之墓。今陛下能乎？其不可二也。發巨橋之粟，散鹿臺之錢，以賜貧窮，今陛下能乎？其不可三也。殷事已畢，偃革爲軒，倒載干戈，示天下不復用兵，今陛下能乎？其不可四也。休馬華山之陽，示以無爲，今陛下能乎？其不可五也。放牛桃林之陰，以示不復輪積，今陛下能乎？其不可六也。天下游士，離其親戚，棄墳墓，去故舊，從陛下游者，徒欲日夜望咫尺之地，今復立六國之後，天下游士各歸事其主，從其親戚，反其故舊墳墓，陛下誰與取天下乎？其不可七也。且夫楚唯無疆，六國立者復燒而從之，陛下焉得而臣之？其不可八也。誠用客之謀，陛下事去矣。漢王輟食吐哺，罵曰：豎儒幾敗而公事，令趣銷印。

荀悅論曰：夫立策決勝之術，其要有三：一曰形，二曰勢，三曰情形。言其大體得失之數也。勢者，言其臨時之宜，進退之機也。情者，言其心志可否之實也。故策同事等而功殊者，三術不同也。初張耳、陳餘說陳涉以復六國，自爲樹黨，酈生亦說漢王，所以說者同而得失異者，陳涉之起，天下皆欲亡秦，而楚漢之分，未有所定。今天下未必欲亡項也，故立六國於陳涉，所謂多己之黨而益秦之敵也。且陳涉未能專天下之地也，所謂取非其有，以與於人行虛惠而獲實福也。立六國於漢王，所謂割己之有，而以資敵，設虛名而受實禍也。此同事而異形者也。及宋義待秦趙之斃，與昔下莊刺虎同說者也。施之戰國之時，鄰國相攻，無臨時之急，則可也。戰國之立，其日久矣。一戰勝敗，未必以存亡也。其勢非能急於亡敵國也。進乘利，退自保，故累力待時，乘敵之斃，其勢然也。今楚趙所起，其與秦勢不竝立，安危之機，呼吸成變，進則定功，退則受禍。此同事而異勢者也。伐趙之役，韓信軍於泜水之上，而趙不能敗，彭城之難，漢王戰于睢水之上，士卒皆赴入睢水，而楚兵大勝，何則？趙兵出國迎戰，見可而進，知難而退，懷內顧之心，無出死之計。韓信軍孤在水上，士卒必死，無有二心，此信之所以勝也。漢王深入敵國，置酒高會，士卒逸豫，戰心不固，楚以疆大之威，而喪其國都，士卒皆有憤激之氣，救敗赴亡之急，以決一旦之命。此漢之所以敗也。且韓信選精兵以守，而趙以內顧之士攻之，項羽選精兵以攻，而漢以怠惰之卒應之。此同事而異情者也。故曰：權不可豫設，變不可先圖，與時遷移，應物變化，設策之機也。

漢王謂陳平曰：天下紛紛，何時定乎？陳平曰：項王骨鯁之臣，亞父鍾離昧、龍且、周殷之屬，不過數人耳。大王誠能捐數萬斤金，行反間，間其君臣，以疑其心，項王爲人，意忌信讒，必內相誅。漢因舉兵而攻之，破楚必矣。漢王曰：善。乃出黃金四萬斤，與平，恣所爲，不問其出入。平多以金縱反間於楚軍，宣言諸將鍾離昧等爲項王將，功多矣，然而終不得裂地而王，欲與漢爲一，以滅項氏，而分王其地。項羽果意不信鍾離昧等。夏四月，楚圍漢王於滎陽。急，漢王請和，割滎陽以西者爲漢，亞父勸羽急攻滎陽。漢王患之，項羽使使至漢，陳平使爲大牢具，舉進，見楚使，卽佯驚曰：吾以爲亞父使，乃項王使，復持去，更以惡草具進。楚使歸，具以報項王。項王果大疑亞父。亞父欲急攻下滎陽城，項王不信，不肯聽。亞父聞項王疑之，乃怒曰：天下事大定矣，君王自爲之，願賜骸骨歸。未至彭城，疽發背而死。五月，將軍紀信言於漢王曰：事急矣，臣請誑楚。王可以闔出。於是陳平夜出女子東門，二千餘人，楚因四面擊之。紀信



乃乘王車，黃屋左纛，曰：食盡，漢王降。楚皆呼萬歲。之城東觀，以故漢王得與數十騎出西門遁去。令韓王信與周苛、魏豹、縱公守滎陽。羽見紀信問漢王安在，曰：已出去矣。羽燒殺信。周苛、縱公相謂曰：反國之王，難與守城。因殺魏豹。漢王出滎陽，至成臯，入關，收兵欲復東轅生。說漢王曰：漢與楚相距滎陽數歲，漢常困。願君王出武關，項王必引兵南走。王深壁勿戰。令滎陽成臯間，且得休息，使韓信等得安輯河北趙地，連燕齊。君王乃復走滎陽。如此，則楚所備者多，力分。漢得休息，復與之戰，破之必矣。漢王從其計，出軍宛葉間，與黥布行收兵。羽聞漢王在宛，果引兵南。漢王堅壁不與戰。漢王之敗彭越，解而西也。彭越皆亡其所下城，獨將其兵北居河上，常往來爲漢游兵，擊楚絕其後糧。是月，彭越渡睢，與項聲、薛公戰，下邳破殺薛公。羽乃使終公守成臯，而自東擊彭越。漢王引兵北擊破終公，復軍成臯。六月，羽已破走彭越，聞漢復軍成臯，乃引兵西拔滎陽城，生得周苛、羽謂苛爲我將，以公爲上將軍，封三萬戶。周苛罵曰：若不趨降漢，今爲虜矣。若非漢王敵也。羽烹周苛，并殺縱公，而虜韓王信，遂圍成臯。漢王逃，獨與滕公共車，出成臯，玉門北渡河，宿小修武，傳舍晨自稱漢使，馳入趙壁，張耳、韓信未起，即其臥內奪其印符，以麾召諸將，易置之。信耳起，乃知漢王來，大驚。漢王既奪兩人軍，即令張耳循行，備守趙地，拜韓信爲相國，收趙兵未發者，擊齊。諸將稍稍得出，成臯從漢王。楚遂拔成臯，欲西。漢使兵距之鞏，令其不得西。○秋七月，有星孛于大角。○臨江王敖薨，子尉嗣。○漢王得韓信軍，復大振。八月，引兵臨河南鄉，軍小修武，欲復與楚戰。郎中鄭忠說止漢王，使高壘深塹，勿與戰。漢王聽其計，使將軍劉賈、盧縮將卒二萬人騎數百，度白馬津，入楚地，佐彭越、燒楚積聚，以破其業。無以給項王軍食。已而楚兵擊劉賈，賈輒壁，不肯與戰，而與彭越相保。○彭越攻徇梁地，下睢陽外黃等十七城。九月，項王謂大司馬曹咎曰：謹守成臯，即漢王欲挑戰，慎勿與戰，勿令得東而已。我十五日必定梁地，復從將軍。羽引

兵東行，擊陳留外黃、睢陽等城，皆下之。○漢王欲捐成臯以東，屯鞏洛，以距楚。酈生曰：臣聞知天之天者，王事可成。王者以民爲天，而民以食爲天。夫敖倉天下轉輸久矣，臣聞其下乃有藏粟甚多。楚人拔滎陽，不堅守敖倉，乃引而東，令適卒分守成臯，此乃天所以資漢也。方今楚易取，而漢反却，自奪其便，臣竊以爲過矣。且兩雄不俱立，楚漢久相持不決，海內搖蕩，農夫釋耒，工女下機，天下之心未有所定也。願足下急復進兵，收取滎陽，據敖倉之粟，塞成臯之險，杜太行之道，距蜚狐之口，守白馬之津，以示諸侯形制之勢，則天下知所歸矣。王從之，乃復謀取敖倉，食其又說王曰：方今燕趙已定，唯齊未下。諸田宗彊，負海岱，阻河濟，南近於楚，人多變詐，足下雖遣數萬師，未可以歲月破也。臣請得奉明詔說齊王，使爲漢而稱東藩。上曰：善。乃使酈生說齊王曰：王知天下之所歸乎？王曰：不知也。天下何所歸？酈生曰：歸漢。曰：先生何以言之？曰：漢王先入咸陽，項王負約，王之漢中，項王遷殺義帝，漢王聞之，起蜀漢之兵，擊三秦，出關而責義帝之處，收天下之兵，立諸侯之後，降城即以侯其將，得賂即以分其士，與天下同其利，豪英賢才皆樂爲之用。項王有倍約之名，殺義帝之負，於人之功無所記，於人之辜無所忘，戰勝而不得其賞，拔城而不得其封，非項氏莫得用事。天下畔之，賢才怨之，而莫爲之用，故天下之事歸於漢王，可坐而策也。夫漢王發蜀漢定三秦，涉西河，破北魏，出井陘，誅成安君，此非人之力也。天之福也。今已據敖倉之粟，塞成臯之險，守白馬之津，杜太行之阪，距蜚狐之口，天下後服者先亡矣。王疾先下，漢王齊國可得而保也。不然，危亡可立而待也。先是，齊聞韓信且東，兵使華無傷田解將重兵屯歷下，以距漢。及酈生之言，遣使與漢平，乃罷歷下守戰備，與酈生日縱酒爲樂。韓信引兵東，未度平原，聞酈食其已說下齊，欲止，辨士蒯徹說信曰：將軍受詔擊齊，而漢獨發間使下齊，寧有詔止將軍乎？何以得毋行也。且酈生一士，伏軾掉三寸之舌，下齊七十餘城，將軍以數萬衆，歲餘乃下，趙五十餘



城爲將數歲。反不如一豎儒之功乎。於是信然之。遂渡河。四年冬十月。信襲破齊。歷下軍。遂至臨淄。齊王以酈生爲賣己。乃烹之。引兵東走高密。使使之楚請救。田橫走博陽。守相田光走城陽。將軍田既軍於膠東。○楚大司馬咎守成阜。漢數挑戰。楚軍不出。使人辱之數日。咎怒。渡兵汜水。士卒半渡。漢擊之。大破楚軍。盡得楚國金玉貨賂。咎及司馬欣皆自剄。汜水上。漢王引兵渡河。復取成阜。軍廣武。就敖倉食。項羽下梁地十餘城。聞成阜破。乃引兵還。漢軍方圍鍾離。昧於滎陽東。聞羽至。盡走險阻。羽亦軍廣武。與漢相守。數月。楚軍食少。項王患之。乃爲俎。置太公其上。告漢王曰。今不急下。吾烹太公。漢王曰。吾與羽俱北面受命懷王。約爲兄弟。吾翁即若翁。必欲烹而翁。幸分我一櫓羹。項王怒。欲殺之。項伯曰。天下事未可知。且爲天下者。不顧家。雖殺之無益。祇益禍耳。項王從之。項王謂漢王曰。天下匈匈數歲者。徒以吾兩人耳。願與漢王挑戰。決雌雄。毋徒苦天下之民父子爲也。漢王笑謝曰。吾寧鬪智。不能鬪力。項王三令壯士出挑戰。漢有善騎射者樓煩。輒射殺之。項王大怒。乃自被甲持戟挑戰。樓煩欲射之。項王瞋目叱之。樓煩目不敢視。手不敢發。遂走還入壁。不敢復出。漢王使人間問之。乃項王也。漢王大驚。於是項王乃卽漢王相與臨廣武間。而語。羽欲與漢王獨身挑戰。漢王數羽曰。羽負約。王我於蜀漢。罪一。矯殺卿子冠軍。罪二。救趙不還報。而擅劫諸侯兵入關。罪三。燒秦宮室。掘始皇帝冢。收私其財。罪四。殺秦降王子嬰。罪五。詐誅秦子弟新安二十萬。罪六。王諸將善地。而徙逐故王。罪七。出逐義帝彭越。自都之。奪韓王地。并王梁楚。多自與。罪八。使人陰殺義帝江南。罪九。爲政不平。主約不信。天下所不容。大逆無道。罪十也。吾以義兵從諸侯。誅殘賊。使刑餘罪人擊公。何苦乃與公挑戰。羽大怒。伏弩射中漢王。漢王傷胷。乃捫足曰。虜中吾指。漢王病創臥。張良彊請漢王起行勞軍。以安士卒。毋令楚乘勝。漢王出行軍。疾甚。因馳入成阜。○韓信已定臨淄。遂東追齊王。項王使

龍且將兵。號二十萬。以救齊。與齊王合軍高密。客或說龍且曰。漢兵遠鬪。窮戰。其鋒不可當。齊楚自居其地。兵易敗散。不如深壁。令齊王使其信臣。招所亡城。亡城聞王在楚來救。必反。漢漢兵二千里。客居齊地。齊城皆反之。其勢無所得食。可無戰而降也。龍且曰。吾平生知韓信爲人易與耳。寄食於漂母。無資身之策。受辱於袴下。無兼人之勇。不足畏也。且夫救齊。不戰而降之。吾何功。今戰而勝之。齊之半可得也。十一月。齊楚與漢夾濰水而陳。韓信夜令人爲萬餘囊。滿盛沙。壅水上流。引軍半渡。擊龍且。佯不勝。還走。龍且果喜曰。固知信怯也。遂追信。信使人決壅。囊水大至。龍且軍大半不得渡。卽急擊殺龍且。水東軍散走。齊王廣亡去。信遂追北。至城陽。虜齊王廣。漢將灌嬰追得齊守相田光。進至博陽。田橫聞齊王死。自立爲齊王。還擊嬰。嬰敗橫軍於贏下。田橫亡走梁。歸彭越。嬰進擊齊將田吸於千乘。曹參擊田既於膠東。皆殺之。盡定齊地。○立張耳爲趙王。○漢王疾愈。西入關。至櫟陽。梟故塞王欣頭。櫟陽市留四日。復如軍。軍廣武。○韓信使人言漢王曰。齊僞詐多變。反覆之國也。南邊楚。請爲假王。以鎮之。漢王發書大怒。罵曰。吾困於此。且暮望若來佐我。乃欲自立爲王。張良。陳平。躡漢王足。因附耳語曰。漢方不利。寧能禁信之自王乎。不如因而立之。善遇。使自爲守。不然。變生。漢王亦悟。因復罵曰。大丈夫定諸侯。卽爲真王耳。何以假爲。春二月。遣張良操印。立韓信爲齊王。徵其兵擊楚。○項王聞龍且死。大懼。使盱台人武涉往說齊王信曰。天下共苦秦久矣。相與勦力擊秦。秦已破。計功割地。分土而王之。以休士卒。今漢王復興兵而東。侵人之分。奪人之地。已破三秦。引兵出關。收諸侯之兵。以東擊楚。其意非盡吞天下者不休。其不知厭足如是甚也。且漢王不可必。身居項王掌握中數矣。項王憐而活之。然得脫。輒倍約。復擊項王。其不可親信如此。今足下雖自以漢王爲厚交。爲之盡力用兵。必終爲所禽矣。足下所以得須臾至今者。以項王尙存也。當今二王之事。權在足下。足下右投。則漢王勝。左投。則項王勝。



項王今日亡，則次取足下。足下與項王有故，何不反漢，與楚連和，參分天下，王之。今釋此時，而自必於漢，以擊楚，且爲智者固若此乎？韓信謝曰：「臣事項王，官不過郎中，位不過執戟，言不聽，畫不用，故倍楚而歸漢。漢王授我上將軍印，予我數萬衆，解衣衣我，推食食我，言聽計用，故吾得以至於此。夫人深親信我，我倍之不祥，死不易，幸爲信謝項王，武涉已去，蒯徹知天下權在信，乃以相人之術說信曰：『僕相君之面，不過封侯，又危不安，相君之背，貴乃不可言。』韓信曰：『何謂也？』蒯徹曰：『天下初發難也，憂在亡秦而已。今楚漢分爭，使天下之人肝膽塗地，父子暴骸骨於中野，不可勝數。楚人走彭越，越人走彭越，乘利席卷，威震天下，然兵困于京索之間，迫西山而不能進者，三年於此矣。漢王將十萬之衆，距鞏維，阻山河之險，一日數戰，無尺寸之功，折北不救，此所謂智勇俱困者也。百姓罷極怨望，無所歸倚，以臣料之，其勢非天下之賢聖固不能息。天下之禍當今兩主之命懸於足下，足下爲漢，則漢勝，與楚則楚勝，誠能聽臣之計，莫若兩利而俱存之，參分天下，鼎足而居，其勢莫敢先動。夫以足下之賢聖，有甲兵之衆，據疆齊，從趙燕，出空虛之地，而制其後，因民之欲，西鄉爲百姓請命，則天下風走而響應矣。孰敢不聽？割大弱疆，以立諸侯，諸侯已立，天下服聽，而歸德於齊，案齊之故，有膠泗之地，深拱揖讓，則天下之君王相牽而朝於齊矣。蓋聞天與弗取，反受其咎，時至不行，反受其殃。願足下熟慮之。』韓信曰：『漢王遇我甚厚，吾豈可鄉利而倍義乎？』蒯徹曰：『始常山王成安君爲布衣時，相與爲刎頸之交，後爭張黈陳澤之事，常山王殺成安君，泝水之南，頭足異處。此二人相與，天下至驩也，然而卒相禽者，何也？患生於多欲，而人心難測也。今足下欲行忠信，以交於漢王，必不能固於二君之相與也。而事多大於張黈陳澤者，故臣以爲足下必漢王之不危已，亦誤矣。大夫種存亡越，霸句踐立功成名而身死亡，野獸盡而獵狗烹，夫以交友言之，則不如張耳之與成安君者也。以忠信言之，則不過大夫種之於句踐也。此

二者足以觀矣。願足下深慮之。且臣聞勇略震主者身危，功蓋天下者不賞，今足下戴震主之威，挾不賞之功，歸楚，楚人不信，歸漢，漢人震恐，足下欲持是安歸乎？韓信謝曰：「先生且休矣，吾將念之。」後數日，蒯徹復說曰：「夫聽者事之候也，計者事之機也。聽過計失，而能久安者鮮矣。故知者決之斷也，疑者事之害也。審毫釐之小計，遺天下之大數，智誠知之，決弗敢行者，百事之禍也。夫功者難成而易敗，時者難得而易失也。時乎時，不再來，韓信猶豫，不忍倍漢，又自以爲功多，漢終不奪我齊，遂謝蒯徹因去，佯狂爲巫。○秋七月，立黈布爲淮南王。○八月，北貉燕人來致梟騎助漢。○漢王下令軍士不幸死者，吏爲衣衾棺斂，轉送其家，四方歸心焉。○是歲，以中尉周昌爲御史大夫，昌苛從弟也。○項羽自知少助，食盡，韓信又進兵擊楚，羽患之。漢遣侯公說羽請太公，羽乃與漢約中分天下，割洪溝以西爲漢，以東爲楚。九月，楚歸太公，呂后引兵解而東歸。漢王欲西歸，張良陳平說曰：「漢有天下大半，而諸侯皆附，楚兵疲食盡，此天亡之時也。今釋弗擊，此所謂養虎自遺患也。漢王從之。」

資治通鑑卷第十

漢紀 太祖高皇帝上之上四年



# 資治通鑑卷第十一

## 漢紀三

### 太祖高皇帝中

五年冬十月漢王追項羽至固陵與齊王信魏相國越期會擊楚信越不至楚擊漢軍大破之漢王復堅壁自守謂張良曰諸侯不從奈何對曰楚兵且破二人未有分地其不至固宜君王能與共天下可立致也齊王信之立非君王意信亦不自堅彭越本定梁地始君王以魏豹故拜越為相國今豹死越亦望王而君王不早定今能取睢陽以北至穀城皆以王彭越從陳以東傅海與韓王信信家在楚其意欲復得故邑能出捐此地以許兩人使各自為戰則楚易破也漢王從之於是韓信彭越皆引兵來十一月劉賈南渡淮圍壽春遣人誘楚大司馬周殷殷畔楚以舒屠六舉九江兵迎黥布竝行屠城父隨劉賈皆會十二月項王至垓下兵少食盡與漢戰不勝入壁漢軍及諸侯兵圍之數重項王夜聞漢軍四面皆楚歌乃大驚曰漢皆已得楚乎是何楚人之多也則夜起飲帳中悲歌愴慨泣數行下左右皆泣莫能仰視於是項王乘其駿馬名騶下壯士騎從者八百餘人直夜潰圍南出馳走平明漢軍乃覺之令騎將灌嬰以五千騎追之項王渡淮騎能屬者纔百餘人至陰陵迷失道問一田父田父給曰左乃陷大澤中以故漢追及之項王乃復引兵而東至東城乃有二十八騎漢騎追者數千人項王自度不得脫謂其騎曰吾起兵至今八歲矣身七十餘戰未嘗敗北遂霸有天下然今卒困於此此天之亡我非戰之罪也今日固決死願為諸君快戰必潰

圍斬將刈旗三勝之令諸君知天亡我非戰之罪也乃分其騎以為四隊四鄉漢軍圍之數重項王謂其騎曰吾為公取彼一將令四面騎馳下期山東為三處於是項王大呼馳下漢軍皆披靡遂斬漢一將是時郎中騎楊喜追項王項王瞋目而叱之喜人馬俱驚辟易數里項王與其騎會為三處漢軍不知項王所在乃分軍為三復圍之項王乃馳復斬漢一都尉殺數十百人復聚其騎亡其兩騎耳乃謂其騎曰何如騎皆伏曰如大王言於是項王欲東渡烏江烏江亭長檣船待謂項王曰江東雖小地方千里衆數十萬人亦足王也願大王急渡今獨臣有船漢軍至無以渡項王笑曰天之亡我我何渡為且籍與江東子弟八千人渡江而西今無一人還縱江東父兄憐而王我我何面目見之縱彼不言籍獨不愧於心乎乃以所乘騶馬賜亭長令騎皆下馬步行持短兵接戰獨籍所殺漢軍數百人身亦被十餘創顧見漢騎司馬呂馬童曰若非吾故人乎馬童面之指示中郎騎王翳曰此項王也項王乃曰吾聞漢購我頭千金邑萬戶吾為若德乃自刎而死王翳取其頭餘騎相蹂踐爭項王相殺者數十人最其後楊喜呂馬童及郎中呂勝楊武各得其一體五人共會其體皆是故分其尸封五人皆為列侯楚地悉定獨魯不下漢王引天下兵欲屠之至其城下猶聞絃誦之聲為其守禮義之國為主死節乃持項王頭以示魯父兄魯乃降漢王以魯公禮葬項王於穀城親為發哀哭之而去諸項氏枝屬皆不誅封項伯等四人皆為列侯賜姓劉氏諸民略在楚者皆歸之

太史公曰羽起隴畹之中三年遂將五諸侯滅秦分裂天下而封王侯政由羽出位雖不終近古以來未嘗有也及羽背關懷楚放逐義帝而自立怨王侯叛己難矣自矜功伐奮其私智而不師古謂霸王之業欲以力征經營天下五年卒亡其國身死東城尚不覺悟而不自責乃引天亡我非用兵之罪也豈不謬哉



楊子法言。或問楚敗垓下。方死曰。天也。諒乎。曰。漢屈羣策。羣策屈羣力。楚愷羣策。而自屈其力。屈人者克。自屈者負。天曷故焉。

漢王還至定陶。馳入齊王信壁。奪其軍。○臨江王共尉不降。遣盧縮。劉賈擊虜之。○春正月。更立齊王信為楚王。王淮北。都下邳。封魏相國。建城侯彭越。為梁王。王魏故地。都定陶。○令曰。兵不得休八年。萬民與苦甚。今天下事畢。其赦天下殊死以下。諸侯王皆上疏。請尊漢王為皇帝。二月甲午。王即皇帝位。于汜水之陽。更王后曰皇后。太子曰皇太子。追尊先媼曰昭靈夫人。詔曰。故衡山王吳芮。從百粵之兵。佐諸侯。誅暴秦。有大功。諸侯立以為王。項羽侵奪之地。謂之番君。其以芮為長沙王。又曰。故粵王無諸。世奉粵祀。秦侵奪其地。使其社稷不得血食。諸侯伐秦。無諸身率閩中兵。以佐滅秦。項羽廢而不立。今以為閩粵王。王閩中地。○帝西都洛陽。○夏五月。兵皆罷歸家。○詔。民前或相聚保山澤。不書名數。今天下已定。令各歸其縣。復故爵田宅。吏以文法。教訓辨告。勿笞辱軍吏卒。爵及七大夫以上。皆令食邑。非七大夫已下。皆復其身及戶。勿事。帝置酒洛陽南宮。上曰。微侯諸將。毋敢隱朕。皆言其情。吾所以有天下者。何。項氏之所以失天下者。何。高起。王陵對曰。陛下使人攻城畧地。因以與之。與天下同其利。項羽不然。有功者害之。賢者疑之。此其所以失天下也。上曰。公知其一。未知其二。夫運籌帷幄之中。決勝千里之外。吾不如子房。填國家。撫百姓。給餉餽。不絕糧道。吾不如蕭何。連百萬之衆。戰必勝。攻必取。吾不如韓信。三者皆人傑。吾能用之。此吾所以取天下者也。項羽有一范增。而不能用。此所以為吾禽也。羣臣說服。○韓信至楚。召漂母。賜千金。召辱己少年。令出跨下者。以為中尉。告諸將相曰。此壯士也。方辱我時。我寧不能殺之邪。殺之無名。故忍而就此。○彭越既受漢封。田橫懼誅。與其徒屬五百餘人。入海。居島中。帝以田橫兄弟本定齊地。齊賢者多附焉。今在海中。不取。後恐為亂。乃使使赦橫罪。召之。橫謝曰。臣烹陛下之

使酈生。今聞其弟商為漢將。臣恐懼。不敢奉詔。請為庶人。守海島中。使還報。帝乃詔衛尉酈商曰。齊王田橫即至。人馬從者。敢動搖者。致族夷。乃復使使持節。具告以詔商狀。曰。田橫來。大者王。小者乃侯耳。不來。且舉兵加誅焉。橫乃與其客二人。乘傳詣洛陽。未至三十里。至戶鄉。廐置。橫謝使者曰。人臣見天子。當洗沐。因止留。謂其客曰。橫始與漢王俱南面稱孤。今漢王為天子。而橫乃為亡虜。北面事之。其恥固已甚矣。且吾烹人之兄。與其弟。併肩而事主。縱彼畏天子之詔。不敢動。我獨不媿於心乎。且陛下所以欲見我者。不過欲一見吾面貌耳。今斬吾頭。馳三十里間。形容尙未能敗。猶可觀也。遂自剄。令客奉其頭。從使者馳奏之。帝曰。嗟乎。起自布衣。兄弟三人更王。豈不賢哉。為之流涕。而拜其二客。為都尉。發卒二千人。以王者禮葬之。既葬。二客穿其冢。傍孔。皆自剄。下從之。帝聞之大驚。以橫客皆賢。餘五百人。尙在海中。使使召之。至則聞田橫死。亦皆自殺。○初。楚人季布。為項籍將。數窘辱帝。項籍滅。帝購求布千金。敢有舍匿。罪三族。布乃髡鉗為奴。自賣於魯朱家。朱家心知其季布也。買置田舍。身之洛陽。見滕公。說曰。季布何罪。臣各為其主用。職耳。項氏臣。豈可盡誅耶。今上始得天下。而以私怨求一人。何示不廣也。且以季布之賢。漢求之急。此不北走胡。南走越耳。夫忌壯士。以資敵國。此伍子胥所以鞭荆平之墓也。君何不從容為上言之。滕公待問。言於上。如朱家指上。乃赦布。召拜郎中。朱家遂不復見之。布母弟丁公。亦為項羽將。逐窘帝彭城西。短兵接。帝急。顧謂丁公曰。兩賢豈相忌哉。丁公引兵而還。及項王滅。丁公謁見。帝以丁公徇軍中。曰。丁公為項王臣。不忠。使項王失天下者也。遂斬之。曰。使後為人臣。無傲丁公也。

臣光曰。高祖起豐沛以來。罔羅豪桀。招亡納叛。亦已多矣。及即帝位。而丁公獨以不忠受戮。何哉。夫進取之與守成。其勢不同。當羣雄角逐之際。民無定主。來者受之。固其宜也。及貴為天子。四海之內。無不為臣。苟不明禮義。以示之。使為臣者。人懷貳心。以徼大利。則國



家其能久安乎。是故斷以大義，使天下曉然，皆知爲臣不忠者，無所自容，而懷私結恩者，雖至於活己，猶以義不與也。戮一人而千萬人懼，其慮事豈不深且遠哉！子孫享有天祿，四百餘年宜矣。

齊人婁敬，戍隴西，過洛陽，脫輓輅，衣羊裘，因齊人虞將軍求見上。虞將軍欲與之鮮衣，婁敬曰：「臣衣帛，衣帛見，衣褐，衣褐見，終不敢易衣。」於是虞將軍入言上，上召見問之。婁敬曰：「陛下都洛陽，豈欲與周室比隆哉？」上曰：「然。」婁敬曰：「陛下取天下，與周異。周之先自后稷封部，積德業善，十有餘世，至于太王、王季、文王、武王，而諸侯自歸之。遂滅殷，爲天子。及成王卽位，周公相焉，乃營洛邑，以爲此天下之中也。諸侯四方納貢職，道里均矣。有德則易以王，無德則易以亡。故周之盛時，天下和洽，諸侯四夷莫不賓服，効其貢職，及其衰也，天下莫朝。周不能制也，非唯其德薄也，形勢弱也。今陛下起豐沛，卷蜀漢，定三秦，與項羽戰滎陽，成臯之間，大戰七十，小戰四十，使天下之民肝腦塗地，父子暴骨中野，不可勝數。哭泣之聲，未絕，傷夷者未起，而欲比隆於成康之時，臣竊以爲不侔也。且夫秦地，被山帶河，四塞以爲固，卒然有急，百萬之衆，可立具也。因秦之故資，甚美膏腴之地，此所謂天府者也。陛下入關而都之，山東雖亂，秦之故地，可全而有也。夫與人鬪，不益其亢，拊其背，未能全其勝也。今陛下案秦之故地，此亦益天下之亢，而拊其背也。帝問羣臣，羣臣皆山東人，爭言周王數百年，秦二世卽亡，洛陽東有成臯，西有殽澠，倍河鄉伊洛，其固亦足恃也。上問張良，良曰：「洛陽雖有此固，其中小不過數百里，田地薄，四面受敵，此非用武之國也。關中左殽函，右隴蜀，沃野千里，南有巴蜀之饒，北有胡苑之利，阻三面而守，獨以一面，東制諸侯，安定河渭，漕輓天下，西給京師，諸侯有變，順流而下，足以委輸，此所謂金城千里，天府之國也。」婁敬說是也。上卽日車駕西都長安，拜婁敬爲郎中，號曰奉春君，賜姓劉氏。張良素多病，從上入關，卽道引不食穀。杜門

不出。曰：「家世相韓，及韓滅，不愛萬金之資，爲韓報讐，彊秦天下振動。今以三寸舌爲帝者師，封萬戶侯，此布衣之極，於良足矣。」願棄人間事，欲從赤松子游耳。

臣光曰：夫生之有死，譬猶夜旦之必然，自古及今，固未有超然而獨存者也。以子房之明辨達理，足以知神僊之爲虛詭矣。然其欲從赤松子游者，其智可知也。夫功名之際，人臣之所難處，如高帝所稱者，三傑而已。淮陰誅夷，蕭何繫獄，非以履盛滿而止耶？故子房託於神僊，遺棄人間，等功名於外物，置榮利而不顧，所謂明哲保身者，子房有焉。

六月壬辰，大赦天下。○秋七月，燕王臧荼反，上自將征之。○趙景王耳，長沙文王芮，皆薨。○九月，虜臧荼，壬子，立太尉長安侯盧縮爲燕王。縮家與上同里，閉縮生，又與上同，日上寵幸縮，羣臣莫敢望，故特王之。○項王故將利幾反，上自擊破之。○後九月，治長樂宮。○項王將鍾離昧，素與楚王信善，項王死後，亡歸信。漢王怨昧，聞其在楚，詔楚捕昧。信初之國，行縣邑，陳兵出入。

六年冬十月，人有上書告楚王信反者，帝以問諸將，皆曰：「亟發兵，阬豎子耳。」帝默然。又問陳平，陳平曰：「人上書言信反，信知之乎？」曰：「不知。」陳平曰：「陛下精兵孰與楚？」上曰：「不能過。」平曰：「陛下諸將用兵，有能過韓信者乎？」上曰：「莫及也。」平曰：「今兵不如楚精，而將不能及，舉兵攻之，是趣之戰也。竊爲陛下危之。」上曰：「爲之奈何？」平曰：「古者天子有巡狩，會諸侯，陛下第出，僞游雲夢，會諸侯於陳，楚之西界，信聞天子以好出游，其執必無事而郊迎謁。謁而陛下因禽之，此特一力士之事耳。帝以爲然，乃發使告諸侯，會陳。吾將南游雲夢，上因隨以行。楚王信聞之，自疑懼，不知所爲，或說信曰：「斬鍾離昧，以謁上，上必喜無患。」信從之。十二月，上會諸侯於陳，信持昧首謁上，上令武士縛信，載後車。信曰：「果若人言，狡免死，走狗烹，高鳥盡，良弓藏，敵國破，謀臣亡，天下已定，我固當烹。」上曰：「人告公反，遂械繫信，以歸。因赦天下。田肯賀，上曰：「陛



下得韓信。又治秦中秦形勝之國也。帶河阻山。地執便利。其以下兵於諸侯。譬猶居高屋之上。建瓴水也。夫齊東有琅邪。即墨之饒。南有泰山之固。西有濁河之限。北有渤海之利。地方二千里。持戟百萬。此東西秦也。非親子弟。莫可使。王齊者。上曰。善。賜金五百斤。上還至洛陽。赦韓信。封爲淮陰侯。信知漢王畏惡其能。多稱病不朝。從居常鞅鞅。羞與絳灌等列。嘗過樊將軍噲。噲跪拜送迎。言稱臣曰。大王乃肯臨臣。信出門笑曰。生乃與噲等爲伍。上嘗從容與信言。諸將能將兵多少。上問曰。如我能將幾何。信曰。陛下不過能將十萬。上曰。於君何如。曰。臣多多而益善耳。上笑曰。多多益善。何爲我禽。信曰。陛下不能將兵。而善將將。此乃信之所以爲陛下禽也。且陛下所謂天授非人力也。○甲申。始剖符封諸功臣。爲徹侯。蕭何封鄼侯。所食邑獨多。功臣皆曰。臣等身被堅執銳。多者百餘戰。少者數十合。今蕭何未嘗有汗馬之勞。徒持文墨議論。顧反居臣等上。何也。帝曰。諸君知獵乎。夫獵。追殺獸兔者。狗也。而發縱指示獸處者。人也。今諸君徒能得走獸耳。功狗也。至如蕭何。發縱指示。功人也。羣臣皆不敢言。張良爲謀臣。亦無戰鬪功。帝使自擇齊三萬戶。良曰。始臣起下邳。與上會留。此天以臣授陛下。陛下用臣計。幸而時中。臣願封留足矣。不敢當三萬戶。乃封張良爲留侯。封陳平爲戶牖侯。平辭曰。此非臣之功也。上曰。吾用先生謀。戰勝克敵。非功而何。平曰。非魏無知。臣安得進。上曰。若子可謂不背本矣。乃復賞魏無知。帝以天下初定。子幼。昆弟少。懲秦孤立而亡。欲大封同姓。以填撫天下。春正月丙午。分楚王信地爲二國。以淮東五十三縣立從兄將軍賈爲荆王。以薛郡東海彭城三十六縣立弟文信君交爲楚王。壬子。以雲中鴈門代郡五十三縣立兄宜侯喜爲代王。以膠東膠西臨菑濟北博陽城陽郡七十三縣立微時外婦之子肥爲齊王。諸民能齊言者。皆以與齊。○上以韓王信材武。所王北近鞏洛。南迫宛葉。東有淮陽。皆天下勁兵處。乃以太原郡三十一縣爲韓國。徙韓王信王太原。以北備禦胡。都晉陽。信

上書曰。國被邊匈奴數入寇。晉陽去塞遠。請治馬邑。上許之。○上已封大功臣二十餘人。其餘日夜爭功。不決。未得行封。上在洛陽南宮。從複道望見諸將。往往相與坐。沙中語。上曰。此何語。留侯曰。陛下不知乎。此謀反耳。上曰。天下屬安定。何故反乎。留侯曰。陛下起布衣。以此屬取天下。今陛下爲天子。而所封皆故人。所親愛。所誅皆生平所仇怨。今軍吏計功。以天下不足徧封。此屬畏陛下不能盡封。恐又見疑。平生過失。及誅。故即相聚謀反耳。上乃憂曰。爲之奈何。留侯曰。上平生所憎。羣臣所共知。誰最甚者。上曰。雍齒與我有故怨。數嘗窘辱我。我欲殺之。爲其功多。故不忍。留侯曰。今急先封雍齒。則羣臣人人自堅矣。於是上乃置酒。封雍齒爲什方侯。而急趨丞相御史。定功行封。羣臣罷酒。皆喜曰。雍齒尚爲侯。我屬無患矣。臣光曰。張良爲高帝謀臣。委以心腹。宜其知無不言。安有聞諸將謀反。必待高帝目見。偶語然後乃言之耶。蓋以高帝初得天下。數用愛憎行誅賞。或時害至公。羣臣往往有缺望。自危之心。故良因事納忠。以變移帝意。使上無阿私之失。下無猜懼之謀。國家無虞。利及後世。若良者。可謂善諫矣。列侯畢已受封。詔定元功十八人位次。皆曰。平陽侯曹參。身被七十創。攻城畧地。功最多。宜第一。謁者關內侯鄂千秋進曰。羣臣議皆誤。夫曹參雖有野戰略地之功。此特一時之事耳。上與楚相距五歲。失軍亡衆。跳身遁者數矣。然蕭何常從關中。遣軍補其處。非上所詔。令召而數萬衆。會上之乏絕者數矣。又軍無見糧。蕭何轉漕關中。給食不絕。陛下雖數亡山東。蕭何常全關中。以待陛下。此萬世之功也。今雖無曹參等百數。何缺於漢。漢得之。不必待以全。奈何欲以一旦之功。而加萬世之功哉。蕭何第一。曹參次之。上曰。善。於是乃賜蕭何帶劔。屨上殿。入朝不趨。上曰。吾聞進賢受上賞。蕭何功雖高。得鄂君。乃益明。於是因鄂千秋所食邑。封爲安平侯。是日。悉封何父子兄弟十餘人。皆有食邑。益封何二千戶。○上歸櫟陽。○夏。五



月丙午尊太公爲太上皇。○初匈奴畏秦北徙十餘年。及秦滅匈奴復稍南渡河。單于頭曼有太子曰冒頓。後有所愛閼氏。生子少子頭曼欲立之。是時東胡疆而月氏盛。乃使冒頓質於月氏。既而頭曼急擊月氏。月氏欲殺冒頓。冒頓盜其善馬。騎之亡歸。頭曼以爲壯。令將萬騎。冒頓乃作鳴鏑。習勒其騎射。令曰。鳴鏑所射而不悉射者。斬之。冒頓乃以鳴鏑自射其善馬。既又射其愛妻。左右或不敢射者。皆斬之。最後以鳴鏑射單于善馬。左右皆射之。於是冒頓知其可用。從頭曼獵。以鳴鏑射頭曼。其左右亦皆隨鳴鏑而射。遂殺頭曼。盡誅其後母與弟。及大臣不聽從者。冒頓自立爲單于。東胡聞冒頓立。乃使使謂冒頓。欲得頭曼時千里馬。冒頓問羣臣。羣臣皆曰。此匈奴寶馬也。勿與。冒頓曰。奈何與人鄰國。而愛一馬乎。遂與之。居頃之。東胡又使使謂冒頓。欲得單于一閼氏。冒頓復問左右。左右皆怒曰。東胡無道。乃求閼氏。請擊之。冒頓曰。奈何與人鄰國。愛一女子乎。遂取所愛閼氏。予東胡。東胡王愈益驕。東胡與匈奴中間有棄地。莫居千餘里。各居其邊。爲甌脫。東胡使使謂冒頓。此棄地欲有之。冒頓問言予之者。皆斬之。冒頓上馬。令國中。有後出者。斬。遂襲擊東胡。東胡初輕冒頓。不爲備。冒頓遂滅東胡。既歸。又西擊走月氏。南并樓煩白羊河南王。遂侵燕代。悉復收蒙恬所奮匈奴故地。與漢關。故河南塞。至朝那。膚施。是時。漢兵方與項羽相距。中國罷於兵革。以故。冒頓得自彊。控弦之士三十餘萬。威服諸國。秋。匈奴圍韓王信於馬邑。信數使使胡。求和解。漢發兵救之。疑信數間使。有二心。使人責讓信。信恐誅。九月。以馬邑降匈奴。匈奴冒頓因引兵南踰句注。攻大原。至晉陽。○帝悉去秦苛儀法。爲簡易。羣臣飲酒爭功。醉或妄呼。拔劍擊柱。帝益厭之。叔孫通說上曰。夫儒者。難與進取。可與守成。臣願徵魯諸生。與臣弟子。共起朝儀。帝曰。得無難乎。叔孫通曰。五帝異樂。三王不同禮。禮者。因時世人情。爲之節文者也。臣願頗采古禮。

與秦儀。雜就之。上曰。可試爲之。令易知。度吾所能行者爲之。於是叔孫通使徵魯諸生三十餘人。魯有兩生不肯行。曰。公所事者。且十主。皆面諛。以得親貴。今天下初定。死者未葬。傷者未起。又欲起禮樂。禮樂所由起。積德百年。而後可興也。吾不忍爲公所爲。公去矣。無汙我。叔孫通笑曰。若真鄙儒也。不知時變。遂與所徵三十人。西及上左右爲學者。與其弟子百餘人。爲綿叢野外。習之。月餘。言於上曰。可試觀矣。上使行禮。曰。吾能爲此。乃令羣臣習肄。七年冬。十月。長樂宮成。諸侯羣臣皆朝賀。先平明。謁者治禮。以次引入殿門。陳東西鄉。衛官俠陛。及羅立廷中。皆執兵。張旗幟。於是皇帝傳警。輦出房。引諸侯王以下。至更六百石。以次奉賀。莫不振恐肅敬。至禮畢。復置法酒。諸侍坐殿上。皆伏抑首。以尊卑次。起上壽。觴九行。謁者言罷酒。御史執法。舉不如儀者。輒引去。竟朝置酒。無敢譴諱失禮者。於是帝曰。吾乃今日知爲皇帝之貴也。乃拜叔孫通爲太常。賜金五百斤。初。秦有天下。悉內六國禮儀。采擇其尊君抑臣者。存之。及通制禮。頗有所增損。大抵皆襲秦故。自天子稱號。下至佐僚。及宮室官名。少所變改。其書。後與律令同錄。藏於理官。法家又復不傳。民臣莫有言者焉。臣光曰。禮之爲物大矣。用之於身。則動靜有法。而百行備焉。用之於家。則內外有別。而九族睦焉。用之於鄉。則長幼有倫。而俗化美焉。用之於國。則君臣有叙。而政治成焉。用之於天下。則諸侯順服。而紀綱正焉。豈直几席之上。戶庭之間。得之而不亂哉。夫以高祖之明。達聞陸賈之言。而稱善。睹叔孫之儀。而歎息。然所以不能肩於三代之王者。病於不學而已。當是時。得大儒而佐之。與之以禮之天下。其功烈豈若是而止哉。惜夫叔孫生之器小也。徒竊禮之糠粃。以依世諧俗。取寵而已。遂使先王之禮。淪沒而不振。以迄于今。豈不痛甚矣哉。是以楊子譏之曰。昔者魯有大臣。史失其名。曰。何如其大也。曰。叔孫通欲制君臣之儀。召先生於魯。所不能致者。二人曰。若是。則仲尼開跡諸侯也。非邪。曰。仲尼開跡。將以



自用也。如委已而從人，雖有規矩準繩，焉得而用之。善乎楊子之言也。夫大儒者，惡肯毀其規矩準繩，以趨一時之功哉。

上自將擊韓王信，破其軍於銅鞮，斬其將王喜，信亡走匈奴。白土人曼丘臣、王黃等立趙苗裔趙利爲王，復收信敗散兵，與信及匈奴謀攻漢。匈奴使左右賢王將萬餘騎，與王黃等屯廣武以南，至晉陽，漢兵擊之，匈奴輒敗走。已復屯聚，漢兵乘勝追之。會天大寒，雨雪，士卒墮指者什二三。上居晉陽，聞冒頓居代谷，欲擊之，使人覘匈奴，未還。漢悉兵三十二萬，北逐弱及羸畜，使者十輩來，皆言匈奴可擊。上復使劉敬往使匈奴，未還。漢悉兵三十二萬，北逐之。踰句注，劉敬還報曰：「兩國相擊，此宜夸矜，見所長，今臣往，徒見羸瘠老弱，此必欲見短伏奇兵以爭利，愚以爲匈奴不可擊也。」是時漢兵已業行，上怒罵劉敬曰：「齊虜以口舌得官，今乃妄言沮吾軍，械繫敬，廣武帝先至平城，兵未盡到，冒頓縱精兵四十萬騎圍帝於白登七日。漢兵中外不得相救餉，帝用陳平祕計，使使間厚遺閼氏，閼氏謂冒頓曰：「兩主不相困，今得漢地而單于終非能居之也。」且漢主亦有神靈，單于察之，冒頓與王黃趙利期，而黃利兵不來，疑其與漢有謀，乃解圍之一角，會天大霧，漢使人往來，匈奴不覺，陳平請令彊弩傅兩矢，外鄉從解角，直出，帝出圍，欲驅太僕滕公固徐行，至平城，漢大軍亦到，胡騎遂解去，漢亦罷兵歸，令樊噲止定代地。上至廣武，赦劉敬曰：「吾不用公言，以困平城，吾皆已斬前使十輩矣。」乃封敬二千戶，爲關內侯，號爲建信侯。帝南過曲逆，曰：「壯哉縣，吾行天下，獨見洛陽與是耳。」乃更封陳平爲曲逆侯，盡食之。平從帝征伐，凡六出奇計，輒益封邑焉。○十二月，上還過趙，趙王敖執子壻禮甚卑，上箕踞慢罵之。趙相貫高、趙午等皆怒曰：「吾王，房王也，乃說王曰：『天下豪傑竝起，能者先立。』今王事帝甚恭，而帝無禮，請爲王殺之。」張敖齧其指出血，曰：「君何言之誤，先人亡國，賴帝得復國，德流子孫，秋豪皆帝力也。」願君無復出口。貫高、趙午等皆相

謂曰：「乃吾等非也，吾王長者，不倍德，且吾等義不辱，今帝辱我王，故欲殺之。何滂王爲，事成歸王，事敗，獨身坐耳。」○匈奴攻代，代王喜棄國自歸，赦爲卻陽侯。○辛卯，立皇子如意爲代王。○春二月，上至長安，蕭何治未央宮，上見其壯麗，甚怒，謂何曰：「天下匈奴勞苦數歲，成敗未可知，是何治宮室過度也。」何曰：「天下方未定，故可因以就宮室，且夫天子以四海爲家，非壯麗無以重威，且無令後世有以加也。」上說。

臣光曰：王者以仁義爲麗，道德爲威，未聞其以宮室填服天下也。天下未定，當克己節用，以趨民之急，而顧以宮室爲先，豈可謂之知所務哉。昔禹卑宮室，而桀爲傾宮，創業垂統之君躬行節儉，以示子孫，其末流猶入於淫靡，況示之以侈乎。乃云無令後世有以加，豈不謬哉。至于孝武卒以宮室罷敝天下，未必不由鄼侯啓之也。

上自櫟陽徙都長安。○初置宗正官，以序九族。○夏四月，帝行如洛陽。

### 資治通鑑卷第十一



# 資治通鑑卷第十二

## 漢紀四

### 太祖高皇帝下

八年冬。上擊韓王信餘寇於東垣。過柏人。貫高等。壁人於廁中。欲以要上。上欲宿。心動。問曰。縣名爲何。曰。柏人。上曰。柏人者。迫於人也。遂不宿而去。十二月。帝行自東垣至。○春。三月。行如洛陽。○令賈人毋得衣錦繡綺縠絺紵罽。操兵乘騎馬。○秋。九月。行自洛陽至。淮南王。梁王。趙王。楚王。皆從。○匈奴冒頓數苦北邊。上患之。問劉敬。劉敬曰。天下初定。士卒罷於兵。未可以武服也。冒頓殺父代立。妻羣母。以力爲威。未可以仁義說也。獨可以計久遠。子孫爲臣耳。然恐陛下不能爲。上曰。奈何。對曰。陛下誠能以適長公主妻之。厚奉遺之。彼必慕以爲闕氏。生子必爲太子。陛下以歲時。漢所餘。彼所鮮。數問遺。因使辯士風諭以禮節。冒頓在。固爲子婿。死則外孫。爲單于。豈嘗聞外孫敢與大父抗禮者哉。可無戰以漸臣也。若陛下不能遣長公主。而令宗室及後宮。詐稱公主。彼知不肯貴近。無益也。帝曰。善。欲遣長公主。呂后日夜泣曰。妾唯太子一女。奈何棄之。匈奴上竟不能遣。

九年冬。上取家人子。名爲長公主。以妻單于。使劉敬往。結和親約。臣光曰。建信侯謂。冒頓殘賊。不可以仁義說。而欲與爲婚姻。何前後之相違也。夫骨肉之恩。尊卑之敘。唯仁義之人。爲能知之。奈何欲以此服冒頓哉。蓋上世帝王之御夷狄也。服則懷之以德。叛則震之以威。未聞與爲婚姻也。且冒頓視其父。如禽獸。而獵之。奚有於婦

翁。建信侯之術。固已疎矣。況魯元已爲趙后。又可奪乎。

劉敬從匈奴來。因言匈奴河南白羊樓煩王。去長安近者七百里。輕騎一日一夜可以至秦中。秦中新破。少民。地肥饒。可益實。夫諸侯初起時。非齊諸田。楚昭屈景。莫能與。今陛下雖都關中。實少民。東有六國之疆。族。一日有變。陛下亦未得高枕而臥也。臣願陛下徙六國之後。及豪桀名家。居關中。無事。可以備胡。諸侯有變。亦足率以東伐。此疆本弱末之術也。上曰。善。十一月。徙齊楚大族昭氏。屈氏。景氏。懷氏。田氏。五族。及豪桀於關中。與利田宅。凡十餘萬口。○十二月。上行如洛陽。○貫高怨家。知其謀。上變告之。於是上逮捕趙王。及諸反者。趙午等十餘人。皆爭自剄。貫高獨怒。罵曰。誰令公爲之。今王實無謀。而并捕王。公等皆死。誰白王不反者。乃輜車膠致。與王詣長安。高對獄曰。獨吾屬爲之。王實不知。吏治榜笞數千。刺劓。身無可擊者。終不復言。呂后數言張王。以公主故。不宜有此。上怒曰。使張敖據天下。豈少而女乎。不聽。廷尉以貫高事辭聞。上曰。壯士。誰知者。以私問之。中大夫泄公曰。臣之邑子。素知之。此固趙國立義不侵。爲然諾者也。上使泄公持節往問之。獲輿前。泄公與相勞苦。如平生驩。因問張王果有計謀不。高曰。人情寧不各愛其父母妻子乎。今吾三族。皆以論死。豈愛王過於吾親哉。願爲王實不反。獨吾等爲之。具道本指。所以爲者。王不知狀。於是泄公入。具以報上。春。正月上。赦趙王敖。廢爲宣平侯。徙代王如意。爲趙王。上賢貫高爲人。使泄公具告之。曰。張王已出。因赦貫高。貫高喜曰。吾王審出乎。泄公曰。然。泄公曰。上多足下。故赦足下。貫高曰。所以不死。一身無餘者。白張王不反也。今王已出。吾責已塞。死不恨矣。且人臣有篡弑之名。何面目復事上哉。縱上不殺我。我不愧於心乎。乃仰絕亢遂死。

荀悅論曰。貫高首爲亂。謀殺主之賊。雖能證明其王。小亮不塞大逆。私行不贖公罪。春秋之義。大居正罪。無赦可也。



臣光曰：高祖驕以失臣，貫高狠以亡君，使貫高謀逆者，高祖之過也。使張敖亡國者，貫高之罪也。

詔丙寅，前有罪，殊死已下，皆赦之。○二月，行自洛陽至。○初，上詔趙羣臣賓客，敢從張王者，皆族。郎中田叔、孟舒皆自髡，鉗爲王家奴，以從。及張敖既免，上賢田叔、孟舒等，召見與語。漢廷臣無能出其右者，上盡拜爲郡守。諸侯相：○夏六月晦，日有食之。○更以丞相何爲相國。十年夏五月，太上皇崩于櫟陽宮。秋七月癸卯，葬太上皇於萬年。楚王、梁王皆來送葬。赦櫟陽囚。○定陶戚姬有寵於上，生趙王如意。上以太子仁弱，謂如意類己，雖封爲趙王，常留之長安。上之關東，戚姬常從。日夜啼泣，欲立其子。呂后年長，常留守益疏。上欲廢太子而立趙王，大臣爭之，皆莫能得。御史大夫周昌廷爭之，彊上問其說。昌爲人吃，又盛怒曰：「臣口不能言，然臣期期知其不可。陛下欲廢太子，臣期期不奉詔。」上欣然而笑。呂后側耳於東廂聽，既罷，見昌，爲跪謝曰：「微君，太子幾廢。」時趙王年十歲，上憂萬歲之後不全也，符璽御史趙堯請爲趙王置貴彊相，及呂后太子羣臣，素所敬憚者。上曰：「誰可者？」堯曰：「御史大夫昌，其人也。」上乃以昌相趙，而以堯代昌爲御史大夫。○初，上以陽夏侯陳豨爲相國，監趙代邊兵。豨過辭淮陰侯，淮陰侯挈其手，辟左右，與之步於庭，仰天歎曰：「子可與言乎？」豨曰：「唯將軍令之。」淮陰侯曰：「公之所居，天下精兵處也。而公陛下下之信幸臣也。人言公之畔，陛下必不信，再至，陛下乃疑矣。三至，必怒自將，吾爲公從中起。天下可圖也。」陳豨素知其能也，信之曰：「謹奉教。」豨常慕魏無忌之養士，及爲相守，邊告歸，過趙，賓客隨之千餘乘。邯鄲官舍皆滿。趙相周昌求入見，上具言豨賓客甚盛，擅兵於外，數歲恐有變。上令人覆案豨客居代者，諸不法事多連引。豨恐，韓王信因使王黃、曼丘臣等說誘之。太上皇崩，上使人召豨，豨稱病不至。九月，遂與王黃等反，自立爲代王，劫略趙代。上自東擊之，至邯鄲，喜曰：「豨不據邯鄲而阻漳水，吾知其

無能爲矣。」周昌奏常山二十五城，亡其二十城，請誅守尉。上曰：「守尉反乎？」對曰：「不。上曰：是力不足，亡罪。」上令周昌選趙壯士，可令將者，白見四人，上嫚罵曰：「豎子能爲將乎？」四人慙，皆伏地。上封各千戶，以爲將。左右諫曰：「從入蜀漢伐楚，賞未徧行，今封此何功？」上曰：「非汝所知。」陳豨反，趙代地皆豨有，吾以羽檄徵天下兵，未有至者，今計唯獨邯鄲中兵耳。吾何愛四千戶，不以慰趙子弟？皆曰：「善。」又聞豨將皆故賈人，上曰：「吾知所以與之矣。」乃多以金購豨將，豨將多降。

十一年冬，上在邯鄲，陳豨將侯敞將萬餘人游行，王黃將騎千餘，軍曲逆。張春將卒萬餘人，度河攻聊城。漢將軍郭蒙與齊將擊，大破之。太尉周勃道太原，入定代地，至馬邑，不下，攻殘之。趙利守東垣，帝攻拔之，更命曰真定。帝購王黃、曼丘臣以千金，其麾下皆生致之。於是陳豨軍遂敗。淮陰侯信稱病不從擊豨，陰使人至豨所，與通謀。信謀與家臣夜詐詔，赦諸官徒奴，欲發以襲呂后太子。部署已定，待豨報，其舍人得罪於信，信囚欲殺之。春正月，舍人弟上變，告信欲反狀於呂后。呂后欲召，恐其黨不就，乃與蕭相國謀詐令人從上所來，言豨已得死。列侯羣臣皆賀，相國給信曰：「雖疾，彊入賀。」信入，呂后使武士縛信，斬之。長樂鐘室，信方斬，曰：「吾悔不用蒯徹之計，乃爲兒女子所詐，豈非天哉。」遂夷信三族。

臣光曰：世或以韓信首建大策，與高祖起漢中，定三秦，遂分兵以北，禽魏，取代，仆趙，脅燕，東擊齊，而有之。南滅楚，垓下，漢之所以得天下者，大抵皆信之功也。觀其距蒯徹之說，迎高祖于陳，豈有反心哉。良由失職怏怏，遂陷悖逆。夫以盧縮里閉舊恩，猶南面王燕，信乃以列侯奉朝請，豈非高祖亦有負於信哉。臣以爲高祖用詐謀，禽信於陳，言負則有之。雖然，信亦有以取之也。始漢與楚相距滎陽，信滅齊，不還報而自王。其後漢追楚至固陵，與信期共攻楚，而信不至，當是之時，高祖固有取信之心矣。願力不能耳。及天下已定，信復